

2026 学 生 要 覧

令和8年度

八 戸 工 業 大 学

「正己以格物」

本法人は、その経営指針と基本的な教育方針として、人格、徳性の涵養並びに知性の練磨を象徴的に表す『正己以格物』(己を正し以て物に格る)を不易の綱領と定め、建学の精神としています。

この言葉は、儒教の根本精神を表した四書五経の一つ「大学」に拠るもので、物の道理をよく見極め、広く知識を求め、社会における自己の役割が如何なるものかを、深く認識し、高い倫理性をもって行動することの重要性を説いているものです。

本法人は、この建学の精神に基づき、社会の負託と時代の要請に応えることを要諦とし、創造的、個性的な自己思考能力を有する有為の人材を養成しています。

教育理念

「良き技術は、良き人格から生まれる」

本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念をもっています。この理念は、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。



使命・目的

学術の拠点として、広く知識を授けると共に、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造ならびに地域社会の発展に寄与する。

大学のディプロマ・ポリシー

八戸工業大学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。これは、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学は、この理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士の学位を授与します。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
- 3) 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力
- 4) 地域社会への関心をもちグローバルな視野で物事を考える姿勢

大学のカリキュラム・ポリシー

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、高校教育から大学教育に円滑に移行させ、キャリアデザインを支援するための「キャリア教育科目」、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え総合的な判断ができる力を養う「総合教養科目」、AI技術やデータサイエンス能力を養う「AI・データサイエンス科目」、地域社会と科学技術についての包括的な理解、ならびに工学とデザインの分野を融合した学びを誘導する「共創教育科目」、工学の学問に必要な自然科学分野の基礎を幅広く養う「工学基礎科目」(工学部のみ)、各分野における専門基礎原理、実践的な応用能力を養う「専門科目」、地域産業の特色を反映した発展的な知識・技術を養う「工学発展科目(工学部のみ)」、高度な応用・展開能力を養う「特別専攻科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育の実施

「キャリア教育科目」においては、高大接続・社会接続を担う教育を実施します。また「総合教養科目」においては、その分野を人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野および総合学際分野で構成し、学部・学科を問わないリベラルアーツを展開します。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。「共創教育科目」および「専門科目」においても、課題解決型学習(PBL)、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、主体性ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 高度な情報活用能力を育成する教育の実施

超スマート社会に対応するための情報リテラシーとAI技術・データサイエンスの基礎を学ぶ科目を全学共通として配置します。工学およびデザインの専門分野においては情報技術を高度に利活用するための力を養成します。

4) 地域社会との繋がりを重視した共創教育の実施

社会が抱える課題の解決のために、地域への理解を深めるとともに、学部・学科の専門分野の地域的・社会的な役割およびデザインの基礎について学ぶための科目を配置します。また「共創教育科目」における工学とデザインを融合した学修、さらに専門科目においても地域と連携したPBL、アクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、持続可能な地域社会づくりへの関心と責任をもって物事を考えることができる能力を養成します。

5) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育の実施

学部・学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

6) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を養成する教育の実施

実践的な力を養うために、少人数ゼミナール、実験・演習・実習科目を重点的に配置します。自ら考えて纏めたことを発表・表現する授業や、体験・気づき・省察サイクルを取り入れた授業を展開します。また身につけた専門知識やスキルを統合し、論理的な課題解決を通じて新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」を全学必修とします。また、これらの科目群によりチームワーク力やリーダーシップ力も養成します。

7) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育の実施

学部・科を問わない「総合教養科目」を中心に、「専門科目」においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成します。

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力に基づいて具現化した複数の修得因子によって評価し、学生が自ら確認できるよう配慮します。

大学のアドミッション・ポリシー

八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」(己を正し以て物に格る)に基づいた自己思考能力を育むカリキュラムにより、基礎知識や専門知識だけにとどまらず、将来的に地域を牽引していくことができる総合力を備えた次世代のリーダーにふさわしい人材を養成しています。また、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げており、高度な専門知識を備え高度な応用展開力をもつとともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ社会の担い手の育成を目指しています。

これらを実現するため、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有しており、本学が進める教育研究活動に強い関心があり、さらに自らを向上させようとする意欲を持つ人を、多様な選抜制度により受け入れます。

本学の入学選抜では、志願者の学力の三要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)を把握し、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性などを判断するため、入試形態ごとに個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、面接などを組み合わせて志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

目 次

■建学の精神	1
■教育理念・使命・目的	2
■ポリシー	2
■学長メッセージ	8
■沿革小史	9
■学年暦	10
■校歌	11

第1章 新入生のために

1. 1	学生要覧	14
1. 2	ガイダンス	14
1. 3	組織	14
1. 4	掲示	15
1. 5	情報ネットワーク施設の利用	15
1. 6	電話と郵便	16
1. 7	手続きと期限	16
1. 8	修学支援担任	16
1. 9	学生証	16
1. 10	学籍番号	17
1. 11	通学と交通事故	17
1. 12	大学施設	17
1. 13	学内各種行事	17
1. 14	学費の納入	17
1. 15	大学のルール・マナー	17
1. 16	休学・退学など	18
1. 17	教科書や教材の購入	18
1. 18	大学院	18
1. 19	キャンパス・校舎案内図	18
1. 20	悩み・相談	19

第2章 学修について

2. 1	はじめに	38
2. 2	授業時間	39
2. 3	履修計画と履修手続き	39
2. 4	出席・欠席	39
2. 5	試験	40
2. 6	成績発表	40
2. 7	目標単位数	40
2. 8	進級要件	41
2. 9	卒業	42
2. 10	GPA	43
2. 11	八戸工業大学の教育	44
2. 12	工学部の教育目標・教育課程	45
2. 13	工学科の教育目標・教育課程	46
2. 14	感性デザイン学部の教育目標・教育課程	73

第3章 学生生活について

3. 1	健康管理	80
3. 2	学生保険	80
3. 3	学生支援センター・学生ラウンジ(学修支援室)	81
3. 4	通学	81
3. 5	学生旅客運賃割引証(学割)	81
3. 6	奨学制度	82
3. 7	アルバイト	82
3. 8	下宿	83
3. 9	学友会	83
3. 10	課外活動	83

第4章	進路・資格について	
4. 1	就職	88
4. 2	進学	88
4. 3	資格	88
4. 4	同窓会	104
第5章	施設の利用について	
5. 1	図書館	106
5. 2	メディアセンター	107
5. 3	スポーツ施設	107
第6章	願い・届け・証明書の手続き	
6. 1	休学願	110
6. 2	復学願	110
6. 3	退学願	110
6. 4	転学願	110
6. 5	転学科願	110
6. 6	欠席届	111
6. 7	忌引届	111
6. 8	感染症罹患届	111
6. 9	特別欠席願	111
6. 10	変更届	111
6. 11	学生残留・出校届	111
6. 12	コース変更願	111
第7章	諸規程	
7. 1	八戸工業大学学則(抄)	114
	別表第1 学部の授業科目及び単位数	122
	別表第2 教職課程の授業科目及び単位数	126
	別表第3 学費、入学検定料	128
7. 2	八戸工業大学学位規程	129
7. 3	八戸工業大学学費納入規程	133
7. 4	八戸工業大学学生心得	134
7. 5	八戸工業大学履修規程	136
7. 6	八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程	156
7. 7	編入学者および転入学者の履修等に関する規程	165
7. 8	八戸工業大学GPA取り扱い要項	166
7. 9	八戸工業大学図書館利用規程	168
7. 10	八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程	170
7. 11	学生の諸活動に関する規程	171
7. 12	学友会館使用規程	174
7. 13	施設・設備・備品等管理規程	175
7. 14	残留・出校者心得	176
7. 15	八戸工業大学車両通学に関する規程	177
7. 16	学校法人八戸工業大学 証明書発行取扱要領	178
7. 17	学友会会則	179
7. 18	学友会の選挙に関する規程	182
7. 19	学友会会費規程	183
■	索引	184

■学長メッセージ

「大学4年間をデザインしよう！」

学 長 船 崎 健 一



新入生の皆さん、八戸工業大学へのご入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんを心から歓迎するとともに、本学における学び(正課)と主体的な活動(正課外)への支援を通じて、皆さん一人ひとりが夢の実現に向かって前進できるよう全力で支えてまいります。

八戸工業大学はどんな大学？

本学は、その母体である「学校法人八戸工業大学」の中の高等教育機関(大学・大学院)です。同法人は1956年に設置された八戸高等電波学校がその始まりであり、その後八戸周辺地域の工業が発展するのに伴い工学系人材養成や地域企業の研究開発支援が必要になったことを受けて1972年に創立された、北東北唯一の私立工学系大学です。その後幾多の組織改編を経て、現在は工学部工学科(5コース)、感性デザイン学部感性デザイン学科の2学部2学科体制へと成長するとともに、大学院工学研究科博士前期(修士)及び後期(博士)を備えた大学になっています。本学は創立以来、地域のみならず日本、世界で活躍できる人材を数多く輩出するとともに、地域の課題解決や企業との共同研究などを通じて地域社会等にも貢献し続けており、この地域になくはない大学です。そのような大学に入学されたことを誇りに感じていただきたいと思います。

何故勉強するのか？

大学生になられた皆さんに問います。何故大学で勉強するのでしょうか？それも、生成系AIが長足の進歩を遂げ、人間が持っている知的能力を凌駕しそうなこの時代に、何故より高度な学びに挑戦しなければならないのでしょうか？資格を取るために、という答えもあるかも知れませんが、それは確かに大学での学びの理由の一つになり得ますが、本質的な答えではありません。学び続けることの最大の理由は、それが人間の成長にとり不可欠であり、人類の進歩になくはない、ということです。人間は移動速度という点で自動車などの乗り物に勝つことはできませんが、だからと言って歩くことをやめた途端、人間の身体機能は著しく衰えます。それと同様に、AIがあるからといって自ら学び考えることをやめてしまえば、そこで知的成長は止まり衰退するだけです。皆さんが学び続けることで皆さんの知的能力は発展し続けます。そのような人々が多数存在し、そこに創造と発見が加わることで人類の知的境界はさらに押し広げられるのです。

4年間をデザインしてみよう

人間の知的成長のための深く広い学び。それが大学での学びの特徴です。これを前提として、八戸工業大学では「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。この理念の下、本学では卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー;DP)を定め、その実現のための教育課程(カリキュラム)が編成されています。この教育課程は、専門系の学び(専門科目)とリテラシー系の学び(キャリア教育科目、総合教養科目、AI・データサイエンス科目、共創教育科目)に大別できますが、前者が皆さんの専門性(強みや特徴)を形作る深い知識を得る科目群であり、後者が高度に情報化する社会の構成員として備えるべき広い教養を身につける科目群となっています。そこに主体的な学びの場となる正課外活動を加えることで、柔軟な思考力や想像力、判断力などを習得できるように学び全体がプログラムされています。そして、本学の学びの特徴は、DPをさらに20の修得すべき因子(どのような能力を身につけたいか)に細分化し、教育課程の全てをこれらに紐付けていることです。言い換えるならば、なりたい自分になるための数多くのパーツ群が分類化、明確化されている、ということです。そして、その取説が学生要覧となっているのです。

さあ、この要覧をじっくり読んで、皆さんの4年間をデザインして下さい。

■沿革小史

昭和47年(1972)	: 開学、工学部機械工学科、産業機械工学科、電気工学科開設
昭和51年(1976)	: 工学部土木工学科、建築工学科開設
昭和57年(1982)	: 工学部エネルギー工学科開設
昭和61年(1986)	: 産業機械工学科廃止
昭和63年(1988)	: 食品工学研究所、情報システム工学研究所設置
平成5年(1993)	: 構造工学研究所設置
平成7年(1995)	: 大学院工学研究科修士課程設置、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、土木工学専攻開設
平成9年(1997)	: 大学院工学研究科博士後期課程設置、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、土木工学専攻開設
平成11年(1999)	: 大学院工学研究科修士課程、建築工学専攻開設 : 工学部システム情報工学科開設
平成13年(2001)	: 工学部電気電子工学科に名称変更(旧名称:電気工学科) : 大学院工学研究科博士後期課程、建築工学専攻開設 : 工学部機械情報技術学科に名称変更(旧名称:機械工学科) : 工学部環境建設工学科に名称変更(旧名称:土木工学科)
平成14年(2002)	: 工学部生物環境化学工学科開設、異分野融合科学研究所設置
平成15年(2003)	: 工学部電子知能システム学科に名称変更(旧名称:電気電子工学科)
平成17年(2005)	: 工学部エネルギー工学科廃止 : 感性デザイン学部感性デザイン学科開設
平成19年(2007)	: 工学研究科機械・生物化学工学専攻に名称変更(旧名称:機械システム工学専攻) : 工学研究科電子電気・情報工学専攻に名称変更(旧名称:電気電子工学専攻)
平成21年(2009)	: 工学部土木建築工学科開設 : 工学部バイオ環境工学科に名称変更(旧名称:生物環境化学工学科)
平成22年(2010)	: 工学部電気電子システム学科に名称変更(旧名称:電子知能システム学科) : エネルギー環境システム研究所に名称変更(旧名称:異分野融合科学研究所)
平成25年(2013)	: 工学部環境建設工学科廃止
平成27年(2015)	: 工学部建築工学科廃止 : 工学研究科社会基盤工学専攻に名称変更(旧名称:土木工学専攻) : 地域産業総合研究所に名称変更(旧名称:エネルギー環境システム研究所)
平成28年(2016)	: 工学研究科建築工学専攻廃止
平成30年(2018)	: 工学部機械工学科に名称変更(旧名称:機械情報技術学科) : 工学部電気電子工学科に名称変更(旧名称:電気電子システム学科) : 工学部生命環境科学学科に名称変更(旧名称:バイオ環境工学科) : 感性デザイン学部創生デザイン学科に名称変更(旧名称:感性デザイン学科)
令和4年(2022)	: 工学部工学科(1学科5コース制)開設 : 感性デザイン学部感性デザイン学科に名称変更(旧名称:創生デザイン学科)

■ 学 年 暦

- 4 月 1 日 : 学年開始、前期開始
- 4 月初旬 : 入学式
- 4 月上旬 : 授業時間割発表
2、3、4年生前年度
成績発表、ガイダンス
2、3、4年生授業開始
- 4 月上旬 : 新入学生ガイダンス、授業開始
- 4 月上旬 : 定期健康診断
- 4 月中旬 : 履修登録
- 6 月上旬 : 体育祭
- 7 月下旬 : 前期定期試験
- 8 月上旬 : 夏季休業開始
- 9 月上旬 : 前期補習・再試験
- 9 月 15 日 : 前期終了、夏季休業終了
- 9 月 16 日 : 後期開始
- 10 月中旬 : 学園祭
- 11 月上旬 : 彩才祭
- 12 月下旬 : 冬季休業開始
- 1 月上旬 : 冬季休業終了
- 1 月下旬 : 後期定期試験
- 1 月 29 日 : 開学記念日(授業日)
- 2 月上旬 : 後期補習・再試験
- 3 月中旬 : 学位記授与式
- 3 月 31 日 : 後期終了、学年終了



■校歌

八戸工業大学校歌

Allegro risoluto alla marcia (♩ = 120)

作詩 佐藤 信三
下斗米 護 桜 白
作曲 渡辺 岳夫

1. そう

きゅうのひかりさんさんとみち

のくここにかがやけり

わこうどわれら きぼうにつどい くおんのちせい みがきゆく あ

あ はちこう だい みらい を ひら - く

1. 2.

3.

一、蒼穹の光りさんさんと
みちのくここに輝やけり
若人われら希望に集い
久遠の知性みがきゆく
ああ八工大 未来を拓く

二、白亜の塔はそびえたち
遠く潮はとどろけり
若人われら希望に集い
久遠の理想がざしゆく
ああ八工大 未来を創る

三、青雲はるかにいだきつつ
いのち豊けく秀でたり
若人われら希望に集い
久遠の真理さわめゆく
ああ八工大 未来を築く

第1章

新入生のために

1. 1	学生要覧	14
1. 2	ガイダンス	14
1. 3	組織	14
1. 4	掲示	15
1. 5	情報ネットワーク施設の利用	15
1. 6	電話と郵便	16
1. 7	手続きと期限	16
1. 8	修学支援担任	16
1. 9	学生証	16
1. 10	学籍番号	17
1. 11	通学と交通事故	17
1. 12	大学施設	17
1. 13	学内各種行事	17
1. 14	学費の納入	17
1. 15	大学のルール・マナー	17
1. 16	休学・退学など	18
1. 17	教科書や教材の購入	18
1. 18	大学院	18
1. 19	キャンパス・校舎案内図	18
1. 20	悩み・相談	19

1.1 学生要覧

この学生要覧は、みなさんが八戸工業大学で有意義で実りのある学生生活を送るために必要な情報が記載されていて、在学中も卒業後にも役に立ちます。再配布はできませんので大切にしてください。

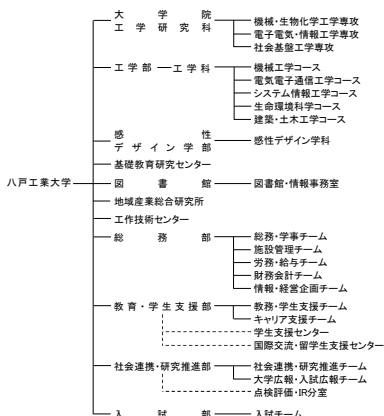
大学は自ら学ぶ場です。この学生要覧をよく読んで理解し活用することによって、大学での充実した学生生活を送ることを期待します。

1.2 ガイダンス

毎年、学年のはじめに、その年度の学修、生活あるいは進路に関わる大切な情報を伝える**ガイダンス**が、学修支援担任と各チームの説明により実施されます。ガイダンスを欠席すると大切な説明を聴けないばかりか、学修や学生生活に参考となる資料を受け取ることができません。必ず出席してください。

1.3 組織

本学大学は、教育や研究を行うために図のような組織で構成されています。



■ 学部・学科・コース

各学部・学科・コースでは具体的な教育と研究が行われます。学部・学科・コースを次のように英文字で示すことがあります。

工 学 部 工 学 科	英字では
機械工学コース	M
電気電子通信工学コース	E
システム情報工学コース	I
生命環境科学コース	L
建築・土木工学コース	D
感性デザイン学部	英字では
感性デザイン学科	K

■ 基礎教育研究センター

教養教育とその基礎、教職、および専門教育の基礎に係る教育課程の企画および円滑な実施を図るとともに、基礎教育に関する研究開発ならびに学修支援を行うことを目的とする組織です。

■ 地域産業総合研究所

エネルギーと環境およびそれらに関わる種々システムの研究を推進するために、学部や大学院、地元の産業界と連携しながら、様々な研究テーマに取り組んでいます。

■ 工作技術センター

学生の機械工作に関する教育を担当すると同時に、教員の研究に必要な器具や装置を製作する日本有数の広さと設備それにスタッフを有する機関です。教職課程の機械工作実習もここで行われます。また、学生の技能士(機械加工、機械保全)国家資格取得を支援しています。

■ 図書館

教育研究活動に必要な図書、雑誌等の資料提供を通してサービスを行う機関です。詳しい利用方法については5.1を見てください。

■ 社会連携・研究推進部

大学の組織及び教育研究を点検評価し、必要な改革・改善を実施。また、教育研究補助金等の申請と受入れ。さらには、産学官連携による共同研究、社会貢献及び知的財産の創出について検討・実施する部局です。

■ 総務部

総務部には、入学式など式典の実施、学生の残留などの事務手続き、保護者後援会の事務、受付業務を担当する「総務・学事チーム」があります。

■ 教育・学生支援部

教育・学生支援部には、履修、試験、単位修得、進級および卒業などの教務関係や健康管理、住居、奨学金、学生相談および課外活動などの学生生活を担当する「教務・学生支援チーム」と、求人開拓、斡旋および情報の提供などを含めた就職指導を担当する「キャリア支援チーム」があります。

また、様々な理由で学習や研究、人間関係などにおいて困難を感じている学生に対してサポートを行う「学生支援センター」と国際交流に必要な諸能力の成長を図るとともに、国際的視野を持つ人材を育成する教育研究活動を円滑に実践することを目的とする「国際交流・留学生支援センター」があります。

■ 入試部

入試部は、入学試験を担当しています。

なお、各窓口の受付時間は次のようになっています。

授業・試験期間：平日 8:40～17:50
長期休業期間：平日 8:40～17:10

1. 4 掲示

本学では、みなさんへの連絡は大学ポータルサイト及び学内掲示板により行われます。教室の変更、授業の休講・補講、呼出しなど全ての連絡は掲示によって行われます。登下校の際には掲示を必ず見る習慣をつけてください。掲示を見なかったことによって不利益を受けることがないように注意してください。学生間の連絡に掲示板を利用することができます。利用する場合は教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に問い合わせてください。学内放送の利用は、教育研究活動に支障をきたしますので緊急の場合を除いて遠慮してください。

■ Active Academy Advance (AAA)

履修登録、成績照会、授業評価、呼出し、アンケート回答など大学からの重要な情報連絡ネットワークシステムです。インターネットに接続可能なパソコン等からアクセスできます。

URL <https://aaa.hi-tech.ac.jp>

■ K HIT

K HITでは、休講・補講、時間割変更、集中講義日程などの授業情報を掲載しています。携帯電話やスマートフォン、インターネットに接続可能な環境から閲覧できます。

URL <https://khit.hi-tech.ac.jp>

1. 5 情報ネットワーク施設の利用

本学では、学内全体にキャンパスネットワークが整備されており、教育や研究、授業、履修登録、就職活動など、様々な活動に利用されています。全学生は、入学時に利用者IDとパスワード、電子メールアドレスが付与され、利用規程や関連諸法規に違反しない限り、自由にキャンパスネットワークを使用することができます。

利用者IDやパスワードは重要な個人情報です。キャンパスネットワークの安全性を確保し、不正利用などに悪用されないためにも、管理を徹底してください。

なお、キャンパスネットワークの詳しい利用方法については、ガイダンス等で説明があります。

学生ホールや図書館、一部教室などでWi-Fiが利用できます。利用方法等不明な場合は図書館までおたずねください。

1. 6 電話と郵便

緊急以外の電話は間違いを生じたり、業務上の支障となることがありますので取り次ぎすることはできません。学生団体への郵便物は、教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)の郵便受け箱に保管しておきますので、各団体の責任者は随時確認してください。学生個人への郵便物は混乱が生ずることがあるので避けてください。本学からの郵便の発送には、2号館玄関前に設置されている郵便ポストを利用することができます。

1. 7 手続きと期限

授業を受けたり、書類を申し込んだりするためには、**手続き**をする必要があります。手続きには作業を合理的に進めるため、必ず**期限**があります。これが守られないときは他の多くの学生に迷惑をかけてしまったり、自分自身が不利な扱いを受けることがあります。期限は必ず守ってください。

1. 8 修学支援担任

本学には**担任**制度があります。ガイダンスを行ったり、学修や学生生活に関する相談に応じることができます。成績の状況についても指導を受けることができます。困ったことがあったり、調べてもわからないことがあったときは各学科・コース・学年担当の修学支援担任を気軽に訪ねてください。

1. 9 学生証

学生証は、学生の身分を証明するものですから常に携帯し、提示を求められたときは、提示できるようにしてください。

特に、定期試験等を受けるとき、各種証明書等を願い出るとき、図書館を利用するとき、さらに授業の出席確認のときは携帯していなければなりません。

学生証の有効期間は、原則発効の日から4年間です。

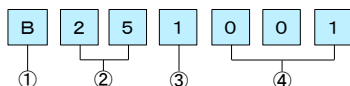
学生証を紛失、破損したときは、教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)で再交付の手続きを受けてください。再交付手数料は2,000円です。

紛失等した学生証が見つかったときは、教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に返却してください。また、退学あるいは除籍等により学籍を離れるときは、直ちに教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に返却してください。



1. 10 学籍番号

本学での事務作業を円滑に行うため、一人一人に固有の**学籍番号**が用意されています。試験や手続きの際に名前と一緒に記入することが頻繁にありますので、正確に覚えてください。学籍番号は1桁の英字と6桁の数字からできています。



- ①B:全ての入学生
- ②入学年(西暦下2桁)
- ③学部学科
 - 1:工学部工学科
 - 8:感性デザイン学部感性デザイン学科
- ④通し番号
 - 001から:通常入学生
 - 401から:再入学生
 - 501から:編入学生
 - 601から:転入学生
 - 701から:転学科・転学部生

1. 11 通学と交通事故

通学には、自転車、原付、自動二輪車、四輪車を使用することができますが、原付、自動二輪車、四輪車で通学する場合は大学の許可が必要です。許可については、第3章3. 4通学及び第7章7. 15「八戸工業大学車両通学に関する規程」を読んでもください。

通学する際には、交通事故に遭わないよう、特に、四輪車等を使用するときは交通ルールを良く守り、スピードの出し過ぎ、違反駐車等をしないよう安全運転を心がけてください。

1. 12 大学施設

本学には、図書館、多目的ホール、メディアセンター、体育館、学友会館、尚志館、室内練習場、テニスコート、運動公園などが設置されています。詳しくは第5章を読み、それぞれの利用方法に従って利用してください。

また、食堂、売店、および郵便局のATMもありますのでご利用ください。

1. 13 学内各種行事

入学後のガイダンス期間に行われる交流イベント、学友会・体育会・文化会などが計画する学園祭等の行事が行われます。学生生活をより有意義にするためにこのような行事には積極的に参加するようにしてください。

1. 14 学費の納入

学費は所定の期日までに納入しなければなりません。納入されない場合は除籍になってしまい、学生の資格を失います。もし、所定の期日までに納入できない場合は願出によって延納を許可することがあります。(詳細は、第7章の八戸工業大学学費納入規程を読んでください。)

1. 15 大学のルール・マナー

本学には、**学則**をはじめとするいくつかのルールがあります。これらのルールは、本学での教育や研究の活動を活発でしかも有効的に実施できる環境を整えるために定められています。第7章にはそのルールを掲載していますのでよく読んでください。主なルールについては、第2章から順に説明します。

なお、学内において無断で、①物品を販売すること、②火気を使用すること、③ポスターなどの掲示をすることは禁じられています。必要なときは教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)へ相談してください。

また、学内においては次のマナーを守ってください。

■携帯電話やスマートフォンについて

- ・授業中の講義室、図書館ではマナーモードにすること。
- ・図書館、各事務室内では通話はしないこと。

■ゴミについて

- ・ゴミは、燃えるゴミ、燃えないゴミに分別しゴミ箱へ捨てること。

■喫煙について

- ・改正健康増進法により、大学は敷地内禁煙が定められています。本学では特定屋外喫煙場所を設置しています。歩行喫煙やポイ捨ては絶対にしないこと。

1. 16 休学・退学など

これらの相談は、修学支援担任と教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)が行っています。手続きは教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)で行います。

■休学

病気その他の理由で3カ月以上修学できない場合は、願い出て休学することができます。休学期間が満了したときは、復学となります。また、休学期間の授業料は免除されます。ただし、休学期間は卒業に必要な修業期間に算入されません。詳細は第6章の手続き、第7章の学費納入規程を読んでください。

■復学

休学期間の途中で休学の理由がなくなり復学したいときは、願い出によって復学することができます。詳細は第6章の手続きを読んでください。

■退学

病気その他の理由で退学しようとするときは、修学支援担任に相談の上、教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に申し出てください。

■転学、転学科については第6章の手続きを読んでください。

1. 17 教科書や教材の購入

自分の授業を受ける計画(履修計画)が決まったら、それぞれの授業に必要な教科書や教材を購入し授業に備えなければなりません。ほとんどの教科書や教材は販売店が本学に来るため学内で購入が可能です。なかには学外で購入したり、教員から配布される場合もあります。

1. 18 大学院

本学には、大学(学部)において学んできた知識をさらに深めるために大学院(前期課程・後期課程)があります。大学院は、3専攻から構成されています。機械・生物化学工学専攻、電子電気・情報工学専攻および社会基盤工学専攻です。大学院に進学するためには入学試験がありますので、入学試験に合わせた履修計画を立て十分な学力を養っておく必要があります。詳細は、第4章の進路・資格についてを読んでください。

1. 19 キャンパス・校舎案内図

キャンパス・校舎案内図をP20～P35に示します。

1. 20 悩み・相談

大学生活でどうしても困ってしまう問題が起きた！

こんな時一人で悩まずすぐに修学支援担任か教育・学生支援部に相談してください。

■修学支援担任

修学支援担任は各学科・コース・学年ごとにより、皆さんのいろいろな相談に応じています。

■学生支援センター・学生相談室

(カウンセリングルーム)【1号館3F(P. 23)】
カウンセラーやコーディネーターが相談に応じています。利用を希望する場合は教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)へ。

- ・学生生活に悩んでいる
- ・大学の勉強についていけない
- ・友人とのこと
- ・迷惑行為等

■学生ラウンジ(学修支援室)

【1号館2F(P. 22)】

相談員・先輩学生が学生生活や勉強について相談に乗ったり、アドバイスしています。気軽に相談に来て下さい。

その他事務手続き等に関する相談

■教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)

【1号館1F(P. 22)】

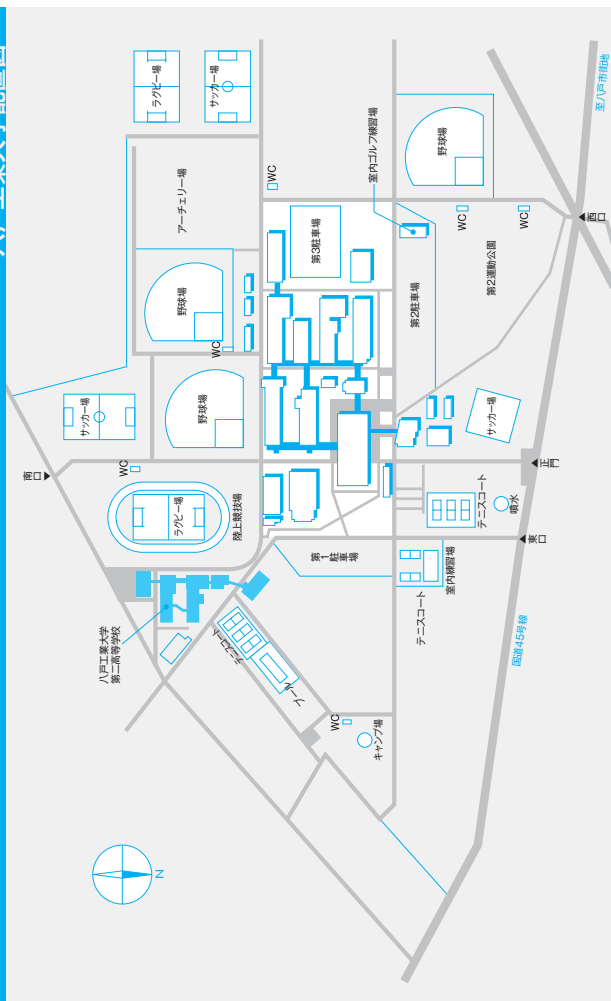
- ・病気やけがで長く休まなければならない
- ・学費のこと
- ・休学、退学、復学の手続きのこと
- ・成績発表の内容に疑問な点がある
- ・忘れ物をした
- ・学生証をなくした
- ・下宿のこと
- ・奨学金のこと
- ・部活動や愛好会のこと
- ・交通事故を起こした
- ・体調が悪くなった

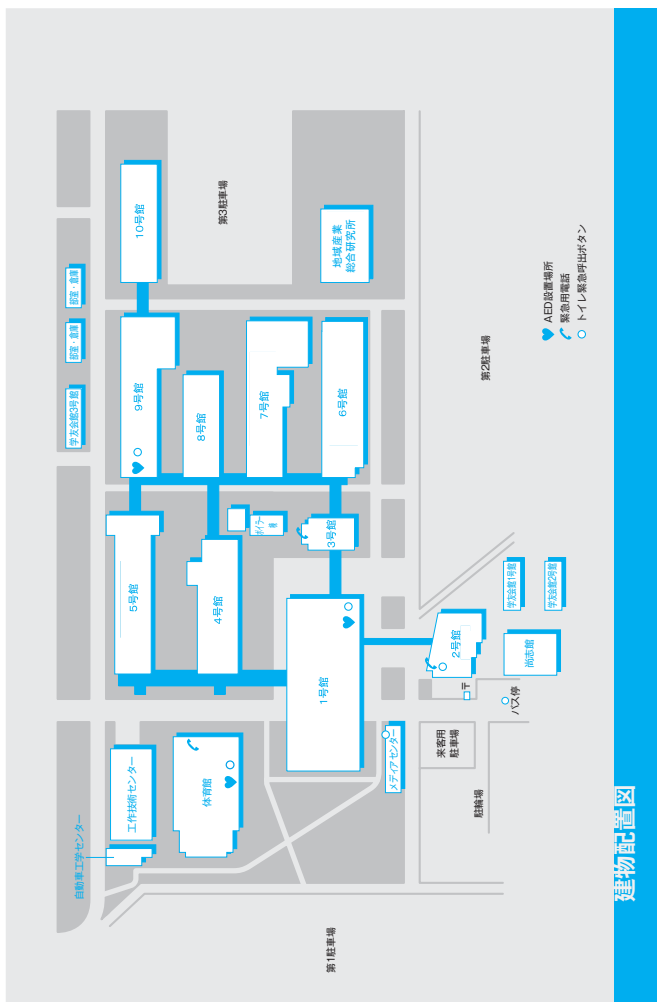
■教育・学生支援部(キャリア支援チーム)

【1号館1F(P. 22)】

- ・企業の紹介
- ・就職に関する書類の書き方(履歴書等)
- ・応募に必要な書類

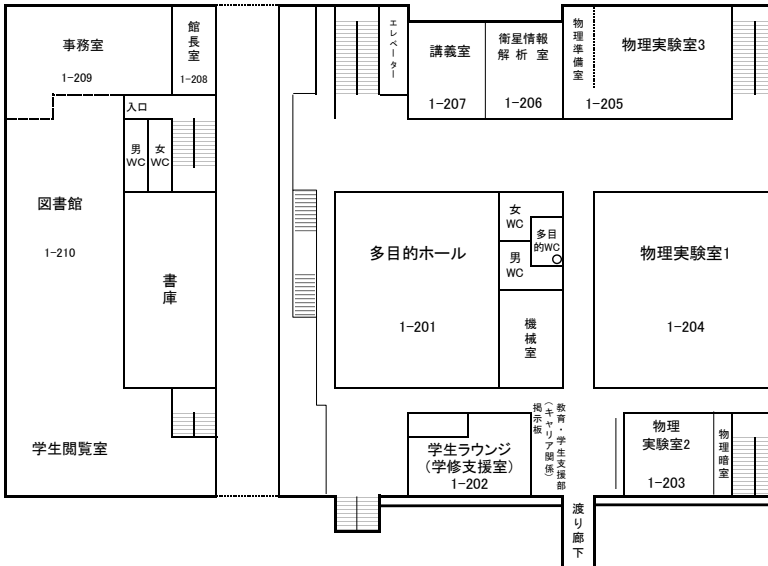
八戸工業大学配置図



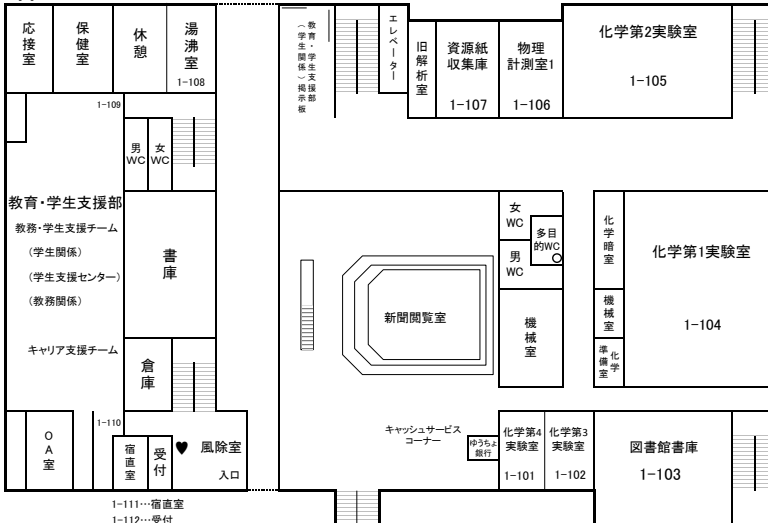


1号館

2F



1F

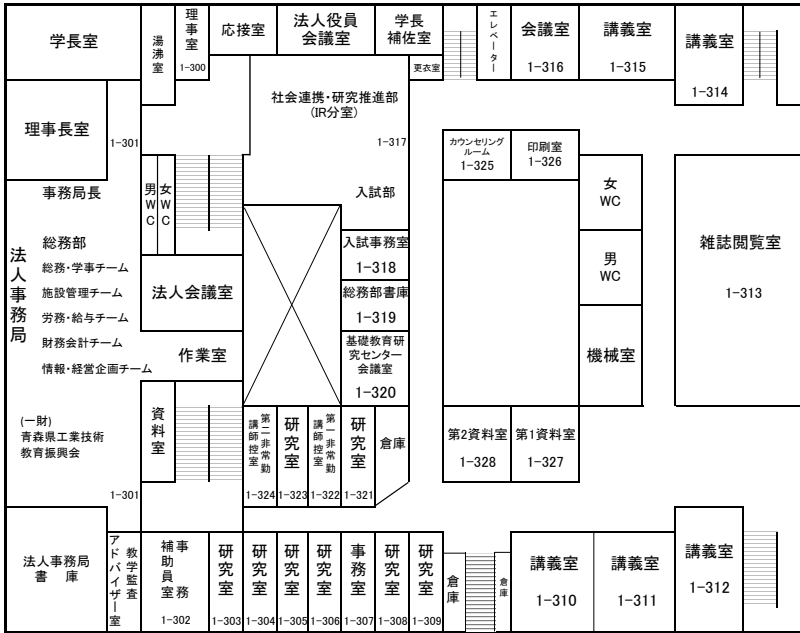


♥ AED設置場所

○ トイレ緊急呼出ボタン

1号館

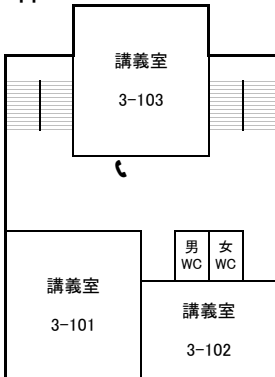
3F



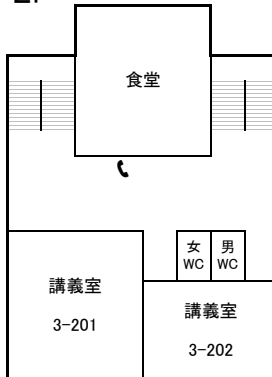
3号館

☎ 緊急用電話

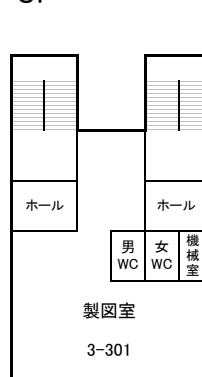
1F



2F

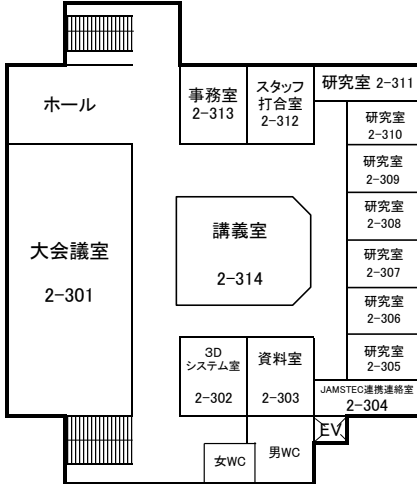


3F

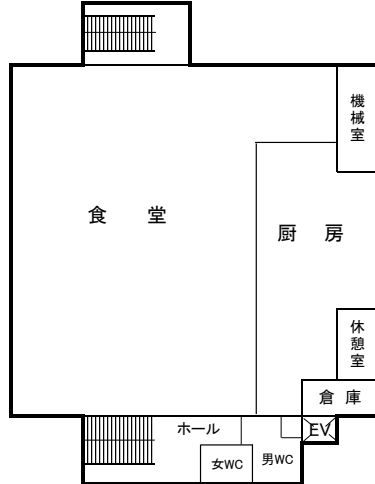


2号館

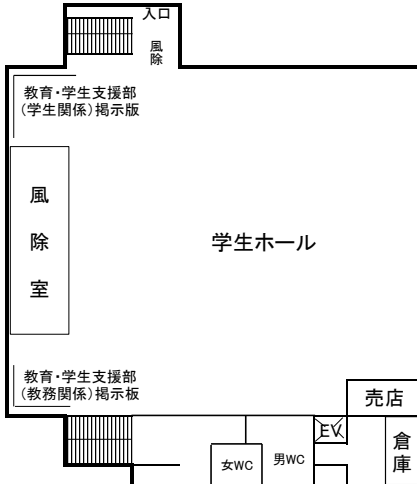
3F



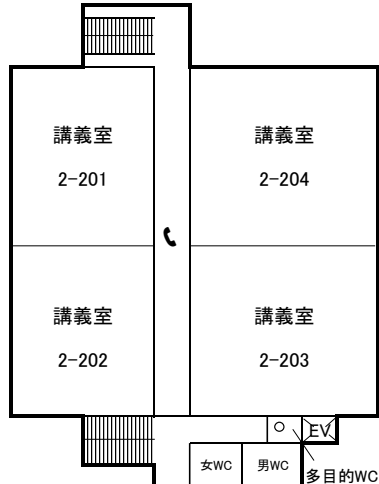
4F



1F



2F



☎ 緊急用電話

○ トイレ緊急呼出ボタン

4号館

レーザードーム



4F

研究室 4-403	
研究室 4-401	情報通信 システム 研究室 4-402

3F

	B	A	B	A		B	A	
男 WC	デジタル 信号処理 研究室 4-319	電力情報 ネットワ ーク研究 室 4-318	磁気応用 工学研究 室 4-317	半導体 材料工学 研究室 4-316	アクティブ・ラーニング講義室 4-315	強誘電体材料・ デバイス工学 研究室Ⅰ・Ⅱ 4-314 4-313	研究室 4-312	研究室 4-311
	B		A					
	研究室 4-301	研究室 4-302	研究室 4-303	研究室 4-304	エネルギー 変換工学 研究室 4-305	IoT & メカトロニクス 研究室 4-306	電子知能 ロボット 研究室 4-307	電子工学 研究室 4-308
							研究室 4-309	研究室 4-310

2F

男 WC	電気電子工学 実験室Ⅰ 4-216	電気電子工学 実験室Ⅱ 4-215	電気電子工学 実験室Ⅱ 4-214	事務室 4-213	応接 室 4-212	技 術 職員室 4-211	大学院 演習室 4-210	講義室 4-209	
	ネットワーク・コンピュータ 演習室 4-201	ナノ デバイス・ 衛星情報 研究 室 4-202	E-ラウンジ 4-203	会議室 4-204		エンジン クラブ 4-205	物理工学 研究室 4-206	研究室 4-207	研究室 4-208

1F

女 WC	産学連携 研究室 4-116	電気電子 材料加工 室 4-115	電子情報システム 実 験 室 4-114	直 流 発電室 4-113	電気エネルギー システム実験室 4-112	E-ナビ・スクエア 4-111	講義室 4-110
	高電界 工 学 研究室 4-101	クリーンラボ 4-102	ナノテク ロジー 研究室 4-103	薄膜作製・ 分析研究室 4-104	研究室 4-105	フ ォ ト リ ン 堂 4-106	薄膜表面 物性評価 研究 室 4-107
							研究室 4-108
							研究室 4-109

5号館

3F

男 WC	学生居室 5-318	研究室 5-317	学生居室 5-316	研究室 5-315	研究室 5-314	研究室 5-313	研究室 5-312	大学院 演習室 5-311	資料室 5-310	実験室 5-309	製図室 5-308
	教材 準備室 5-301	学生居室 5-302	実験室 5-303	学生居室 5-304	学生居室 5-305	講義室 5-306			実験室 5-307		

2F

男 WC	応 接 室	事務室	研 究 室	研 究 室	ITルーム (A)	ITルーム (B)	ITルーム (C)	研 究 室	研 究 室	研 究 室	研 究 室	研 究 室	研 究 室	
	5-216		5-215	5-214	5-213		5-212		5-211	5-210	5-209	5-208	5-207	5-206
会議室	学生居室		講義室		学生居室	講義室								
5-201	5-202	5-203	5-204	5-205										

1F

女 WC	自動車教材室 5-117	伝熱工学 実験室 5-116	実 習 指導員室 5-115	実験室 5-114	次世代 冷凍機 実験室 5-113	エンジン 実験室 5-112	熱工学 実験室2 5-111	熱工学 実験室1 5-110	超音波 実験室 5-109	精密機械 測 定 室 5-108
	エンジン実習室 5-101	実験室 5-102	学 生 実験室	原子力 工 学 実験室 5-103	レーザー 工 学 実験室 5-104		実験室 5-105	実験室 5-106	講義室 5-107	

6号館

3F

3F

男 WC	会議室 6-333	学務室 6-332	共用ゼミ室 6-331	研究室 6-330	研究室 6-329	研究室 6-328	研究室 6-327	研究室 6-326	研究室 6-325	研究室 6-324	講師室 非常動 6-323	印刷室 6-322	設計・計画 研究室 6-320	建築 デザイン 研究室 6-319	歴史 意匠 資料室 6-318	建築 図書室2 6-317	建築 図書室1 6-316
												複写室 6-321				環境デ ザイン 資料室 6-315	
女 WC																	
	研究室 6-301	研究室 6-302	研究室 6-303	研究室 6-304	研究室 6-305	研究室 6-306	防災・ 構造工学 研究室 6-307	建築計画 研究室 6-308	空間 デザイン 研究室 6-309			研究室 6-310	研究室 6-311	歴史・ 伝統構法 研究室 6-312		材料・ 施工 研究室Ⅰ 6-313	模型 制作室 6-314

2F

2F

男 WC	事務室	設 計 室		ITルーム		第2講義室			
	6-210	6-209		6-208		6-207			
女 WC	A-カフェ	A・ギャ ラリ	コモンルーム	アトリエ		エスキス・ プロジェクト ルーム		大学院 自習室	大学院 講義室
	6-201		6-202	6-203		6-204		6-205	6-206

1F

1F										第1講義室 6-109			
男 WC	材料・ 構 法 実験室 6-117	材料実験 準備室 6-116	実験 管理室 6-115	養生室 6-114	低温恒 温室 6-113	常温恒 温室 6-112	材料・施工 実験室Ⅱ 6-111	材料・施工 実験室Ⅰ 6-110					
物置													
実験室 6-103													
工作室 6-101		耐雪耐寒 工 法 実験室 6-102		化学実 験室 6-104		防災・ 構 造 実験 準備室 6-105		都市・ 住 居 資料室 6-106		数学 研究室 6-107		材料・ 施 工 研究室Ⅱ 6-108	

7号館

3F

3F

ベランダ																ベランダ		
男WC	複写室	事務室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	研究室	コンクリート工 学 研究室Ⅱ		計画学 研究室	大学院生 演習室
	7-328	7-327	7-326	7-325	7-324	7-323	7-322	7-321	7-320	7-319	7-318	7-317	7-316	7-315	7-314	7-313	7-312	7-311
女WC																		

大学院 講義室	会議 室	研究 室	研究 室	水工学 研究室Ⅱ	環 境 工 学 研究室Ⅱ	大学院 講義室	コンクリート 工 学 研究室Ⅰ	研究室Ⅱ		第3講義室
7-301	7-302	7-303	7-304	7-305	7-306	7-307	7-308	7-309		7-310

2F

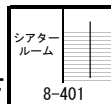
2F

男WC	構造工学 研究室Ⅰ	ITカフェ 学生自習室	ITルーム		地盤工学 研究室	水工学 研究室Ⅰ	コンクリート 工学 実験室Ⅲ	第2講義室	
女 WC	7-213	7-212	7-211		7-210	7-209	7-208	7-207	
環境工学 実験室Ⅰ		環境工学 研究室	環境工学実験室Ⅱ			研究室Ⅰ	学生 自習室	第1講義室	
7-201		7-202	7-203			7-204	7-205	7-206	

1F

男WC	実験 準備室	地盤工学実験室Ⅱ		水工学実験室Ⅱ		実験 準備室	地盤工学 実験室Ⅰ		器 材 測 量
	7-112					7-110			
物置		7-111					7-109		7-108
	実験 準備室	コンクリート工学 実験室Ⅰ	構造工学実験室			寒冷地 材料 試験室	凍結融解 試験室	倉庫	エ コ ン ク リ ー ト 工 学 実 験 室Ⅱ
	7-101								
	恒温 室	7-102	7-103			7-104	7-105		水工学 実験室Ⅰ
								7-106	7-107

8号館



4F

3F

ウェブ システム 研究室 8-317			研究 室 8-316	研究 室 8-315	研究 室 8-314	研究 室 8-313	研究 室 8-312	研究 室 8-311	研究 室 8-310		研究 室 8-309	研究 室 8-308	ミーティング ルーム 8-307
女 WC	男 WC	エンターテイン メント インフォマティクス 研究室 8-301	地域DX 研究室 8-302	コンピュ ータ システム研究室 8-303		コンピュ ータ グラフィックス 研究室 8-304		電子ビジョ ン 研 究 室 8-305		数理情報工 学 研究室 8-306			

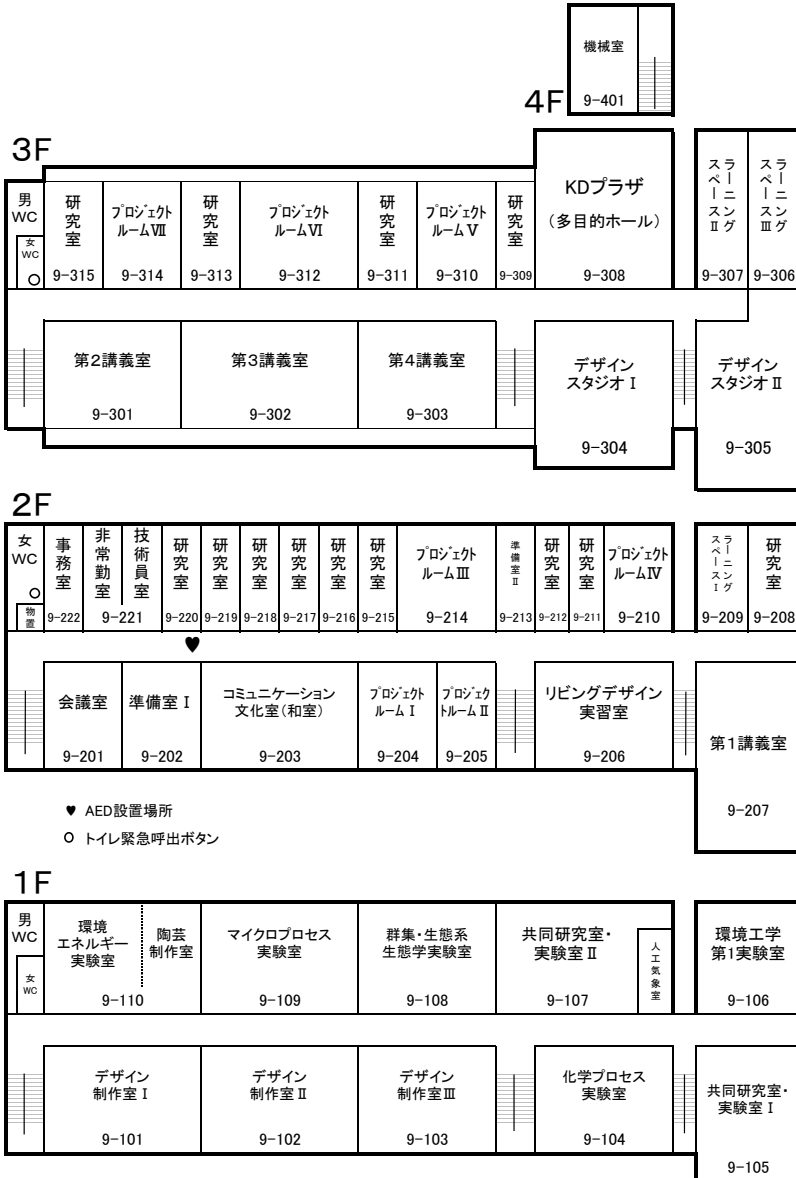
2F

メディアラボ			コピー室	事務室	会議室	講師控室	非常勤研究室	大学院講義室		自習室	LSI開発室	研究室
8-214			8-213	8-212	8-211	8-210	8-209	8-208		8-207	8-206	8-205
女WC	男WC	準備室	第1講義室			第2講義室			第3講義室			
		8-201	8-202			8-203			8-204			

1F

機械室			資料室	開発室	研究室	サウンドスタジオ	モーショ ンキャプ チャスタ ジオ		ネットワーク 研究室	工作 室
8-112			8-111	8-110	8-109	8-108	8-107		8-106	8-105
女 WC	男 WC	資料室	デバック 室	計算機室		第4講義室		第5講義室		
			8-101	8-102		8-103		8-104		

9号館



10号館

4F

ボイラー室	高置水槽室
遺伝子操作実験室 10-401	
第1動物室	第2動物室

3F

第2実験室 環境工学 10-317	男WC 10-318	女WC 10-319	学生居室 10-316	セミナー室 第2 10-315	学生居室 10-314	研究室 10-313	研究室 10-312	研究室 10-311	環境プロセス実験室 10-310	学生居室 10-309	研究室 10-308	ドラフト室 10-307	学生居室 10-306
第1講義室 10-301		多目的実験・実習室 10-302			第2講義室 10-303			第1会議室(資料室) 10-304		水族繁殖学実験室 10-305			

2F

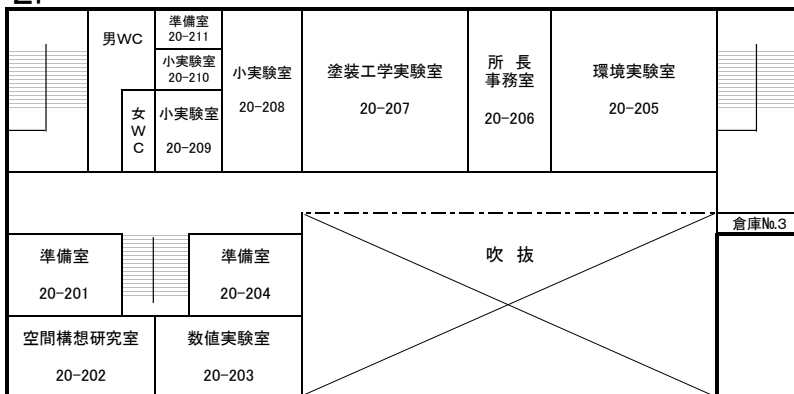
複写室 10-220	女WC 10-219	事務室 10-218	第2会議室 10-217	セミナー室 第1 10-216	研究室 10-215	研究室 10-214	研究室 10-213	研究室 10-212	研究室 10-211	学生居室 10-210	殺菌室 10-208	無菌室 10-207	植物生態学実験室 10-206
発酵食品学実験室 細胞培養室 10-201		実験室 10-202			機器分析室 10-203		菌類生理生態学実験室 10-204		生物資源利用化学実験室 10-205				

1F

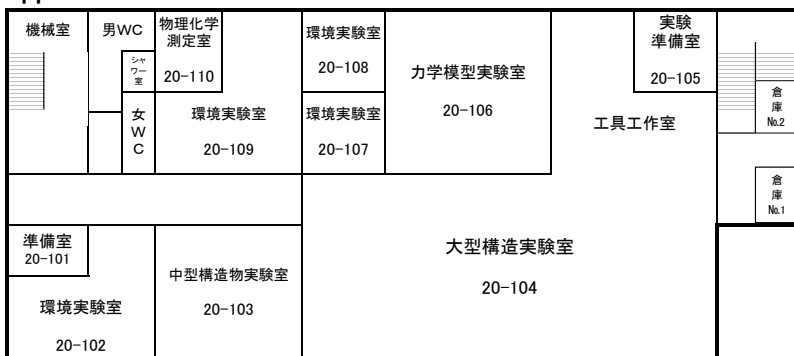
シヨムニケム 10-109	男WC 10-108	女WC 10-107	電子顕微鏡室 10-106	生命環境科学第3基礎実験室 10-105	就職情報室 10-104	技術職員室 10-103	生命環境科学第2基礎実験室 10-102	生命環境プロセス実習室 10-101
生命環境科学第1基礎実験室 10-101		生命環境科学ITルーム 10-102			生命環境プロセス実習室 10-103			

地域産業総合研究所

2F



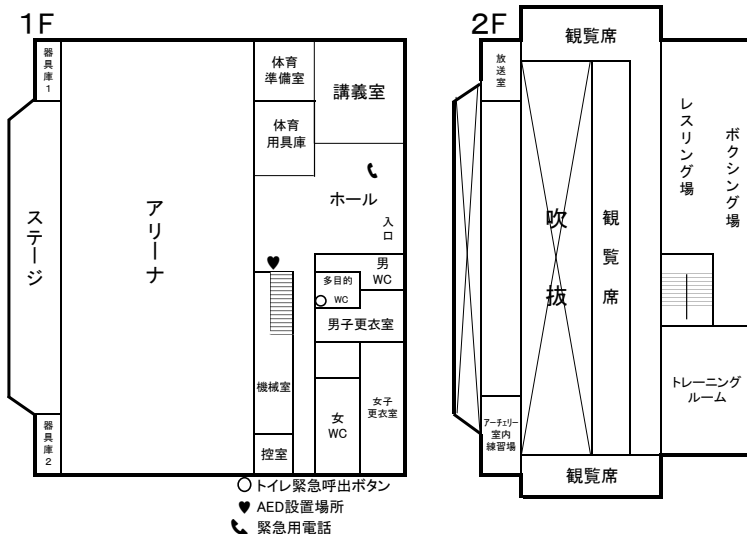
1F



尚志館



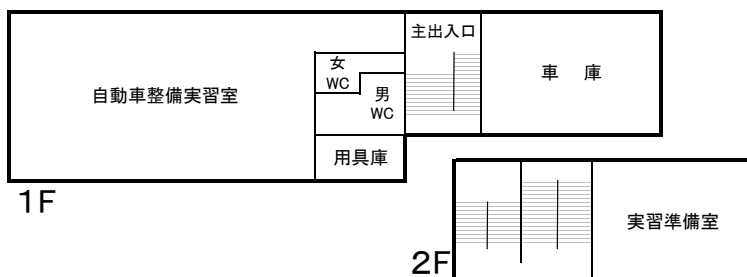
体育館



工作技術センター

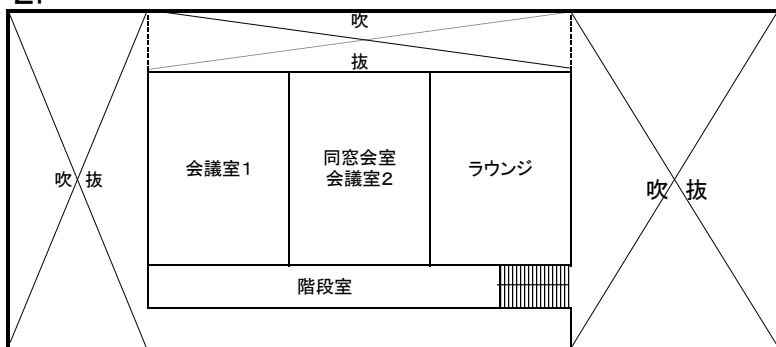


自動車工学センター

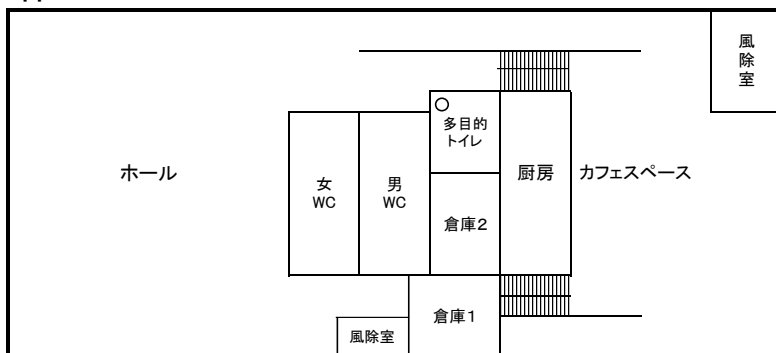


メディアセンター

2F



1F



○ トイレ緊急呼出ボタン

学友会館

1号館(1F)

男WC	男子 シャワー室	倉庫		学友会室	体育会室	文化会室
女子 シャワー 室	女WC	出入口	学友会倉庫	会議室A-1	会議室A-2	

1号館(2F)

1-1	学友会 1-2		ICT研究部 1-3	1-4	美術研究部 1-5	DTM研究部 1-6	情報科学 研究部 1-7	漫画研究部 1-8
将棋部 1-17	軽音楽部 1-16	映像 研究部 1-15	プラモデル 研究部 1-14	ゲーム 研究部 1-13	ゲーム 研究部 1-12	文芸愛好会 1-11	茶道愛好会 1-10	グラフィック 研究部 1-9

2号館(1F)

男WC	出入口	会議室B-1	会議室B-2	2-1	2-2	ビリヤード部 2-3	学友会 パネル置場 2-4
女WC	倉庫	2-9	学友会 倉庫 2-8	自動車部 2-7	吹奏楽部 2-6	吹奏楽部 2-5	

2号館(2F)

ソフトテニス部 2-10	軟式野球部 2-11	サイクリング 同好会 2-12	卓球部 2-13	柔道部 2-14	ホッケー部 2-15	男子バスケ ット部 2-16	ストリートダンス 愛好会 2-17
弓道部 2-24		男女硬式庭球部 2-23	空手道部 2-22	サバイバル ゲーム同好会 2-21	バレー ボール部 2-20	サッカー部 2-19	サッカー部 2-18

3号館(グラウンド側)

3-16	動力研究部 3-15	山岳部 3-14	アーチェリー部 3-13	陸上競技部 3-12	物置 3-11	物置 3-10	軽音楽部 3-8	物置 3-9
動力研究部 3-1	硬式野球部 3-2	アーチェリー部 3-3	学友会倉庫 3-4	自動車部 3-5	ソフトボール部 3-6	ラグビー部 3-7		

第2章

学修について

2. 1	はじめに	38
2. 2	授業時間	39
2. 3	履修計画と履修手続き	39
2. 4	出席・欠席	39
2. 5	試験	40
2. 6	成績発表	40
2. 7	目標単位数	40
2. 8	進級要件	41
2. 9	卒業	42
2. 10	GPA	43
2. 11	八戸工業大学の教育	44
2. 11. 1	八戸工業大学の人材育成像と教育の質保証	44
2. 11. 2	20の修得因子	44
2. 11. 3	ラーニング・ポートフォリオシステム	44
2. 12	工学部の教育目標・教育課程	45
2. 13	工学科の教育目標・教育課程	46
2. 13. 1	機械工学コースの学習・教育到達目標と教育課程	49
2. 13. 2	電気電子通信工学コースの学習・教育到達目標と教育課程	57
2. 13. 3	システム情報工学コースの学習・教育到達目標と教育課程	61
2. 13. 4	生命環境科学コースの学習・教育到達目標と教育課程	65
2. 13. 5	建築・土木工学コースの学習・教育到達目標と教育課程	69
2. 14	感性デザイン学部の教育目標・教育課程	73
2. 14. 1	感性デザイン学科の学習・教育到達目標と教育課程	74

2.1 はじめに

この章では、本学でどのようにして学びたい授業を受け、進級し、そして卒業できるかについて述べています。

■履修から単位修得まで

授業を受けることを履修するといいます。それぞれの授業科目には、授業時間数に応じて単位数が定められています。履修登録をして、授業を受け、試験に合格することを単位を修得したといいます。修得した単位数の合計を修得単位数といいます。
(第7章学則参照)

■必修科目と選択科目

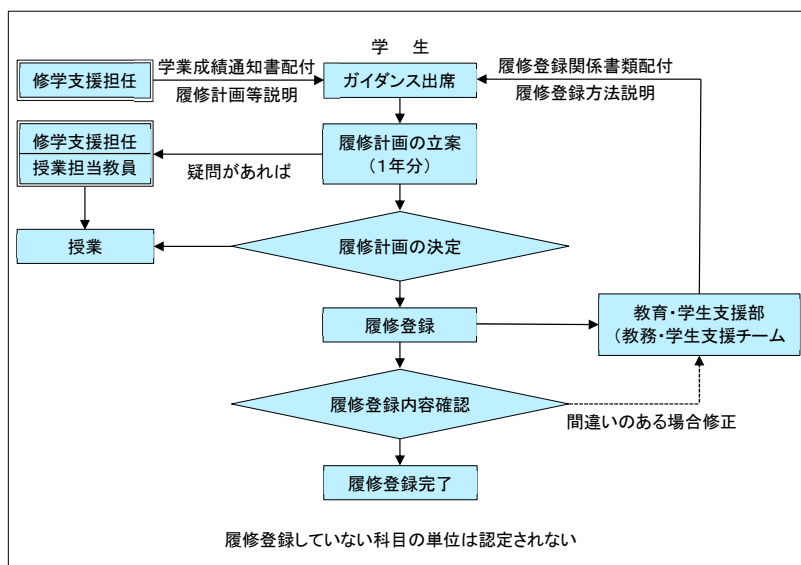
授業科目には、必ず修得しなければならない必修科目と選んで履修できる選択科目があります。選択科目には、各学科・コース課程表に示された範

囲から一定以上の単位数を修得しなければならない条件付きの選択必修と呼ばれる科目があります。

■学期と開講時期

本学の学期は、4月1日から9月15日までの前期と、9月16日から3月31日までの後期に分かれています。

それぞれの授業科目は、前期開講、後期開講、1年間を通しての通年開講と3種類の期間で授業が行われます。また、特定の期間に集中して授業を行う集中講義と呼ばれるものがあります。



2.2 授業時間

授業時間は次の通りです。

第1校時	8:50	-	10:20
第2校時	10:30	-	12:00
第3校時	12:50	-	14:20
第4校時	14:30	-	16:00
第5校時	16:10	-	17:40

2.3 履修計画と履修手続き

■履修計画

学年はじめに、この1年間どのような授業科目を履修するかを授業時間割表をもとに、カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ、シラバス、学生要覧等を参照し、自分で計画をたてる必要があります。これを履修計画といいます。

履修計画の相談には修学支援担任があたっていますので、気軽に相談してください。なお、前年度までの修得単位数が2.7で示す目標単位数に達していないときは、修学支援担任の指導を受けなければなりません。

■履修手続き

履修計画ができたら、その計画を所定の期日に履修登録を行うことが必要です。履修登録は、あらかじめ履修計画表に記入した科目をActive Academy Advance(AAA)により登録してもらいます。履修登録された結果は、「受講者名簿」となって各科目担当教員に周知されます。つまり、この名簿に記載された者だけがその科目を履修できることになりますので、履修手続きには十分な注意を要します。

■他学部・他学科科目の履修

所属学科以外の科目(講義科目)を10単位を限度として進級要件・卒業要件の選択科目の単位として修得することができます。受講を希望するときは、所属学科長、修学支援担任、科目担当教員の承認を受ける必要があります。教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)まで申し出てください。

■単位互換科目の履修

八戸学院大学の科目を進級要件・卒業要件の選択科目の単位として修得することができます。受講を希望するときは、所定の手続きをとる必要があります。ただし、1学年は履修できません。

■実験、実習、製図および体育科目

これらの科目は、開講されている学年で履修することを原則としていますので、その年に単位を修得できない場合には以後の履修科目に制限を受けることがあります。

■リメディアル科目

<数学基礎><物理学概論>

リメディアル科目は、大学での学習を進めるうえで、身につけておきたい知識の基礎となる科目です。進級・卒業単位には含まれませんが、履修することで、数学や物理だけではなく関連する科目の学習がスムーズにできるようになります。

■再履修

一度履修し不合格となった科目をもう一度履修することを再履修といいます。再履修の方法は基本的には最初に履修したときと同じ方法で履修しなければなりません。科目によって履修方法に違いがありますから科目担当教員の指導に従って履修してください。

2.4 出席・欠席

出席時数が授業時数の3分の2に満たない場合は、試験を受けられません。なお、体育科目はその性質上5分の4以上の出席時数がなければなりません。続けて3日以上欠席する場合は欠席届を、3カ月以上の欠席をする場合は休学願を、忌引きによる欠席は忌引届を保護者連署のうえ教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出しなければなりません。また、部活動などによる欠席は特別欠席願を教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出してください。休学などについては第6章を参照してください。

2. 5 試験

単位を修得するためには、試験を受け合格しなければなりません。実験、実習、演習および実技の科目では平常の成績で評価されることがあります。評価はS、A、B、C、Dで行われ、S、A、B、Cは合格、Dは不合格です。

試験には、定期試験、追試験および再試験があります。(第7章7. 5を参照)

■定期試験

前期および後期の決められた期間に行われます。

■追試験

病気・けがなどがやむを得ない理由により定期試験が受けられなかった学生が受けるものです。担当教員に申し出てください。受験手続きは自動発行機を利用してください。

■再試験

定期試験や追試験に合格できなかった学生に対して実施します。自動発行機で受験手続きをしてください。

■受験資格

定期試験を受けるためには次の受験資格が必要です。

- ①学年はじめに履修登録をしている。
- ②出席時数が授業時数の3分の2以上である。ただし、考慮すべき事情のある学生については出席時数がこれを満足しなくとも担当教員への届出により認める場合がある。
- ③教授会において特に失格条件がないことを認めている。

■受験上の注意

試験は成績評価の一手段として行われるものです。不正があると、正しい評価ができません。このため不正行為を行った学生は学則第57条によって懲戒処分が行われ、その学期に受験した科目はすべて零点となってしまいます。

受験の際は次の注意を守ってください。

- ①学生証を机上に提示してください。学生証を忘れ

た場合は、教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に申し出て受験票の交付を受け机上に提示してください。

- ②追試験、再試験の場合には、それぞれの受験票を机上に提示してください。
- ③特別な事情がない限り試験開始から20分後の入場、試験開始から30分間は退場できません。
- ④筆記用具などを共有してはいけません。
- ⑤答案用紙を持ち帰ってはいけません。
- ⑥受験中は監督者の指示に従ってください。不正があったと認めた場合は、監督者は直ちに退場を命じることがあります。

2. 6 成績発表

履修登録した科目の成績は、指定日にActive Academy Advance(AAA)で開示します。また、前期、後期のそれぞれの終了後に修学支援担任を通し全科目の成績が学業成績通知書として通知されます。学業成績通知書を受けとったら内容を確認してください。

2. 7 目標単位数

順調に単位修得が行われているかの目標値として、つぎの目標単位数が定められています。この単位数が修得できなかった学生は、修学支援担任から履修上の指導を受けなければなりません。なお、各学年に開講されている必修科目は全て修得していなければなりません。

(数字は単位数)

工学部	1学年	2学年	3学年
工学科	35	75	115

感性デザイン学部	1学年	2学年	3学年
感性デザイン学科	35	75	115

2. 8 進級要件

本学では、履修を円滑にすすめてもらうために、各学年に次のような進級要件を定めています。この進級要件を満足しないような場合は、同じ学年に留年となり、卒業までにもう一年要することになってしまいます。なお、学科・コースや履修のプログラムによっては表に示した以上の要件を設けている場合があるので、履修規程とあわせて各学科・コースの教育目標・教育課程も確認して下さい。

工学部

学科・コース	学年	修得 単位数	必修 単位数	その他の要件
工学科 機械工学コース	1学年	25	－	
	2学年	60	－	
	3学年	100	－	
工学科 電気電子通信工学コース	1学年	25	－	
	2学年	60	26	
	3学年	100	44	・「電気電子通信工学入門」を修得のこと ・「物理学実験」と「化学実験」のいずれかを修得のこと ・「創造工学実験」と「電気電子通信基礎実験」を修得のこと
工学科 システム情報工学コース	1学年	25	－	
	2学年	60	－	
	3学年	100	－	
工学科 生命環境科学コース	1学年	25	－	
	2学年	60	－	
	3学年	100	－	・「生命環境科学基礎実験」、「生命環境科学実験Ⅰ・Ⅱ」を修得のこと
工学科 建築・土木工学コース	1学年	25	－	
	2学年	60	20	
	3学年	100	30	

感性デザイン学部

学科・コース	学年	修得 単位数	必修 単位数	その他の要件
感性デザイン学科	1学年	18	8	
	2学年	48	10	
	3学年	90	18	

2.9 卒業

工学部の卒業のための要件は、次の通りです。

- ①4年以上修業する(休学した期間は含まない)。
- ②各コース教育課程表のキャリア教育科目、総合教養科目、AI・データサイエンス科目、共創教育科目、工学基礎科目、専門科目の各区分から、次に定める単位数以上を修得する。
- ③総計124単位以上修得する。

以上の単位修得条件を、各コースについてまとめたのが次の表です。

(数字は単位数)

学科・コース	キャリア 教育科目	総合教養 科目	AI・データ サイエンス組	共創教育 科目	工学基礎 科目	専門科目・ 工学発展科目	区 分 な し	卒 業 要 件
工学科 機械工学コース	5	18	2	4	14	70	11	124
工学科 電気電子通信工学コース	5	18	2	4	14	70	11	124
工学科 システム情報工学コース	5	18	2	4	14	70	11	124
工学科 生命環境科学コース	5	18	2	4	14	70	11	124
工学科 建築・土木工学コース	5	18	2	4	14	70	11	124

注1 コースや履修のプログラムによっては上記の区分以外の卒業要件を設けている場合もあるので、各コースの教育目標・教育課程や第7章諸規程に掲載されている教育課程表などを参考に確認すること。

注2 区分なしの単位は、次の科目からも修得できます。

・総合教養科目、AI・データサイエンス科目、共創教育科目、工学基礎科目、専門科目、工学発展科目、他学部・他学科科目、単位互換科目

注3 次の科目は卒業に要する単位数には加算されません。

・教育職員免許状取得に関する科目や、資格取得に関する科目など、学科・コース教育課程表(学則別表第1)に含まれていない科目

感性デザイン学部の卒業のための要件は、次の通りです。

- ①4年以上修業する(休学した期間は含まない)。
- ②学科の教育課程表のキャリア教育科目、総合教養科目、AI・データサイエンス科目、共創教育科目、専門科目の各区分から、次に定める単位数以上を修得する。
- ③総計124単位以上修得する。

※次表参照のこと

(数字は単位数)

学 科	キャリア 教育科目	総合教養 科目	AI・データ サイエンス組	共創教育 科目	専 門 科 目	区 分 な し	卒 業 要 件
感性デザイン学科	5	22	2	2	64	29	124

注1 区分なしの単位は、次の科目からも修得できます。

・総合教養科目、AI・データサイエンス科目、共創教育科目、専門科目、他学部・他学科科目、単位互換科目

注2 次の科目は卒業に要する単位数には加算されません。

・教育職員免許状取得に関する科目や資格取得に関する科目、リメディアル科目などの、学科教育課程表(学則別表第1)に含まれていない科目

2. 10 GPA

本学では、平成23年度入学生からを対象に、学修成果を計る基準としてGPA制度を導入しています。GPAとは、「Grade Point Average」の略称で、履修した1単位当たりの評価平均値を求めたものです。GPAを算出することにより学修の到達度が明確になることから、皆さんの学修意欲向上につながることをねらいの一つとしています。

GPAは学期ごとに学業成績通知書に記載して配布しますので、自分自身の学修状況を確認するとともに、GPAがより高い値となるように学修されることを期待します。なお、GPAの詳細については、第7章諸規程の「八戸工業大学GPA取り扱い要項」を参照してください。

■成績評価とグレートポイント(GP)

評価毎のグレートポイント(GP)は下記の通りで、評価がN(認定)の科目、卒業要件に含まれない科目および八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部との単位互換科目は、GPA算出の対象外とします。

合 否	評 価	評価基準	GP
合 格	S	90～100	4
	A	80～89	3
	B	70～79	2
	C	60～69	1
	N	認定	－
不合格	D	59以下	0

■GPAの計算方法

本学では、右記の通り「学期GPA」、「年度GPA」、「累積GPA」の3種類のGPAを計算します。(小数点第2位まで表示し、小数点第3位以下は切り捨て)

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{当該学期における(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{当該学期における評価を受けた科目の単位数の計}}$$

$$\text{年度GPA} = \frac{\text{当該年度における(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{当該年度における評価を受けた科目の単位数の計}}$$

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{入学以降に(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{入学以降に評価を受けた科目の単位数の計}}$$

GPAの計算で特に注意すべき点は、不合格科目(D評価:GP=0)も評価を受けた科目として単位数に算入されることです。GPの計は増えずに分母が大きくなるということですから、不合格科目が増えるとGPAの値が低くなることとなります。なお、不合格科目には文字通り試験等に不合格だった場合以外にも、授業を途中からあきらめたりした場合(通称「放棄」といいます)も含めます。充分に注意してください。

履修計画を立てる際には、進級要件や卒業要件を充足することはもちろんですが、履修登録した科目は途中であきらめることなく確実に単位を修得すること、また、全てを高い評価で合格するように努力することが重要です。

2. 11 八戸工業大学の教育

2. 11. 1 八戸工業大学の人材育成像と教育の質保証

本学では、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)、アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)の3ポリシーを掲げ、人材育成像とその教育の実施方法等を明確にしています。

また、大学のディプロマ・ポリシーに掲げる教育到達目標を2. 11. 2で示す「20の修得因子」として細分化し、これを全学共通の人材育成指標として掲げています。その教育の質保証を実現する手段の一つとして、教員側と学生側の教育・学修改善サイクル(PDCAサイクル)を回しています。学生側のPDCAサイクルの要となるのがラーニング・ポートフォリオ(LP)・システムです。学生はこのシステムを利用し、学修活動・学修成果に関する自己省察(リフレクション)を通じて、自己の成長を自ら作り出す姿勢を身につけることができます。変化の激しい実社会においても、「自立して生き抜く力」を身につけることが大切です。

2. 11. 2 20の修得因子

「20の修得因子」は、①寛容な心、②感動する心、③主体性、④人間環境の理解力、⑤自己管理能力・ストレスコントロール力、⑥倫理観・規律性、⑦日本語コミュニケーション・スキル、⑧外国語コミュニケーション・スキル、⑨チームワーク力、⑩リーダーシップ力、⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力、⑫数量的スキル、⑬情報リテラシー力、⑭論理的思考力、⑮問題解決力、⑯専門基礎原理の理解力、⑰専門基礎原理の高度応用展開力、⑱継続的学習力、⑲市民としての社会的責任感、⑳異文化理解力、で成り立っています。

これは「学士力(文部科学省)」、「社会人基礎力(経済産業省)」、「JABEE共通基準(日本技術者教育認定機構)」などの実社会で求められる力、並

びに高校までの教育で育成されてきた「生きる力(文部科学省)」と強く結びついた指標となっています。つまり汎用性が高い知識・能力・態度を学修成果の指標として用いています。これらの指標の達成度は、各学年の前期、後期終了時のアンケート形式による達成度評価などにより実施します。次の表は、大学のディプロマ・ポリシーと20の修得因子との関係を並べて示したものです。

八戸工業大学の教育目標	修得因子
豊かな人間性と総合的実践力	①寛容な心 ②感動する心 ③主体性 ④人間環境理解力 ⑤自己管理能力・ストレスコントロール力 ⑥倫理観・規律性 ⑦日本語コミュニケーション・スキル ⑧外国語コミュニケーション・スキル ⑨チームワーク力 ⑩リーダーシップ力 ⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力 ⑫数量的スキル ⑬情報リテラシー力 ⑭論理的思考力 ⑮問題解決力 ⑯専門基礎原理の理解力 ⑰専門基礎原理の高度応用展開力 ⑱継続的学習力 ⑲市民としての社会的責任感 ⑳異文化理解力
専門分野の基礎原理の理解に高度応用展開力	
社会的変化に対応できる柔軟な思考力	
地域社会への貢献に資する力(「社会貢献力」・「物事を成し遂げる力」)	

2. 11. 3 ラーニング・ポートフォリオ(LP)・システム

■ 本学のラーニング・ポートフォリオ・システムは、学生自らが成長を実感するとともに、具体的な学修目標設定に基づく学修の実施と自己省察(リフレクション)により、学修時間の向上、計画的学習能力及び自己管理能力を向上させること、並びに、将来の進路設計を具体化する際の自己アピール基礎資料として利用できることなどを目的としています。つまり、自律的な学修の促進支援機能、教員との情報交換機能、自己の活動記録機能を持っています。

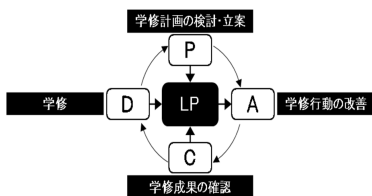
■ LP・システムにおけるPDCA学修改善サイクル

◇ 学修計画の検討・立案(Plan) : 学修計画を検討・立案し、Active Academy Advance(AAA)内にあるLP・システムにおいて、将来の進路や夢、生活全般、学修目標等を記述します。この記述に対して、教員から適宜にコメント、アドバイス等の書き込みがあります。

◇学修(Do):計画に基づいて学修活動を実施します。

◇学修成果の確認(Check):学修の到達状況の確認、生活や学修スタイルの点検、キャリアプランの検討など、定期的に自己省察を行います。

◇学修行動の改善(Act):次学期に向けて取り組むべき課題をみつけるなど 自らの学修行動を改善し、ステップアップを図っていきます。この一連のサイクルを回すことで自己の成長に繋がります。



2. 12 工学部の教育目標・教育課程

■教育目標

教育理念にそった人材を育成するため、工学部では以下の教育目標を掲げます。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とする工学の素養をもった人材を育成する
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材を育成する
- 3) 工学基礎原理の理解とそれらの高度応用展開力をもった人材を育成する
- 4) 地域社会への関心をもつとともにグローバルな視野で物事を考えることができる人材を育成する

■教育課程編成方針・教育実施基本方針

工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを「キャリア教育科目」「総合教養科目」「AI・データサイエンス科目」「共創教

育科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」、「工学発展科目」、「特別専攻科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します

「キャリア教育科目」においては、高校から大学へのスムーズな移行や社会と接点のある教育を実施します。「総合教養科目」においては、専門分野を問わないリベラルアーツを展開し多面的に物事を考える素養を養います。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。「共創教育科目」および「専門科目」においても、PBL、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、主体性ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 高度な情報活用能力を育成する教育を実施します

情報リテラシーとAI技術・データサイエンスの基礎を学ぶ科目を配置します。工学の専門分野においては情報技術を高度に利活用するための力を養成します。

4) 地域社会との繋がりを重視した共創教育を実施します

社会が抱える課題の解決のために、地域への理解を深めるとともに、工学における専門分野の地域的・社会的な役割およびデザインの基礎について学ぶための科目を配置します。また工学とデザインを融合した学修や地域と連携したPBL、アクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、持続可能な地域社会づくりへの関心を深めるとともに責任をもって物事を考えることができる能力を養成します。

5) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

工学の学問に必要な「工学基礎科目」を配置し、自然科学分野の基礎を幅広く養います。また、工学部の専門基礎原理を学ぶ科目を

学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

6) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を身につけるための教育を実施します

高度な応用展開力を養うために、実践的な科目や実験・演習・実習科目を重点的に配置します。授業の中では、論理的な思考を通じて自ら考え纏めたことを発表・表現する授業を展開します。また身につけた複数の専門知識やスキルを統合し、課題の解決力と継続的に学習する力やプロジェクトマネジメント力を育成するために、「卒業研究」を必修とします。また、これらの科目群によりチームワーク力やリーダーシップ力も養成します。

さらに、工学における発展的・分野横断的な学びを強化するために「工学発展科目」や「特別専攻科目」を配置します。

7) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します

「総合教養科目」を中心に、「専門科目」においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。各学科・コースの教育目標・教育課程を次以降で説明します。

2. 13 工学科の教育目標・教育課程

■工学科の教育目的

工学科では、多様化した社会ニーズに対応するため、広い視野と教養、倫理観、総合的な判断力及びコミュニケーション能力を持ち、情報リテラシーも含めた科学と工学の基礎知識、さらに社会の変化に柔軟に対処できる問題解決・応用展開能力を備えた技術者を育成することを目的としています。

工学科に履修上の区分として次のコースを設けています。学生はいずれかのコースを修了することにより卒業となります。

機械工学コース

電気電子通信工学コース

システム情報工学コース

生命環境科学コース

建築・土木工学コース

■工学科の学習・教育到達目標(ディプロマ・ポリシー)

工学科では、機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学のいずれかの分野において所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士(工学)」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
- (D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養
- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力
- (F) 北東北地域における科学技術の動向への関心

■工学科のカリキュラム編成方針・教育方法(カリキュラム・ポリシー)

工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1. 教育課程の骨格

カリキュラムを「キャリア教育科目」「総合教養科目」「AI・データサイエンス科目」「共創教育科目」「工学基礎科目」「専門科目」「工学発展科目」「特別専攻科目」で編成します。

2. 教育課程の編成

- (1) キャリア教育科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに倫理観・規律性、社会的責任感を涵養するための科目を配置します。
- (2) 総合教養科目：幅広い視野と教養、コミュニケーション・スキルを養うため人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際分野の4分野にわたる教養科目を配置します。
- (3) AI・データサイエンス科目：情報リテラシーを修得するとともに、AI技術、データサイエンスの基礎力および実践・応用力について学ぶための科目を配置します。
- (4) 共創教育科目：北東北を中心とした地域社会と科学技術についての包括的な理解、ならびに工学とデザインの分野を融合した学びを誘導する科目を配置します。
- (5) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、自然科学、実験に係わる科目を配置します。
- (6) 専門科目：機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学のいずれかの分野について基礎的な知識と学力を修得し、それらを活用・展開できる能力を修得することを目的に基礎分野と応用分野から構成される科目を配置します。さらに企業などにおけるインターンシップ、より総合的な学習や特定領域における研究活動を行うための卒業研究を配置します。これらの科目群を通じて総合的な判断力や継続的な学習力、チームワーク力、リーダーシップ力、社会の変化に対応できる柔軟な思考力および課題解決能力を養成します。

- (7) 工学発展科目：工学分野の発展プログラムとして、原子力工学、ロボット工学、海洋学の各分野の科目群を配置します。
- (8) 特別専攻科目：少人数による分野横断型の教育を通して高度な応用・展開能力を修得することを目的として、解析、特別専攻プロジェクト、特別専攻ゼミナールの科目群を配置します。

3. 教育課程の実施

- (1) 将来の進路や取得可能な資格の希望に応じて機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の各コースが設けられ、2年進級時にコースを決定します。各コースには、その人材育成像に応じた履修プログラムとして修了要件を設定します。
- (2) 必修科目・選択必修科目・選択科目を適切に配置し、技術者として必ず身につけるべき共通の素養と、自らの興味・関心に基づく多様な分野の知識をバランスよく修得できるよう配慮します。
- (3) 工学基礎科目・専門科目においては、理論・知識を学ぶための講義科目と、学んだ知識の習熟および課題発見力・解決力の醸成のための演習・実験科目を連携的・系統的に配置します。
- (4) 実験・実習・演習などの科目を通じて実践的な教育(PBL)を充実させ、講義で学んだ知識を活用し、さらに理解を深めて応用力を養うとともに、新たな課題を自ら発見し解決する課題解決能力を養成します。これらの科目の修得の過程で自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップ力が身につくよう運営します。
- (5) 工学関連分野の横断的な学習を可能とするため、他のコースの専門科目も履修できるよう配慮します。

- (6) 学生の主体的・能動的な学びを促進するため、演習・実習科目はもとより講義科目についてもアクティブ・ラーニングを積極的に導入します。
- (7) ネットワーク環境とITルームなどを充実させることで、大学での授業・教育に加えて、自宅での自律的な学習においてもICT機器の積極的な利用を促進します。また、通常の授業でも視聴覚機器を積極的に活用し、理解度の向上に努めます。

4. 学修成果の評価

授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。

■コース選択・変更・決定の流れ

工学科では履修上のコースを入学時に選択し、2年進級時に決定とします。原則として1学年前期および後期終了時にコースの変更が認められています。

以下にコースの選択・変更・決定の流れを示します。

(1) 入学時

- 1) 学生は入学時に選択し、許可されたコースへ配属されます。
- 2) 学生は配属されたコースの履修プログラムの要件を満たすよう履修登録してください。

(2) 1学年前期及び後期終了時

- 1) コース変更を希望する学生は、8月末あるいは2月末までに「コース変更願い」を配属コース及び受入れコースの学科長・補佐を経由して教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)へ提出してください。
- 2) 事前に配属コース及び受入れコースの修学支援担任(代表者1名)と面談し、コースの変更理由の確認や履修指導等を受けてください。

- 3) 原則として願出の通りのコース変更とします。しかし、コースの受入れ人数の目安を大きく超え、教育に支障が生じる恐れのある等、コースの状況により受け入れが困難な場合は、必要に応じて成績等※により受入れを調整することがあります。なお、複数回のコース変更は認めていません。

※前期あるいは後期の定期試験時の成績および出席状況による

- 4) 1学年前期終了時にコース変更を希望する学生は、当該学年後期から変更後のコースへ配属し、当該履修プログラムの要件を満たすよう所定の期間内に履修登録を修正してください。

(3) 2学年進級時

- 1) 教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)から学生に決定した配属コース及び履修プログラムを通知します。
- 2) 学生はコースの履修プログラムの要件を満たすよう履修登録してください。

(4) 3学年進級時

- 1) 教育上必要と認められる場合は、コースの受入れ人数に余裕がある場合に限り3年進級時のコース変更を許可することがあります。
- 2) コース変更の手続きは1.(2)の後期終了時と同様とします。なお、この場合には4年間で卒業できない可能性があることに注意してください。

2.13.1 機械工学コースの学習・教育到達目標と教育課程

■機械工学コースが育成する技術者像と教育目的

機械工学コースでは、技術者像「機械工学に関する幅広い知識、技術者倫理、デザイン能力、情報技術およびコミュニケーション能力と国際的視野を有し、多様化した社会ニーズに対応して地域や社会で活躍できる技術者」を志す技術者の育成を教育目的としています。

機械工学コースには3つのプログラムを設けています。機械工学プログラム、機械工学総合プログラム、自動車工学プログラムです。

機械工学プログラムは、機械工学に関する幅広い知識、技術者倫理、デザイン能力、情報技術およびコミュニケーション能力と国際的視野を有し、多様化した社会ニーズに対応して地域や社会で活躍できる技術者を育成するプログラムです。JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けています。

機械工学総合プログラムは、幅広い機械工学分野の中の特定分野に秀でた技術者を育成するプログラムです。

自動車工学プログラムは、国土交通省認定の自動車工学関連科目を履修します。卒業直後に二級ガソリン自動車整備士の登録試験が受験可能となるプログラムです。

■機械工学コースの学習・教育到達目標(ディプロマ・ポリシー)

機械工学コースが育成する技術者の学習・教育到達目標を次のように定め、教育を行います。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
 - (A-1) 総合教養的な知識と学力を修得し、地域的・地球的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける【総合教養と多面的な視野】

- (A-2) 職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を意識して行動できる素養を身につける【職業倫理と社会的な責任・役割】
- (A-3) 技術者としての活動が社会、衛生、安全、法及び文化に及ぼす影響について、知識と責任感を持つ【技術者倫理】
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力
 - (B-1) 数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける【数学・自然科学と情報リテラシー】
 - (B-2) 工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける【工学基礎・情報技術の活用】
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
 - (C-1) 社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける【コミュニケーション能力の基礎】
 - (C-2) 複合的なエンジニアリング活動に関して、技術文書の作成に必要な日本語による記述力と、専門分野の異なる相手に対して技術的な説明をした際、理解を得られるプレゼンテーション能力を持つ【コミュニケーション能力の応用】
- (D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養
 - (D-1) エンジニアリング問題解決に応用するための材料力学と機械力学の知識を持つ【材料力学・機械力学】
 - (D-2) エンジニアリング問題解決に応用するための熱および流体力学の知識を持つ【熱力学・流体力学】
 - (D-3) エンジニアリング問題解決に応用するための計測と制御の知識を持つ【計測・制御】

- (D-4) エンジニアリング問題解決に応用するための材料、工法、製図法および機械設計の知識を持つ【機械材料・工法・機械製図・機械設計】
- ＜(D-5)と(D-6)は自動車工学プログラムのみ＞
- (D-5) 二級ガソリン自動車整備士としての自動車の構造および整備に関する知識を持ち、自動車整備の実務を遂行できる【自動車整備士としての知識と実務遂行力】
- (D-6) 高度化する自動車技術の進展に対応し、自動車整備の実務に応用できる【自動車技術の継続的学習力】
- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力
- (E-1) 複合的なエンジニアリング問題解決のため、機械システムの振る舞いを観察し、考察、評価できる【観察・考察・評価】
- (E-2) 複合的なエンジニアリング問題解決を含む機械装置と製造工程の開発、設計、管理を行う基礎的素養を持つ【デザイン能力】
- (E-3) 複合的なエンジニアリング問題解決を含む機械の設計、開発において情報技術を有効に利用できる【情報技術の活用】
- (E-4) 複合的なエンジニアリング問題解決のため、最新技術情報を収集、分析でき、技術の変化に対応し、生涯にわたって自主的に学習する必要性を認識し、取り組むことができる【情報収集と継続的学習力】
- (E-5) 複合的なエンジニアリング問題解決のため、チームのメンバー又はリーダーとして、スケジュール、資料、資材などのリソースを管理して、課題を完遂する姿勢を持つ【リソース管理と課題完遂の姿勢】

- (E-6) 複合的なエンジニアリング問題解決のため、多様性のあるチームのメンバー又はリーダーとして、問題の解決やプロジェクトの中での自らの役割と責任を理解できる【リーダーシップとメンバーシップ】
- (F) 北東北地域における科学技術の動向への関心
- (F-1) 北東北地域の自然・社会・産業とこれに係わる科学技術に関する知識や素養を身につける【地域の科学技術への関心】
- (F-2) 地域社会が抱える課題に関心をもち、その解決に取り組む姿勢を身につける【地域的課題への取り組み】

■機械工学コースのカリキュラム編成方針・教育方法(カリキュラム・ポリシー)

機械工学コースの学生が学習・教育到達目標を達成できるよう、以下のカリキュラムを編成します。なお、対応する学習・教育到達目標を記号番号で示します。

- ・主に人間科学分野の選択科目を履修し、自然、環境、社会に関心をもち、多面的に物事を考える素養を身につけます。(A-1)
- ・国際コミュニケーション分野の選択科目を履修し、社会や他国の文化などについての知識と関心の幅を広げます。(C-1)
- ・「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「職業倫理」を履修し、技術者としての社会的な責任と役割を意識して行動できる素養を身につけます。(A-2)
- ・「技術マネジメント概論」を履修し、地球・地域の環境と資源の保護、製造物責任、知的財産権、情報公開などの概念と技術者との関わりを理解します。(A-3)
- ・「微分積分」、「線形代数」を履修し、機械工学の専門科目を理解し、実務に応用するための数学の基礎能力を身につけます。(B-1)

- ・「基礎物理学Ⅰ・Ⅱ」を履修し、機械工学の専門科目を理解し、実務に応用するための物理学の基礎能力を身につけます。(B-1)
- ・「基礎機械情報工学」、「基礎情報科学」を履修し、コンピュータリテラシと基礎的なプログラミング法を習得します。(B-2)
- ・「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」を履修し、技術者としての実務的な報告書作成法を習得します。また、「機械工作実習」を履修し、技術的な発表と質疑応答を体得します。(C-2)
- ・「日本語表現法」や「実践日本語表現」などを履修し、記述、口頭両面での自己表現、コミュニケーション能力を身につけます。(C-1)
- ・「卒業研究」を履修し、技術的な論文作成と口頭発表の仕方を習得します。(C-2)
- ・英語科目を履修し、基本的な英語の読解力を身に付けます。(C-1)
- ・「材料力学Ⅰ・Ⅱ」を履修し、材料力学に関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅰ(材料力学分野)」を履修し、問題解決能力を身につけます。(D-1)
- ・「機械力学Ⅰ・Ⅱ」を履修し、機械力学に関する基礎事項を習得するとともに、「機械工学演習Ⅱ(機械力学分野)」を履修し、問題解決能力を身につけます。(D-1)
- ・「熱力学Ⅰ・Ⅱ」を履修し、熱力学に関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅰ(熱力学分野)」を履修し、問題解決能力を身につけます。(D-2)
- ・「伝熱工学」を履修し、熱移動に関する基礎知識を習得します。(D-2)
- ・「流れ学Ⅰ・Ⅱ」を履修し、流れに関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅱ(流体力学分野)」を履修し、問題解決能力を身につけます。(D-2)
- ・「計測工学」を履修し、計測工学の基礎事項を習得します。(D-3)
- ・「制御工学」を履修し、制御システム設計の基礎事項を習得します。(D-3)
- ・「メカトロニクス基礎」、「プロジェクト実習」を履修し、メカトロニクスシステムの構成に関する基礎事項を習得します。(D-3)
- ・「機械材料工学」を履修し、機械材料に関する基礎事項を習得します。(D-4)
- ・「機械加工学」を履修し、加工法の基礎事項を習得するとともに、「機械工作実習」を履修し、機械加工の作業を通じて機械装置製作に応用できる能力を身につけます。(D-4)
- ・「基礎設計工学」、「応用設計工学」、「基礎設計製図」、「CAD設計製図」、「機械設計技法」を履修し、機械設計に必要な基礎知識と製図法を修得するとともに、「プロジェクト実習」を履修し、設計・製作した製作物の動作、機能を評価し設計や製作法が機械の性能に及ぼす影響を体得します。(D-4)
- ・「プロジェクト実習」を履修し、機械システムの仕組みと振る舞いの因果関係を体得するとともに、「プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を履修し、問題解決にあたって機械システムの振る舞いを観察し、考察、評価できる能力を身につけます。(E-1)
- ・「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」を履修し、実験や研究で扱う装置・システムの動作、実験データを分析、考察、評価する能力を身につけます。(E-1)
- ・「プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を履修し、機械装置と製造工程の開発・管理において必要となる、問題を明確にし、与えられた条件の下で最適な解決ができる方法を習得します。(E-2)
- ・「CAD設計製図」を履修し、機械装置と製造工程の開発、設計、管理を行う基礎的教養を身につけるとともに、「機械工作実習」、「プロジェクト実習」を履修し、実際の機械装置の設計・製作から完成にいたるプロセスを体験し、機械装置の開発に必要な基礎能力を身につけます。(E-2)

- ・「卒業研究」において、それぞれの課題の目標を理解し、目標の達成に必要なプロセスやシステムの改善、問題の解決のために調査、分析、創意工夫する姿勢を身につけます。(E-2)
- ・「CAD設計製図」を履修し、機械設計におけるCADの利用法を習得します。(E-3)
- ・「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」でコンピュータを用いたデータの集計・分析、レポートの作成など機械技術者の実務に利用できる能力を身につけます。(E-3)
- ・「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」において、調査、資料・データ整理、報告書作成、プレゼンテーションなどでのコンピュータ利用技術を総合的に身につけます。(E-3)
- ・「プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「卒業研究」を履修し、書籍、文献、インターネットなどでの情報収集を実践することにより、最新技術情報を収集できる能力を身につけます。(E-4)
- ・「基礎設計製図」、「CAD設計製図」、「機械設計技法」、「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、期限までに課題や報告書を提出する態度を身につけます。(E-5)
- ・「プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「機械工作実習」、「プロジェクト実習」において、小グループに分かれて問題解決に当たり、与えられた期限内に課題を完遂する姿勢を身につけます。(E-5)
- ・「卒業研究」において、課題の目標を理解し、目標を達成するために必要なリソースを管理し、主体的に課題を推し進める能力を身につけます。(E-5)
- ・「プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「機械工作実習」、「プロジェクト実習」において、与えられた問題や課題の解決にチームであったり、自らの役割と責任を理解できる能力を身につけます。(E-6)
- ・「卒業研究」において、研究グループに分かれて与えられた課題の目標を理解し、自らの役割と責任を理解できる能力を身につけます。(E-6)

- ・自動車工学分野のプログラム必修科目を履修し、2級ガソリン自動車整備士相当の自動車の構造と整備に関する知識を習得します。(D-5)
- ・「自動車工学」、「カーエレクトロニクス」、「自動車構造Ⅰ・Ⅱ」を履修し、高度化する自動車の技術の進展に対応し、自動車整備の実務に応用できる能力を身につけます。(D-6)
- ・「工学概論」や「デザインと技術」を履修し、北東北地域の自然・社会・産業と科学技術に関する知識を身につけます。(F-1)
- ・「卒業研究」や原子力関連科目を通じて地域社会が抱える技術的な課題への関心を深めます。(F-2)

■機械工学プログラムおよび自動車工学プログラムのアドミッション・ポリシー(プログラム配属者受け入れ方針)

機械工学プログラムおよび自動車工学プログラムへの配属は、以下に示すアドミッション・ポリシーに従って受け入れています。

■機械工学プログラム アドミッション・ポリシー

機械工学プログラムでは、プログラムの学習・教育到達目標を達成することができる資質のある学生として、以下の全ての条件に当てはまる学生を受け入れます。ただし、個別事情を審査し、学習・教育到達目標の達成が可能だと判断できる場合には、プログラムへの受け入れを認める場合があります。

- (1) 2年進級時点の取得単位数が35単位以上であること
- (2) 2年進級時点で評価A以上の科目の割合が概ね50%以上であること
- (3) 2年進級時点で評価Cの科目の割合が概ね20%以下であること
- (4) 1年次に開講される必修科目および機械工学プログラムの必修科目のうち、未修得のものが2単位以下であること
- (5) 過年度において留年していないこと

■自動車工学プログラム アドミッション・ポリシー

自動車工学プログラムでは、自動車整備士資格取得の意欲が高く、プログラムの学習・教育到達目標を達成できる資質のある学生として、以下の条件に当てはまる学生を定員(25名)の範囲内で受け入れます。

- (1) 1年次における主要科目の出席率が95%以上であること。
- (2) 1年次履修科目の成績評定が良好であること。

機械工学コースの学習・教育到達目標と大学で定める20の修得因子は互いに関連しています。
修得因子と機械工学コースの学習・教育到達目標の関連性を以下の表で示します。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
修得因子と学習・教育到達目標との関連基準 ◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																					
(A) 社会人としての真摯な倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野	(A-1) 総合教養的な知識と学力を修得し、地球的・地獄的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける【総合教養と多面的な視野】 (A-2) 職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を認識して行動できる素養を身につける【職業倫理と社会的な責任・役割】 (A-3) 技術者としての活動が社会、衛生、安全、法及び文化に及ぼす影響について、知識と責任感を持つ【技術者倫理】	○			◎	○						○									○
(B) 専門分野の基礎となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力	(B-1) 数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける【数学・自然科学と情報リテラシー】 (B-2) 工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける【工学基礎・情報技術の活用】			○		◎							◎	○						○	◎
(C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢	(C-1) 社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける【コミュニケーション能力の基礎】 (C-2) 複合的なエンジニアリング活動に関して、技術文書の作成に必要な日本語による記述力と、専門分野の異なる相手に対して技術的な説明をした際、理解を得られるプレゼンテーション能力を持つ【コミュニケーション能力の活用】							○	◎												○
(D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養	(D-1) エンジニアリング問題解決に応用するための材料力学と機械力学の知識を持つ【材料力学・機械力学】 (D-2) エンジニアリング問題解決に応用するための熱および流体力学の知識を持つ【熱力学・流体力学】 (D-3) エンジニアリング問題解決に応用するための計測と制御の知識を持つ【計測・制御】 (D-4) エンジニアリング問題解決に応用するための材料、工作法、製図法および機械設計の知識を持つ【機械材料・工作法・機械製図・機械設計】																◎	○			
(E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力	(E-1) 複合的なエンジニアリング問題解決のため、機械システムの最も難いを観察し、考察、評価できる【観察・考察・評価】 (E-2) 複合的なエンジニアリング問題解決を含む機械装置と製造工程の開発、設計、管理を行う基礎的素養を持つ【デザイン能力】 (E-3) 複合的なエンジニアリング問題解決を含む機械の設計、開発において情報技術を有効に活用できる【情報技術の活用】 (E-4) 複合的なエンジニアリング問題解決のため、最新技術情報を収集、分析でき、技術の変化に対応し、生涯にわたって自主的に学習する必要性を認識し、取り組むことができる【情報収集と継続的学習力】 (E-5) 複合的なエンジニアリング問題解決のため、チームのメンバー又はリーダーとして、スケジュール、資料、資材などのリソースを管理して、課題を完遂する姿勢を持つ【リソース管理と課題完遂の姿勢】 (E-6) 複合的なエンジニアリング問題解決のため、多様性のあるチームのメンバー又はリーダーとして、問題の解決やプロジェクトの中での自らの役割と責任を理解できる【リーダーシップとメンバーシップ】	○										◎			◎					◎	
(F) 北東北地域における科学技術の動向への関心	(F-1) 北東北地域の自然・社会・産業とこれに携わる科学技術に関する知識や素養を身につける【地域の科学技術への関心】 (F-2) 地域社会が抱える課題に関心をもち、その解決に取り組む姿勢を身につける【地域の課題への取り組み】				○						○	○					○	○			

機械工学コース 開講学年別授業科目表

(令和5年度入学生以降用)

第1学年			第2学年			第3学年			第4学年		
授業科目	単位		授業科目	単位		授業科目	単位		授業科目	単位	
	前	後		前	後		前	後		前	後
キャリアデザインⅠ		1	キャリアデザインⅡ		1	キャリアデザインⅢ		1	異文化コミュニケーション		2
歴 史		2	心 理 学		2	職 業 倫 理		2	機 械 設 計 技 法		2
経 済 学		2	哲 学		2	日 本 国 憲 法		2	技術マネジメント概論		2
日 本 語 表 現 法		2	文 学		2	知 的 財 産 論		2	プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ		2
総 合 英 語		2	実 践 日 本 語 表 現		2	データアナリティクスⅡ		2	卒 業 研 究 M		6
実 践 英 語		2	Global English		2	共創デザイン演習		2	自 動 車 構 造 I		1
教 養 英 語		2	English Communication		2	機 械 力 学 I		2	自 動 車 構 造 II		1
英 語 会 話		2	English Reading		2	機 械 力 学 II		2	自 動 車 法 規		1
英 語 表 現		2	Technical English		2	流 れ 学 I		2	自 動 車 工 学		2
中 国 語 I		2	中 国 語 Ⅲ		2	流 れ 学 II		2	カーエレクトロニクス		1
中 国 語 II			ス ポ ー ツ 健 康 学		2	伝 熱 工 学		2	自 動 車 検 査		1
体 育 学		1	主題別ゼミナールⅡ		1	メカトロニクス基礎		2	自 動 車 整 備 実 習		6
生涯スポーツ演習		1	データアナリティクスⅠ		2	機 械 材 料 工 学		2	原子燃料サイクル・安全工学		2
主題別ゼミナールⅠ		1	カーボンニュートラル概論Ⅰ		1	機 械 工 作 実 習		3			
海 外 研 修		1	カーボンニュートラル概論Ⅱ		1	機 械 工 学 実 験 I		1			
AI・データサイエンス入門		2	確 率 ・ 統 計		2	機 械 工 学 実 験 II		1			
工 学 概 論		2	応用物理学概論		2	機 械 工 学 演 習 II		2			
デザインと技術		2	材 料 力 学 I		2	プ ロ ジ ェ ク ト II		2			
北東北八戸の地域学		2	材 料 力 学 II		2	機 械 工 学 統 合 演 習		2			
カーボンニュートラル入門		2	熱 力 学 I		2	プ ロ ジ ェ ク ト 実 習		1			
微 分 積 分		2	熱 力 学 II		2	学 外 研 修 M		1			
線 形 代 数		2	基礎機械情報工学		2	潤 滑 工 学		1			
基礎物理学Ⅰ		2	応用機械情報工学		2	自 動 車 エ ン ジ ン		1			
基礎物理学Ⅱ		2	機 械 加 工 学		2	自動車測定検査概論		1			
物 理 学 実 験		2	基礎設計工学		2	原子力体感研修		2			
基礎化学Ⅰ		2	応用設計工学		2	制 御 工 学		2			
基礎化学Ⅱ		2	基礎設計製図		2	特別専攻プロジェクトⅡ		2			
化 学 実 験		2	C A D 設 計 製 図		2	特別専攻ゼミナールⅠ		2			
生 命 科 学		2	機械工学演習Ⅰ		2	特別専攻ゼミナールⅡ		2			
基礎情報科学M		2	プ ロ ジ ェ ク ト I		2						
原子力エネルギー		2	基礎自動車工学		1						
ロボット工学概論		2	電気電子工学概論		1						
			電 子 回 路 工 学		1						
			放 射 線 の 利 用		2						
			ロ ボ ッ ト 工 学 実 習		1						
			計 測 工 学		2						
			論 理 回 路		2						
			解 析 I		2						
			解 析 II		2						
			特別専攻プロジェクトⅠ		2						

※注1. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

機械工学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

機械工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力
		⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱
		異文化理解力	市民としての社会的責任感	継続的学習力	専門基礎原理の高度応用展開力	専門基礎原理の理解力	問題解決力	論理的思考力	情報リテラシー力	数量的スキル	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	チームワーク力	外国語コミュニケーション・スキル	日本語コミュニケーション・スキル	倫理観・規律性	自己管理能力・ストレスコントロール力	人間環境理解力	主体性	感動する心
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																			
◎ :大きな相関がある ○ :相関がある 空白 :関連がない																			
授業科目名	開講学年学期																		
生涯スポーツ演習	第1学年後期	○				◎													
スポーツ健康学	第2学年前期	○				◎													
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期							◎				◎							
主題別ゼミナールⅡ	第2学年後期							◎				◎							
海外研修	第1学年後期								◎										◎
AI・データサイエンス入門	第1学年後期													◎					
データアナリティクスⅠ	第2学年後期												○	◎					
データアナリティクスⅡ	第3学年前期												○	◎					
工学概論	第1学年前期				◎													○	
デザインと技術	第1学年前期				◎														○
北東北八戸の地域学	第1学年後期				◎														○
共創デザイン演習	第3学年前期	◎			○														○
カーボンニュートラル入門	第1学年後期				◎													○	
カーボンニュートラル概論Ⅰ	第2学年前期				◎								○						
カーボンニュートラル概論Ⅱ	第2学年後期				◎								○						
微分積分	第1学年前期												◎						
線形代数	第1学年後期												◎						
確率・統計	第2学年前期												◎						
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期												◎						
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期												◎						
応用物理学概論	第2学年後期												◎						
物理学実験	第1学年前期												◎						
基礎化学Ⅰ	第1学年前期												◎						
基礎化学Ⅱ	第1学年後期												◎						
化学実験	第1学年前期												◎						
生命科学	第1学年前期				◎														
基礎情報科学M	第1学年前期													◎					

機械工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力
		⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱
		異文化理解力	市民としての社会的責任感	継続的学習力	専門基礎原理の高度応用展開力	専門基礎原理の理解力	問題解決力	論理的思考力	情報リテラシー力	数量的スキル	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	チームワーク力	外国語コミュニケーション・スキル	日本語コミュニケーション・スキル	倫理観・規律性	自己管理能力・ストレスコントロール力	人間環境理解力	主体性	感動する心
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																			
◎ : 大きな相関がある ○ : 相関がある 空白 : 関連がない																			
授業科目名	開講学年学期																		
材料力学Ⅰ	第2学年前期																◎	◎	
材料力学Ⅱ	第2学年後期																◎	◎	
機械力学Ⅰ	第3学年前期																◎	◎	
機械力学Ⅱ	第3学年後期																◎	◎	
熱力学Ⅰ	第2学年前期																◎	◎	
熱力学Ⅱ	第2学年後期																◎	◎	
流れ学Ⅰ	第3学年前期																◎	◎	
流れ学Ⅱ	第3学年後期																◎	◎	
伝熱工学	第3学年前期																◎	◎	
基礎機械情報工学	第2学年前期											○	○	○			◎	◎	
応用機械情報工学	第2学年後期														○	○	◎	◎	
メカトロニクス基礎	第3学年前期																◎	◎	
機械材料工学	第3学年前期																◎	◎	
機械加工学	第2学年前期																◎	◎	
機械工作実習	第3学年前期			○						○	○	○				○	◎	◎	
基礎設計工学	第2学年前期																◎	◎	
応用設計工学	第2学年後期																◎	◎	
基礎設計製図	第2学年前期			○													◎	◎	
CAD設計製図	第2学年後期			○											○	○	◎	◎	
機械設計技法	第2学年前期			○											○	○	◎	◎	
機械工学実験Ⅰ	第3学年前期							○		○	○				◎	○	◎	◎	
機械工学実験Ⅱ	第3学年後期							○		○	○				◎	○	◎	◎	
機械工学演習Ⅰ	第2学年後期																◎	◎	
機械工学演習Ⅱ	第3学年後期																◎	◎	
技術マネジメント概論	第4学年後期						◎												
プロジェクトⅠ	第2学年後期			○	○					○	○	◎			○	◎	○	○	○
プロジェクトⅡ	第3学年後期			○	○					○	○	◎			○	◎	○	○	○

[illegible]

機械工学コース カリキュラム・マップ

修得因子、学習・教育到達目標との関連基準		修得因子																		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感
		異文化理解力																		
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																				
◎ : 大きな相関がある ○ : 相関がある 空白 : 関連がない																				
授業科目名	開講学年学期																			
プロジェクトⅢ	第4学年前期			○	○					○	○	◎			○	◎	○	○	○	
機械工学統合演習	第3学年後期															◎	◎	○		
プロジェクト実習	第3学年後期			○						○	○	◎			○	◎	○	○		
学外研修M	第3学年前期			○						◎	◎					◎	◎	◎		
卒業研究M	第4学年通年			○				○		○	○	◎		○	○	◎	○			
基礎自動車工学	第2学年後期																◎	◎		
潤滑工学	第3学年前期																◎	◎		
自動車エンジン	第3学年後期																◎	◎		
自動車測定検査概論	第3学年後期																◎	◎		
自動車構造Ⅰ	第4学年前期																◎	◎		
自動車構造Ⅱ	第4学年後期																◎	◎		
自動車法規	第4学年後期																◎	◎		
自動車工学	第4学年後期																◎	◎		
電気電子工学概論	第2学年前期																◎	◎		
電子回路工学	第2学年後期																◎	◎		
カーエレクトロニクス	第4学年前期																◎	◎		
自動車検査	第4学年前期																◎	◎		
自動車整備実習	第4学年通年			○						○	○	○		○	○	○	◎	◎		
原子力エネルギー	第1学年後期																○	○		
放射線の利用	第2学年前期																○	○		
原子力体感研修	第3学年後期			○	○			○		○	○						○	○	○	
原子燃料サイクル・安全工学	第4学年後期						○										○	○		
ロボット工学概論	第1学年後期																◎	◎		
ロボット工学実習	第2学年前期	○	○	○						○	○	○			○	○	◎	◎	○	
計測工学	第2学年後期																◎	◎		
論理回路	第2学年後期																◎	◎		
制御工学	第3学年前期																◎	◎		

[illegible]

機械工学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

機械工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①寛容な心	体 育 学	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	ス ポ ー ツ 健 康 学 ロ ボ ッ ト エ 学 実 習	特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I
②感動する心	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I		キ ャ リ ア デ ザ イ ン II ロ ボ ッ ト エ 学 実 習	特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I		キ ャ リ ア デ ザ イ ン II 基 礎 設 計 製 図 ロ ボ ッ ト エ 学 実 習	C A D 設 計 製 図 プ ロ ジ ェ ク ト I 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I
④人間環境理解力	経 済 学 工 学 概 論 デ ザ イ ン と 技 術 生 命 科 学	歴 史 北 東 北 八 戸 の 地 域 学 カーボンニュートラル入門	心 理 学 カーボンニュートラル概論 I	哲 学 文 学 カーボンニュートラル概論 II プ ロ ジ ェ ク ト I
⑤自己管理能力・ストレス コントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I 体 育 学	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II ス ポ ー ツ 健 康 学	
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I		キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	
⑦日本語コミュニケーション・スキル	日 本 語 表 現 法	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I	実 践 日 本 語 表 現 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II
⑧外国語コミュニケーション・スキル	総 合 英 語 実 践 英 語 教 養 英 語 英 語 会 話 英 語 表 現 中 国 語 I	中 国 語 II 海 外 研 修	Global English English Communication English Reading Technical English 中 国 語 III	

3学年前期		3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
共創デザイン演習		特別専攻プロジェクトⅡ			①寛容な心
キャリアデザインⅢ 特別専攻プロジェクトⅡ					②感動する心
キャリアデザインⅢ 機械工作実習 学外研修Ⅲ		プロジェクトⅡ プロジェクト実習 原子力体感研修 特別専攻ゼミナールⅠ	卒業業務研究Ⅲ 自動車整備実習 機械設計技法 プロジェクトⅢ		③主体性
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ					
知的財産論 共創デザイン演習		日本国憲法 プロジェクトⅡ 原子力体感研修	プロジェクトⅢ		④人間環境理解力
キャリアデザインⅢ					⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
キャリアデザインⅢ 職業倫理			技術マネジメント概論 原子燃料サイクル・安全工学		⑥倫理観・規律性
機械工学実験Ⅰ 機械工学実験Ⅱ 原子力体感研修 特別専攻ゼミナールⅠ		卒業業務研究Ⅲ 異文化コミュニケーション			⑦日本語コミュニケーション・スキル
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ					
		異文化コミュニケーション			⑧外国語コミュニケーション・スキル

機械工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
⑨チームワーク力			ロ ボ ッ ト エ 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	プ ロ ジ ェ ク ト I
⑩リーダーシップ力			ロ ボ ッ ト エ 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	プ ロ ジ ェ ク ト I
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	経 済 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ル I	歴 史 主 題 別 ゼ ミ ナ ル I	心 理 学 ロ ボ ッ ト エ 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	哲 学 文 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ル II プ ロ ジ ェ ク ト I
⑫数量的スキル	微 分 積 分 基 礎 物 理 学 I 物 理 学 実 験 基 礎 化 学 I 化 学 実 験	経 形 代 数 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II	確 率 ・ 統 計 カーボンニュートラル概論I 基 礎 機 械 情 報 工 学 解 析 I	データアナリティクスI カーボンニュートラル概論II 応 用 物 理 学 概 論 解 析 II
⑬情報リテラシー力	基 礎 情 報 科 学 M	AI・データサイエンス入門	基 礎 機 械 情 報 工 学	データアナリティクスI
⑭論理的思考力			基 礎 機 械 情 報 工 学 ロ ボ ッ ト エ 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	応 用 機 械 情 報 工 学 C A D 設 計 製 図 プ ロ ジ ェ ク ト I
⑮問題解決力			ロ ボ ッ ト エ 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	応 用 機 械 情 報 工 学 C A D 設 計 製 図 プ ロ ジ ェ ク ト I
⑯専門基礎原理の理解力		原 子 力 エ ネ ル ギ ー ロ ボ ッ ト エ 学 概 論	材 料 力 学 I 熱 力 学 I 基 礎 機 械 情 報 工 学 機 械 加 工 学 基 礎 設 計 工 学 基 礎 設 計 製 図 電 気 電 子 工 学 概 論 放 射 線 の 利 用 ロ ボ ッ ト エ 学 実 習	材 料 力 学 II 熱 力 学 II 応 用 機 械 情 報 工 学 計 測 工 学 応 用 設 計 工 学 C A D 設 計 製 図 機 械 工 学 演 習 I プ ロ ジ ェ ク ト I 基 礎 自 動 車 工 学 電 子 回 路 工 学 論 理 回 路

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子	
機械工作実習 機械工学実験Ⅰ 学外研修 M	機械工学実験Ⅱ プロジェクトⅡ プロジェクト実習 原子力体感研修	卒業研究 M 自動車整備実習 プロジェクトⅢ		⑨チームワーク力	
特別専攻プロジェクトⅡ					
機械工作実習 機械工学実験Ⅰ 学外研修 M	機械工学実験Ⅱ プロジェクトⅡ プロジェクト実習 原子力体感研修	卒業研究 M 自動車整備実習 プロジェクトⅢ		⑩リーダーシップ力	
特別専攻プロジェクトⅡ					
知的財産論 機械工作実習	日本国憲法 プロジェクトⅡ プロジェクト実習	卒業研究 M 自動車整備実習 プロジェクトⅢ		⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	
特別専攻プロジェクトⅡ					
データアナリティクスⅡ				⑫数量的スキル	
データアナリティクスⅡ		卒業研究 M 自動車整備実習		⑬情報リテラシー力	
機械工学実験Ⅰ	機械工学実験Ⅱ プロジェクトⅡ プロジェクト実習	卒業研究 M 自動車整備実習		⑭論理的思考力	
特別専攻プロジェクトⅡ	機械設計技法 プロジェクトⅢ				
機械工学実験Ⅰ	機械工学実験Ⅱ プロジェクトⅡ プロジェクト実習	卒業研究 M 自動車整備実習		⑮問題解決力	
特別専攻プロジェクトⅡ	機械設計技法 プロジェクトⅢ				
機械力学Ⅰ 流れ学Ⅰ 伝熱工学 メカトロニクス基礎 機械材料工学 機械工作実習 機械工学実験Ⅰ 学外研修 M 潤滑工学 制御工学	機械力学Ⅱ 流れ学Ⅱ 機械工学実験Ⅱ 機械工学演習Ⅱ プロジェクトⅡ 機械工学統合演習 プロジェクト実習 自動車エンジン 自動車測定検査概論 原子力体感研修	自動車整備実習 機械設計技法 プロジェクトⅢ 自動車構造Ⅰ 自動車構造Ⅱ 自動車検査 自動車工学 カーエレクトロニクス	自動車構造Ⅱ 自動車法規 原子燃料サイクル・安全工学	⑯専門基礎原理の理解力	

機械工学コース カリキュラム・ツリーⅠ(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①専門基礎原理の高度 応用展開力		原子エネルギー ロボット工学概論	材料力学Ⅰ 熱力学Ⅰ 基礎機械情報工学 機械加工工学 基礎設計工学 基礎設計製図 電気電子工学概論 放射線の利用 ロボット工学実習	材料力学Ⅱ 熱力学Ⅱ 応用機械情報工学 計測工学 応用設計工学 C A D 設計製図 機械工学演習Ⅰ プロジェクトⅠ 基礎自動車工学 電子回路工学 論理回路
②継続的学習力	キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ ロボット工学実習	プロジェクトⅠ 特別専攻プロジェクトⅠ
③市民としての社会的 責任感	工学概論	カーボンニュートラル入門		
④異文化理解力	総合英語 実践英語 教養英語 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ デザインと技術	中国語Ⅱ 海外研修 北東北八戸の地域学	Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅲ	

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
機 械 力 学 I 流 れ 学 I 伝 熱 工 学 メカトロニクス基礎 機 械 材 料 工 学 機 械 工 作 実 習 機 械 工 学 実 験 I 学 外 研 修 M 潤 滑 工 学 制 御 工 学	機 械 力 学 II 流 れ 学 II 機 械 工 学 実 験 II 機 械 工 学 演 習 II プ ロ ジ ェ ク ト II 機 械 工 学 統 合 演 習 プ ロ ジ ェ ク ト 実 習 自 動 車 エ ン ジ ン 自 動 車 測 定 検 査 概 論 原 子 力 体 感 研 修	卒 業 研 究 M 自 動 車 整 備 実 習 機 械 設 計 技 法 プ ロ ジ ェ ク ト III 自 動 車 構 造 I 自 動 車 検 査 自 動 車 工 学 カ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス	自 動 車 構 造 II 自 動 車 法 規 原 子 燃 料 サ イ ク ル ・ 安 全 工 学	⑦専門基礎原理の高度 応用展開力
キ ャ リ ア デ ザ イ ン III プ ロ ジ ェ ク ト II 機 械 工 学 統 合 演 習 原 子 力 体 感 研 修 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル I 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル II	プ ロ ジ ェ ク ト III			⑧継続的学習力
職 業 倫 理				⑨市民としての社会的 責任感
共 創 デ ザ イ ン 演 習		異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン		⑩異文化理解力

機械工学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 A	A-1	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 経 済 学 体 育 学 デ ザ イ ン と 技 術		キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 歴 史 心 理 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 カーボンニュートラル概論Ⅰ 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ 北 東 北 八 戸 の 地 域 学 カーボンニュートラル入門 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ カーボンニュートラル概論Ⅱ	
	A-2	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 工 学 概 論		キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ カーボンニュートラル入門	
	A-3				
目標 B	B-1	微 分 積 分 基 礎 物 理 学 Ⅰ 物 理 学 実 験 基 礎 化 学 Ⅰ 化 学 実 験 生 命 科 学 基 礎 情 報 科 学 M	AI・データサイエンス入門 線 形 代 数 基 礎 物 理 学 Ⅱ 基 礎 化 学 Ⅱ	確 率 ・ 統 計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 解 析 Ⅰ	データアナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応 用 物 理 学 概 論 解 析 Ⅱ
	B-2	基 礎 機 械 情 報 工 学			
目標 C	C-1	日 本 語 表 現 法 総 合 英 語 実 践 英 語 教 養 英 語 英 語 会 話 英 語 表 現 中 国 語 Ⅰ	中 国 語 Ⅱ 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ 海 外 研 修	実 践 日 本 語 表 現 Global English English Communication English Reading Technical English 中 国 語 Ⅲ	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ
	C-2	特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ			
目標 D	D-1	材 料 力 学 Ⅰ			材 料 力 学 Ⅱ 機 械 工 学 演 習 Ⅰ
	D-2	熱 力 学 Ⅰ			熱 力 学 Ⅱ 機 械 工 学 演 習 Ⅰ
	D-3	ロ ボ ッ ト 工 学 概 論		ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	計 測 工 学 論 理 回 路
	D-4	機 械 加 工 学 基 礎 設 計 工 学 基 礎 設 計 製 図			応 用 設 計 工 学 C A D 設 計 製 図

3学年前期		3学年後期		4学年前期		4学年後期		学習・教育到達目標		
キャリアデザインⅢ								A-1	目標A	
知的財産論		日本国憲法								
共創デザイン演習										
キャリアデザインⅢ								A-2		
職業倫理										
職業倫理		技術マネジメント概論 原子燃料サイクル・安全工学				A-3				
データアナリティクスⅡ								B-1	目標B	
				卒業研究Ⅳ						B-2
特別専攻ゼミナールⅠ				異文化コミュニケーション						
特別専攻プロジェクトⅡ		特別専攻ゼミナールⅡ						C-1	目標C	
機械工学実験Ⅰ		機械工学実験Ⅱ 原子力体感研修		卒業研究Ⅳ				C-2		
機械力学Ⅰ		機械力学Ⅱ 機械工学演習Ⅱ 機械工学統合演習						D-1	目標D	
流れ学Ⅰ		流れ学Ⅱ								
伝熱工学		機械工学演習Ⅱ 機械工学統合演習								
メカトロニクス基礎 制御工学		機械工学統合演習 プロジェクト実習						D-2		
								D-3		
機械材料工学 機械工作実習		機械工学統合演習		機械設計技法				D-4		

機械工学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 D	D-5			電気電子工学概論	基礎自動車工学 電子回路工学
	D-6				
目標 E	E-1				プロジェクトⅠ
	E-2				プロジェクトⅠ
	E-3				応用機械情報工学 C A D 設計製図
	E-4			基礎設計製図	プロジェクトⅠ 特別専攻プロジェクトⅠ
	E-5			基礎設計製図	C A D 設計製図 プロジェクトⅠ 特別専攻プロジェクトⅠ
目標 E	E-6				プロジェクトⅠ 特別専攻プロジェクトⅠ
目標 F	F-1	工学概論 デザインと技術	北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	カーボンニュートラル概論Ⅰ	カーボンニュートラル概論Ⅱ
	F-2		原子力エネルギー	放射線の利用	

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
環 境 工 学	自 動 車 エ ン ジ ン 自 動 車 測 定 検 査 概 論	自 動 車 整 備 実 習 自 動 車 構 造 Ⅰ 自 動 車 検 査	自 動 車 構 造 Ⅱ 自 動 車 法 規 自 動 車 エ 学 カーエレクトロニクス	D-5 目標 D
		自 動 車 構 造 Ⅰ 自 動 車 構 造 Ⅱ 自 動 車 エ 学 カーエレクトロニクス	D-6	
機 械 工 学 実 験 Ⅰ	機 械 工 学 実 験 Ⅱ プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ プ ロ ジ ェ ク ト 実 習	卒 業 研 究 M	E-1	目標 E
機 械 工 作 実 習	プ ロ ジ ェ ク ト 実 習 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ	卒 業 研 究 M プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	E-2	
機 械 工 学 実 験 Ⅰ	機 械 工 学 実 験 Ⅱ プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ 原 子 力 体 感 研 修 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ル Ⅰ	卒 業 研 究 M プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	E-3 E-4	
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ル Ⅱ				
機 械 工 作 実 習 機 械 工 学 実 験 Ⅰ 学 外 研 修 M	プ ロ ジ ェ ク ト 実 習 機 械 工 学 実 験 Ⅱ プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ 原 子 力 体 感 研 修	卒 業 研 究 M 機 械 設 計 技 法 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	E-5	
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ				目標 E
機 械 工 作 実 習 機 械 工 学 実 験 Ⅰ 学 外 研 修 M	プ ロ ジ ェ ク ト 実 習 機 械 工 学 実 験 Ⅱ プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ 原 子 力 体 感 研 修	卒 業 研 究 M	E-6	
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ				目標 F
共 創 デ ザ イ ン 演 習			F-1	
学 外 研 修 M	原 子 力 体 感 研 修	卒 業 研 究 M 原 子 燃 料 サ イ ク ル ・ 安 全 工 学	F-2	

2.13.2 電気電子通信工学コースの学習・教育到達目標と教育課程

■電気電子通信工学コースの教育目的

未来の産業構造と社会変革に対応するため、電気電子通信工学コース（以下、コースと記す）では、電気電子通信工学の深い知識と幅広い教養、俯瞰的視野ならびに倫理観を有し、豊かな人間性と総合的な判断力、問題解決・応用展開能力、構想力、自己表現力、協働性を備え、地域社会への関心と国際的視野を持った技術者を育成することを目的としています。

コースのカリキュラムは、上記の目的を達成するために構成されています。ただし、電気電子通信技術分野の内容は非常に幅広いので専門性に準じて「電気エネルギーシステム分野」、「情報・通信・メディア分野」、「電子デバイス・システム制御分野」の3つの分野に分類しています。

コースの カリキュラム	電気エネルギーシステム分野
	情報・通信・メディア分野
	電子デバイス・システム制御分野

■電気電子通信工学コースで育成する技術者像

本コースでは、学習・教育目的で挙げたように次に示す育成すべき技術者像を定めています。

未来の産業構造と社会変革に対応するため、電気電子通信工学の深い知識と幅広い教養、俯瞰的視野ならびに倫理観を有し、豊かな人間性と総合的な判断力、問題解決・応用展開能力、構想力、自己表現力、協働性を備え、地域社会への関心と国際的視野を持った技術者

■電気電子通信工学コース学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）

本コースでは、学習・教育到達目標を以下の様に設定しています。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
 - (A-1) 総合教養的な知識と学力を修得し、地域的・地球的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける【総合教養と多面的な視野】
 - (A-2) 職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を意識して行動できる素養を身につける【職業倫理と社会的な責任・役割】
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力
 - (B-1) 数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける【数学・自然科学と情報リテラシー】
 - (B-2) 工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける【工学基礎・情報技術の活用】
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
 - (C-1) 社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける【コミュニケーション能力の基礎】
 - (C-2) 職業人として十分に通用するコミュニケーション能力を身につける【コミュニケーション能力の応用】
- (D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養
 - (D-1) 電気電子通信工学技術者として備えるべき基礎知識を有し、課題の解決に向け応用できる【電気電子通信関連科目の基礎学力】

- (D-2) 電気電子通信工学に関連する専門知識
を有し、課題の解決に向け応用できる

【電気電子通信関連科目の応用展開力】

- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決
能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的
に学んで行動する力

- (E-1) 業務デザイン能力を備え、与えられた課
題あるいは社会の要求に対して業務を
計画・遂行し、課題の解決に向け応用で
きる。また、複数の技術者とチームを組
んで積極的に協議し、リーダーもしくはメ
ンバーとしての役割分担を通して、協働
の中で役割を果たして問題解決を図ること
ができる【デザイン能力とチームワーク
力】

- (E-2) 取り組む技術的課題に対して常に自主
的、継続的に学習し、問題点を見つけ、
改善を図るための一連の行動ができる
【自主的・継続的学習能力と行動力】

- (E-3) 与えられた制約の下で、計画的に仕事を
遂行することができる【プロジェクトマネジ
メント力】

- (F) 北東北地域における科学技術の動向への
関心

- (F-1) 北東北地域の自然・社会・産業とこれに
係わる科学技術に関する知識や素養を
身につける【地域の科学技術への関心】

- (F-2) 国際的視点と地域的視点の双方を兼ね
備え、地域社会が抱える課題の解決に
取り組む姿勢を身につける【グローバル
な視点と行動】

電気電子通信工学コース 開講学年別授業科目表

(令和5年度入学生以降用)

第 1 学年			第 2 学年			第 3 学年			第 4 学年		
授業科目	単位		授業科目	単位		授業科目	単位		授業科目	単位	
	前			後			前			後	
キャリアデザインⅠ	1		キャリアデザインⅡ	1		キャリアデザインⅢ	1		異文化コミュニケーション	2	
歴 史	2		心 理 学	2		職 業 倫 理	2		電 気 利 用 工 学	2	
経 済 学	2		哲 学	2		日 本 国 憲 法	2		電気法規と電気施設管理	2	
日 本 語 表 現 法	2		文 学	2		知 的 財 産 論	2		電 磁 波 工 学	2	
総 合 英 語 ②	2		実 践 日 本 語 表 現	2		データアナリティクスⅡ	2		情 報 通 信 法 規	2	
実 踐 英 語 ②	2		Global English	2		共創デザイン演習	2		電 気 電 子 設 計 製 図	2	
教 養 英 語 ②	2		English Communication	2		電力輸送工学	2		卒 業 研 究 E	6	
英 語 会 話 ②	2		English Reading	2		電 氣 機 器 工 学	2		原子燃料サイクル・安全工学	2	
英 語 表 現 ②	2		Technical English ②	2		高 電 界 工 学	2				
中 国 語 Ⅰ	2		中 国 語 Ⅲ	2		パワーエレクトロニクス	2				
中 国 語 Ⅱ	2		ス ポー ツ 健 康 学	1		電 子 回 路 Ⅱ	2				
体 育 学	1		主題別ゼミナールⅡ	1		センサー応用工学	2				
生涯スポーツ演習	1		データアナリティクスⅠ	2		電気電子材料工学	2				
主題別ゼミナールⅠ	1		カーボンニュートラル概論Ⅰ	1		半 導 体 工 学	2				
海 外 研 修	1		カーボンニュートラル概論Ⅱ	1		現 代 制 御 工 学	2				
AI・データサイエンス入門	2		確 率 ・ 統 計	2		情報メディア工学	2				
工 学 概 論	2		応用物理学概論	2		情報通信工学Ⅰ	2				
デ ザ イン と 技 術	2		電 気 電 子 数 学 Ⅰ	2		情報通信工学Ⅱ	2				
北東北八戸の地域学	2		電 気 電 子 数 学 Ⅱ	2		通信ネットワーク工学	2				
カーボンニュートラル入門	2		電 磁 気 学 Ⅰ	2		リモートセンシング概論	1				
微 分 積 分	2		電 磁 気 学 Ⅱ	2		電気エネルギーシステム実験	2				
線 形 代 数	2		電 磁 気 学 演 習 Ⅰ	1		電子情報通信システム実験	2				
基 礎 物 理 学 Ⅰ	2		電 磁 気 学 演 習 Ⅱ	1		インターンシップE	1				
基 礎 物 理 学 Ⅱ	2		電 気 回 路 Ⅰ	2		学 外 研 修 E	1				
物 理 学 実 験	2		電 気 回 路 Ⅱ	2		先 端 技 術 工 学	1				
基 礎 化 学 Ⅰ	2		電 気 回 路 演 習 Ⅰ	1		制 御 工 学	2				
基 礎 化 学 Ⅱ	2		電 気 回 路 演 習 Ⅱ	1		原子力体感研修	2				
化 学 実 験	2		電 力 発 生 工 学	2		特別専攻プロジェクトⅡ	2				
生 命 科 学	2		電 子 回 路 Ⅰ	2		特別専攻ゼミナールⅠ	2				
基礎情報科学E	2		コンピュータプログラミング	2		特別専攻ゼミナールⅡ	2				
電気電子通信工学入門			創 造 工 学 実 験	2							
電 気 回 路 入 門	2		電気電子通信基礎実験	2							
ロ ボ ッ ト 工 学 概 論	2		ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	2							
原子力エネルギー	2		計 測 工 学	2							
			論 理 回 路	2							
			放 射 線 の 利 用	2							
			解 析 Ⅰ	2							
			解 析 Ⅱ	2							
			特別専攻プロジェクトⅠ	2							
								</			

※注1. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

電気電子通信工学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

電気電子通信工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉑	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
		修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																			
		◎ :大きな相関がある ○ :相関がある 空白 :関連がない																			
授業科目名	開講学年学期																				
生涯スポーツ演習	第1学年後期	○				◎															
スポーツ健康学	第2学年前期	○				◎															
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期								◎			◎									
主題別ゼミナールⅡ	第2学年後期								◎			◎									
海外研修	第1学年後期									◎										◎	
AI・データサイエンス入門	第1学年後期														◎						
データアナリティクスⅠ	第2学年後期												○	◎							
データアナリティクスⅡ	第3学年前期												○	◎							
工学概論	第1学年前期					◎														○	
デザインと技術	第1学年前期					◎														○	
北東北八戸の地域学	第1学年後期					◎														○	
共創デザイン演習	第3学年前期	◎				○														○	
カーボンニュートラル入門	第1学年後期					◎													○		
カーボンニュートラル概論Ⅰ	第2学年前期					◎							○								
カーボンニュートラル概論Ⅱ	第2学年後期					◎							○								
微分積分	第1学年前期												◎								
線形代数	第1学年後期												◎								
確率・統計	第2学年前期												◎								
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期												◎								
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期												◎								
応用物理学概論	第2学年後期												◎								
物理学実験	第1学年前期												◎								
基礎化学Ⅰ	第1学年前期												◎								
基礎化学Ⅱ	第1学年後期												◎								
化学実験	第1学年前期												◎								
生命科学	第1学年前期					◎															
基礎情報科学C	第1学年前期													◎							

電気電子通信工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		① 寛容な心	② 感動する心	③ 主体性	④ 人間環境理解力	⑤ 自己管理能力・ストレスコントロール力	⑥ 倫理観・規律性	⑦ 日本語コミュニケーション・スキル	⑧ 外国語コミュニケーション・スキル	⑨ チームワーク力	⑩ リーダーシップ力	⑪ 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	⑫ 数量的スキル	⑬ 情報リテラシー力	⑭ 論理的思考力	⑮ 問題解決力	⑯ 専門基礎原理の理解力	⑰ 専門基礎原理の高度応用展開力	⑱ 継続的学習力	⑲ 市民としての社会的責任感	⑳ 異文化理解力
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																					
◎ : 大きな相関がある ○ : 相関がある 空白 : 関連がない																					
授業科目名	開講学年学期																				
電気電子通信工学入門	第1学年前期		○	○							○							◎	○		
電気回路入門	第1学年後期											◎	◎	○							
電気電子数学Ⅰ	第2学年前期											◎	◎	○							
電気電子数学Ⅱ	第2学年後期											◎	◎	○							
電磁気学Ⅰ	第2学年前期																◎				
電磁気学Ⅱ	第2学年後期																◎				
電磁気学演習Ⅰ	第2学年前期																◎				
電磁気学演習Ⅱ	第2学年後期																◎				
電気回路Ⅰ	第2学年前期																◎				
電気回路Ⅱ	第2学年後期																◎				
電気回路演習Ⅰ	第2学年前期																◎				
電気回路演習Ⅱ	第2学年後期																◎				
電力発生工学	第2学年後期																	◎			
電力輸送工学	第3学年前期																	◎			
電気機械工学	第3学年後期																	◎			
電気利用工学	第4学年前期																	◎			
高電界工学	第3学年後期																	◎			
パワーエレクトロニクス	第3学年後期																	◎			
電気法規と電気施設管理	第4学年前期																	◎			
電子回路Ⅰ	第2学年後期																	◎			
電子回路Ⅱ	第3学年前期																	◎			
センサー応用工学	第3学年後期																	◎			
電気電子材料工学	第3学年前期																	◎			
半導体工学	第3学年後期																	◎			
現代制御工学	第3学年後期																	◎			
コンピュータプログラミング	第2学年後期																	◎			
情報メディア工学	第3学年前期																	◎			

電気電子通信工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力
		⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱
		異文化理解力	市民としての社会的責任感	継続的学習力	専門基礎原理の高度応用展開力	専門基礎原理の理解力	問題解決力	論理的思考力	情報リテラシー力	数量的スキル	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	チームワーク力	リーダーシップ力	外国語コミュニケーション・スキル	日本語コミュニケーション・スキル	倫理観・規律性	自己管理能力・ストレスコントロール力	人間環境理解力	主体性
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																			
◎ : 大きな相関がある ○ : 相関がある 空白 : 関連がない																			
授業科目名	開講学年学期																		
情報通信工学Ⅰ	第3学年前期																	◎	
情報通信工学Ⅱ	第3学年後期																	◎	
通信ネットワーク工学	第3学年後期																	◎	
電磁波工学	第4学年前期																	◎	
情報通信法規	第4学年後期																	◎	
リモートセンシング概論	第3学年前期																	◎	
創造工学実験	第2学年前期	○	○	○				○		◎	◎	○			○	◎		◎	
電気電子通信基礎実験	第2学年後期	○	○	○				○		◎	◎	○			○	◎		◎	
電気エネルギーシステム実験	第3学年前期	○	○	○				○		◎	◎	○			○	◎		◎	
電子情報通信システム実験	第3学年後期	○	○	○				○		◎	◎	○			○	◎		◎	
電気電子設計製図	第4学年前期																	◎	
インターンシップE	第3学年後期		○	○											◎				○
学外研修E	第3学年後期		○	○											◎			○	○
先端技術工学	第3学年後期		○	○														◎	○
卒業研究E	第4学年通年		○	○				○			◎		○	○	◎			○	○
ロボット工学概論	第1学年後期																◎	◎	
ロボット工学実習	第2学年前期	○	○	○						○	○	○			○	○	◎	◎	○
計測工学	第2学年後期																	◎	◎
論理回路	第2学年後期																	◎	◎
制御工学	第3学年前期																	◎	◎
原子力エネルギー	第1学年後期																	○	○
放射線の利用	第2学年前期																	○	○
原子力体感研修	第3学年後期			○	○			○		○	○							○	○
原子燃料サイクル・安全工学	第4学年後期						○										○	○	
解析Ⅰ	第2学年前期											◎							
解析Ⅱ	第2学年後期											◎							
特別専攻プロジェクトⅠ	第2学年通年	○	○	◎						◎	○	◎			○	◎			○

電気電子通信工学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

学習・教育到達目標												
目標A		目標B		目標C		目標D		目標E			目標F	
社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野		専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力		コミュニケーション能力と国際人としての姿勢		基本的な専門知識と応用・展開力の素養		実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力			北東北地域における科学技術の動向への関心	
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	E-1	E-2	E-3	F-1	F-2
身に合致的な知識と学力を修得し、地域的・地球的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける	職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を認識して行動できる素養を身につける	数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける	工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける	社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける	職業人として十分に通用するコミュニケーション能力を身につける	電気電子通信工学技術者として備えるべき基礎知識を有し、課題の解決に向け応用できる	電気電子通信工学に関連する専門知識を有し、課題の解決に向け応用できる	多岐にわたる課題の解決に力を用いることができる。また、課題の解決に力を用いることができる。また、課題の解決に力を用いることができる。また、課題の解決に力を用いることができる。	多岐にわたる課題の解決に力を用いることができる。また、課題の解決に力を用いることができる。また、課題の解決に力を用いることができる。また、課題の解決に力を用いることができる。	与えられた制約の下で、計画的に仕事を遂行することができる	北東北地域の自然・社会・産業とこれに係わる科学技術に関する知識や素養を身につける	国際的視点と地域的視点の双方を兼ね備え、地域社会が抱える課題の解決に取り組む姿勢を身につける
				○				◎	◎	◎		
				○					◎			
				○					◎			

電気電子通信工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①寛容な心	体 育 学	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	ス ポ ー ツ 健 康 学 創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
②感動する心	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 電 気 電 子 通 信 工 学 入 門	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 電 気 電 子 通 信 工 学 入 門	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
④人間環境理解力	経 済 学 工 学 概 論 デ ザ イ ン と 技 術 生 命 科 学	歴 史 北 東 北 八 戸 の 地 域 学 カーボンニュートラル入門	心 理 学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	哲 学 文 学 カーボンニュートラル概論Ⅱ
⑤自己管理能力・ストレス コントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 体 育 学	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	ス ポ ー ツ 健 康 学	
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ		
⑦日本語コミュニケーション・スキル	日 本 語 表 現 法 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	実 践 日 本 語 表 現 創 造 工 学 実 験	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ 電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験	
⑧外国語コミュニケーション・スキル	総 合 英 語 実 践 英 語 教 養 英 語 英 語 食 語 英 語 表 現 中 国 語 Ⅰ	中 国 語 Ⅱ 海 外 研 修	Global English English Communication English Reading Technical English 中 国 語 Ⅲ	

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
共創デザイン演習 電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験			①寛容な心
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ	卒業研究Ⅴ			②感動する心
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 インターンシップⅤ 学外研修Ⅴ 先端技術工学			
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ	卒業研究Ⅴ			③主体性
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 インターンシップⅤ 学外研修Ⅴ 先端技術工学 原子力体感研修 特別専攻ゼミナールⅠ			
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ				
知的財産論 共創デザイン演習	日本国憲法 原子力体感研修			④人間環境理解力
キャリアデザインⅢ				⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
キャリアデザインⅢ	原子燃料サイクル・安全工学			⑥倫理観・規律性
職業倫理				
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 原子力体感研修	卒業研究Ⅴ		⑦日本語コミュニケーション・スキル
	異文化コミュニケーション			
	異文化コミュニケーション			⑧外国語コミュニケーション・スキル

電気電子通信工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
③チームワーク力			創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
④リーダーシップ力			創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
①総合的学習経験・創造的思考力・創造力	経 済 学 電 気 電 子 通 信 工 学 入 門	歴 史 主 題 別 ゼ ミ ナ ル Ⅰ	心 理 学 創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	哲 学 文 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ル Ⅱ 電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
②数量的スキル	微 分 積 分 基 礎 物 理 学 Ⅰ 物 理 学 実 験 基 礎 化 学 Ⅰ 化 学 実 験	線 形 代 数 基 礎 物 理 学 Ⅱ 基 礎 化 学 Ⅱ 電 気 回 路 入 門	確 率 ・ 統 計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 電 気 電 子 数 学 Ⅰ 解 析 Ⅰ	データナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応 用 物 理 学 概 論 電 気 電 子 数 学 Ⅱ 解 析 Ⅱ
③情報リテラシー力	基 礎 情 報 科 学 Ⅱ	AI・データサイエンス入門 電 気 回 路 入 門	電 気 電 子 数 学 Ⅰ	データナリティクスⅡ 電 気 電 子 数 学 Ⅱ
④論理的思考力		電 気 回 路 入 門	電 気 電 子 数 学 Ⅰ 創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	電 気 電 子 数 学 Ⅱ 電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
⑤問題解決力			創 造 工 学 実 験 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
⑥専門基礎原理の理解力		ロ ボ ッ ト 工 学 概 論 原 子 力 エ ネ ル ギ ー	電 磁 気 学 Ⅰ 電 磁 気 学 演 習 Ⅰ 電 気 回 路 Ⅰ 電 気 回 路 演 習 Ⅰ ロ ボ ッ ト 工 学 実 習 放 射 線 の 利 用	電 磁 気 学 Ⅱ 電 磁 気 学 演 習 Ⅱ 電 気 回 路 Ⅱ 電 気 回 路 演 習 Ⅱ 計 測 工 学 論 理 回 路

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 原子力体感研修			⑨チームワーク力
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II				
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 原子力体感研修			⑩リーダーシップ力
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II				
知的財産論 電気エネルギーシステム実験	日本国憲法 電子情報通信システム実験	卒業研究 E		⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II				
データアナリティクス II				⑫数量的スキル
データアナリティクス II		卒業研究 E		⑬情報リテラシー力
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 インターンシップ E 学 外 研 修 E	卒業研究 E		⑭論理的思考力
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II				
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験	卒業研究 E		⑮問題解決力
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II				
制御工学	原子力体感研修	原子燃料サイクル・安全工学		⑯専門基礎原理の理解力

電気電子通信工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
⑪専門基礎原理の高度応用展開力	電気電子通信工学入門	ロボット工学概論 原子力エネルギー	創造工学実験 ロボット工学実習 放射線の利用	電力発生工学 電子回路Ⅰ コンピュータプログラミング 電気電子通信基礎実験 計測工学 論理回路
⑫継続的学習力	キャリアデザインⅠ	電気電子通信工学入門	キャリアデザインⅡ ロボット工学実習 特別専攻プロジェクトⅠ	
⑬市民としての社会的責任感	工学概論	カーボンニュートラル入門		
⑭異文化理解力	総合英会話 実践英会話 教養英会話 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ デザインと技術	中国語Ⅱ 海外研修 北東北八戸の地域学	Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅲ	

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
電力輸送工学 電子回路Ⅱ 電気電子材料工学 情報メディア工学 情報通信工学Ⅰ リモートセンシング概論 電気エネルギーシステム実験 制御工学	電気機器工学 高電界工学 パワーエレクトロニクス センサー応用工学 半導体工学 現代制御工学 情報通信工学Ⅱ 通信ネットワーク工学 電子情報通信システム実験 学外研修Ⅱ 先端技術工学 原子力体感研修	卒業研究Ⅱ 電気利用工学 電気法規と電気施設管理 電磁波工学 電気電子設計製図	情報通信法規 原子燃料サイクル・安全工学	⑪専門基礎原理の高度応用展開力
キャリアデザインⅢ インターンシップⅡ 学外研修Ⅱ 先端技術工学 原子力体感研修 特別専攻ゼミナールⅠ 特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ		卒業研究Ⅱ		⑫継続的学習力
職業倫理				⑬市民としての社会的責任感
共創デザイン演習		異文化コミュニケーション		⑭異文化理解力

電気電子通信工学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 A	A-1	キャリアデザインⅠ 経済学 体育学 デザインと技術	歴史 生涯スポーツ演習 主題別ゼミナールⅠ 北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	キャリアデザインⅡ 心理学 スポーツ健康学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	哲学 文学 主題別ゼミナールⅡ カーボンニュートラル概論Ⅱ
	A-2	キャリアデザインⅠ 工学概論	キャリアデザインⅡ カーボンニュートラル入門		
目標 B	B-1	微分積分 基礎物理学Ⅰ 物理学実験 基礎化学Ⅰ 化学実験 生命科学	AI・データサイエンス入門 線形代数 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ	確率・統計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 解析Ⅰ	データアナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応用物理学概論 解析Ⅱ
	B-2	基礎情報科学E	電気回路入門	電気電子数学Ⅰ	電気電子数学Ⅱ
目標 C	C-1	日本語表現法 総合英語 実践英語 教養英語 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ	中国語Ⅱ 主題別ゼミナールⅠ 海外研修	実践日本語表現 Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅲ	主題別ゼミナールⅡ
	C-2			特別専攻プロジェクトⅠ	
目標 D	D-1		ロボット工学概論	電磁気学Ⅰ 電磁気学演習Ⅰ 電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ ロボット工学実習	電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ 電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ 計測工学 論理回路
	D-2	電気電子通信工学入門	ロボット工学概論 原子力エネルギー	創造工学実験 ロボット工学実習 放射線の利用	電力発生工学 電子回路Ⅰ コンピュータプログラミング 電気電子通信基礎実験 計測工学 論理回路

3学年前期		3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
キャリアデザインⅢ		知的財産論 共創デザイン演習	日本国憲法		A-1 A-2 目標A
キャリアデザインⅢ		職業倫理			
データアナリティクスⅡ					B-1 B-2 目標B
			卒業実研究	E	
特別専攻ゼミナールⅠ		特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ	異文化コミュニケーション		C-1 C-2 目標C
電気エネルギーシステム実験		電子情報通信システム実験	卒業実研究	E	
制御工学					D-1 D-2 目標D
電力輸送工学 電子回路Ⅱ 電気電子材料工学 情報メディア工学 情報通信工学Ⅰ リモートセンシング概論 電気エネルギーシステム実験 制御工学	電気機器工学 高電界工学 パワーエレクトロニクス センサー応用工学 半導体工学 現代制御工学 情報通信工学Ⅱ 通信ネットワーク工学 電子情報通信システム実験 先端技術工学	電気利用工学 電気法規と電気施設管理 電磁波工学 電気電子設計製図	情報通信法規 原子燃料サイクル・安全工学		

電気電子通信工学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 E	E-1	電気電子通信工学入門		創造工学実験 ロボット工学実習	電気電子通信基礎実験 特別専攻プロジェクトⅠ
	E-2	電気電子通信工学入門		創造工学実験 ロボット工学実習	電気電子通信基礎実験 特別専攻プロジェクトⅠ
	E-3	電気電子通信工学入門		創造工学実験 ロボット工学実習	電気電子通信基礎実験 特別専攻プロジェクトⅠ
目標 F	F-1	工学概論 デザインと技術	北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	カーボンニュートラル概論Ⅰ	カーボンニュートラル概論Ⅱ
	F-2				

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 インターンシップ E 学 外 研 修 E 原 子 力 体 感 研 修	卒 業 研 究 E		E-1
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II				
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 インターンシップ E 学 外 研 修 E 先 端 技 術 工 学 原 子 力 体 感 研 修 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル I	卒 業 研 究 E		E-2
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル II				
電気エネルギーシステム実験	電子情報通信システム実験 インターンシップ E 学 外 研 修 E 先 端 技 術 工 学 原 子 力 体 感 研 修	卒 業 研 究 E		E-3
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II				
共 創 デ ザ イ ン 演 習				F-1
	学 外 研 修 E 先 端 技 術 工 学	卒 業 研 究 E		F-2
				目 標 E
				目 標 F

2.13.3 システム情報工学コースの学習・教育到達目標と教育課程

■システム情報工学コースの教育目的

情報通信技術（ICT）は、地球規模で進歩しており、日本においても地域を問わず人々が豊かな生活を送る上で、必須の基盤技術となっています。情報技術は学際的、複合的な技術であるため、マルチメディア、ネットワーク、セキュリティ、システムなどの情報分野および情報関連分野の他に、人間科学、国際コミュニケーションなど幅広いカリキュラムで教育する必要があります。情報通信技術の分野で地域産業の活性化と発展をはかるため、科学と工学の基礎知識、情報技術の専門知識、国際的視野に立った幅広い教養と倫理観などを備え、時代の変化に対応できる能力をもった技術者を養成することを本コースの教育目的としています。

■システム情報工学コースの学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）

学習・教育到達目標に基づく所定の教育課程を修め、情報通信技術（ICT）および情報関連分野における以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
 - (A-1) 総合教養的な知識と学力を修得し、地域的・地球的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける【総合教養と多面的な視野】
 - (A-2) 職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を意識して行動できる素養を身につける【職業倫理と社会的な責任・役割】
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力
 - (B-1) 数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける【数学・自然科学と情報リテラシー】

- (B-2) 工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける【工学基礎・情報技術の活用】
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
 - (C-1) 社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける【コミュニケーション能力の基礎】
 - (C-2) 職業人として十分に通用するコミュニケーション能力を身につける【コミュニケーション能力の応用】
- (D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養
 - (D-1) システム情報工学に関する基本的な専門知識を習得し、課題の解決に応用・展開できる【専門基礎分野の素養】
 - (D-2) メディア情報分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる【メディア情報分野の素養】
 - (D-3) ネットワーク・セキュリティ分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる【ネットワーク・セキュリティ分野の素養】
 - (D-4) 応用・関連分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる【専門応用・関連分野の素養】
- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力
 - (E-1) 課題に対する計画、遂行、分析・評価などの課題解決能力を身につける【課題解決能力】
 - (E-2) チームで仕事をする際に自分の役割や責任・仕事の目的を理解し、目的を達成するために適切な行動ができる能力を身につける【チームワーク力】

- (E-3) 常に新しい技術に関心を持ち、実験・実習・演習などを通じて、自ら積極的に学び・行動する能力を身につける【自主的・継続的学習能力と行動力】
- (F) 北東北地域における科学技術の動向への関心
- (F-1) 北東北地域の自然・社会・産業とこれに係わる科学技術に関する知識や素養を身につける【地域の科学技術への関心】

システム情報工学コース 開講学年別授業科目表

(令和5年度入学生以降用)

[illegible]

※注1. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

システム情報工学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

[illegible]

システム情報工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉔	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																					
◎ :大きな相関がある ○ :相関がある 空白 :関連がない																					
授業科目名	開講学年学期																				
生涯スポーツ演習	第1学年後期	○				◎															
スポーツ健康学	第2学年前期	○				◎															
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期							◎			◎										
主題別ゼミナールⅡ	第2学年後期							◎			◎										
海外研修	第1学年後期								◎											◎	
AI・データサイエンス入門	第1学年後期														◎						
データアナリティクスⅠ	第2学年後期												○	◎							
データアナリティクスⅡ	第3学年前期												○	◎							
工学概論	第1学年前期				◎														○		
デザインと技術	第1学年前期				◎															○	
北東北八戸の地域学	第1学年後期				◎															○	
共創デザイン演習	第3学年前期	◎			○															○	
カーボンニュートラル入門	第1学年後期				◎														○		
カーボンニュートラル概論Ⅰ	第2学年前期				◎									○							
カーボンニュートラル概論Ⅱ	第2学年後期				◎									○							
微分積分	第1学年前期													◎							
線形代数	第1学年後期													◎							
確率・統計	第2学年前期													◎							
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期													◎							
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期													◎							
応用物理学概論	第2学年後期													◎							
物理学実験	第1学年前期													◎							
基礎化学Ⅰ	第1学年前期													◎							
基礎化学Ⅱ	第1学年後期													◎							
化学実験	第1学年前期													◎							
生命科学	第1学年前期				◎																
情報科学アラカルト	第1学年前期							○									◎				

システム情報工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉔
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																				
◎ : 大きな相関がある ○ : 相関がある 空 白 : 関連がない																				
授業科目名	開講学年学期																			
情報工学概論	第1学年後期											○	◎	○		◎				
基礎情報科学I	第1学年前期											○	◎			○				
離散数学	第2学年前期															◎				
オペレーションズリサーチ	第2学年後期															◎				
オペレーティングシステム	第2学年前期															◎				
データベース	第2学年後期															◎				
プログラミング入門	第1学年前期															◎				
プログラミング言語	第1学年後期															◎				
データ構造とアルゴリズム	第2学年前期															◎				
プログラム設計	第2学年後期															◎				
コンピュータシステム	第2学年前期															◎				
産業情報論	第2学年前期															◎				
経営情報論	第2学年後期	○							○	○						◎				
コンテンツ制作入門	第1学年後期																◎			
コンピュータグラフィックス	第2学年前期																◎			
ビジュアル情報処理	第2学年後期																◎			
マルチメディア工学	第3学年前期																◎			
ディジタル信号処理	第3学年後期																◎			
ウェブデザイン	第3学年後期																◎			
情報通信工学	第2学年前期																◎			
情報ネットワーク入門	第2学年後期																◎			
情報セキュリティ入門	第2学年後期																◎			
情報ネットワーク構築	第3学年前期																◎			
情報セキュリティ	第3学年後期																◎			
情報文化論	第3学年前期																◎			
電気工学	第3学年前期														○		◎			
電子工学	第3学年後期														○		◎			

[illegible]

システム情報工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉔	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																					
◎ :大きな相関がある ○ :相関がある 空白 :関連がない																					
授業科目名	開講学年学期																				
知識工学	第3学年後期																		◎		
ロボット工学	第3学年後期												○	○	○				◎		
シミュレーション工学	第3学年後期																		◎		
数値解析I	第3学年後期																		◎		
集積回路	第3学年後期																		◎		
情報工学基礎実験Ⅰ	第2学年前期			○				○											◎	○	
情報工学基礎実験Ⅱ	第2学年後期			○				○											◎	○	
情報工学応用実験Ⅰ	第3学年前期			○				○											◎	○	
情報工学応用実験Ⅱ	第3学年後期			○				○											◎	○	
情報専門ゼミナール	第3学年後期	○	○	◎				○		○	○	◎			◎	◎			○	◎	
情報工学特別講義	第3学年前期																		◎		
設計・製図	第3学年前期																◎				
学外研修I	第3学年前期			◎				○												◎	
卒業研究I	第4学年通年	○	○	○				○		○	○	◎		○	◎	◎		○	○		
ロボット工学概論	第1学年後期																	◎			
ロボット工学実習	第2学年前期	○	○	○						○	○	○			○	○		◎	◎	○	
計測工学	第2学年後期																	◎	◎		
論理回路	第2学年後期																	◎			
制御工学	第3学年前期																	◎	◎		
原子力エネルギー	第1学年後期																	○	○		
放射線の利用	第2学年前期																	○	○		
原子力体感研修	第3学年後期	○	○	○	○			○		○	○							○	○	○	
原子燃料サイクル・安全工学	第4学年後期						○											○	○		
解析Ⅰ	第2学年前期												◎								
解析Ⅱ	第2学年後期												◎								
特別専攻プロジェクトⅠ	第2学年通年	○	○	◎						◎	○	◎			○	◎			○		
特別専攻プロジェクトⅡ	第3学年通年	○	○	◎						◎	○	◎			○	◎			○		

学習・教育到達目標													
目標A		目標B		目標C		目標D				目標E			目標F
社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野		専門分野の基礎となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力		コミュニケーション能力と国際人としての姿勢		基本的な専門知識と応用・展開力の素養				実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力			北東北地域における科学技術の勤労への関心
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	D-3	D-4	E-1	E-2	E-3	F-1
身に合致的な知識と学力を修得し、地域的・地味的な視点から多面的に物事を考える素養を	職業人としての倫理観を醸え、社会的な責任と役割を認識して行動できる素養を身につける	数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける	工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける	社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける	職業人として十分に通用するコミュニケーション能力を身につける	システム情報工学に関する基本的な専門知識を習得し、課題の解決に応用・展開できる	メディア情報分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる	ネットワーク・セキュリティ分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる	応用・関連分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる	課題に対する計画、遂行、分析、評価などの課題解決能力を身につける	切手な行動で仕事を自らに力をつける	常に新しい技術に関心をもち、実験・実習、演習などを通して、自ら積極的に学び、行動する	北東北地域の自然、社会、産業とこれに係わる科学技術に関する知識や素養を身につける
									◎				
			○						◎				
									◎				
									◎				
						○			◎			○	
						○			◎			○	
						○			◎			○	
						○			◎	◎		◎	
		◎							◎				
						○						◎	
		○			○				○	◎	○	○	
						○			◎				
						○			◎				
						◎			○				
						○			◎				
									◎	○	○	○	
									◎				
		◎											
		◎											
				○						◎	◎	◎	
				○						◎	◎	◎	

システム情報工学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

学習・教育到達目標												
目標A		目標B		目標C		目標D				目標E		
社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野		専門分野の基礎となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力		コミュニケーション能力と国際人としての姿勢		基本的な専門知識と応用・展開力の素養				実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力		
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	D-3	D-4	E-1	E-2	E-3
身に合致的な知識と学力を修得し、地域的・地球的な視点から多面的に物事を考える素養を	職業人としての倫理観を醸え、社会的な責任と役割を認識して行動できる素養を身につける	数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける	工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける	社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける	職業人として十分に通用するコミュニケーション能力を身につける	システム情報工学に関する基本的な専門知識を習得し、課題の解決に応用・展開できる	メディア情報分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる	ネットワーク・セキュリティ分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる	応用・関連分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用・展開できる	課題に対する計画、遂行、分析・評価などの課題解決能力を身につける	切実な行動で仕事をする能力を身に付け役割や責任、仕事の目的を理解し、目的を達成するために通	常に新しい技術に関心をもち、実験・実習・演習などを通じて、自ら積極的に学び、行動する能力を身につける
				○								◎
				○								◎

システム情報工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①寛容な心	体 育 学	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	ス ポ ー ツ 健 康 学 ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	経 営 情 報 論 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
②感動する心	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ		キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ		キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 情 報 工 学 基 礎 実 験 Ⅰ ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	情 報 工 学 基 礎 実 験 Ⅱ 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
④人間環境理解力	経 済 学 工 学 概 論 デ ザ イ ン と 技 術	歴 史 北 東 北 八 戸 の 地 域 学 カーボンニュートラル入門	心 理 学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	智 学 文 学 カーボンニュートラル概論Ⅱ
⑤自己管理能力・ストレス コントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ		キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 体 育 学	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習 ス ポ ー ツ 健 康 学
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ		キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ	
⑦日本語コミュニケーション・スキル	日 本 語 表 現 法 情 報 科 学 ア ラ カ ル ト	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	実 践 日 本 語 表 現 情 報 工 学 基 礎 実 験 Ⅰ	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ 情 報 工 学 基 礎 実 験 Ⅱ
⑧外国語コミュニケーション・スキル	総 合 英 語 実 践 英 語 教 養 英 語 英 語 会 話 英 語 表 現 中 国 語 Ⅰ	中 国 語 Ⅱ 海 外 研 修	Global English English Communication English Reading Technical English 中 国 語 Ⅲ	
⑨チームワーク力			ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	経 営 情 報 論 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
共創デザイン演習	情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ		①寛容心
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ	情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ		②感動する心
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ		卒業研究Ⅰ		③主体性
情報工学応用実験Ⅰ 学外研修Ⅰ	情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 原子力体感研修 特別専攻ゼミナールⅠ			
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ				
知的財産論 共創デザイン演習	日本国憲法 原子力体感研修			
キャリアデザインⅢ				⑤自己管理能力・ストレス コントロール力
キャリアデザインⅢ				
職業倫理		原子燃料サイクル・安全工学		⑥倫理観・規律性
情報工学応用実験Ⅰ 学外研修Ⅰ	情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ		⑦日本語コミュニケーション・スキル
		異文化コミュニケーション		
		異文化コミュニケーション		⑧外国語コミュニケーション・スキル
	情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ		⑨チームワーク力
特別専攻プロジェクトⅡ				

システム情報工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
⑨リーダーシップ力			ロボットの工学実習 特別専攻プロジェクトⅠ	経営情報論
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	経済学 歴史 主題別ゼミナールⅠ	心理学 ロボットの工学実習 特別専攻プロジェクトⅠ	哲学 文学 主題別ゼミナールⅡ	
⑫数量的スキル	微分積分 基礎物理学Ⅰ 物理学実験 基礎化学Ⅰ 化学実験 生命科学 基礎情報科学Ⅰ	線形代数 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 情報工学概論	確率・統計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 解析Ⅰ	データナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応用物理学概論 解析Ⅱ
⑬情報リテラシー力	基礎情報科学Ⅰ	AI・データサイエンス入門 情報工学概論		データナリティクスⅠ
⑭論理的思考力		情報工学概論	ロボットの工学実習 特別専攻プロジェクトⅠ	
⑮問題解決力			ロボットの工学実習 特別専攻プロジェクトⅠ	
⑯専門基礎原理の理解力	情報科学アラカルト 基礎情報科学Ⅰ プログラミング入門	情報工学概論 プログラミング言語 ロボットの工学概論 原子力エネルギー	離散数学 オペレーティングシステム データ構造とアルゴリズム コンピュータシステム 産業情報論 ロボットの工学実習 放射線の利用	オペレーションズリサーチ データベース プログラム設計 経営情報論 計測工学 論理回路
⑰専門基礎原理の高度応用展開力		コンテンツ制作入門 ロボットの工学概論 原子力エネルギー	コンピュータグラフィックス 情報通信工学 情報工学基礎実験Ⅰ ロボットの工学実習 放射線の利用	ビジュアル情報処理 情報ネットワーク入門 情報セキュリティ入門 情報工学基礎実験Ⅱ 計測工学 論理回路



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
	情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ		⑫リーダーシップ力
特別専攻プロジェクトⅡ				
知的財産論	日本国憲法 情報専門ゼミナール	卒業研究Ⅱ		⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力
特別専攻プロジェクトⅡ				
データアナリティクスⅡ	ロボット工学			⑬数量的スキル
データアナリティクスⅡ 設計・製造図	ロボット工学	卒業研究Ⅰ		⑬情報リテラシー力
電気工学	電子工学 ロボット工学 情報専門ゼミナール	卒業研究Ⅱ		⑬論理的思考力
特別専攻プロジェクトⅡ				
	情報専門ゼミナール	卒業研究Ⅱ		⑬問題解決力
特別専攻プロジェクトⅡ				
制御工学	原子力体感研修	原子燃料サイクル・安全工学		⑬専門基礎原理の理解力
マルチメディア工学 情報ネットワーク構築 情報文化論 電気工学 情報工学応用実験Ⅰ 情報工学特別講義 制御工学	ディジタル信号処理 ウェブデザイン 情報セキュリティ 電子工学 知識工学 ロボット工学 シミュレーション工学 数値解析Ⅰ 集積回路論 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ 原子燃料サイクル・安全工学		⑬専門基礎原理の高度応用展開力

システム情報工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
継続的学習力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ		キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ	
			情 報 工 学 基 礎 実 験 Ⅰ ロ ボ ッ ト 工 学 実 習	情 報 工 学 基 礎 実 験 Ⅱ
			特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	
市民としての社会的責任感	工 学 概 論	カーボンニュートラル入門		
国際文化理解力	総 合 英 語	中 国 語 Ⅱ	Global English	
	実 践 英 語	海 外 研 修	English Communication	
	教 養 英 語	北 東 北 八 戸 の 地 域 学	English Reading	
	英 語 会 話		Technical English	
	英 語 表 現		中 国 語 Ⅲ	
	中 国 語 Ⅰ			
	デ ザ イ ン と 技 術			



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
-------	-------	-------	-------	------

キャリアデザインⅢ

情報工学応用実験Ⅰ
学外研修Ⅰ

情報工学応用実験Ⅱ
情報専門ゼミナール
原子力体感研修
特別専攻ゼミナールⅠ

特別専攻プロジェクトⅡ
特別専攻ゼミナールⅡ

卒業研究Ⅰ

非継続的学習力

職業倫理

非市民としての社会的責任感

共創デザイン演習

異文化コミュニケーション

非異文化理解力

システム情報工学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 A	A-1	キャリアデザインⅠ 経済学 体育学 デザインと技術	歴史 生涯スポーツ演習 主題別ゼミナールⅠ 北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	キャリアデザインⅡ 心理学 スポーツ健康学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	心理学 文学 主題別ゼミナールⅡ カーボンニュートラル概論Ⅱ
	A-2	キャリアデザインⅠ 工学概論	カーボンニュートラル入門	キャリアデザインⅡ	
目標 B	B-1	微分積分 基礎物理学Ⅰ 物理学実験 基礎化学Ⅰ 化学実験 生命科学 基礎情報科学Ⅰ	AI・データサイエンス入門 線形代数 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ	確率・統計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 解析Ⅰ	データアナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応用物理学概論 解析Ⅱ
	B-2	基礎情報科学Ⅰ	情報工学概論		
目標 C	C-1	日本語表現法 総合英語 実践英語 教養英語 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ	中国語Ⅱ 主題別ゼミナールⅠ 海外研修	実践日本語表現 Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅲ	主題別ゼミナールⅡ
	C-2	情報科学アラカルト		特別専攻プロジェクトⅠ	
目標 D	D-1	情報科学アラカルト 基礎情報科学Ⅰ プログラミング入門	情報工学概論 プログラミング言語 ロボット工学概論	離散数学 オペレーティングシステム データ構造とアルゴリズム コンピュータシステム 産学情報論 ロボット工学実習	オペレーションズリサーチ データベース プログラム設計 経営情報論 論理回路 計測工学
	D-2		コンテンツ制作入門	コンピュータグラフィックス	ビジュアル情報処理
	D-3			情報通信工学	情報ネットワーク入門 情報セキュリティ入門

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
キャリアデザインⅢ 知的財産論 共創デザイン演習	日本国憲法			A-1 A-2 目標A
キャリアデザインⅢ 職業倫理				
データアナリティクスⅡ				B-1 B-2 目標B
電気工学 設計・製造	電子工学 ロボット工学	卒業実研Ⅰ		
特別専攻ゼミナールⅠ 特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ	異文化コミュニケーション			C-1 C-2 目標C
情報工学応用実験Ⅰ 学外研修Ⅰ	情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール	卒業実研Ⅱ		
制御工学				D-1 D-2 D-3 目標D
マルチメディア工学 情報ネットワーク構築	デジタル信号処理 ウェブデザイン 情報セキュリティ			

システム情報工学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 D	D-4		ロボット工学概論 原子力エネルギー	情報工学基礎実験Ⅰ ロボット工学実習 放射線の利用	情報工学基礎実験Ⅱ 計測工学 論理回路
目標 E	E-1			ロボット工学実習	
				特別専攻プロジェクトⅠ	
	E-2			ロボット工学実習	経営情報論
				特別専攻プロジェクトⅠ	
	E-3			情報工学基礎実験Ⅰ ロボット工学実習	情報工学基礎実験Ⅱ
				特別専攻プロジェクトⅠ	
目標 F	F-1	工学概論 デザインと技術	北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	カーボンニュートラル概論Ⅰ	カーボンニュートラル概論Ⅱ

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
情報文化論 電気工学 情報工学応用実験Ⅰ 情報工学特別講義 制御工学	電子工学 知能工学 ロボット工学 シミュレーション工学 数値解析Ⅰ 集積回路 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ	原子燃料サイクル・安全工学 卒業研究Ⅱ	D-4 目標D
	情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ	E-1
特別専攻プロジェクトⅡ				
	情報専門ゼミナール 原子力体感研修	卒業研究Ⅰ		E-2
特別専攻プロジェクトⅡ				目標E
情報工学応用実験Ⅰ 学外研修Ⅰ	情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 原子力体感研修 特別専攻ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ		E-3
特別専攻プロジェクトⅡ				
特別専攻ゼミナールⅡ				
共創デザイン演習				F-1 目標F

2.13.4 生命環境科学コースの学習・教育到達目標と教育課程

■生命環境科学コースの教育目的

今日、環境保全や食品衛生管理に従事する人材には、生物資源に関する高い知識が求められています。

生命環境科学コースでは、地域・社会の要求に応えるため、農林・水産・畜産等の生産現場から食品・化学品の製造と管理まで、生命・食品および環境分野で活躍する人材の育成を教育目的としています。この目的を達成するために、化学および生命科学を基礎として食品および環境分野へ発展的に展開し、食品製造、衛生管理、環境評価、環境浄化システムの開発などに応用・展開できる教育を実践します。

コース履修学生は「海洋学プログラム(海洋生態)」を選択可能であり、陸上のみならず海洋を含めた生命科学を学ぶことができます。

■生命環境科学コースの学習・教育到達目標(ディプロマ・ポリシー)

学習・教育到達目標に基づく所定の教育課程を修め、生命・食品および環境分野における以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士(工学)」の学位を授与します。

(A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野

(A-1) 総合教養的な知識と学力を修得し、地域的・地球的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける【総合教養と多面的な視野】

(A-2) 職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を意識して行動できる素養を身につける【職業倫理と社会的な責任・役割】

(B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力

(B-1) 数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける【数学・自然科学と情報リテラシー】

(B-2) 工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける【工学基礎・情報技術の活用】

(C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢

(C-1) 社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける【コミュニケーション能力の基礎】

(C-2) 職業人として十分に通用するコミュニケーション能力を身につける【コミュニケーション能力の応用】

(D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養

(D-1) 環境調和型社会に必要とされる生命科学分野の基礎知識を身につける【生命科学分野の基礎知識】

(D-2) 生命科学の専門知識を習得し、環境の保全や評価などに応用・展開できる能力を身につける【生命科学の専門知識と応用・展開力】

(D-3) 環境調和型社会に必要とされる食品科学分野の基礎知識を身につける【食品科学分野の基礎知識】

(D-4) 食品科学の専門知識を習得し、一次産業や食品生産などに応用・展開できる能力を身につける【食品科学の専門知識と応用・展開力】

(D-5) 環境調和型社会に必要とされる環境化学分野の基礎知識を身につける【環境化学分野の基礎知識】

(D-6) 環境化学の専門知識を習得し、物質生産や環境修復などに応用・展開できる能力を身につける【環境化学の専門知識と応用・展開力】

- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力
 - (E-1) 生命、環境、化学の知識を融合して、環境調和型社会をデザインできる素養と能力を身につける【デザイン能力】
 - (E-2) 実験、実習および卒業研究などを通して、個人およびチームとして計画的に仕事を進めることができる能力を身につける【プロジェクトマネジメント力とチームワーク力】
 - (E-3) 生涯にわたり、常に新しい知識の獲得を目指して自主的に学び、それらを活用した課題解決能力および資格取得のための能力を身につける【自主的・継続的学習能力と行動力】
- (F) 北東北地域における科学技術の動向への関心
 - (F-1) 北東北地域の自然・社会・産業とこれに係わる科学技術に関する知識や素養を身につける【地域の科学技術への関心】

生命環境科学コース 開講学年別授業科目表

(令和5年度入学生以降用)

※注1. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

生命環境科学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

生命環境科学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉑	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																					
◎ :大きな相関がある ○ :相関がある 空白 :関連がない																					
授業科目名	開講学年学期																				
生涯スポーツ演習	第1学年後期	○				◎															
スポーツ健康学	第2学年前期	○				◎															
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期								◎			◎									
主題別ゼミナールⅡ	第2学年後期								◎			◎									
海外研修	第1学年後期									◎											◎
AI・データサイエンス入門	第1学年後期															◎					
データアナリティクスⅠ	第2学年後期														○	◎					
データアナリティクスⅡ	第3学年前期														○	◎					
工学概論	第1学年前期					◎															○
デザインと技術	第1学年前期					◎															○
北東北八戸の地域学	第1学年後期					◎															○
共創デザイン演習	第3学年前期	◎				○															○
カーボンニュートラル入門	第1学年後期					◎															○
カーボンニュートラル概論Ⅰ	第2学年前期					◎									○						
カーボンニュートラル概論Ⅱ	第2学年後期					◎									○						
微分積分	第1学年前期														◎						
線形代数	第1学年後期														◎						
確率・統計	第2学年前期														◎						
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期														◎						
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期														◎						
応用物理学概論	第2学年後期														◎						
物理学実験	第1学年前期														◎						
基礎化学Ⅰ	第1学年前期														◎						
基礎化学Ⅱ	第1学年後期														◎						
化学実験	第1学年前期														◎						
生命科学	第1学年前期					◎															
基礎情報科学L	第1学年前期			○												◎					

生命環境科学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		① 寛容な心	② 感動する心	③ 主体性	④ 人間環境理解力	⑤ 自己管理能力・ストレスコントロール力	⑥ 倫理観・規律性	⑦ 日本語コミュニケーション・スキル	⑧ 外国語コミュニケーション・スキル	⑨ チームワーク力	⑩ リーダーシップ力	⑪ 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	⑫ 数量的スキル	⑬ 情報リテラシー力	⑭ 論理的思考力	⑮ 問題解決力	⑯ 専門基礎原理の理解力	⑰ 専門基礎原理の高度応用展開力	⑱ 継続的学習力	⑲ 市民としての社会的責任感	⑳ 異文化理解力
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																					
◎ : 大きな相関がある ○ : 相関がある 空白 : 関連がない																					
授業科目名	開講学年学期																				
生命環境科学概論	第1学年前期							○							○	○	◎				
生命環境科学導入デザイン	第1学年後期	○	○					○	○	○					○	◎					
バイオテクノロジー	第1学年後期															◎					
無機化学	第2学年前期															◎	○				
生化学	第2学年後期															◎					
物理化学	第2学年前期															◎					
分析化学	第2学年後期																◎				
有機化学	第2学年前期															◎					
環境化学量論	第2学年前期															○	◎				
化学工学	第2学年後期															○	◎				
微生物学	第1学年後期															◎	○				
微生物工学	第2学年前期															◎	◎				
分子遺伝学	第2学年後期															◎	○				
遺伝子工学	第3学年前期															○	◎				
環境生物学	第3学年前期															◎					
酵素工学	第3学年後期															○	◎				
生理学	第3学年後期															○	◎				
生物有機化学	第2学年後期															◎					
食品分析学	第3学年後期															○	◎				
食品製造学	第3学年後期															○	◎				
食品工学	第3学年前期															○	◎				
食品化学	第3学年前期															◎	○				
食品衛生学	第3学年後期															○	◎				
公衆衛生学	第4学年前期															◎					
品質管理	第3学年前期															◎					
計測制御工学	第3学年後期											○		◎		◎					
リサイクル工学	第3学年前期															◎					

生命環境科学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

[illegible]

生命環境科学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①寛容な心	体 育 学	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習 生命環境科学導入デザイン	ス ポ ー ツ 健 康 学 生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ	臨 海 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ
②感動する心	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 生命環境科学導入デザイン	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ	臨 海 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 基 礎 情 報 科 学 Ⅰ	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 臨 海 実 習 生命環境科学基礎演習Ⅱ 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ		
④人間環境理解力	経 済 学 工 学 概 論 デ ザ イ ン と 技 術 生 命 科 学	歴 史 北 東 北 八 戸 の 地 域 学 海 洋 学 の 基 礎 と 未 来 カーボンニュートラル入門	心 理 学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	智 能 学 文 学 カーボンニュートラル概論Ⅱ
⑤自己管理能力・ストレスコントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 体 育 学	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	ス ポ ー ツ 健 康 学	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ		
⑦日本語コミュニケーション・スキル	日 本 語 表 現 法 生 命 環 境 科 学 概 論	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ 生命環境科学導入デザイン	実 践 日 本 語 表 現 生命環境プロセス実習Ⅰ 生命環境科学基礎実験	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ 臨 海 実 習
⑧外国語コミュニケーション・スキル	総 合 英 語 実 践 英 語 教 養 英 語 英 語 会 話 英 語 表 現 中 国 語 Ⅰ	中 国 語 Ⅱ 海 外 研 修	Global English English Communication English Reading Technical English 中 国 語 Ⅲ	
⑨チームワーク力		生命環境科学導入デザイン	生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ	臨 海 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
共創デザイン演習	生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	卒業研究	L	①寛容な心
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ	生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	卒業研究	L	②感動する心
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ		卒業研究	L	③主体性
生命環境科学演習Ⅰ	生命環境科学演習Ⅱ インターンシップⅠ 特別専攻ゼミナールⅠ	生命環境科学セミナー		
特別専攻プロジェクトⅡ				
特別専攻ゼミナールⅡ				
知的財産論 共創デザイン演習	日本国憲法			
キャリアデザインⅢ				⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
キャリアデザインⅢ				⑥倫理観・規律性
職業倫理				
生命環境科学実験Ⅰ	生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	卒業研究	L	⑦日本語コミュニケーション・スキル
		異文化コミュニケーション		
		異文化コミュニケーション		⑧外国語コミュニケーション・スキル
	生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	卒業研究	L	⑨チームワーク力
特別専攻プロジェクトⅡ				

生命環境科学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

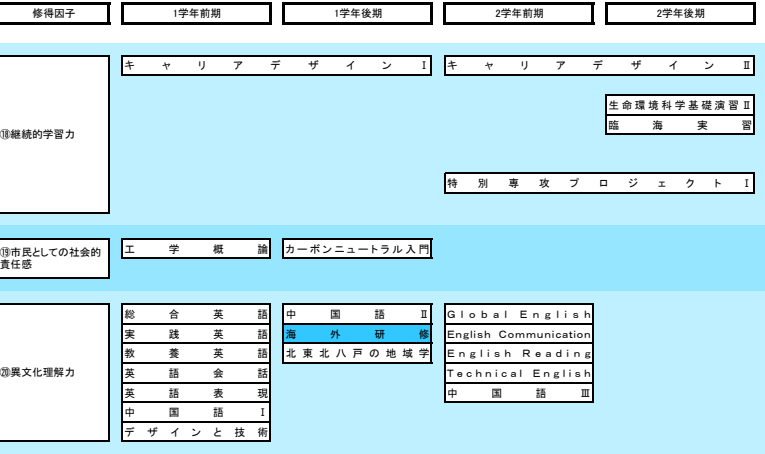
修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
⑧リーダーシップ力		生命環境科学導入デザイン	生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ	臨海実習 特別専攻プロジェクトⅠ
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	経済学	歴史 主題別ゼミナールⅠ	心理学 生命環境科学基礎演習Ⅰ 生命環境科学基礎実験	哲学 文学 主題別ゼミナールⅡ 特別専攻プロジェクトⅠ
⑫数量的スキル	微分積分 基礎物理学Ⅰ 物理学実験 基礎化学Ⅰ 化学実験	線形代数 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ	確率・統計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 生命環境科学基礎演習Ⅰ 解析Ⅰ	データナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応用物理学概論 機器分析 生命環境科学基礎演習Ⅱ 解析Ⅱ
⑬情報リテラシー力	基礎情報科学Ⅰ	AI・データサイエンス入門		データナリティクスⅠ 機器分析 生命環境科学基礎演習Ⅱ
⑭論理的思考力	生命環境科学概論		生命環境科学基礎実験 生命環境科学基礎演習Ⅰ	機器分析 生命環境科学基礎演習Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅠ
⑮問題解決力	生命環境科学概論	生命環境科学導入デザイン	生命環境プロセス実習Ⅰ 生命環境科学基礎実験	特別専攻プロジェクトⅠ
⑯専門基礎原理の理解力	生命環境科学概論 グリーンケミストリー	生命環境科学導入デザイン バイオテクノロジー 微生物学 海洋学の基礎と未来	無機化学 物理化学 有機化学 環境化学量論 生命環境科学基礎演習Ⅰ 生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ 海洋生物学	生化学 化学工学 分子遺伝学 生物有機化学 機器分析 生命環境科学基礎演習Ⅱ 臨海実習
⑰専門基礎原理の高度応用展開力	グリーンケミストリー	微生物学 海洋学の基礎と未来	無機化学 環境化学量論 微生物工学 生命環境科学基礎演習Ⅰ 生命環境プロセス実習Ⅰ 海洋生物学	分析化学 化学工学 分子遺伝学 臨海実習



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
	生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	卒業研究	L	⑩リーダーシップ力
特別専攻プロジェクトⅡ				
知的財産論 生命環境科学実験Ⅰ	日本国憲法 生命環境科学実験Ⅱ	卒業研究	L	⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力
特別専攻プロジェクトⅡ				
データナリティクスⅡ 生命環境科学演習Ⅰ	計測制御工学 生命環境科学実験Ⅱ			⑫数量的スキル
データナリティクスⅡ 生命環境科学演習Ⅰ				⑬情報リテラシー力
生命環境科学演習Ⅰ 生命環境科学実験Ⅰ	計測制御工学 生命環境科学実験Ⅱ	卒業研究	L	⑭論理的思考力
特別専攻プロジェクトⅡ				
品質管理 生命環境科学実験Ⅰ	生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	卒業研究	L	⑮問題解決力
特別専攻プロジェクトⅡ				
遺伝子工学 食品工学 食品化学 環境汚染物質分析学 生命環境科学演習Ⅰ 生命環境科学実験Ⅰ 海洋生態学	酵素工学 生化学 食品分析学 食品製造学 食品衛生学 生命環境科学演習Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	生命環境科学セミナー		⑯専門基礎原理の理解力
遺伝子工学 環境生物学 食品工学 食品化学 品質管理 リサイクル工学 環境影響評価論 環境汚染物質分析学 生命環境科学演習Ⅰ 生命環境科学実験Ⅰ 海洋生態学	酵素工学 生化学 食品分析学 食品製造学 食品衛生学 計測制御工学 生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	卒業研究 生命環境科学セミナー 公衆衛生学	L	⑰専門基礎原理の高度応用展開力

生命環境科学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
キャリアデザインⅢ 生命環境科学演習Ⅰ 生命環境科学演習Ⅱ インターンシップⅠ 特別専攻ゼミナールⅠ 特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ		卒業研究Ⅰ 生命環境科学セミナー		①継続的学習力
職業倫理				②市民としての社会的責任感
共創デザイン演習		異文化コミュニケーション		③異文化理解力

生命環境科学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 A	A-1	キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ	
		経済学 体育学 デザインと技術	歴史 生涯スポーツ演習 主題別ゼミナールⅠ 北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	心理学 スポーツ健康学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	哲学 文学 主題別ゼミナールⅡ カーボンニュートラル概論Ⅱ
	A-2	キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ	
		工学概論		カーボンニュートラル入門	
目標 B	B-1	微分積分 基礎物理学Ⅰ 物理学実験 基礎化学Ⅰ 化学実験 生命科学	AI・データサイエンス入門 線形代数学 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ	確率・統計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 解析Ⅰ	データアナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応用物理学概論 解析Ⅱ
	B-2	基礎情報科学Ⅰ		生命環境科学基礎演習Ⅰ	機器分析 生命環境科学基礎演習Ⅱ
	C-1	日本語表現法 総合英語 実践英語 教養英語 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ	中国語Ⅱ 主題別ゼミナールⅠ 海外研修	実践日本語表現 Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅲ	主題別ゼミナールⅡ
	C-2	生命環境科学概論	生命環境科学導入デザイン	生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ	臨海実習
目標 D	D-1	生命環境科学概論	生命環境科学導入デザイン バイオテクノロジー 微生物学 海洋学の基礎と未来	生命環境科学基礎演習Ⅰ 生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ 海洋生物学	生化学 分子遺伝学 生物有機化学 生命環境科学基礎演習Ⅱ 臨海実習
	D-2		微生物学 海洋学の基礎と未来	微生物工学 海洋生物学	分析化学 分子遺伝学 臨海実習
	D-3	生命環境科学概論	生命環境科学導入デザイン	生命環境科学基礎演習Ⅰ 生命環境科学基礎実験	生物有機化学 生命環境科学基礎演習Ⅱ

3学年前期		3学年後期		4学年前期		4学年後期		学習・教育到達目標		
キャリアデザインⅢ				知的財産論 共創デザイン演習		日本国憲法		A-1		目標A
キャリアデザインⅢ				職業倫理		A-2				
データアナリティクスⅡ				生命環境科学演習Ⅰ		計測制御工学 生命環境科学実験Ⅱ		B-1 B-2		目標B
特別専攻ゼミナールⅠ				異文化コミュニケーション		C-1 C-2				
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ				生命環境科学実験Ⅰ		生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ		卒業業務研究 L		目標C
遺伝子工学 生命環境科学実験Ⅰ 海洋生態学				醸造工学 生命環境科学演習Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ		卒業業務研究 L 生命環境科学セミナー		D-1		
遺伝子工学 環境生物学 環境影響評価論 生命環境科学実験Ⅰ 海洋生態学				醸造工学 生理解理学 生命環境科学実験Ⅱ		卒業業務研究 L 公衆衛生学 生命環境科学セミナー		D-2		目標D
食品工学 食品化学				生理解理学 食品分析学 食品製造学 食品衛生学		卒業業務研究 L 生命環境科学セミナー		D-3		

生命環境科学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標D	D-4			生命環境プロセス実習Ⅰ	
	D-5	生命環境科学概論 グリーンケミストリー	生命環境科学導入デザイン 海洋学の基礎と未来	無機化学 物理化学 有機化学 環境化学量論 生命環境科学基礎演習Ⅰ 生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ	化学工学 生物有機化学 機器分析 生命環境科学基礎演習Ⅱ 臨海実習
	D-6	グリーンケミストリー		無機化学 環境化学量論	分析化学 化学工学 微生物工学 臨海実習
目標E	E-1	生命環境科学概論		生命環境科学基礎実験	
	E-2		生命環境科学導入デザイン	生命環境科学基礎演習Ⅰ 生命環境科学基礎実験 生命環境プロセス実習Ⅰ	特別専攻プロジェクトⅠ 臨海実習
	E-3			生命環境科学基礎演習Ⅰ 特別専攻プロジェクトⅠ	生命環境科学基礎演習Ⅱ 臨海実習
目標F	F-1	工学概論 デザインと技術	北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	カーボンニュートラル概論Ⅰ	カーボンニュートラル概論Ⅱ

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
食 品 工 学 食 品 化 学 品 質 管 理	食 品 分 析 学 食 品 製 造 学 食 品 衛 生 学 生命環境科学実験Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	学 業 研 究 L 生命環境科学セミナー	D-4	目標D
環境汚染物質分析学 生命環境科学演習Ⅰ 生命環境科学実験Ⅰ	生命環境科学演習Ⅱ 生命環境プロセス実習Ⅱ	学 業 研 究 L 生命環境科学セミナー	D-5	
品 質 管 理 リ サ イ ク ル 工 学 環 境 影 響 評 価 論 環 境 汚 染 物 質 分 析 学 生命環境科学演習Ⅰ 生命環境科学実験Ⅰ	生命環境科学実験Ⅱ	学 業 研 究 L 生命環境科学セミナー	D-6	
生命環境科学実験Ⅰ	生命環境科学実験Ⅱ	学 業 研 究 L	E-1	目標E
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ				
	生命環境プロセス実習Ⅱ 生命環境科学実験Ⅱ	学 業 研 究 L	E-2	
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ				
生命環境科学演習Ⅰ	生命環境科学演習Ⅱ インターンシップⅠ 特別専攻ゼミナールⅠ	学 業 研 究 L 生命環境科学セミナー	E-3	
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ				
共創デザイン演習			F-1	目標F

2.13.5 建築・土木工学コースの学習・教育到達目標と教育課程

■ 建築・土木工学コースの教育目的

近年、社会基盤と居住空間の整備、自然環境と調和した地域社会の発展、地域・文化・時代により変化する建設分野への要請および諸課題へ対応するため、建築・土木の双方の基礎領域を理解しうる技術者が必要となってきました。さらに、建築と土木の両分野がこれまでに専門分化し培ってきた概念や技術を融合し、都市・地域社会マネジメントの観点に基づく「安全で快適なまちづくり」を計画・実施していくため、分野間を超えて協調・協力していくことの重要性が指摘されています。

この社会的な要請にこたえるため、建築・土木工学コース(Civil Engineering and Architecture)では、必要な科学と建築・土木工学に係る技術と知識、幅広い教養と倫理観、コミュニケーション能力を有し、人間性豊かな総合判断力と応用展開能力、および生涯自己学習能力を身につけた技術者の養成を目的としています。

■ 建築・土木工学コースの学習・教育到達目標(ディプロマ・ポリシー)

建築・土木工学コースでは、所定の年限在学し、コースの教育理念や目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、以下の学習・教育到達目標に示された資質・能力を身につけたと認められるものに学士(工学)の学位を授与します。各学習・教育到達目標に併記されている小項目(A-1)～(F-2)は、技術者としての細分化された能力や素養を示すものです。

(A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野

(A-1) 総合教養的な知識と学力を修得し、地域的・地球的な観点から多面的に物事を考える素養を身につける【総合教養と多面的な視野】

(A-2) 職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を意識して行動できる素養を身につける【職業倫理と社会的な責任・役割】

(A-3) 科学技術と自然環境や社会との関わりを理解して行動できる素養を身につける【技術と自然・社会との関わり】

(B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる技術者

(B-1) 数学・自然科学の基本的な知識および情報リテラシーを身につける【数学・自然科学と情報リテラシー】

(B-2) 工学の基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける【工学基礎・情報技術の活用】

(C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢

(C-1) 社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける【コミュニケーション能力の基礎】

(C-2) 職業人として十分に通用するコミュニケーション能力を身につける【コミュニケーション能力の応用】

(D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養

(D-1) 構造工学、測量学、計画学、材料、製図などの土木・建築工学共通の基本的な知識と学力を修得する【土木・建築専門基礎科目と基礎学力】

(D-2) 水工学、地盤工学、コンクリート工学などの土木工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、中堅技術者として応用・展開できる能力を身につける【土木専門科目の基礎学力と応用展開能力】

(D-3) 環境工学または土木計画・道路工学の基礎的な知識と学力を修得し、それを応用・展開できる能力を身につける【土木専門関連科目の基礎学力と応用展開能力】

(D-4) 建築の設計・製図・計画、建築環境と建築設備、建築構造、施工など建築に関する基本的な知識と学力を修得し、応用・展開できる能力を身につける【建築専門科目の基礎学力】

(D-5) 建築に関する特定領域の高度な専門知識を修得し、応用・展開できる能力を身につける【建築専門科目の応用展開能力】

(E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力

(E-1) 課題に対する計画、遂行、分析・評価、解決など総合的なデザイン能力を身につける【デザイン能力】

(E-2) 常に新しい技術に関心を持ち、実験・実習・演習などを通じて、自ら積極的に学び・行動する能力を身につける【自主的・継続的学習能力と行動力】

(E-3) 専門知識や工学ツールを用いて与えられた条件の下で課題を解決しまとめる能力を身につける【プロジェクトマネジメント力】

(E-4) チームで仕事をする際に自分の役割や責任・仕事の目的を理解し、目的を達成するために適切な行動ができる能力を身につける【チームワーク力】

(F) 北東北地域における科学技術の動向への関心

(F-1) 北東北地域の自然・社会・産業とこれに係わる科学技術に関する知識や素養を身につける【地域の科学技術への関心】

(F-2) 地域社会が抱える課題に関心をもち、その解決に取り組む姿勢を身につける【地域的課題への取組み】

建築・土木工学コース 開講学年別授業科目表

(令和5年度入学生以降用)

第1学年			第2学年			第3学年			第4学年		
授業科目	単位		授業科目	単位		授業科目	単位		授業科目	単位	
	前	後		前	後		前	後		前	後
キャリアデザインⅠ		1	キャリアデザインⅡ		1	キャリアデザインⅢ		1	異文化コミュニケーション		2
歴史		2	心理学		2	職業倫理		2	建築設計Ⅳ		3
経済学		2	哲学		2	日本国憲法		2	建築構造設計		2
日本語表現法		2	文学		2	知的財産論		2	建築生産		2
総合英語		2	実践日本語表現		2	データアナリティクスⅡ		2	卒業研究D		6
実践英語		2	Global English		2	共創デザイン演習		2			
教養英語		2	English Communication		2	都市計画		2			
英語会話		2	English Reading		2	建築設計Ⅱ		3			
英語表現		2	Technical English		2	建築設計Ⅲ		3			
中国語Ⅰ		2	中国語Ⅲ		2	地域施設計画		2			
中国語Ⅱ		2	スポーツ健康学		1	建築環境工学Ⅰ		2			
体育学		1	主題別ゼミナールⅡ		1	建築環境工学Ⅱ		2			
生涯スポーツ演習		1	データアナリティクスⅠ		2	建築設備		2			
主題別ゼミナールⅠ		1	カーボンニュートラル概論Ⅰ		1	鉄筋コンクリート構造		2			
海外研修		1	カーボンニュートラル概論Ⅱ		1	鋼構造		2			
AI・データサイエンス入門		2	確率・統計		2	木質構造		2			
工学概論		2	応用物理学概論		2	建築施工		2			
デザインと技術		2	CAD基礎演習		2	建築材料実験		2			
北東北八戸の地域学		2	測量学		2	ユニバーサルデザイン		2			
カーボンニュートラル入門		2	測量実習		1	上下水道工学		2			
微分積分		2	構造力学Ⅰ		2	水処理工学		2			
線形代数		2	構造力学Ⅱ		2	河川工学		2			
基礎物理学Ⅰ		2	地盤工学Ⅰ		2	海岸・港湾工学		2			
基礎物理学Ⅱ		2	建設応用数学		2	道路・交通工学		2			
物理学実験		2	建築設計Ⅰ		3	地盤工学Ⅱ		2			
基礎化学Ⅰ		2	住居計画		2	コンクリート構造学		2			
基礎化学Ⅱ		2	建築計画		2	土木工学実験Ⅱ		2			
化学実験		2	近代建築史		2	水工学設計・演習		2			
生命科学		2	基礎工学		2	地盤工学設計演習		2			
基礎情報科学D		2	建築材料学		2	橋工学設計・演習		2			
土木工学概論		2	建築法規		2	応用測量学及び実習		2			
建築概論		2	雪国建築		2	火災工学		2			
基礎製図		2	材料の力学		2	維持管理工学		2			
地球環境図		2	水理学Ⅰ		2	施工技術		2			
デザイン		2	水理学Ⅱ		2	インターンシップD		1			
色彩学		2	コンクリート工学		2	総合デザインⅠ		2			
建築史		2	土木工学実験Ⅰ		2	総合デザインⅡ		2			
インテリアデザイン		2	学外研修D		2	数値解析D		2			
海洋学の基礎と未来		2	海洋土木Ⅰ		2	特別専攻プロジェクトⅡ		2			
			海洋土木Ⅱ		2	特別専攻ゼミナールⅠ		2			
			解析Ⅰ		2	特別専攻ゼミナールⅡ		2			
			解析Ⅱ		2						
			特別専攻プロジェクトⅠ		2						

※注1. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

建築・土木工学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

建築・土木工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉔	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																					
◎ :大きな相関がある ○ :相関がある 空白 :関連がない																					
授業科目名	開講学年学期																				
生涯スポーツ演習	第1学年後期	○				◎															
スポーツ健康学	第2学年前期	○				◎															
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期							◎			◎										
主題別ゼミナールⅡ	第2学年後期							◎			◎										
海外研修	第1学年後期								◎											◎	
AI・データサイエンス入門	第1学年後期														◎						
データアナリティクスⅠ	第2学年後期												○	◎							
データアナリティクスⅡ	第3学年前期												○	◎							
工学概論	第1学年前期				◎														○		
デザインと技術	第1学年前期			◎																○	
北東北八戸の地域学	第1学年後期			◎																○	
共創デザイン演習	第3学年前期	◎		○																○	
カーボンニュートラル入門	第1学年後期			◎															○		
カーボンニュートラル概論Ⅰ	第2学年前期			◎									○								
カーボンニュートラル概論Ⅱ	第2学年後期			◎									○								
微分積分	第1学年前期												◎								
線形代数	第1学年後期												◎								
確率・統計	第2学年前期												◎								
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期												◎								
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期												◎								
応用物理学概論	第2学年後期												◎								
物理学実験	第1学年前期												◎								
基礎化学Ⅰ	第1学年前期												◎								
基礎化学Ⅱ	第1学年後期												◎								
化学実験	第1学年前期												◎								
生命科学	第1学年前期				◎																
基礎情報科学D	第1学年前期													◎							

建築・土木工学コース カリキュラム・マップ

修得因子、学習・教育到達目標との関連基準		修得因子																			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉔	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
授業科目名	開講学年学期																				
土木工学概論	第1学年前期	◎			○		○			◎	◎						○				
建築概論	第1学年後期	◎			○		○			◎	◎						○				
基礎製図	第1学年後期			○													◎		○		
CAD基礎演習	第2学年前期			◎										○			○		◎		
地球環境論	第1学年後期				◎		○														
測量学	第2学年前期																◎				
測量実習	第2学年前期	○		◎				○		○	○						○		◎		
都市計画	第3学年前期																◎				
構造力学Ⅰ	第2学年前期																◎				
構造力学Ⅱ	第2学年後期																◎				
地盤工学Ⅰ	第2学年前期																◎				
建設応用数学	第2学年後期											◎	◎	○							
デッサン	第1学年後期																◎				
色彩学	第1学年前期																◎				
建築設計Ⅰ	第2学年後期			◎							○			○	○		◎		◎		
建築設計Ⅱ	第3学年前期			◎							○			○	○				◎		
建築設計Ⅲ	第3学年後期			○	○						◎			◎	◎				○		
建築設計Ⅳ	第4学年前期			○	○						◎			◎	◎				○		
建築構造設計	第4学年前期																	◎			
住居計画	第2学年前期																◎				
建築計画	第2学年後期																◎				
地域施設計画	第3学年後期																◎				
建築史	第1学年後期																	◎			
近代建築史	第2学年前期																	◎			
建築環境工学Ⅰ	第3学年前期																◎				
建築環境工学Ⅱ	第3学年後期																	◎			
建築設備	第3学年後期																◎				

建築・土木工学コース カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		① 寛容な心	② 感動する心	③ 主体性	④ 人間環境理解力	⑤ 自己管理能力・ストレスコントロール力	⑥ 倫理観・規律性	⑦ 日本語コミュニケーション・スキル	⑧ 外国語コミュニケーション・スキル	⑨ チームワーク力	⑩ リーダーシップ力	⑪ 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	⑫ 数量的スキル	⑬ 情報リテラシー力	⑭ 論理的思考力	⑮ 問題解決力	⑯ 専門基礎原理の理解力	⑰ 専門基礎原理の高度応用展開力	⑱ 継続的学習力	⑲ 市民としての社会的責任感	⑳ 異文化理解力
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準		◎ : 大きな相関がある ○ : 相関がある 空白 : 関連がない																			
授業科目名	開講学年学期																				
鉄筋コンクリート構造	第3学年前期																	◎			
建築基礎	第2学年後期																◎				
鋼構造	第3学年後期																◎				
木質構造	第3学年後期																◎				
建築材料科学	第2学年前期						○										◎				
建築施工	第3学年前期																◎				
建築生産	第4学年前期																◎				
建築材料実験	第3学年前期	○		◎					○	○	○			○	○	○		◎			
建築法規	第2学年後期															◎					
雪国建築	第2学年後期																◎				
インテリアデザイン	第1学年後期																◎				
ユニバーサルデザイン	第3学年後期																◎				
材料の力学	第2学年前期																◎		◎		
上下水道工学	第3学年前期																◎	◎			
水処理工学	第3学年後期																◎	◎			
水理学Ⅰ	第2学年前期																◎	◎			
水理学Ⅱ	第2学年後期																◎	◎			
河川工学	第3学年後期																◎	◎			
海岸・港湾工学	第3学年前期																◎	◎			
道路・交通工学	第3学年前期																◎	◎			
地盤工学Ⅱ	第3学年前期																◎	◎			
コンクリート工学	第2学年後期																◎	◎			
コンクリート構造学	第3学年前期																◎	◎			
土工工学実験Ⅰ	第2学年後期			◎			○				○			○	○	○	○	◎			
土工工学実験Ⅱ	第3学年前期		○	◎			○		○	○	○			○	○	○	○	◎			
水工学設計・演習	第3学年前期		◎														○	○	◎		
地盤工学設計演習	第3学年後期		◎				○										○	○	◎		

建築・土木工学コース カリキュラム・マップ

[illegible]

[illegible]

建築・土木工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①寛容な心	体 育 学 土 木 工 学 概 論	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習 建 築 概 論	ス ポ ー ツ 健 康 学 測 量 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	
②感動する心	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ		キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ	基 礎 製 図	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ C A D 基 礎 演 習 測 量 実 習 建 築 設 計 Ⅰ 土 木 工 学 実 験 Ⅰ 学 外 研 修 D 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	
④人間環境理解力	経 済 学 工 学 概 論 デ ザ イ ン と 技 術 土 木 工 学 概 論 生 命 科 学	歴 史 北 東 北 八 戸 の 地 域 学 カーボンニュートラル入門 地 球 環 境 論 海 洋 学 の 基 礎 と 未 来 建 築 概 論	心 理 学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	習 得 学 文 学 カーボンニュートラル概論Ⅱ
⑤自己管理能力・ストレス コントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ	体 育 学 生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ ス ポ ー ツ 健 康 学	
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ	土 木 工 学 概 論 建 築 概 論 地 球 環 境 論	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ	
⑦日本語コミュニケーション スキル	日 本 語 表 現 法	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	実 践 日 本 語 表 現 測 量 実 習 建 築 材 料 学	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ 土 木 工 学 実 験 Ⅰ
⑧外国語コミュニケーション スキル	総 合 英 語 実 践 英 語 教 養 英 語 英 語 会 話 英 語 表 現 中 国 語 Ⅰ	中 国 語 Ⅱ 海 外 研 修	Global English English Communication English Reading Technical English 中 国 語 Ⅲ	

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
共創デザイン演習 総合デザインⅠ 建築材料実験	総合デザインⅡ			①寛容な心
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ 特別専攻プロジェクトⅡ		卒業研究Ⅰ		②感動する心
土木工学実験Ⅱ 総合デザインⅠ	建築設計Ⅲ 応用測量学及び実習 総合デザインⅡ	建築設計Ⅳ		
キャリアデザインⅢ		卒業研究Ⅱ		③主体性
建築設計Ⅱ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ 水工学設計・演習 インターンシップⅠ	地盤工学設計演習 橋工学設計・演習 応用測量学及び実習 火災工学 施工技術 建築設計Ⅲ 特別専攻ゼミナールⅠ	建築設計Ⅳ		
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ				
知的財産論 共創デザイン演習	日本国憲法			④人間環境理解力
キャリアデザインⅢ				⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
キャリアデザインⅢ				⑥倫理観・規律性
職業倫理				
総合デザインⅠ 土木工学実験Ⅱ	総合デザインⅡ 地盤工学設計演習	卒業研究Ⅲ 異文化コミュニケーション		⑦日本語コミュニケーション・スキル
		異文化コミュニケーション		⑧外国語コミュニケーション・スキル

建築・土木工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
⑬チームワーク力	土木工学概論	建築概論	測量実習	特別専攻プロジェクトⅠ
⑭リーダーシップ力	土木工学概論	建築概論	測量実習	特別専攻プロジェクトⅠ
⑮総合的学習経験・創造的思考力・創造力	経済学	歴史 主題別ゼミナールⅠ	心理学	哲学 文 主題別ゼミナールⅡ 建築設計Ⅰ 土木工学実験Ⅰ 特別専攻プロジェクトⅠ
⑯数量的スキル	微分積分 基礎物理学Ⅰ 物理学実験 基礎化学Ⅰ 化学実験	線形代数 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ	確率・統計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 解析Ⅰ	データアナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応用物理学概論 建設応用数学 解析Ⅱ
⑰情報リテラシー力	AI・データサイエンス入門 基礎情報科学Ⅱ		CAD基礎演習	データアナリティクスⅠ 建設応用数学
⑱論理的思考力				建設応用数学 建築設計Ⅰ 土木工学実験Ⅰ 特別専攻プロジェクトⅠ
⑳問題解決力				建築設計Ⅰ 土木工学実験Ⅰ 特別専攻プロジェクトⅠ



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
総合デザインⅠ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ	応用測量学及び実習 総合デザインⅡ			⑨チームワーク力
特別専攻プロジェクトⅡ				
総合デザインⅠ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ	応用測量学及び実習 総合デザインⅡ			⑩リーダーシップ力
特別専攻プロジェクトⅡ				
知的財産論 建築設計Ⅱ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ 総合デザインⅠ	日本国憲法 建築設計Ⅲ 総合デザインⅡ	卒業研究 D	建築設計Ⅳ	⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力
特別専攻プロジェクトⅡ				
データアナリティクスⅡ 数値解析 D				⑫数量的スキル
データアナリティクスⅡ 数値解析 D				⑬情報リテラシー力
建築設計Ⅱ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ 総合デザインⅠ 数値解析 D	建築設計Ⅲ 総合デザインⅡ	卒業研究 D	建築設計Ⅳ	⑭論理的思考力
特別専攻プロジェクトⅡ				
建築設計Ⅱ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ 総合デザインⅠ	建築設計Ⅲ 総合デザインⅡ	卒業研究 D	建築設計Ⅳ	⑮問題解決力
特別専攻プロジェクトⅡ				

建築・土木工学コース カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①専門基礎原理の理解力	色彩学 土木工学概論	基礎製図 デッサン インテリアデザイン 海洋学の基礎と未来 建築概論	測量学 構造力学Ⅰ 地盤工学Ⅰ 住居計画 建築材料学 材料の力学 水理学Ⅰ 海洋土木Ⅰ C A D 基礎演習 測量実習	構造力学Ⅱ 建築設計Ⅰ 建築計画図 建築基礎 建築法規 水理学Ⅱ コンクリート工学 海洋土木Ⅱ 土木工学実験Ⅰ
②専門基礎原理の高度応用展開力		建築史 海洋学の基礎と未来	近代建築史 材料の力学 水理学Ⅰ 海洋土木Ⅰ	各国建築 水理学Ⅱ コンクリート工学 海洋土木Ⅱ 土木工学実験Ⅱ
③継続的学習力	キャリアデザインⅠ	基礎製図	キャリアデザインⅡ C A D 基礎演習 測量実習	建築設計Ⅰ 土木工学実験Ⅰ 学外研修Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅠ
④市民としての社会的責任感	工学概論	カーボンニュートラル入門		
⑤異文化理解力	総合英語 実践英語 教養英語 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ デザインと技術	中国語Ⅱ 海外研修 北東北八戸の地域学	Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅱ	



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
都市計画 建築環境工学Ⅰ 建築施工 上下水道工学 海岸・港湾工学 道路・交通工学 地盤工学Ⅱ コンクリート構造学 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ 水工学設計・演習	地域施設計画 建築環境工学Ⅱ 建築設備 水質構造 水処理工学 河川工学 維持管理工学 地盤工学設計演習 橋工学設計・演習	卒業研究Ⅲ 建築生産	卒業研究Ⅳ	⑬専門基礎原理の理解力
鉄筋コンクリート構造 上下水道工学 海岸・港湾工学 道路・交通工学 地盤工学Ⅱ コンクリート構造学 土木工学実験Ⅱ 水工学設計・演習	鋼構造 ユニバーサルデザイン 水処理工学 河川工学 維持管理工学 地盤工学設計演習 橋工学設計・演習 総合デザインⅡ	卒業研究Ⅲ 建築構造設計	卒業研究Ⅳ	⑭専門基礎原理の高度化/展開力
キャリアデザインⅢ 建築設計Ⅱ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ 水工学設計・演習 インターンシップⅡ	地盤工学設計演習 橋工学設計・演習 応用測量学及び実習 火災工学 施工技術 建築設計Ⅲ 特別専攻ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅲ 建築設計Ⅳ	卒業研究Ⅳ	⑮継続的学習力
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ				
職業倫理				⑯市民としての社会的責任感
共同デザイン演習		異文化コミュニケーション		⑰異文化理解力

建築・土木工学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 A	A-1	キャリアデザインⅠ 経済学 体育学 デザインと技術	キャリアデザインⅠ 歴史 生涯スポーツ演習 主題別ゼミナールⅠ 北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	キャリアデザインⅡ 心理学 スポーツ健康学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	キャリアデザインⅡ 哲学 文芸学 主題別ゼミナールⅡ カーボンニュートラル概論Ⅱ
	A-2	キャリアデザインⅠ 工学概論	キャリアデザインⅠ カーボンニュートラル入門	キャリアデザインⅡ	
	A-3	土木工学概論	地球環境論 海洋学の基礎と未来 建築概論		
目標 B	B-1	微分積分 基礎物理学Ⅰ 物理学実験 基礎化学Ⅰ 化学実験 生命科学 基礎情報科学D	AI・データサイエンス入門 線形代数 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ	確率・統計 カーボンニュートラル概論Ⅰ 解析Ⅰ	データアナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ 応用物理学概論 解析Ⅱ
	B-2	基礎情報科学D		C A D 基礎演習	建設応用数学
目標 C	C-1	日本語表現法 総合英語 実践英語 教養英語 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ	中国語Ⅱ 主題別ゼミナールⅠ 海外研修	実践日本語表現 Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅲ	主題別ゼミナールⅡ
	C-2			特別専攻プロジェクトⅠ 測量実習 建築材料学	土木工学実験Ⅰ
目標 D	D-1		基礎製図	測量学 構造力学Ⅰ 地盤工学Ⅰ C A D 基礎演習 測量実習 建築材料学	構造力学Ⅱ
	D-2			材料の力学 水理学Ⅰ 海洋土木Ⅰ	水理学Ⅱ 地盤工学Ⅱ コンクリート工学 海洋土木Ⅱ 土木工学実験Ⅰ

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
キャリアデザインⅢ 知的財産論 共創デザイン演習	日本国憲法			A-1 A-2 A-3 目標A
キャリアデザインⅢ 職業倫理 職業倫理				
データアナリティクスⅡ 数値解析Ⅱ				B-1 B-2 目標B
特別専攻ゼミナールⅠ 特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ	異文化コミュニケーション			C-1 C-2 目標C
総合デザインⅠ 土木工学実験Ⅱ	総合デザインⅡ 地盤工学設計演習	卒業業務研究Ⅱ		C-2
都市計画				D-1 D-2 目標D
海岸・港湾工学 コンクリート構造学 土木工学実験Ⅱ 水工学設計・演習	河川工学 維持管理工学 地盤工学設計演習 橋工学設計・演習			

建築・土木工学コース カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標D	D-3				
	D-4	色彩学	デッサン インテリアデザイン	住居計画 建築材料学	建築設計Ⅰ 建築計画 建築基礎 建築法規
	D-5		建築史	近代建築史	雪国建築
目標E	E-1				建築設計Ⅰ 土木工学実験Ⅰ
				特別専攻プロジェクトⅠ	
	E-2		基礎製図	CAD基礎演習 測量実習	建築設計Ⅰ 土木工学実験Ⅰ 学外研修Ⅱ
				特別専攻プロジェクトⅠ	
	E-3				特別専攻プロジェクトⅠ
	E-4	土木工学概論	建築概論	測量実習	特別専攻プロジェクトⅠ
目標F	F-1	工学概論 デザインと技術	北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	カーボンニュートラル概論Ⅰ	カーボンニュートラル概論Ⅱ
	F-2	土木工学概論	建築概論		

3学年前期		3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
上下水道工学 道路・交通工学 海岸・港湾工学 土木工学実験Ⅱ	水処理工学 河川工学			D-3	目標D
建築環境工学Ⅰ 建築施設工 建築材料実験	地域施設計画 建築環境工学Ⅱ 建築設備 木質構造	建築生産		D-4	
鉄筋コンクリート構造	鋼構造 ユニバーサルデザイン	建築構造設計		D-5	
建築設計Ⅱ 建築材料実験 土木工学実験Ⅰ 総合デザインⅠ	建築設計Ⅲ 総合デザインⅡ	卒業研究 D 建築設計Ⅳ		E-1	目標E
特別専攻プロジェクトⅡ					
建築設計Ⅱ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ 水工学設計・演習 インターンシップ D	地盤工学設計演習 機工学設計・演習 応用測量学及び実習 火災学 施工技術 建築設計Ⅲ 特別専攻ゼミナールⅠ	卒業研究 D 建築設計Ⅳ		E-2	
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ					
総合デザインⅠ	建築設計Ⅲ 総合デザインⅡ	卒業研究 D 建築設計Ⅳ		E-3	目標F
特別専攻プロジェクトⅡ					
総合デザインⅠ 建築材料実験 土木工学実験Ⅱ	応用測量学及び実習 総合デザインⅡ			E-4	
特別専攻プロジェクトⅡ					
共創デザイン演習				F-1	目標F
	総合デザインⅡ	卒業研究 D		F-2	

2.14 感性デザイン学部教育目標・教育課程

■教育目標

教育理念にそった人材を育成するため、感性デザイン学部では以下の教育目標を掲げます。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とするデザイン学の素養をもった人材を育成する
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材を育成する
- 3) デザイン学の諸原理の理解とこれらの応用展開力をもった人材を育成する
- 4) 社会的問題を自ら発見し、解決に貢献する力をもった人材を育成する
- 5) 地域社会への関心を有するとともに、多文化・異文化を理解し、幸福な社会づくりに貢献する力をもった人材を育成する

■教育課程編成方針・教育実施基本方針

感性デザイン学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを「キャリア教育科目」「総合教養科目」「AI・データサイエンス科目」「共創教育科目」「専門科目」「特別専攻科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します

「キャリア教育科目」においては、高校から大学へのスムーズな移行や社会と接点のある教育を実施します。「総合教養科目」においては、人間科学、体育科学、国際コミュニケーション、総合学際各分野に、多面的な視野から人間と社会を捉えて総合的な判断力を養うための科目と、コミュニケーション・スキルを獲得するための科目を設置し、豊かな人間性を涵養するとともに、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。「共創教育科目」においては、専門性を異にする学生との協

働を通じ、デザインプロセスの遂行能力を育成します。また、「共創教育科目」および「専門科目」において、PBL、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、主体性ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 高度な情報活用能力を育成する教育を実施します

情報リテラシーとAI技術・データサイエンスの基礎を学ぶ科目を配置します。デザイン学の専門分野においては情報技術を高度に活用するための力を養成します。

4) 地域社会との繋がりを重視した共創教育を実施します

社会が抱える課題の解決のために、デザインと工学を融合した学修や地域と連携したPBL、アクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、持続可能な地域社会づくりへの関心を深めるとともに責任をもって物事を考えることができる能力を養成します。

5) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

デザイン学の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。また、専門基礎理論科目と演習・実習科目を有機的に連動させ、専門基礎原理を演習・実習の場で確認し繰り返し学習できるように授業を展開します。これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

6) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を身につけるための教育を実施します

発想力、発表力、自ら問題を解決する力などの実践的な力を養成するため、初年次から演習・実習科目を重点的に編成します。演習・実習科目は段階的に学びが深化するよう、それぞれの学年に配置します。また、コミュニケーション・スキルを養成するために、授業にはグループワークや協働活動を取り入れ、他

者の考えに耳を傾け、さまざまな情報や多様な立場を受容する力、プレゼンテーションを通して自ら考え纏めたことを発表、表現する力を養う授業を展開します。さらに修得した専門知識やスキルを統合し、課題の解決と新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」を必修とします。さらに、デザイン学における発展的・分野横断的な学びを強化するために「特別専攻科目」を配置します。

7) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します

「総合教養科目」および「専門科目」における複数の科目で、グローバルな視点での授業を展開します。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。また、グローバルな視野をローカルな諸問題の解決に活かす力、多様性を踏まえてデザイン活動を進める力を養成するための授業を複数の科目で展開します。

2. 14. 1 感性デザイン学科の学習・教育到達目標と教育課程

■感性デザイン学科の教育目的

現代社会では、あらゆる出来事を地球的視点でとらえる必要性が増しています。例えばSDGsは、環境や均衡ある成長、資源管理などについて、地球全体で取り組む目標として設定されています。多様性のある社会の構築や防災に関わる国際協働なども、人類全体が共有する課題です。

一方、大都市圏から離れた地域にも問題は山積しています。人口の減少は地域社会、地域経済、地方の文化にとって最大の問題です。また地方と都市の格差は拡大し、青森県では若者が数千人の規模で毎年県外に移住しています。

このような社会的課題の解決にあたる人材が身につけておくべき資質こそ、デザイン力です。デザインとは、課題の解決策を創造的に提案することです。

人間は課題解決を目指すとき、必ず目的を達成するための計画を練ります。それこそデザインに他なりません。デザインは、政治・経済から人間の心理にいたるまで、様々な課題の解決や状況の改善を図る大きな役割を担っています。

モノづくりの側面でも従来とは異なるデザインの資質が必要とされるようになりました。クライアントの意向に沿ったモノを作るだけではなく、ユーザーの体験や感情を動かすデザイン、ほかの業務や仕事をしている人と力を合わせるデザインの力が求められています。もちろん複雑化したデザインプロセスを構築・完遂する力も不可欠です。

そこで感性デザイン学科では、地域をベースとしながら、「視覚伝達」「表現」「空間と立体」という三つの領域を学ぶカリキュラムを整備しました。デザイン学を修めた人に社会が期待する素養は多岐にわたり、とりわけ地域の職場では一人が多様な業務をこなさなければならないからです。また、個々の能力や関心によって、深く学ぶ領域と浅く知る領域を自由に設計してほしいと考え、コースではなく領域という区分を用いています。

私たちの教育の目的は一言でいえば、現代社会で活躍できるデザイン力を有する人材の育成ですが、これまで述べてきたようにその内容は重層的です。地球的課題や地域の課題を理解し、解決に貢献する資質と同時に、現代的なデザインに不可欠な思考方法を用いて、デザインプロセスを構築、実践できる能力も有していなければなりません。創造性やオリジナリティ豊かな作品を制作し、提案を共有する力も重要です。一人ひとりの学生の個性を尊重しながら、社会的期待に応えられる力を身につけてもらいたいと考えています。

■感性デザイン学科の学習・教育到達目標(ディプロマ・ポリシー)

感性デザイン学科では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についたと認められる学生に対し、「学士(感性デザイン)」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会への関心およびグローバルな視野
- (A-1) 総合教養的な知識と学力を修得し、地域的・地球的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける【総合教養と多面的な視野】
- (A-2) 職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を意識して行動できる素養を身につける【職業倫理と社会的な責任・役割】
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力
- (B-1) デザインに関する基本的な知識および情報リテラシーを身につける【デザインと情報リテラシー】
- (B-2) デザインの基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける【デザイン基礎・情報技術の活用】
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
- (C-1) 社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける【コミュニケーション能力の基礎】
- (C-2) 職業人として十分に通用するコミュニケーション能力を身につける【コミュニケーション能力の応用】
- (D) デザイン活動の基礎となる専門知識と能力
- (D-1) 制作活動に必要な情報機器やツール、色彩・形態・マテリアルなど造形と表現に関する基本的な知識とスキルを有し、それらをデザイン活動に応用することができる【制作に係る基礎スキル】
- (D-2) 表現活動に積極的に取り組むとともに、プレゼンテーションや作品展示に関わる基礎知識とスキルを有し、それらをデザイン活動に応用することができる【発表・展示に係る基礎スキル】
- (D-3) デザイン対象に関わる様々な事象について情報を収集しそれらを読み解き、適切なデザイン手法を採用するとともに、制作工程を管理してデザインプロジェクトを推進することができる【デザイン工程とプロジェクトの推進】
- (D-4) 実社会におけるデザイン諸活動に必要な幅広い専門知識を有し、それをデザイン活動に応用することができる【デザイン専門知識の応用】
- (E) 他者とともにデザイン活動を展開して、社会の課題解決を遂行することができる能力
- (E-1) 多様なステークホルダーとデザイン活動に関わる協働関係を構築し、他者とともにデザイン活動の成果を最大化することができる【デザイン活動の社会的展開】
- (E-2) 常に自律的にデザイン活動に取り組み、課題解決に向けて努力を継続し、デザイン活動の目標を完遂することができる【自律的な活動の実践とデザイン目標の達成】

■感性デザイン学科のカリキュラム編成方針・教育方法(カリキュラム・ポリシー)

感性デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを「キャリア教育科目」「総合教養科目」「AI・データサイエンス科目」「共創教育科目」「専門科目」「特別専攻科目」で編成します。

2) 教育課程の編成

- (1) キャリア教育科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに倫理観・規律性、社会的責任感を涵養するための科目を配置します。
- (2) 総合教養科目：幅広い視野と教養、コミュニケーション・スキルを養うため人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際 の4分野にわたる教養科目を配置します。
- (3) AI・データサイエンス科目：情報リテラシーを修得するとともに、AI技術、データサイエンスの基礎を学ぶための科目を配置します。
- (4) 共創教育科目：北東北を中心とした地域社会と科学技術についての包括的な理解を促進し、デザインと工学の分野を超えた学びを誘導する科目を配置します。
- (5) 専門科目：専門科目を「感性デザイン基礎」と「感性デザイン応用」の科目区分に大別し、さらに前者には「デザイン基礎」「情報技術」、後者には「デザイン応用」「デザイン実践」「総合演習」の各科目群を設置し、これらに各科目を分類して配置します。これら五つの科目群の概略は以下の通りです。

1) 感性デザイン基礎

- ・ デザイン基礎
専門を学習する上での基盤となる科目群です。デザインや表現に関する基礎原理とデザイン思潮や歴史についての知識の獲得、デザイン活動や作品制作に関する基礎スキルの習得を目指します。

・ 情報技術

現代のデザイナーに必要な情報技術を身につけるための科目群です。制作と自己表現に関わる情報機器やソフトウェアを活用するための知識とスキルを育成します。

2) 感性デザイン応用

・ デザイン応用

デザイン各分野における実践知と制作スキルの獲得を目指す専門科目群です。デザインプロセスを構築して、その中で作品等を完成させるまでの技術を磨きます。

・ デザイン実践

デザイン能力を実際に活用する力を身につけるための科目群です。学内外でのデザイン活動を企画・実践し、複数のデザインスキルを用いて完遂する能力を高めます。

・ 総合演習

より実践的なデザイン能力を醸成し、応用展開するための科目群です。地域での活動実践などを通じて、それまでに身につけたデザインに関する知識やスキルを応用するとともに、総合力を高めます。

- (6) 特別専攻科目：少人数による分野横断型の教育を通して高度な応用・展開能力を修得することを目的とする科目群を配置します。

3) 教育課程の実施

- (1) 必修科目・選択必修科目・選択科目を適切に配置し、デザイナーとして必ず身につけるべき共通の素養と、自らの興味・関心に基づく多様な学びをバランスよく修得できるよう配慮します。
- (2) 実習・演習などの科目では実践的な教育(PBL)を充実させ、講義で学んだ知識を活用し、さらに理解を深めて応用力を養うとともに、課題の発見から解決までのデザインプロセスを遂行できる力を養成します。また、これらの科目の修得の過程で自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップ力が身につくよう授業を運営します。
- (3) 学生の主体的・能動的な学びを促進するため、演習・実習科目はもとより講義科目についてもアクティブ・ラーニングを積極的に導入します。

4) 学修成果の評価

各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。

感性デザイン学科 開講学年別授業科目表

(令和5年度入学生以降用)

[illegible]

※注1. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

感性デザイン学科 カリキュラム・マップ

[illegible]

學習·教育到達目標

目標A		目標B		目標C		目標D				目標E			
社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野		専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力		コミュニケーション能力と国際人としての姿勢		デザイン活動の基礎となる専門知識と能力						他者とともにデザイン活動を展開して、社会の課題解決を遂行することができる能力	
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	D-3	D-4	E-1	E-2		
身に付けるべき重要な知識と学力を獲得し、地域的・地形的な視点から多面的に物事を考える素養を	職業人としての倫理観を醸成し、社会的責任と役割を意識して行動できる素養を身につける	デザインに関する基本的な知識および情報リテラシーを身につける	デザインの基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける	社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける	職業人として十分に適用するコミュニケーション能力を身につける	創造性活動に必要な情報を積極的に取りこみ、それらを「アイデア」「スキル」など表現することを通して表現に関与する基本的能力を高める。	表現活動において、美的センスを取り入れ、プレゼンテーションや作品展示に関わる基礎知識と応用技能を身につけることができる。	さまざまな事業活動における制作工程について学び、デジタルツールなどを駆使して作業を進めることができるようになる。	実社会におけるデザイン活動に必要な幅広い専門知識を有し、それをデザイン活動に応用することができる。	多岐にわたる様々な問題に対して、他者とともにチームワークを発揮しながら、最大限の成果を出すことを目指す。	自ら主体的に取り組むことのできる。問題を発見し、解決に向けて努力を継続し、デザイン活動の目的達成を目指す。		
○	◎												
○	◎												
○	◎												
	◎												
◎													
◎													
◎													
◎													
◎													
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									
				◎									

感性デザイン学科 カリキュラム・マップ

		修得因子																			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉔	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
修得因子、学習・教育到達目標との関連基準																					
◎ : 大きな相関がある ○ : 相関がある 空白 : 関連がない																					
授業科目名	開講学年学期																				
生涯スポーツ演習	第1学年後期	○				◎															
スポーツ健康学	第2学年前期	○				◎															
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期							◎			◎										
主題別ゼミナールⅡ	第2学年後期							◎			◎										
海外研修	第1学年後期								◎											◎	
AI・データサイエンス入門	第1学年後期														◎						
データアナリティクスⅠ	第2学年後期												○	◎							
データアナリティクスⅡ	第3学年前期												○	◎							
デザインと技術	第1学年前期				◎															○	
北東北八戸の地域学	第1学年後期				◎															○	
共創デザイン演習	第3学年前期	◎			○															○	
カーボンニュートラル入門	第1学年後期				◎															○	
カーボンニュートラル概論Ⅰ	第2学年前期				◎								○								
カーボンニュートラル概論Ⅱ	第2学年後期				◎								○								
感性デザイン学概論	第1学年前期	◎	○	○				○		◎	◎	○		○	○	○	○	◎	◎		
デザイン思考	第1学年前期	◎	◎	◎				○		◎	◎	◎		○	◎	◎	○	◎	◎		
図学	第1学年前期		○	○				○				○	◎	◎	◎	○	◎				
美術史	第1学年前期	◎	◎	◎	○					◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎		
デザイン史	第1学年後期	◎	◎	◎				○		◎	◎	◎		○	◎	◎	○	◎	◎		
ユニバーサルデザイン	第2学年前期	◎	◎	◎				○		◎	◎	◎		○	◎	◎	○	◎	◎		
フィールドワーク基礎	第1学年後期																				
製図	第1学年後期														◎	◎		◎			
デッサン	第1学年後期														◎	◎					
色彩学	第1学年前期														◎	◎		◎			
表現技法	第1学年前期														◎	◎		◎			
写真技術実習	第1学年後期														◎	◎					
映像制作実習	第2学年前期														◎	◎		◎			

[illegible]

感性デザイン学科 カリキュラム・マップ

修得因子、学習・教育到達目標との関連基準		修得因子																			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	
		寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
授業科目名	開講学年学期																				
工芸実習	第1学年後期												◎	◎		◎					
製造工作実習	第1学年前期												◎	◎		◎					
コンピュータ基礎演習	第1学年前期		○	○				○			○	◎	◎	◎	◎	○	◎				
アカデミックライティング	第2学年後期	○	○	○				◎		○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○		
プレゼンテーション	第1学年後期	○	○	○				◎		○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○		
CAD演習Ⅰ	第2学年前期							○					○	◎	◎		◎				
CAD演習Ⅱ	第2学年後期							○					○	◎	◎		◎				
情報メディア論	第1学年前期							○					◎	◎	◎		◎				
ビジュアルデザイン論	第2学年前期													◎	◎		◎				
タイポグラフィ	第2学年前期													◎	◎		◎				
イラストレーションⅠ	第3学年前期	○	○	○	◎					○	○	○			○	○	○	◎	○		
イラストレーションⅡ	第3学年後期	○	○	○	◎					○	○	○			○	○	○	◎	○		
Webデザイン	第3学年前期				◎			○					◎	◎	◎		◎				
広告デザイン	第3学年後期	○			◎					○	○			○	○		○	◎	○		
絵画Ⅰ	第2学年前期																◎				
絵画Ⅱ	第2学年後期																◎				
彫刻	第2学年後期													○	○		◎				
工芸学	第2学年前期													◎	◎		◎				
プロトタイピング	第2学年後期													◎	◎		◎				
プロダクトデザイン	第3学年前期	○	○	○	○			○		○	○	◎			○	○	◎	○	○		
インテリアデザイン	第3学年後期	○	○	○	◎					○	○	○			○	○	○	◎	○		
音と光デザイン	第3学年前期	○			◎					○	○			○	○		○	◎	○		
住環境デザイン	第3学年後期	◎			◎					◎	◎							◎	◎		
地域文化論	第2学年前期	◎	○	○	○			○		◎	◎	◎		○	○	○	◎	◎	◎		
地域コミュニティ論	第2学年後期	◎			◎					◎	◎			○	○		○	◎	◎		
ビジュアルデザイン演習	第2学年後期	◎								○	○	○		○	○		○	○	○		
共生社会デザイン	第4学年前期	◎			◎					◎	◎	○		○	○		○	◎	◎		

学習・教育到達目標											
目標A		目標B		目標C		目標D				目標E	
社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野		専門分野の基礎となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力		コミュニケーション能力と国際人としての姿勢		デザイン活動の基礎となる専門知識と能力				他者とともにデザイン活動を展開して、社会の課題解決を遂行することができる能力	
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	D-3	D-4	E-1	E-2
総合的な知識と学力を修得し、身につける	職業人としての倫理観を確立し、社会的責任と役割を認識して行動できる素養を身につける	デザインに関する基本的な知識および情報リテラシーを身につける	デザインの基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける	社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける	職業人として十分に活用するコミュニケーション能力を身につける	制作活動に必要な情報機器やツール、色彩・形態・マテリアルなど造形と表現に関する基本的知識とスキルを有し、それらをデザイン活動に応用することができる	表現活動に積極的に取り組むとともに、プレゼンテーションや作品展示に関わる基礎知識とスキルを有し、それらをデザイン活動に応用することができる	様々なデザインに対する関心を持ち、制作工程について情報を収集し、それを活用してデザインを創出することを目指すことができる	実社会におけるデザイン活動に必要な幅広い専門知識を有し、それをデザイン活動に応用することができる	多岐にわたるデザイン活動に関わる協働関係を構築し、他者とともにデザイン活動の成果を最大化することができる	課題を自律的にデザイン活動に取り組み、課題解決に向けて努力を継続し、デザイン活動の目標を完遂することができる
			◎			◎	○				
			◎			◎	○				
		◎	◎		○	○	○				○
			○		◎	○	◎			○	○
		○	◎		◎	○	○			○	○
		○	◎		○	◎	○				
		◎	◎		○	○	○				
			◎			◎	○				
			◎			◎	○				
			◎			○	○	○	◎	○	○
		◎	◎		○	○	○	○	◎	○	○
			○			○	○		◎	○	
						◎	◎				
						◎	◎				
			○			◎	○				
			◎			◎	○				
			◎			◎	○				
					○		○	◎	○	○	○
						○		○	◎	○	○
			○						◎	○	
			○		○			◎	○	◎	○
			○			◎	○		◎	○	
			○			◎	○	○	◎	○	
			○				○	○	◎	○	

感性デザイン学科 カリキュラム・マップ

[illegible]

学習・教育到達目標											
目標A		目標B		目標C		目標D				目標E	
社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野		専門分野の基礎となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力		コミュニケーション能力と国際人としての姿勢		デザイン活動の基礎となる専門知識と能力				他者とともにデザイン活動を展開して、社会の課題解決を遂行することができる能力	
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	D-3	D-4	E-1	E-2
社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野を身につける	職業人としての倫理観を備え、社会的な責任と役割を意識して行動できる素養を身につける	デザインに関する基本的な知識および情報リテラシーを身につける	デザインの基礎知識および情報技術を社会で活用できる力を身につける	社会人として必要なコミュニケーション能力の基礎と国際交流の素養を身につける	職業人として十分に活用するコミュニケーション能力を身につける	知的創造活動に積極的に取り組むとともに、デザイン活動に活用することができる	表現活動に積極的に取り組むとともに、プレゼンテーションや作品展示に関わる基礎知識とスキルを有し、それらをデザイン活動に活用することができる	デザイン対象に関わる様々な事象について情報を収集しそれらを読み解き、適切なデザイン手法を採るとともに、制作工程を管理してデザインプロジェクトを推進することができる	デザイン活動に必要な幅広い専門知識を有し、それをデザイン活動に応用することができる	多様なニーズを解決する「デザイン」活動に関わる協働関係を構築し、他者とともにデザイン活動の成果を最大化することができる	職業人として必要な幅広い専門知識を有し、それをデザイン活動に応用することができる
		○	○			○	○		◎	◎	
					○		○	◎	◎	◎	○
					○		○	◎	◎	◎	○
					○		○	◎	◎	◎	○
					○		○	◎	◎	◎	○
					◎		○	◎	◎	◎	◎
					◎		○	◎	◎	◎	◎
			○			○	○	◎	◎	◎	◎
	○	○	○		○	○	○	◎	◎	◎	◎
				○						◎	◎
				○						◎	◎
				○						◎	◎

感性デザイン学科 カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①寛容な心	体 育 学 感 性 デ ザ イ ン 学 概 論 デ ザ イ ン 思 考 美 術 史	生 涯 ス ポ ー ツ 演 習 デ ザ イ ン 史 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 感 性 デ ザ イ ン 特 別 演 習	ス ポ ー ツ 健 康 学 ユニバーサルデザイン 地 域 文 化 論 フ ィ ー ル ド ワ ー ク 演 習 感 性 デ ザ イ ン 総 合 演 習 Ⅰ	アカデミックライティング 地 域 コ ミ ュ ニ テ ィ 論 ビジュアルデザイン演習 企 画 構 想 演 習 感 性 デ ザ イ ン 総 合 演 習 Ⅱ
			特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	
②感動する心	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 感 性 デ ザ イ ン 学 概 論 デ ザ イ ン 思 考 図 学 美 術 史 コ ン プ ュ ー タ 基 礎 演 習	デ ザ イ ン 史 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 感 性 デ ザ イ ン 特 別 演 習	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ ユニバーサルデザイン 地 域 文 化 論 フ ィ ー ル ド ワ ー ク 演 習 感 性 デ ザ イ ン 総 合 演 習 Ⅰ	アカデミックライティング 企 画 構 想 演 習 感 性 デ ザ イ ン 総 合 演 習 Ⅱ
			特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 感 性 デ ザ イ ン 学 概 論 デ ザ イ ン 思 考 図 学 美 術 史 コ ン プ ュ ー タ 基 礎 演 習	デ ザ イ ン 史 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 感 性 デ ザ イ ン 特 別 演 習	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ ユニバーサルデザイン 地 域 文 化 論 フ ィ ー ル ド ワ ー ク 演 習 感 性 デ ザ イ ン 総 合 演 習 Ⅰ	アカデミックライティング 企 画 構 想 演 習 感 性 デ ザ イ ン 総 合 演 習 Ⅱ
			特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	
④人間環境理解力	経 済 学 デ ザ イ ン と 技 術 美 術 史	歴 史 北 東 北 八 戸 の 地 域 学 カーボンニュートラル入門 感 性 デ ザ イ ン 特 別 演 習	心 理 学 カーボンニュートラル概論Ⅰ 地 域 文 化 論 フ ィ ー ル ド ワ ー ク 演 習 感 性 デ ザ イ ン 総 合 演 習 Ⅰ	哲 学 文 学 カーボンニュートラル概論Ⅱ 地 域 コ ミ ュ ニ テ ィ 論 企 画 構 想 演 習 感 性 デ ザ イ ン 総 合 演 習 Ⅱ
⑤自己管理能力・ストレスコントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 体 育 学	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 生 涯 ス ポ ー ツ 演 習	ス ポ ー ツ 健 康 学	



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
共創デザイン演習 イラストレーションⅠ プロダクトデザイン 音と光デザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ 広告デザイン インテリアデザイン 住環境デザイン 芸術批評 インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業研究 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト		①寛容な心
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ	イラストレーションⅠ プロダクトデザイン アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	卒業研究 地域デザインプロジェクト		②感動する心
特別専攻プロジェクトⅡ				
キャリアデザインⅢ	イラストレーションⅠ プロダクトデザイン アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	卒業研究 地域デザインプロジェクト		③主体性
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ				
知的財産論 共創デザイン演習 イラストレーションⅠ Webデザイン プロダクトデザイン 音と光デザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	日本国憲法 イラストレーションⅡ 広告デザイン インテリアデザイン 住環境デザイン 芸術批評 インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業研究 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト		④人間環境理解力
キャリアデザインⅢ				⑤自己管理能力・ストレスコントロール力

感性デザイン学科 カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
⑤倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II		
⑦日本語コミュニケーションスキル	日 本 語 表 現 法 感性デザイン学概論 デ ザ イ ン 思 考 図 学 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I デ ザ イ ン 史 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 感性デザイン特別演習	実 践 日 本 語 表 現 ユニバーサルデザイン C A D 演 習 I 地 域 文 化 論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習 I	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II アカデミックライティング C A D 演 習 II 企 画 構 想 演 習 感性デザイン総合演習 II
⑧外国語コミュニケーションスキル	総 合 英 語 実 践 英 語 教 養 英 語 英 語 食 語 英 語 表 現 中 国 語 I	中 国 語 II 海 外 研 修	Global English English Communication English Reading Technical English 中 国 語 III	
⑨チームワーク力	感性デザイン学概論 デ ザ イ ン 思 考 美 術 史	デ ザ イ ン 史 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 地 域 文 化 論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習 I	アカデミックライティング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習 企 画 構 想 演 習 感性デザイン総合演習 II
			特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	
⑩リーダーシップ力	感性デザイン学概論 デ ザ イ ン 思 考 美 術 史	デ ザ イ ン 史 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 地 域 文 化 論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習 I	アカデミックライティング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習 企 画 構 想 演 習 感性デザイン総合演習 II
			特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	経 済 学 感性デザイン学概論 デ ザ イ ン 思 考 図 学 美 術 史 コンピュータ基礎演習	歴 史 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I デ ザ イ ン 史 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 感性デザイン特別演習	心 理 学 ユニバーサルデザイン 地 域 文 化 論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習 I	哲 学 文 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II アカデミックライティング ビジュアルデザイン演習 企 画 構 想 演 習 感性デザイン総合演習 II
			特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
-------	-------	-------	-------	------

キャリアデザインⅢ

職業倫理

⑥倫理観・規律性

Webデザイン
プロダクトデザイン
アートプロジェクト
インターメディア造形演習Ⅰ
感性デザイン総合演習Ⅲ

インターメディア造形演習Ⅱ

卒業研究

異文化コミュニケーション
地域デザインプロジェクト

⑦日本語コミュニケーションスキル

異文化コミュニケーション

⑧外国語コミュニケーションスキル

イラストレーションⅠ
プロダクトデザイン
音と光デザイン
メディア表現論
アートプロジェクト
インターメディア造形演習Ⅰ
感性デザイン総合演習Ⅲ
インターンシップ

イラストレーションⅡ
広告デザイン
インテリアデザイン
性環境デザイン
芸術批評
インターメディア造形演習Ⅱ
感性デザイン応用演習

卒業研究

共生社会デザイン
地域デザインプロジェクト

⑨チームワーク力

特別専攻プロジェクトⅡ

イラストレーションⅠ
プロダクトデザイン
音と光デザイン
メディア表現論
アートプロジェクト
インターメディア造形演習Ⅰ
感性デザイン総合演習Ⅲ
インターンシップ

イラストレーションⅡ
広告デザイン
インテリアデザイン
性環境デザイン
芸術批評
インターメディア造形演習Ⅱ
感性デザイン応用演習

卒業研究

共生社会デザイン
地域デザインプロジェクト

⑩リーダーシップ力

特別専攻プロジェクトⅡ

知的財産論
イラストレーションⅠ
プロダクトデザイン
アートプロジェクト
インターメディア造形演習Ⅰ
感性デザイン総合演習Ⅲ
インターンシップ

日本国憲法
イラストレーションⅡ
インテリアデザイン
インターメディア造形演習Ⅱ
感性デザイン応用演習

卒業研究

共生社会デザイン
地域デザインプロジェクト

⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力

特別専攻プロジェクトⅡ

感性デザイン学科 カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①数量的スキル	図学 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	プレゼンテーション	カーボンニュートラル概論Ⅰ C A D 演習Ⅰ	データアナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ C A D 演習Ⅱ
③情報リテラシー力	AI・データサイエンス入門 感性デザイン学概論 デザイン思考 図学 芸術学 色彩学 表現技法 製造工作実習 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	デザイン史 フィールドワーク基礎 製図学 デッサン ビジュアルデザイン論 写真技術実習 工芸実習 プレゼンテーション	ユニバーサルデザイン 映像制作実習 C A D 演習Ⅰ ビジュアルデザイン論 タイポグラフィ エ草学 地域文化論	データアナリティクスⅠ アカデミックライティング C A D 演習Ⅱ G A D 演習Ⅱ 彫刻 プロトタイピング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習
④論理的思考力	感性デザイン学概論 デザイン思考 図学 美術史 色彩学 表現技法 製造工作実習 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	デザイン史 フィールドワーク基礎 製図学 デッサン 写真技術実習 工芸実習 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 映像制作実習 C A D 演習Ⅰ ビジュアルデザイン論 タイポグラフィ エ草学 地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング C A D 演習Ⅱ 彫刻 プロトタイピング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
			特別専攻プロジェクトⅠ	
⑤問題解決力	感性デザイン学概論 デザイン思考 図学 美術史 コンピュータ基礎演習	デザイン史 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
			特別専攻プロジェクトⅠ	
⑥専門基礎原理の理解力	感性デザイン学概論 デザイン思考 図学 美術史 色彩学 表現技法 製造工作実習 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	デザイン史 フィールドワーク基礎 製図学 デッサン 写真技術実習 工芸実習 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 映像制作実習 C A D 演習Ⅰ ビジュアルデザイン論 タイポグラフィ 絵画Ⅰ エ草学 地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング C A D 演習Ⅱ 絵画Ⅱ 彫刻 プロトタイピング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子	
データアナリティクスⅡ Webデザイン メディア表現論 インターンシップ		卒業研究		①数量的スキル	
データアナリティクスⅡ Webデザイン 音と光デザイン メディア表現論 インターンシップ	広告デザイン 感性デザイン応用演習	卒業研究	共生社会デザイン	③情報リテラシーカ	
イラストレーションⅠ Webデザイン プロダクトデザイン 音と光デザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅱ インターンシップ	イラストレーションⅡ 広告デザイン インテリアデザイン インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業研究	共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	③論理的思考力	
特別専攻プロジェクトⅡ					
イラストレーションⅠ プロダクトデザイン アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ インテリアデザイン インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業研究	地域デザインプロジェクト	③問題解決力	
特別専攻プロジェクトⅡ					
イラストレーションⅠ Webデザイン プロダクトデザイン 音と光デザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ 広告デザイン インテリアデザイン インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業研究	共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	③専門基礎原理の理解力	

感性デザイン学科 カリキュラム・ツリー1(修得因子と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

修得因子	1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
①専門基礎原理の高度応用展開力	感性デザイン学概論 デザイン思考 美術史	デザイン史 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
②継続的学習力	キャリアデザインⅠ 感性デザイン学概論 デザイン思考 美術史	デザイン史 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅠ
③市民としての社会的責任感	カーボンニュートラル入門			
④異文化理解力	総合英英語 実践英英語 教養英英語 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ デザインと技術	中国語Ⅱ 海外研修 北東北八戸の地域学	Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅲ	



3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	修得因子
イラストレーションⅠ Webデザイン プロダクトデザイン 音と光デザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ 広告デザイン インテリアデザイン 住環境デザイン 芸術批評 インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業研究 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト		①専門基礎原理の高度応用展開力
キャリアデザインⅢ	イラストレーションⅠ プロダクトデザイン 音と光デザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ 特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ	卒業研究 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト		非継続的学習力
職業倫理				市民としての社会的責任感
共創デザイン演習		異文化コミュニケーション		多異文化理解力

感性デザイン学科 カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※塗りつぶしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標 A	A-1	キャリアデザインⅠ 経済学 体育学 デザインと技術	キャリアデザインⅠ 歴史学 生涯スポーツ演習 主題別ゼミナールⅠ 北東北八戸の地域学 カーボンニュートラル入門	キャリアデザインⅡ 心理学 スポーツ健康学 カーボンニュートラル概論Ⅰ	キャリアデザインⅡ 哲学 文学 主題別ゼミナールⅡ カーボンニュートラル概論Ⅱ
	A-2	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ カーボンニュートラル入門		
目標 B	B-1	国文学 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	AI・データサイエンス入門 プレゼンテーション	カーボンニュートラル概論Ⅰ C A D 演習Ⅰ	データアナリティクスⅠ カーボンニュートラル概論Ⅱ C A D 演習Ⅱ
	B-2	感性デザイン学概論 デザイン思考 図学 色彩学 表現技法 製造工作実習 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	デザイン史 フィールドワーク基礎 製図 デッサン 写真技術実習 工芸実習 プレゼンテーション	ユニバーサルデザイン 映像制作実習 C A D 演習Ⅰ ビジュアルデザイン論 タイポグラフィ 工芸学 地域文化論	アカデミックライティング C A D 演習Ⅱ 彫刻 プロトタイプイング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習
目標 C	C-1	日本語表現法 総合英語 実践英語 教養英語 英語会話 英語表現 中国語Ⅰ	中国語Ⅱ 主題別ゼミナールⅠ 海外研修	実践日本語表現 Global English English Communication English Reading Technical English 中国語Ⅲ	主題別ゼミナールⅡ
	C-2	感性デザイン学概論 デザイン思考 図学 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	デザイン史 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン C A D 演習Ⅰ 地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング C A D 演習Ⅱ 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
目標 D	D-1	感性デザイン学概論 図学 美術史 色彩学 表現技法 製造工作実習 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	デザイン史 フィールドワーク基礎 製図 デッサン 写真技術実習 工芸実習 プレゼンテーション	ユニバーサルデザイン 映像制作実習 C A D 演習Ⅰ ビジュアルデザイン論 タイポグラフィ 絵画Ⅰ 工芸学	アカデミックライティング C A D 演習Ⅱ 絵画Ⅱ 彫刻 プロトタイプイング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
キャリアデザインⅢ 知的財産論 共創デザイン演習	日本国憲法			A-1 A-2 目標A
キャリアデザインⅢ 職業倫理				
データアナリティクスⅡ Webデザイン メディア表現論 インターンシップ		卒業研究		B-1 目標B
Webデザイン 音と光デザイン メディア表現論 インターンシップ	広告デザイン 感性デザイン応用演習	卒業研究 共生社会デザイン		B-2
特別専攻ゼミナールⅠ 特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ				C-1 目標C
Webデザイン プロダクトデザイン アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ	インターメディア造形演習Ⅱ	卒業研究 地域デザインプロジェクト		C-2
イラストレーションⅠ Webデザイン 音と光デザイン メディア表現論 インターンシップ	イラストレーションⅡ 広告デザイン インテリアデザイン 感性デザイン応用演習	卒業研究		D-1 目標D

感性デザイン学科 カリキュラム・ツリー2(学習・教育到達目標と科目)

※並びつふしは大きな関連があることを表す。

学習・教育到達目標		1学年前期	1学年後期	2学年前期	2学年後期
目標D	D-2	感性デザイン学概論 デザイン思考 図学 美術史 色彩学 表現技法 製造工作実習 コンピュータ基礎演習 情報メディア論	デザイン史 フィールドワーク基礎 製図 デッサン 写真技術実習 工芸実習 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 映像制作実習 CAD演習Ⅰ ビジュアルデザイン論 タイポグラフィ 絵画Ⅰ 工芸学 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング CAD演習Ⅱ 絵画Ⅱ 彫刻 プロトタイピング ビジュアルデザイン演習 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
	D-3	美術史	感性デザイン特別演習	地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	ビジュアルデザイン演習 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
	D-4	美術史	感性デザイン特別演習	地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	地域コミュニティ論 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
目標E	E-1	デザインと技術 感性デザイン学概論 デザイン思考 美術史	北東北八戸の地域学 デザイン史 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング 地域コミュニティ論 ビジュアルデザイン演習 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
				特別専攻プロジェクトⅠ	
	E-2	感性デザイン学概論 デザイン思考 図学 美術史 コンピュータ基礎演習	デザイン史 プレゼンテーション 感性デザイン特別演習	ユニバーサルデザイン 地域文化論 フィールドワーク演習 感性デザイン総合演習Ⅰ	アカデミックライティング 企画構想演習 感性デザイン総合演習Ⅱ
				特別専攻プロジェクトⅠ	

3学年前期	3学年後期	4学年前期	4学年後期	学習・教育到達目標
イラストレーションⅠ Webデザイン プロダクトデザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ 広告デザイン インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業論文 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	卒業論文 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	D-2 目標D
イラストレーションⅠ プロダクトデザイン アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ インテリアデザイン インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業論文 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	卒業論文 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	D-3 目標D
イラストレーションⅠ Webデザイン プロダクトデザイン 音と光デザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ 広告デザイン インテリアデザイン 住環境デザイン 芸術批評 インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業論文 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	卒業論文 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	D-4 目標D
イラストレーションⅠ プロダクトデザイン 音と光デザイン メディア表現論 アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ 広告デザイン インテリアデザイン 環境デザイン 芸術批評 インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習	卒業論文 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	卒業論文 共生社会デザイン 地域デザインプロジェクト	E-1 目標E
特別専攻プロジェクトⅡ 共創デザイン演習 イラストレーションⅠ プロダクトデザイン アートプロジェクト インターメディア造形演習Ⅰ 感性デザイン総合演習Ⅲ インターンシップ	イラストレーションⅡ インテリアデザイン インターメディア造形演習Ⅱ 感性デザイン応用演習 特別専攻ゼミナールⅠ	卒業論文 地域デザインプロジェクト	卒業論文 地域デザインプロジェクト	E-2 目標E
特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅡ				

第3章

学生生活について

3. 1	健康管理	80
3. 2	学生保険	80
3. 3	学生支援センター・学生ラウンジ(学修支援室)・・・	81
3. 4	通学	81
3. 5	学生旅客運賃割引証(学割)・・・	81
3. 6	奨学制度	82
3. 7	アルバイト	82
3. 8	下宿	83
3. 9	学友会	83
3. 10	課外活動	83

3. 1 健康管理

■ 日常の健康

生活で大切なことの一つに、健康の維持・増進があります。大学生になると不規則な食生活、運動不足、睡眠不足になりがちです。バランスの良い食事を心がけ、適度な運動と十分な睡眠をとり規則正しい生活に努めてください。掃除、洗濯をまめに行い清潔な環境を保ちましょう。

また、飲酒・喫煙の機会があると思いますが、できるだけ節制し健康に留意するとともに周囲に迷惑をかけない学生生活に努めましょう。

■ 定期健康診断

毎年4月～5月に学校保健安全法に定められている健康診断を実施しています。

また、次年度卒業見込み学生を対象に就職活動のための健康診断を行っています。健康診断書が必要な学生は必ず受診してください。

健康診断の日程については、ガイダンスやActive Academy Advance(AAA)で周知しますので必ず受診してください。

■ 保健室

保健室では、けがや体調不良の場合の応急処置や健康相談に応じることができます。病気にからないうち各自予防に努める事が大切ですが、気兼ねなく教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)を訪ねてください。

■ 緊急呼出電話・ボタンについて

緊急呼出電話は、3号館2階廊下、2号館2階廊下、体育館ホールに設置しています。受話器を取ると受付と教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に繋がりますのでお話しください。

緊急呼出ボタンは、2号館2階身体障害者用トイレ内と9号館女子トイレ内、1号館1階・2階、メディアセンターおよび体育館の多目的トイレ内に設置しています。ボタンを押すと所定箇所に通知され、速やかに職員が駆けつけますので体調不良等の非常時にご利用ください。

■ マイナ保険証・資格確認証の携帯

病院で診察を受ける際にマイナ保険証(健康保険証の利用登録がなされたマイナンバーカード)や資格確認書の提示が必要です。常に携帯してください。

■ 学校医

於本章(於本病院)

八戸市大工町10番地

TEL 0178-43-4647

3. 2 学生保険

■ 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、講義や学校行事中あるいは課外活動中に不慮の事故により災害を被った時の救済制度であり、本学では大学負担で全員加入しています。その概要は、入学時に渡された「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」に記載されていますのでよく読んでください。

■ 学研災害賠償責任保険

この保険は、講義中・学校行事中・課外活動中あるいは教育実習やインターンシップ中に相手にけがをさせた、他人の物を破損したなどの賠償するための保険で任意加入となります。加入希望者は教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)で手続きをしてください。

また、教育実習やインターンシップに行く学生は必ず加入しなければなりませんので教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)またはキャリア支援チーム)の指示に従ってください。

■ 青森県交通災害共済保険

交通事故による災害を受けた方々の救済を図るための制度で、本学では通学中の配慮として大学負担で全員加入しています。24時間日本国内において自転車を含む車両が絡む事故に適用されます。

■ 事故によりけが等を被った場合や不明な点等については速やかに教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)まで申し出るか問い合わせてください。

3.3 学生支援センター・学生ラウンジ(学修支援室)

■ 本学では単に勉学のみにとどまらず、広く学生生活全体にわたって皆さんの「よろず相談」の窓口として**学生支援センター(学生相談室)・学生ラウンジ(学修支援室)**を開設しています。

スタッフは本学の教職員とカウンセラーで構成されており、皆さんと一緒に考えながら、誰にもある悩み等の解決にあたります。

また、学生支援センターでは、様々な理由で学習や研究、人間関係など学生生活において困難を感じている学生に対してサポートを行っています。困りごとがあったら気軽に相談してください。

■ さらに各学科・コース・学年毎に**学修支援担任**を配置し教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)等と連携を保ち、あらゆる相談に応じていますので、困ったことがある場合は気軽に相談してください。そして、学生生活を不安なく、有意義に過ごしてください。

3.4 通学

本学周辺には下宿、アパートが多くあり徒歩での通学が可能です。交通事情により、やむを得ず車両により通学する場合は、許可を受けてください。

■ 交通機関を利用して通学する場合

◆ 通学定期乗車券で通学する場合は、JRにについては、乗降車駅で通学証明書を購入し提出します。通学証明書は教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に申し込み、交付を受けてください。バスについては、各営業所等の窓口に備付けの申し込み用紙に必要事項を記入し、学生証を提示することで購入できます。

■ 車両を利用して通学する場合

◆ 車両(自動二輪車、四輪車)で通学を希望する学生は、許可を受ける必要があります。

・ 四輪車での通学を希望する学生は、必要書類(第7章 7.15 八戸工業大学車両通学

に関する規程を参照)を整えて教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)で許可を受けてください。許可を受けた学生には、ステッカーを交付します。学内駐車場に駐車するときは、ステッカーを四輪車でリアウインドウ助手席側の表から貼付しなければなりません。

・ 自動二輪車についても同様に許可を受け、二輪車専用駐輪場に駐車してください。

◆ 車両通学の許可を受けた場合に限り、車両での通学および学内への乗り入れを許可しています。

◆ 二輪車専用駐輪場、四輪車指定駐車場以外に駐車すると、緊急車両等の通行の妨げとなったり、交通事故発生の原因や大学周辺住民に迷惑をかけることにもなりますので、絶対に駐車場以外には駐車しないでください。また、学内の制限速度は20キロ以下ですので、制限速度を守ってください。

なお、交通事故が発生した場合は必ず教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に届け出てください。

3.5 学生旅客運賃割引証(学割)

JRを利用して旅行する場合は、学割を利用できます。学割を必要とする際は、証明書自動発行機を利用してください。

学割は、旅客鉄道株式会社(JR各社)の営業キロで100キロメートルを超える区間を乗車する際に利用できる制度です。

学割証1枚につき片道の普通乗車券を2枚まで同時に購入できます。

発行にあたっては、帰省、正課及び正課外の教育活動、就職のための受験等の目的をもって旅行する必要があると認められる場合に限り発行することができます。

有効期限は発行日から3か月です。学割の使用にあたっては、学割裏面の使用上の注意をよく読んで、規則を厳守し、使用してください。

フェリーを利用する場合は、乗船券を購入する際に学生証を提示してください。

3. 6 奨学制度

本学の学生が受けられる奨学生制度には次のようなものがあります。

■八戸工業大学特待生・奨学生制度

本学には特待生と奨学生の2種類あります。選考は、学業、課外活動等の成績が優秀な者の中から特待生は入学時、奨学生は1、2、3学年終了時に毎年選考委員会により決定されます。

但し、特待生は1、2、3学年終了時の適格審査により継続の可否が決定されますので、日頃から自己研鑽に励んでください。

また、奨学生は単年度ごとに決定されます。

■日本学生支援機構奨学生

独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて実施するものです。

日本学生支援機構の奨学金の種類は、貸与奨学金(第一種奨学金(無利子)・第二種奨学金(有利子))、高等教育の修学支援新制度(給付奨学金+授業料等減免)があります。

募集の際には、申込の資格、書類等についての説明会を開き詳しく説明します。

募集・説明会の案内等は Active Academy Advance (AAA) に掲示しますので、学生は毎日見るようにしてください。

奨学生として採用された後も、学業成績や学修状況、生活状況等を学校が確認し、その結果(認定)を定期的に機構へ報告します。

機構はその認定に基づき、奨学金継続に係る必要な措置をとります。適格認定(学業等)の結果によっては、給付奨学生としての認定を取り消したり、支給を停止することがあります。また、状況によって振込済みの奨学金について、返還を求められることがあります。

■その他の奨学生

上記のほかに地方公共団体、各種団体の奨学生があります。地方公共団体、各種団体から本学に募集案内があった際は掲示板へ掲示します。

また、地方公共団体では各自が要項を取り寄せて直接申請するものもあります。大学の記入事項、あるいは推薦書の必要がある場合には、要項を添えて教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に申し出てください。

3. 7 アルバイト

大学では、実験や実習といった授業が多く、アルバイトは勉学に支障となる場合がありますので慎重に考えてから行ってください。教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)では勉学に影響のない程度のものについては掲示で紹介しています。

教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)の紹介以外でアルバイトをする場合においても、風紀上・衛生上好ましくないもの、危険度の高いアルバイトはしないようにしてください。

3. 8 下宿

教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)では親元を離れて勉学する学生のために、下宿の紹介を行っています。下宿での生活は周囲の人達へ迷惑をかけないことが大切です。大学生らしい良識のある生活をしましょう。必要なときは紹介を受けてください。部屋はいずれも個室となっており、下宿料は地域や部屋の新旧、設備等によって異なりますが、概ね次のとおりです。ただし、光熱費は別です。

部屋の広さ	下宿料(2食付)
6畳以上	46,000円～

ゴミの出し方には居住する地区によりルールがあります。

階上町 収集日、場所が決まっている。不燃物、可燃物を分類して出す。透明な袋を使用する。等々

八戸市 収集日、場所が決まっている。不燃物、可燃物を分類して出す。

八戸市指定ごみ袋(有料)を使用する。等々地域住民に迷惑をかけないようルールを守ってゴミを出すようにしてください。

3. 9 学友会

学友会とは、学生相互の親睦を深め、課外活動の運営に当たります。下部組織に「体育会」と「文化会」があります。

全学生が会員となり、教職員は特別会員として学友会を支援します。

学友会の活動としては、部活動紹介、新入生歓迎会、桜花展、体育祭、東北地区大学総合体育大会、工大祭、彩才祭、リーダーズ研修会等があり、毎年課外活動で優れた業績を収めた個人や団体へ表彰を行っています。

こうした学友会活動に積極的に参加し、多くの学生や教職員と交流を深めることは、人間力を高め、自身の成長につながるとともに、就職活動等にも大いに役立ちます。

3. 10 課外活動

大学教育の中で正課授業とともに重要な教育的意義をもつのが課外活動です。この活動を通じて、協調性、忍耐力などを養成し、また、たくさんの友人をつくり、より楽しい学生生活が送れるものと思います。

学生が中心になって自主的に行われる課外活動には、体育会所属の体育スポーツ系、文化会所属の文化芸術系あわせて約60団体あり、学内外において活発に活動しています。

■学友会団体への入部、入会

本学の課外活動への入部、入会に関しては、入学式後のガイダンス時に行われるクラブ紹介と掲示等による勧誘が行われますので、自分の適性や趣味、希望等をよく考え、加入してください。

■団体の結成、継続、廃部など

新しい団体の結成を希望する学生は、**団体結成願**の用紙に必要事項を記入のうえ、教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)へ申し出てください。また、各団体は毎年度始めに**団体継続届**を提出しないと廃部、廃会となりますので注意してください。解散する場合は**団体解散届**を教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)へ提出してください。

■サークルの紹介(2026年4月)

体育会(24団体)

団 体 名	顧問(部長)	監 督	コーチ	部員数	主な活動
ソフトテニス部	高 橋 晋	茨 島 涼	寺 井 孝 男 姥 名 魁	21	2019、2025 全日本大学選手権出場 2021-2023 県下インドアソフトテニス選手権大会ダブルス優勝 第78回東日本学生ソフトテニス選手権大会女子ダブルス出場 第78回三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会女子ダブルス、男子シングルス、女子シングルス出場 2023.F.Challenge Cup 団体戦優勝 2024-2025 県下ソフトテニス選手権大会ダブルス優勝 2024 第47回宮城学生ソフトテニス新人選手権大会男子ダブルス準優勝
男子バスケットボール部	皆 川 俊 平	大 山 和 弘	和 田 喜 美 夫	11	2021 東北大学バスケットボールリーグ出場 2022-2023 北奥羽地区大学春季バスケットボール大会出場 2023-2025 東北大学バスケットボールリーグ兼東北大学バスケットボール選手権大会出場 2024-2025 東北大学春季バスケットボール大会出場 2024-2025 第45回青森県大学バスケットボール大会出場 2025 東北地区大学体育大会(バスケットボールの部) 出場
アイススケート部	竹 内 貴 弘	佐 々 木 宏 本 間 貴 士	関 川 康 介 土 田 夏 海	12	2003-2005、2008-2014、2019-2025 インカレ出場(ホッケー部門) 2013 インカレベスト8(ホッケー部門) 2012、2014-2015 全日本選手権出場(フィギュア部門) 2022 東北地区学生アイスホッケー選手権大会準優勝 2023-2025 東北地区学生アイスホッケー選手権大会3位
ボクシング部	高 橋 晋	大 塚 哲		1	
硬式野球部	阿 波 稔 大 室 康 平	山 下 繁 昌	外 里 健 太 寺 下 弘 丈 神 広 丈	48	北東北大学野球秋季2部リーグ戦 優勝(2021)、準優勝(2022-2025) 北東北大学野球春季2部リーグ戦 優勝(2022)、準優勝(2023-2024)、3位(2025) 2022、2024 大館トーナメント ベスト4
サッカー部	金 子 賢 治 伊 藤 智 也	本 多 進 司	風 張 洋 佑	14	2016 青森県大学・高専サッカーリーグ出場 2017-2018 東北地区大学サッカーリーグ2部出場 2023 北里大学交流戦
男子硬式庭球部	折 田 久 幸			4	2019 第23回青森県学生テニス選手権大会出場 2021 春季シングルステニス選手権大会8級個人準優勝 2021 青森県春季ダブルステニス選手権大会ベスト4 2021 青森県学生テニス選手権大会ダブルス準優勝 2021-2022 全日本大学対抗テニス王座決定試合東北地区大会出場
ソフトボール部	小 藤 一 樹		小 嶋 高 良		
バドミントン部	宮 腰 直 幸	宮 腰 直 幸		10	
卓球部	塩 入 彬 允	塩 入 彬 允	夏 坂 光 男 姥 名 昭 人 坂 本 真	27	2003-2007、2009-2023、2025 インカレ出場 2004-2006、2009-2017、2019-2025 全日本大学選手権大会出場 2021 全日本学生卓球選手権大会(団体の部) ベスト16 2022 東北学生卓球連盟秋季リーグ戦(団体) 3位 東北学生卓球連盟春季リーグ戦(団体) 優勝(2021、2022、2025(女子))、準優勝(2023)、3位(2025(男子)) 青森県卓球選手権大会 男子シングルス優勝(2025)、女子シングルス優勝(2024、2025)、男子・女子シングルス2位(2025)、男子シングルス3位(2025)、女子シングルス3位(2024、2025)
バレーボール部	金 子 賢 治	黒 滝 泰 世	竹 本 成 喜 小 西 孝 則 黒 田 昭 弘 向 拓 斗	29	2002-2006、2008-2010、2013、2015、2017、2023、2025 インカレ出場 2020-2022 青森県大学バレーボール選手権大会 優勝 2022 東日本バレーボール大学選手権大会 ベスト16 2022 天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 出場 2023-2024 東日本バレーボール大学選手権大会出場 2023-2025 青森県一般男女6人制春季バレーボール選手権大会 兼特別国民体育大会バレーボール競技成年の部青森県予選会優勝 2022-2024 天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会青森県ラウンド 優勝 2024 第63回東北バレーボール大学男女リーグ戦 3位 2025 東北バレーボール大学男女リーグ戦(第65回2位(初)、第66回優勝(初))
柔道部	佐 藤 手 織	佐 藤 手 織		1	2024 第65回全日本理工科学生柔道優勝大会個人戦:有段の部軽量部門 3位
ラグビー部	高 橋 史 朗	中 村 優 孝			第70回東北地区大学体育大会ラグビー競技の部出場 第46回東北総合体育大会県代表1名出場
陸上競技部	皆 川 俊 平	皆 川 俊 平		3	2019 第68回青森県秋季陸上選手権大会 2020 あおり秋季チャレンジ記録会出場 2021 第76回国民体育大会陸上競技青森県選手選考会決勝進出
空手道部	鮎 川 恵 理		吉 田 聖	6	2020 県内大会出場 2021 第19回東北学生空手道選手大会出場 2022 全国防具付き空手道選手権大会(東京) 形の部一般男子 ベスト4 2025 第38回全日本理工系学生空手道選手権大会:女子組手 3位

団 体 名	顧問(部長)	監 督	コーチ	部員数	主な活動
アーチェリー部	鈴 木 寛	桂 山 清 美	田 中 二 郎	4	2012-2014、2017、2023.全日本学生アーチェリー個人選手権出場 2019.第51回東北学生アーチェリー王座決定戦団体3位 2021、2024.東北学生アーチェリー秋季選手権大会個人準優勝 2022.東北学生アーチェリーインドア選手権大会ベスト4 2023.全日本学生アーチェリー-東日本大会出場 2023.東北学生アーチェリー秋季選手権大会 3位 2023-2024.全日本学生室内アーチェリー個人選手権大会出場 2024.東北学生アーチェリーインドア選手権大会 3位
女子硬式庭球部	川守田 礼子				
剣道部	阿 波 稔			5	
山岳部	鮎 川 恵 理			6	登山(階上岳、早地峰山、八甲田山、岩手山、鳥海山、那須岳、磐梯山、赤沼ほか)
女子バスケットボール部	皆 川 俊 平	赤坂 友貴奈	五十嵐 七果		
軟式野球部	花 田 一 磨			17	2021-2023.全日本大学軟式野球選手権大会奥羽地区予選 優勝 2021.第1回全日本大学軟式野球選抜大会Summer Cup出場 2021-2023.全日本大学軟式野球選手権大会出場 2024.全日本大学軟式野球選手権大会奥羽地区予選 ベスト4
弓道部	西 尾 洸 毅	西 尾 洸 毅	加 藤 正 和	4	2016.東北地区大学体育大会決勝進出 2017.県内外大会出場
ビリヤード部	鈴 木 寛	鈴 木 寛		22	2019.スプリングカップCクラス準優勝 2022.最強ペア対抗戦 FUYU 5位 2023.最強ペア対抗戦 HARU 準優勝 2023.第6回青森県ビギナー・C級戦昇竜戦 優勝 2025.青森県ビギナー・C級戦 昇竜戦 優勝、準優勝、3位
サイクリング部	田 中 義 幸			11	2017.種差海岸日帰りライド 2017.東北ロングライド 2024.チャレンジヒルクライム岩木山2024出場 2024.八幡平ヒルクライム2024出場 2025.盛岡自走&岩大交流ライド

文化会(15団体)

団 体 名	顧 問	副顧問	コーチ	部員数	主な活動
美術研究部	高 橋 史 朗	五十嵐 七果		18	桜花展・工大祭・彩才祭参加 防潮堤壁面制作プロジェクト
吹奏楽部	安 部 信 行			16	工大祭・彩才祭参加、クリスマス会、さくら幼稚園運動会演奏・ボランティア、入学式・学位記授与式における演奏、八戸ポータルミュージアムはつら・ポップスコンサート 2023.世界一周フェスタ(六ヶ所原燃PRセンター)
映像研究部	宮 腰 直 幸			16	2019.ローカルヒーロー祭に出場(千葉市) 2019.ローカルヒーロー博覧会に出場(大宮市) 2020.東北英雄阿呂流為ヒーローショーを開催
軽音楽部	佐 藤 学	濱 田 信 吾		30	2018.ミュージックレビュー八戸本大会出場 2018.BAND WARD (ファイナルステージ進出) 2019.日本一のなりきり音楽祭出場 2023.J-POPS LIVE (ハワーステーションA7) 2023.ソラロップVol.5 (マチニフ) 2021-2025.新入生歓迎コンパ・工大祭・クリスマスイベント参加 2025.八戸三社大祭後夜祭お祭り広場ステージ企画出演
情報科学研究部	小 玉 成 人			10	2017.東北TECH道場参加
グラフィック研究部	小 久 保 温			34	桜花展・工大祭・彩才祭参加
動力研究部	工 藤 祐 嗣	黒 滝 稔		18	手作り自動車部燃費競技大会大学部門 優勝(2011-2013、2015-2017、2023、2024(3号車))、準優勝(2024(1号車)) 2017.電気自動車エコラン競技大会in SUGO大学部門3位 Hondaエコマイル3チャレンジもてぎ大会 大学・高専・専門学校クラス 優勝(2021、2025(One Flat号))、準優勝(2023)、3位(2025(STD号))、4位(2024(1号車)) 2021.Ene-1GP KV-40チャレンジ 全国大会 大学・高専・専門学校クラス6位 Ene-1 MOTEGI GP 4位(2022)、6位(2024:Div Next b、Div1 bクラス2台) 2022-2025. Hondaエコマイル3チャレンジ 全国大会出場 2024.World Electric Vehicle Challenge in NATORI 大学・高専・専門学校クラス(2台出場) 優勝、準優勝 2025.World Electric Vehicle Challenge in EBISU 大学 WEMオープン学生部門(2台出場) 3位、4位
自動車部	工 藤 祐 嗣	浅 川 拓 克		13	2023.ジャパン・オフロードレース2023 シーズン1 2023.オートテストチャレンジ in MSP 2025.ジャパン・オフロードレース2025 シーズン1〜シーズン4参戦
ゲーム研究部	伊 藤 智 也	齊 藤 克 治		32	桜花展・工大祭・彩才祭参加 2023.盛岡ボードゲームクラブゲーム大会 2023.味増蔵Xボードゲーム 2024.「もりおかカタン2024vol.2」×「もりおかボードゲーム交流会」 Aクラス3位、Bクラス4位 2024.カタン2024公式日本選手権関東地区大会出場

団 体 名	顧問	副顧問	コーチ	部員数	主な活動
将棋部	田 中 義 幸			1	2017.職域愛好団体将棋大会Cクラス準優勝 2018.随上場所将棋大会参加決勝トーナメント進出
ADL(建築デザイン研究会)	小 藤 一 樹			31	2017.八戸市まちづくり助成市長賞受賞 2019.木匠塾に参加ゴルフ場内にベンチ4脚作成 2021-2023.「木の家設計グランプリ」学生設計コンペ 2022-2023.八戸市新美術館の建築探訪と名作建築模型制作 2023.建築×土木コース公開講座「家づくりフォーラム：小学生の建築模型づくり体験」でのワークショップ 2024.青森県立美術館「フランクロイドライト展」の建築探訪を実施 2024.日本建築学会全国卒業設計展での展示
漫画研究部	宇野 あずさ			3	工大祭・彩才祭参加 八戸ブックセンターへZINE配布協力
ICT研究部	伊 藤 智 也			8	工大祭・彩才祭参加
鉄道研究部	信 山 克 義			13	八戸市制施行90周年記念特別展 2023-2025.青少年のための科学の祭典八戸大会 2022-2025.鉄道開業150周年『鉄道の日』記念イベント「青森県に特化したジオラマ」を出版 2023.特別展「八戸昭和の鉄道・バス 2023.三沢駅周辺の動画撮影 2024.野辺地駅周辺の動画撮影 2025.JR八戸線沿線のPR動画撮影、浅虫周辺の動画撮影 2025.JR八戸駅における鉄道ジオラマの展示 工大祭・彩才祭参加
DTM研究部	小 玉 成 人	桶本 まどか		6	工大祭・彩才祭参加

愛好会／研究会(18団体)

団 体 名	顧問	副顧問	コーチ	部員数	主な活動
フットサル研究同好会	小 玉 成 人	伊 藤 智 也			工大祭参加
NU vivance(ストリートダンス愛好会)	安 部 信 行			5	2017.KING OF COLLEG 2017 大学アレクダダンス日本一決定戦チーム3位 2017.EasternBGroove Vol.2 フリースタイルダンスバトルCrew Battle 部門優勝 2018.ストリートダンスライブinオンモル下田 2021-2024.新人生歌迎会、学園祭、学園祭、クリスマス会
文芸愛好会	小 玉 成 人	齊 藤 克 治 正部家 真由		6	桜花展・工大祭・彩才祭参加 2020-2022.デューラー東北新春短編小説個人入賞
茶道愛好会(茶々-SA SA-)	川守田 礼子			2	工大祭・彩才祭参加
SKATE BOARD愛好会	鈴木 拓 也				
プラモデル研究会	花 田 一 磨			3	桜花展・工大祭・彩才祭参加
メカトロニクス研究会	日 影 学 本 波 洋	篠 塚 智		6	第18回科学で遊ぶinうらピア参加
サバイバルゲーム同好会	鈴木 拓 也			18	工大祭参加
キックボクシング愛好会	安 部 信 行			6	
ライトフィッシング同好会	竹 内 貴 弘			6	
宇宙工学同好会	佐々木 崇徳				
自転車競技愛好会	太 田 勝 福 岡 直				
3次元愛好会	齊 藤 克 治				工大祭参加
自然アウトドア愛好会	杉本 振一郎				部内釣り大会
ゆるボラ・国際ボランティア同好会	宇野 あずさ			10	2024.「八戸子ども日本語支援の会」ボランティア活動による貢献 2024.2024年度学生チャレンジプロジェクト採択
ボウリング愛好会	本 田 洋 之			8	2025.NHK杯第58回全日本選抜ボウリング選手権大会出場 2025.第47回東北社会人ボウリング選手権大会 成年女子 15位 /33人 2025.第58回全日本新人ボウリング選手権大会 成年女子 19位 /41人 2025.内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯 第54回全国都道府県対抗ボウリング選手権大会 男女混合2人チーム戦37位 /75チーム、男女混合4人チーム戦11位 /38チーム、女子個人総合29位 /77人 2025.青森県年齢別ボウリング選手権大会(19歳以下の部) 5位
麻雀研究会	小 久 保 温			3	
自然観察会	星 野 保			7	2025.東北大学植物園八甲田分園の観察会 2025.種差海岸のゴミ拾い活動 工大祭参加

第4章

進路・資格について

4. 1 就職	88
4. 2 進学	88
4. 3 資格	88
4. 3. 1 工学部	89
4. 3. 2 感性デザイン学部	89
4. 4 同窓会	104

将来の進路として、一般企業、公務員あるいは教員などの就職と、大学院への進学があります。就職の決定にあたっては、各学科・コースの修学支援担任、就職担当教員そして教育・学生支援部（キャリア支援チーム）が相談に応じますので、気軽に相談してください。進学については、教育・学生支援部（教務・学生支援チーム）が窓口になっています。資料がありますので利用してください。

4.1 就職

■キャリア教育

工学部・感性デザイン学部ともに、1年次から3年次まで「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の科目が設けられており、変化の激しいこれからの社会で主体的に生きる力を養成することを目指しています。講義では、ラーニング・ポートフォリオを利用して、学期開始時に学修計画を定め、学期終了時に振り返りを行うことで、自己省察サイクルを回し、自ら学習改善を進める姿勢を学びます。また、自己分析・適性検査など自己理解を進め、職業理解に関する講義、講演会など社会に出て仕事をすることへの意識づけ、動機づけも行います。

■就職支援・就活サポート

各学科・コースの教員と教育・学生支援部（キャリア支援チーム）スタッフが連携して、就職に関する支援を行います。教育・学生支援部（キャリア支援チーム）では、関連各種情報の提供に加え、就職相談、履歴書・エントリーシートの添削、面接練習などに対応しています。就職支援行事として、学内合同就職説明会や企業で活躍する社会人やOB・OGによる講演会をはじめ、公務員試験対策講座、SPI等の対策講座、就活対策セミナー等も開催し、卒業後の進路選択のための様々な情報提供・機会提供を行っています。

また、本学学生限定の学内就職情報検索システムを設け、求人情報のほか、インターンシップ情報、就活に関するイベント情報、卒業生からのメッセージなど様々な情報をWeb上で公開・提供しています。

さらに、就職や進路・就労に対する不安や疑問には外部の機関と連携し、細やかな支援体制を整えています。

4.2 進学

学部までの知識をさらに深めるために、大学院への進学を考えている人も多いと思います。本学の大学院は、機械・生物化学工学専攻、電子電気・情報工学専攻および社会基盤工学専攻の3専攻からなっています。この大学院の3専攻と工学部工学科5コースの関係は、機械・生物化学工学専攻は機械工学コースおよび生命環境科学コース、電子電気・情報工学専攻は電気電子通信工学コース、システム情報工学コース、社会基盤工学専攻は建築・土木工学コースと関連性が強く、どのコースに在籍しても本学大学院への進学の道が開かれています。また、他の大学の大学院へ進学する場合もあります。

大学院進学では専門科目と語学に関する入学試験がありますので、入学試験科目に合わせた履修計画を立て十分学力を養っておく必要があります。本学の大学院においては、大学院入学試験に関する説明会などを適時行っておりますので、大学院進学を考えている人は出席して入学試験の概要を把握しておくことが必要です。

4.3 資格

ここで示す卒業後に取得できる資格には、①卒業と同時に取得できるもの、②卒業後に所定期間の実務経験後取得できるもの、③卒業後実務経験を経て受験資格が生まれ試験合格後取得できるものなど、さまざまな取得手続き様式があるので注意してください。各自で申請することを原則としています。不明な点があるときは修学支援担任に相談してください。

4. 3. 1 工学部

■教育職員免許状

教育課程内に定めた単位を修得し本学を卒業すると、機械工学コース、電気電子通信工学コース、システム情報工学コース、生命環境科学コース、建築・土木工学コースにおいて高等学校教諭一種免許状(工業)を、システム情報工学コースにおいては高等学校教諭一種免許状(情報)が取得することができます。詳しくは第7章「八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程」を参照してください。

4. 3. 2 感性デザイン学部

■教育職員免許状

教育課程内に定めた単位を修得し本学を卒業すると、感性デザイン学科において中学校教諭一種免許状(美術)および高等学校教諭一種免許状(美術)および(工芸)を取得することができます。詳しくは第7章「八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程」を参照してください。

■機械工学コース

機械工学コースを卒業後に得られる資格は数多くありますが、ここにはその一部を紹介します。

大 分 類	資 格 名
在学中の取得を支援する 主な資格	技能士(3級、2級、機械保全、機械加工) 機械設計技術者(3級)
所定の単位を取得し、 卒業と同時に得られる資格	高等学校教諭一種免許状(工業) 技術士補(機械工学プログラム修了者)
所定の単位を取得して卒業後、 実務経験を経て受験資格を得られる資格	ボイラー・タービン主任技術者 管工事施工管理技士 特級ボイラー技士
特定の教科の単位を取得することによって、 試験の一部が免除される資格	自動車整備士(二級ガソリン)(自動車工学プログラム 修了者)

■電気電子通信工学コース

(1)電気主任技術者

本学電気電子通信工学コースにおいて、指定された科目の単位を修得して卒業した者は、表2の実務経験により電気主任技術者の免状交付申請資格が得られる。指定された科目は表1に示す通りである。

表1 関係学科の区分別学科目一覧表

※表中の「◎科目」の単位は、すべて修得すること(卒業要件とは異なる)。

■は本コースの必修科目を意味する

区 分	学 科 目	単 位	区 分	学 科 目	単 位
1. 電気電子理論 ※◎科目他に ○科目から6単 位以上修得す ること	◎科目	電 磁 気 学 I ②	3. 電気利用等 ※◎科目他に ○科目から4単 位以上修得す ること	◎科目	電 気 機 器 工 学 2
		電 磁 気 学 II ②			パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ュ ス 2
		電 磁 気 学 演 習 I ①			制 御 工 学 2
		電 磁 気 学 演 習 II ①		○科目	電 気 利 用 工 学 2
		電 気 回 路 I ②			セ ン サ ー 応 用 工 学 2
		電 気 回 路 II ②			現 代 制 御 工 学 2
		電 気 回 路 演 習 I ①			情 報 通 信 工 学 II 2
		電 気 回 路 演 習 II ①			情 報 メ デ ィ ア 工 学 2
		計 測 工 学 ②	4. 実験・実習	◎科目	通 信 ネ ッ ト ワ ー ク 工 学 2
	○科目	電 子 回 路 I ②			創 造 工 学 実 験 ②
		電 子 回 路 II 2			電 気 電 子 通 信 基 礎 実 験 ②
		半 導 体 工 学 2			電 気 エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 実 験 2
2. 電力発生輸送 ※◎科目他に ○科目から4単 位以上修得す ること		情 報 通 信 工 学 I 2			電 子 情 報 通 信 シ ス テ ム 実 験 2
		電 磁 波 工 学 2	5. 電気設計製図	◎科目	電 気 電 子 設 計 製 図 2
	◎科目	電 力 発 生 工 学 2			
		電 力 輸 送 工 学 2			
		電 気 法 規 と 電 気 施 設 管 理 2			
	○科目	高 電 界 工 学 2			
		電 気 電 子 材 料 工 学 2			
		原 子 燃 料 サ イ ク ル ・ 安 全 工 学 2			

(備考) 以下の内容は、卒業後免状交付申請を円滑に進めるために重要な内容となっているので、必ず熟読すること。なお、免状交付を行うにあたり、実務経験が必要となる。

- ① 卒業後に、科目等履修制度によって不足単位を補充でき、卒業後3年以内に修得した単位のみ認められる。ただし、単位不足を補充できる科目は、表1の区分1. ～5. ごとに1科目である。
- ② 不足している科目に相当する電気主任技術者試験に合格することにより不足単位を補うことができる。

表2 実務経験年数

免状の種類	実務の経験	
	実 務 の 内 容	経 験 年 数
第1種電気主任技術者	電圧5万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が5年以上
第2種電気主任技術者	電圧1万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が3年以上
第3種電気主任技術者	電圧500ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が1年以上

(最終改正平成5年12月)

電気主任技術者について

電気保安の確保の観点から、電気事業法により、事業用電気工作物(電気事業用及び自家用電気工作物)の設置者(所有者)には、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督をさせるために、電気主任技術者を選任しなければならないことが義務付けられている。

電気主任技術者は、国家資格の中でも評価が高く、有資格者がまだ少ない状況のため、電気主任技術者資格を持てば職場でも責任ある地位が与えられる。また、電気主任技術者に対して資格手当を与える企業が数多くある。

電気主任技術者の資格には、免状の種類により第一種、第二種及び第三種電気主任技術者の3種類があり、電気工作物の電圧によって必要な資格が定められている。

まずは、第三種電気主任技術者試験から挑戦してほしい。

事業用電気工作物

電圧が17万ボルト以上の電気工作物	電圧が5万ボルト以上 17万ボルト未満の電気工作物	電圧が6万ボルト未満の電気工作物 (出力5キロワット以上の発電所を除く)
例) 上記電圧の発電所、変電所、送配電線路や電気事業者から上記電圧で受電する工場、ビル等の需要設備	例) 上記電圧の5キロワット未満の発電所や電気事業者から上記電圧で受電する工場、ビル等の需要設備	
		第三種電気主任技術者
		第二種電気主任技術者
		第一種電気主任技術者

第三種電気主任技術者試験について

第三種電気主任技術者試験(通称:電験三種)は筆記試験のみである。

「理論」、「電力」、「機械」及び「法規」の4科目があり、各科目の解答方式はマークシートに記入する五肢択一方式により行う。科目合格制なので、有効期限の3年間を使って勉強する方法もとれる。

試験は年2回8月下旬と3月下旬に実施され、最寄りの試験会場は青森県(青森市)、岩手県(盛岡市、滝沢市)となる。受験についての詳細は、(一財)電気技術者試験センターのホームページを参照してほしい。

(一財)電気技術者試験センター <https://www.shiken.or.jp/>

電気主任技術者の免状交付申請資格を得るための履修の流れ

区分	分野	2年		3年		4年		免状交付申請資格を得る条件	区分
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	専門基礎	電磁気学Ⅰ 電磁気学演習Ⅰ 電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ	電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ 電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ					左の科目すべてを修得	1. 電気電子理論
	電気エネルギーシステム系		電力発生工学	電力輸送工学	電気機器工学 パワーエレクトロニクス 電気工学	電磁波と電磁気回路 電気利用工学		左の科目すべてを修得	2. 電力発生輸送 3. 電気利用等
	原子力工学							左から2単位以上を修得	2. 電力発生輸送
	情報・通信・メディア系			情報通信工学Ⅰ 情報メディア工学	情報通信工学Ⅱ 通信ネットワーク工学 センサー応用工学	電磁波工学	計測工学を修得	左の科目すべてを修得	1. 電気電子理論 3. 電気利用等
	電子デバイス・システム制御系		計測工学 電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ 電気電子材料工学 制御工学	電子回路Ⅱ 電気電子材料工学 現代制御工学	半導体工学 電子回路Ⅱ 電子回路Ⅲ 電子回路Ⅳ			左の科目すべてを修得	1. 電気電子理論 2. 電力発生輸送 3. 電気利用等
実 験 ・ 製 図 研 究 等	実験・製図・研究等	製造工学実験	電気電子回路実験	電気電子回路実験	電子回路Ⅳ	電磁波工学		左の科目すべてを修得	4. 実験・実習
						電磁波工学		左の科目すべてを修得	5. 電気設計製図

注1:  電気電子通信工学コースの必修科目  免状交付資格を得るための必修科目  選択科目

(2) 第二種電気工事士

本学電気電子通信工学コースにおいて、指定された科目の単位を修得して卒業した者は、第二種電気工事士試験の筆記試験が免除となる。指定された科目は下表3に示すとおりである。

なお、電気主任技術者免状を有している者においても筆記試験が免除となる。

表3 区分別学科目一覧表

※表中の単位は、すべて修得すること(卒業要件とは異なる)。■は本学科の必修科目を意味する。

区 分	学 科 目	単 位	区 分	学 科 目	単 位
1. 電気理論	電磁気学Ⅰ	②	3. 電気機器	電気機器工学	2
	電磁気学Ⅱ	②	4. 電気材料	電気電子材料工学	2
	電磁気学演習Ⅰ	①	5. 送配電	電力輸送工学	2
	電磁気学演習Ⅱ	①	6. 製図	電気電子設計製図	2
	電気回路Ⅰ	②	7. 電気法規	電気法規と電気施設管理	2
	電気回路Ⅱ	②			
	電気回路演習Ⅰ	①			
	電気回路演習Ⅱ	①			
2. 電気計測	計測工学	②			

(備考) 卒業後に、科目等履修制度によって不足単位を補充できる。

電気工事士試験について

電気工事士として、第一種と第二種の2種類の資格がある。第二種の資格では一般住宅や店舗などの600ボルト以下で受電する設備の、第一種の資格では第二種の範囲と500キロワット未満の需要設備の、それぞれの工事が出来る。

試験は、四肢択一方式でマークシートに記入する筆記試験と、実技による技能試験との2段階で行われる。筆記試験の合格者はその年と次の年の2回、技能試験に挑戦する権利(次の年は、筆記試験免除者として技能試験を受験する。)がある。

試験は、都道府県毎に1ヶ所以上(青森県だと青森市)の試験会場で実施される。

第二種電気工事士の場合、筆記試験は毎年、上期は6月初旬頃、下期は11月初旬頃に実施される。また、技能試験は上期は7月下旬頃、下期は12月下旬頃に実施される。

第二種電気工事士試験は、電気系国家資格の中でも比較的取得しやすい資格であり、高校生でも数多く取得している。したがって、在学中に積極的に受験することを勧める。

第一種電気工事士の場合、筆記試験は毎年10月初旬頃に、また、技能試験は12月上旬頃に実施される。

第一種電気工事士試験は、学校卒業による筆記試験の免除はないが、電気主任技術者免状を有している者は筆記試験が免除となる。第二種電気工事士免状を有している者は、在学中に積極的に受験することを勧める。

受験についての詳細は、(一財)電気技術者試験センターのホームページを参照してほしい。

(一財)電気技術者試験センター <https://www.shiken.or.jp/>

第二種電気工事士試験の筆記試験免除を得るための履修の流れ

(令和7年度入学生用)

区 分	分 野	2 年 期		3 年 期		4 年 期		区 分	筆記試験免除となる条件
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
専 門 基 礎 電 気 エネルギー シ ス テ ム 系 電 子 デバイス・ シ ス テ ム 制御系 実 験・製 図・研 究 等	専 門 基 礎	電 磁 気 学 Ⅰ	電 磁 気 学 Ⅱ					1. 電気理論	左 記 の 科 目 す べ て 修 得
		電 磁 気 学 演 習 Ⅰ	電 磁 気 学 演 習 Ⅱ						
		電 気 回 路 Ⅰ	電 気 回 路 Ⅱ						
		電 気 回 路 演 習 Ⅰ	電 気 回 路 演 習 Ⅱ						
					電 気 機 器 工 学				
	電 子 デバイス・ シ ス テ ム 制御系			電 力 輸 送 工 学				3. 電気機器	
						電 気 法 規 と 電 気 施 設 管 理		5. 送配電	
								7. 電気法規	
	実 験・製 図・研 究 等		計 測 工 学	電 気 電 子 材 料 工 学				2. 電気計測	
							電 気 電 子 設 計 製 図	4. 電気材料	
								6. 製図	

注: (■) 電気電子通信コースの必修科目 (○) 筆記試験免除となるための必修科目

電気通信主任技術者

本学電気電子通信工学コースにおいて指定された科目の単位を修得した者は、電気通信主任技術者資格試験のうち、試験科目「電気通信システム」の試験が免除される。指定された科目は表4に示すとおりである。

表4 電気通信主任技術者試験の一部科目免除となるための指定科目一覧

(令和4年度以降の入学生に適用)

科 目		必要時間数	科 目	授業時間数 時間／単位	科目免除の対象となる条件
基礎 専門 教育 科目	数 学	60	○ 微 分 積 分 ○ 線 形 代 数 ○ 電 気 回 路 入 門 ○ 電 気 電 子 数 学 I	30／2 30／2 30／2 30／2	左から2科目以上を修得
	物 理 学	60	○ 基 礎 物 理 学 I ○ 基 礎 物 理 学 II	30／2 30／2	左の科目を修得
	電 磁 気 学	60	○ 電 磁 気 学 I ○ 電 磁 気 学 II ○ 電 磁 気 学 演 習 I ○ 電 磁 気 学 演 習 II	30／2 30／2 15／1 15／1	左の科目を修得
	電 気 回 路	60	○ 電 気 回 路 I ○ 電 気 回 路 II ○ 電 気 回 路 演 習 I ○ 電 気 回 路 演 習 II	30／2 30／2 15／1 15／1	左の科目を修得
	電 子 回 路	60	○ 電 子 回 路 I 電 子 回 路 II 半 導 体 工 学	30／2 30／2 30／2	左から2科目以上を修得
	デジタル回路	30	論 理 回 路	30／2	左の科目を修得
	情 報 工 学	30	コンピュータプログラミング	30／2	左の科目を修得
	電 気 計 測	60	○ 計 測 工 学 センサ－応用工学	30／2 30／2	左の科目を修得
専 門 教 育 科 目	伝送線路工学	－	情 報 通 信 工 学 I	30／2	左の科目を修得
	交 換 工 学	－	情 報 通 信 工 学 II	30／2	左の科目を修得
	電気通信システム	－	通 信 ネットワーク工学	30／2	左の科目を修得

注: 卒業後科目等履修生として修得した単位は認めない。必ず在学中に必要な単位を修得すること。

○印の科目は本学電気電子通信工学コースの必修科目である。

電気通信主任技術者試験の試験科目「電気通信システム」の試験免除を得るための履修の流れ

(令和7年度入学生用)

区分	分野	1 年		2 年		3 年		科目免除の対象となる条件	科目
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
工学基礎科目	数 学	微分積分 線形代数 電気回路入門		電気電子数学Ⅰ				左から2科目以上を修得	数 学
	物理学・化学	基礎物理学Ⅰ 基礎物理学Ⅱ						左の科目を修得	物理学
専門科目	専門基礎			電磁気学Ⅰ 電磁気学演習Ⅰ	電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ			左から2科目以上を修得	電磁気学
				電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ	電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ			左から2科目以上を修得	電気回路
	電子デバイス・システム制御系				計測工学 電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ	電子回路Ⅱ	センサー応用工学 半導体工学	左の科目を修得	電気計測 電子回路
								左の科目を修得	情報工学
					コンピュータプログラミング			左の科目を修得	デジタル回路
専門科目	情報・通信・メディア系				論理回路	情報通信工学Ⅰ	情報通信工学Ⅱ	左の科目を修得	交換工学
								左の科目を修得	伝送線路工学
								左の科目を修得	電気通信システム

注：  電気電子通信工学コースの必修科目  科目免除を受けるための必修科目  科目免除を受けるための選択必修科目  選択科目

(4) 第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士

本学電気電子通信工学コースにおいて指定された科目の単位をすべて修得したものは、卒業後の総務省・東北総合通信局への申請により「第一級陸上特殊無線技士」および「第二級海上特殊無線技士」の資格が与えられる。なお、2つの資格の申請はおのおの個別に行う必要がある。指定された科目は表5に示すとおりである。

表5 第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士の取得のための指定科目一覧

科目内容	授業科目名	資格取得の条件
無線機器学その他無線機器に関する科目	電 磁 波 工 学	左の科目を修得
	情 報 通 信 工 学 Ⅱ	左の科目を修得
	○電子情報通信システム実験	左の科目を修得
電磁波工学その他空中線系及び電波伝送に関する科目	電 磁 波 工 学	左の科目を修得
	情 報 通 信 工 学 Ⅰ	左の科目を修得
	○電子情報通信システム実験	左の科目を修得
電子計測その他無線測定に関する科目	セ ン サ ー 応 用 工 学	左の科目を修得
	○電子情報通信システム実験	左の科目を修得
電波法規その他電波法令に関する科目	情 報 通 信 法 規	左の科目を修得

注：卒業後科目等履修生として修得した単位は認めない。必ず在学中に必要な単位を修得すること。
○印の科目は本学電気電子通信工学コースの必修科目（但し、電子情報通信システム実験は選択必修科目）である。

第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士の資格を取得するための履修の流れ

区分	分野	2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	無線機器学その他無線機器に関する科目			情報通信工学Ⅰ	電子情報通信システム実験	電磁波工学	
	電磁波工学その他空中線系及び電波伝送に関する科目				情報通信工学Ⅱ 電子情報通信システム実験	電磁波工学	
	電子計測その他無線測定に関する科目				センサー応用工学 電子情報通信システム実験		
	電波法規その他電波法令に関する科目						情報通信法規

上記科目をすべて修得のこと。
注：○ は本学電気電子通信工学コースの必修科目（但し、電子情報通信システム実験は選択必修科目）

第一級陸上特殊無線技士における無線設備の操作範囲

多重無線設備を使用した固定局等の無線設備、陸上と移動する形態の無線局、VSAT局等の衛星通信無線設備、陸上レーダ無線、MCA、携帯電話の基地局等の無線設備の技術操作

■システム情報工学コース

システム情報工学コースに関わる資格は多数ありますが、ここには一部を紹介します。

1. 所定科目を修得すれば取得できる資格

資格名称	概要・特典など
高等学校教諭一種免許状 (工業)	工業高校で教えることができます。
高等学校教諭一種免許状 (情報)	情報関係の教科を教えることができます。普通高校への就職も可能です。

2. 受験のための指導体制を整備している資格

資格名称	概要・特典など
シスコ技術者認定 (CCNA)	シスコシステムズという会社が行っている技術者向けの認定試験です。 この会社は、ネットワーク間の接続機器(ルータ等)では世界トップシェアを誇っています。 本コースでは試験に備えて、ネットワーク実習用の機器を導入し、特別の訓練を経て指導者として認定された教員が学生の指導に当たっています。さらに、学生の負担を減らすため、コース内でも受験できる体制を整えています。 【対象科目】 3年:情報ネットワーク構築
基本情報技術者	高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を持ち、実践的な活用能力を身に付けた者を対象としている国家資格です。 以下の講義の単位を修得し、コース内で行われる修了試験に合格すれば基本情報技術者試験の科目A試験が1年間免除されます。 【対象科目】(10科目) 1年:情報工学概論 2年:コンピュータシステム、情報通信工学、データ構造とアルゴリズム、プログラム設計、データベース、産業情報論、経営情報論、オペレーティングシステム、情報セキュリティ入門 3年:(情報工学特別講義※修了試験)

資格名称	概要・特典など
CG-ARTS検定	CGやWeb ページなどのコンテンツ制作技術や知識を評価する文部科学省後援の資格です。 本コースは、CG-ARTS検定を主催しているCG-ARTS協会（財団法人画像情報教育振興会）から認定された「認定教育校」です。この資格はコース内で受験できるため学生に人気です。 ● CGクリエイター検定 ● CGエンジニア検定 ● 画像処理エンジニア検定 ● マルチメディア検定 ● Webデザイナー検定 【対象科目】 1年:コンテンツ制作入門 2年:コンピュータグラフィックス、ビジュアル情報処理 3年:マルチメディア工学、ウェブデザイン
Unity認定資格	Unityは、3Dゲームの開発を基盤としたリアルタイム3Dアプリケーション開発プラットフォームです。近年は教育、医療、建築、自動車、輸送、製造などのゲーム以外の分野でも活用が進んでいます。 本学は、Unityアカデミックアライアンス（UAA）メンバー（Unity認定校）となっています。本コースではUnity認定試験の内容に準拠した学習カリキュラム、教育リソースを用意しUnity認定インストラクターの指導のもと効率的に学習することができます。また、コース内でも受験できる体制を整えています。 【対象科目】 1年:コンテンツ制作入門 2年:ビジュアル情報処理 3年:情報工学応用実験Ⅱ、情報専門ゼミナール

3. 資格取得のための支援を行っている資格

資格名称	概要・特典など
応用情報技術者	高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者を対象とした国家資格です。
ネットワークスペシャリスト エンベデッドシステムスペシャリスト データベーススペシャリスト 情報処理安全確保支援士	ITパスポート、情報セキュリティマネジメント、基本情報技術者、応用情報技術者の次の段階として、情報ネットワーク、組込みシステム、データベース、情報セキュリティのスペシャリストを対象とした国家資格です。

■生命環境科学コース

「高等学校教諭一種(工業)」の他、本コースに関連する資格として以下がある。

(1) 食品衛生管理者および食品衛生監視員資格(任用資格)

食品衛生管理者は厚生労働省が認定する国家資格である。食肉製品、乳製品、食用油脂などを製造・加工する施設の営業者は、この資格を有する者を置く事が義務づけられている(食品衛生法第48条)。そして、この資格取得者は食の安全確保のための知識や技術を有する者として社会において高く評価されている。

食品衛生監視員は厚生労働省が認定する国家資格である。保健所などの公的機関に所属する食品衛生監視員は、食品販売業者や外食産業など食品を取り扱っている業者の衛生状況の監視、あるいは輸入食品の監視業務や試験検査などの業務を行う。本資格は、公務員として食品衛生に関する業務を行う者には必要な資格である。

生命環境科学コースは食品衛生管理者および食品衛生監視員の養成施設として国の認可を得ており、別表に指定する科目(食品衛生指定科目という)の所定の単位を修得し、本学を卒業することにより、食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を取得することができる。入学時から本コースに登録している学生のみが、資格の取得が可能であり、1年後期以降にコース変更により本コースでの履修となった学生は資格の取得はできない。

○履修方法

生命環境科学コース(令和4年度以降入学生対象)で、「食品衛生監視員」「食品衛生管理者」の資格取得可能者は、別表に定める所定の食品衛生指定科目と、卒業に必要な単位を修得することが取得要件である。

資格取得に必要な食品衛生指定科目は、必修26単位と選択14単位である。

別表 食品衛生指定科目

必修科目	単位
分析化学	2
有機化学	2
無機化学	2
生化学	2
食品化学	2
生理学	2
食品分析学	2
微生物学	2
食品製造学	2
公衆衛生学	2
食品衛生学	2
分子遺伝学	2
生命環境科学実験Ⅰ	1
生命環境科学実験Ⅱ	1
合計	26

選択科目	単位
環境生物学	2
微生物工学	2
酵素工学	2
生物有機化学	2
食品工学	2
機器分析	2
環境汚染物質分析学	2
品質管理	2
合計	16

上記選択科目から14単位以上を修得する必要がある。

(2) 公害防止管理者

受験資格は問われない。大気関係第1種～第4種、水質関係第1種～第4種、騒音関係、特定粉じん関係、一般粉じん関係、振動関係、公害防止主任管理者の13種類の試験がある。想定される学力は、主任管理者は大卒程度で実務経験5年以上、他の試験は短大卒または高卒程度で、いずれも実務経験3年以上。

試験科目と授業の関連（水質関係の場合）

試験科目	本学開講科目
公害総論	グリーンケミストリー(1年)、L基礎演習Ⅱ(2年)
水質概論	環境汚染物質分析学(3年)、L基礎演習Ⅱ(2年)
汚水処理特論	物理化学(2年)、分析化学(2年)、機器分析(2年)、リサイクル工学(2年)、微生物工学(2年)、環境影響評価論(3年)、L演習Ⅰ(3年)
水質有害物質特論	物理化学(2年)、分析化学(2年)、有機化学(2年)、機器分析(2年)、微生物工学(2年)、計測制御工学(3年)、環境汚染物質分析学(3年)、環境影響評価論(3年)、L演習Ⅰ(3年)
大規模水質特論	微生物学(1年)、微生物工学(2年)、環境汚染物質分析学(3年)、環境影響評価論(3年)、L演習Ⅰ(3年)

「L」は「生命環境科学」を表す。

(3) バイオ技術者認定資格

(上級バイオ技術者認定試験)

バイオ技術の進歩に対応して「生命工学技術の中で生物利用技術を中心に遺伝情報利用技術、増殖能利用技術および安全管理技術、並びにそれらに関する知識を持ち、指導的立場でそれを実際にバイオテクノロジーに応用し得る資質を高めた高度な技術者」を認定するものである。受験資格は3年修了見込み。

(中級バイオ技術者認定試験)

バイオ技術の進歩に対応して、「遺伝子組換え技術、細胞融合技術、増殖能利用技術並びに生物及び生物由来材料利用技術、そしてこれらを行うための安全管理に関する知識をもち、適切な指導者の元で実際にバイオテクノロジーに適応しうる資質」を認定するものである。受験資格は2年修了見込み。

試験科目と授業の関連

出題科目／中級試験	出題科目／上級試験	本学開講科目
バイオテクノロジー総論 (機器・バイオ英語・環境安全)	安全管理・バイオ機器	物理化学(2年)、分析化学(2年)、機器分析(2年)、L基礎演習Ⅱ(2年)
生化学	核酸・タンパク質・酵素	生化学(2年)
微生物学	微生物バイオテクノロジー	バイオテクノロジー(1年)、微生物学(1年)、微生物工学(2年)
分子生物学		生命科学(1年)、分子遺伝学(2年)、遺伝子工学(3年)
遺伝子工学		分子遺伝学(2年)、遺伝子工学(3年)
	微生物バイオテクノロジー 動物バイオテクノロジー 植物バイオテクノロジー	バイオテクノロジー(1年)、微生物工学(2年)

「L」は「生命環境科学」を表す。

(4) 環境計量士(濃度関係)

受験資格は問われない。(物質濃度の)計量に関する専門の知識・技能を有する者に対して一定の資格を与え、適正な計量の実施の確保を推進するための制度。化学工業、食品プラント、廃棄物処理等の企業から研究施設まで広く要求される資格である。

試験科目と授業の関連

区分	出題科目	本学開講科目
専門科目	環境計量に関する基礎知識 環境関係法規および化学に関する基礎知識	基礎化学Ⅰ（１年）、基礎化学Ⅱ（１年）、グリーンケミストリー（１年）、無機化学（２年）、物理化学（２年）、分析化学（２年）、有機化学（２年）、環境化学量論（２年）、Ｌ基礎演習Ⅰ・Ⅱ（２年）、生物有機化学（２年）、Ｌ演習Ⅰ・Ⅱ（３年）
	化学分析概論および濃度の計量	環境化学量論（２年）、分析化学（２年）、機器分析（２年）
共通科目	計量関係法規	環境計量士勉強会（３年、４年）
	計量管理概論	確率・統計（２年）、品質管理（３年）、計測制御工学（３年）

「Ｌ」は「生命環境科学」を表す。

(5) 環境測定分析士

環境測定分析作業に必要な技術・技能に関する知識を（一社）日本環境測定分析協会が認定する。受験資格は次の通り。

（３級）：受験資格は問われない。

（２級）：環境測定分析業務の実務経験が通算して３年以上並びに環境測定分析士３級試験に合格し登録証の交付を受けている者（登録証がない場合、環境計量士（濃度関係）有資格者はそれを以て代えることが可能）。

（１級）：環境測定分析業務の実務経験が通算で５年以上並びに環境測定分析士２級試験に合格し登録証の交付を受けている者。

試験科目と授業の関連

出題科目	本学開講科目
環境測定分析一般	無機化学（２年）、有機化学（２年）、分析化学（２年）、機器分析（２年）、計測制御工学（３年）、環境汚染物質分析学（３年）
環境法規	グリーンケミストリー（１年）、リサイクル工学（２年）

(6) 危険物取扱者乙種第四類

受験資格は問われない。危険物の取扱い、取扱いの立会および保安監督などを行うには、消防法で一定の資格を必要としている。危険物取扱者は、危険物の取扱いに関して、消防法令上強い権限が付与されていると共に、大きな責務を有している。

(7) ガス主任技術者

甲種、乙種、丙種の３種類があり、受験資格は問われない。資格試験に合格することにより、資格の取得ができる。

注：任用資格とは、その資格を取得するに十分な教育・訓練を受けた人員がいる企業などの事業所において、必要に応じて当該事務局に資格申請することでその人が資格所有者となるものです。個人で自由に取得することはできません。

■建築・土木工学コース(土木工学プログラム・建築学プログラム)

在学中の取得を支援する主な資格	●商業施設士補 ●商業施設士
卒業後申請により得られる資格	●測量士補(土木工学プログラム) ●技術士補(土木工学プログラム)
卒業後、実務経験を経て自動的に得られる資格	●測量士(土木工学プログラム) ●ダム水路主任技術者 ●ダム管理主任技術者
特定の教科の単位を取得することによって、卒業と同時に受験資格が得られる資格	●二級建築士 ●木造建築士 ※工業高校建築課程にて建築士受験要件単位を取得済みの学生は在学中受験可能
特定の教科の単位を取得することによって、卒業と同時に受験資格を得られ、卒業後の実務経験が短縮される資格	●一級建築士(建築学プログラム)
卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	●土木施工管理技士 ●建築施工管理技士 ●管工事施工管理技士 ●造園施工管理技士 ●建設機械施工管理技士 ●電気工事施工管理技士 ●土地区画整理士 ●コンクリート診断士 ●コンクリート主任技士 ●地質調査技士
特定の教科の単位を取得することによって、試験の一部が免除される資格	●火薬類取扱保安責任者
所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	●高等学校教諭一種免許状(工業)
その他、科目設定により取得を支援している資格	●インテリアコーディネーター ●福祉住環境コーディネーター ●色彩検定 ●宅地建物取引主任者 他

■感性デザイン学科

(1) 所定の単位を修得し、卒業と同時に得られる資格

●高等学校教諭一種免許状(工芸)	
●高等学校教諭一種免許状(美術)	
●中学校教諭一種免許状(美術)	
●商業施設士補	注：本学で開催される講習会への参加が必要となります

(2) 在学中に取得を支援する主な資格

資格名称	取得支援を実施する主な科目
●Illustratorクリエイター能力認定	ビジュアルデザイン演習／ビジュアルデザイン論／ タイポグラフィ
●Photoshop クリエイター能力認定	ビジュアルデザイン演習／ビジュアルデザイン論／ タイポグラフィ
●Webデザイン検定	Webデザイン
●インテリアコーディネーター	インテリアデザイン／音と光デザイン／住環境デザイン
●色彩検定	色彩学／ビジュアルデザイン演習／インテリアデザイン／ 音と光デザイン
●カラーコーディネーター	
●福祉住環境コーディネーター	ユニバーサルデザイン
●リビングスタイリスト	インテリアデザイン／ユニバーサルデザイン／ 音と光デザイン

4. 4 同窓会

本学には、卒業生相互の親睦を図り、母校の発展に貢献することを目的に同窓会が組織されています。

同窓会は、卒業生(正会員)、在学生(準会員)、そして教職員(特別会員)で構成されています。

在学生のみなさんは、卒業すると同時に正会員になります。

同窓会は大学内に本部を、また仙台市、札幌市、秋田市、東京都に支部を置いており、活動内容は、会報の発行、総会(集う会)の開催や母校の発展に寄与するための活動等多岐にわたっています。



第24回 八戸工業大学同窓生の集う会

令和7年10月18日 於 八戸パークホテル

第5章

施設の利用について

5. 1	図書館.....	106
5. 2	メディアセンター.....	107
5. 3	スポーツ施設.....	107

5. 1 図書館

図書館は、図書や雑誌などの資料を通して教育や研究活動の支援を行う機関です。本館では、図書や雑誌、視聴覚資料など約13万点の図書資料が利用可能です。レポート作成や研究活動のための資料・文献調査、講義の予習・復習などの自主学習に利用してください。

図書館は多くの利用者のための施設です。利用規則を守り利用してください。利用に関する不明な点は、図書館員におたずねください。

■開館時間

月～金曜日 8:40～20:00（夜間開館時）

土曜日 10:00～17:00

詳細については開館カレンダーで確認してください。なお、都合により臨時休館となることがあります。

開館カレンダー

<https://hit.opac.jp/opac/Calendar>



■学生証

図書資料の館外貸出等では学生証が必要となります。

■図書資料と利用方法

1) 学生閲覧室

テーブル席と個室、新着図書コーナー等があり、館内にある図書資料を自由に閲覧することができます。また、OPAC(蔵書検索システム)、Wi-Fiやプリンター、電源コンセントなどが利用可能です。

2) 閉架書庫

学生閲覧室と繋がる閉架書庫には、約7万点の図書資料が保管されています。書庫内の図書資料は自由に閲覧可能ですが、館外への持ち出しを希望する場合は貸出処理が必要となります。貸出を希望する場合は、学生証を持参し、貸出カウンターで手続きを行ってください。

3) 新聞閲覧室

日本語の新聞11紙(北海道、東北地方、全国紙)および英字新聞2紙が閲覧できます。

4) 閉架書庫

図書館には、立ち入りが制限されている閉架書庫と呼ばれる書庫があり、学生は立ち入りできません。保管されている図書資料の閲覧等を希望する場合は、図書館員までご相談ください。なお、貸出できない資料もありますのでご了承ください。

5) 多目的ホール

講義や講演会、サークル活動の発表の場として利用できます。また、利用予定がない場合は休憩スペースとして開放しています。出入り口に休憩可・不可の掲示をしています。

サークル活動等で利用を希望する場合は、図書館へお申し込みください。

■図書資料の複写(コピー)について

全ての図書資料は著作権法で保護されており、複写に制限があります。複写を希望する場合は、図書館員までご相談ください。

■利用規則

- 館内での会話は控えてください。どうしても会話が必要な場合は、他の利用者の迷惑にならないようにしてください。
- 館内での飲食は禁止です。ただし、学生閲覧室内での飲物(フタができる容器に入ったものに限る)の摂取は可とします。
- 館内での携帯電話やスマートフォンでの通話、図書資料等の写真や動画での撮影は禁止です。
- 図書資料は大切に扱い、書き込み、破損や汚損のないように取り扱ってください。
- 図書資料の紛失、損傷や汚損が発生した場合、弁償してもらうことがあります。
- 貸出資料の延滞や図書館員の指示に従わないときは、利用を停止することがあります。

5. 2 メディアセンター

メディアセンターは、多目的ホール、会議室等で構成されており、ネットワーク環境が整備されています。

普段は学習室として利用されているホールには、大型スクリーンや液晶プロジェクター、HDDレコーダー等のOA・AV機器も設置されており、学術講演やサークルの発表、演奏会の場合などにも利用できます。

利用の際は、教職員を通じて申し込んで下さい。

■開館時間

月～金曜日 8:30～19:30

※土日、祝日、年末年始、その他大学行事のある日は原則として利用できませんが、行事の内容によっては開館する場合があります。

■窓口

利用に関する申し込み、問い合わせ、質問等は、総務部（総務・学事チーム）までお気軽に相談して下さい。

5. 3 スポーツ施設

スポーツ施設として体育館、テニスコートなどが利用できます。施設の借用方法等については以下の問い合わせ先に相談してください。

施 設 と 設 備	問い合わせ先
体育館（アリーナ、レスリング場、ボクシング場、トレーニングルーム、男女更衣室など） 陸上競技場（400mトラック、ラグビー場） 野球場、サッカー場、ソフトボール場 尚志館、室内練習場 テニスコート3面（砂入り人工芝）、テニスコート2面（クレー） ビリヤード台（100円）	教育・学生支援部 （教務・学生支援チーム） （1号館1F）

第6章

願い・届け・証明書の手続き

6. 1	休学願	110
6. 2	復学願	110
6. 3	退学願	110
6. 4	転学願	110
6. 5	転学科願	110
6. 6	欠席届	111
6. 7	忌引届	111
6. 8	感染症罹患届	111
6. 9	特別欠席願	111
6. 10	変更届	111
6. 11	学生残留・出校届	111
6. 12	コース変更願	111

これまで述べてきたように、学籍の変更、履修手続き、証明書の交付などの願い、届け、各種証明書交付手続きをまとめると後述記載の別表のようになります。特に注意すべき手続きについて説明しますが、不明な点は手続きの提出先あるいは修学支援担任に相談してください。証明書の作成に時間を要するものもありますから、余裕をもって手続きしてください。

また、手続きの際は必ず**学生証**と**印鑑**を持参してください。

6.1 休学願

- ①病気その他の理由で引続き3ヵ月以上修学できない場合は、所定の休学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出し、学長の許可を得て休学することができます。(無断欠席は不利な取り扱いを受けることになります。)
- ②病気、けがによる休学の際は診断書を添付しなければなりません。
- ③休学期間は1年以内とし、2年度にわたる場合は年度ごとに休学願を提出することになります。
- ④許可された休学期間が満了したときは、復学となります。その際は**復学届**を教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出してください。
- ⑤休学している者が、許可された休学期間を過ぎても復学できないときは、再休学願を教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出し、学長の許可を得て再休学することができます。ただし、休学期間は通算して4年を超えることはできません。

6.2 復学願

- ①許可された休学期間の途中で休学理由がなくなり復学したいときは、所定の復学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出し、学長の許可を得て復学することができます。

- ②復学の手続きには復学願、病気・けがで休学していたときは診断書、復学する学期の学費が必要です。

6.3 退学願

- ①病気その他の理由で退学しようとする場合は、所定の退学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出し、学長の許可を得なければなりません。
- ②退学願には学生証を添付しなければなりません。

6.4 転学願

- ①他の大学に転学を志望する場合は、所定の転学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出し、学長の許可を得なければなりません。
- ②転学願には学生証を添付し、所属学科長の承認が必要です。

6.5 転学科願

転学科を志望する者があるときは、選考のうえ許可することがあります。

- ①出願の時期および手続き
 - (a)出願の時期は、原則として1年次または2年次の3月1日から3月10日までです。
 - (b)願書は、学生の所属学科長が受け付けます。
- ②許可の条件等について
 - (a)やむを得ないと認められる理由があること。
 - (b)原則として、出願学生の入学試験成績が希望する学科の成績の最下位以上で、かつ入学後の成績が所属学科の中位以上であること。
 - (c)出願学生の所属学科の運営および教育に支障がないと認められること。
 - (d)希望受入れ学科の運営および教育に支

障がないと認められること。

- (e) 転学科を認められた者は、再び転学科の出願をすることはできません。

6. 6 欠席届

続けて3日以上欠席する場合は、必ずその理由を明記し欠席届を、病欠などで7日以上欠席する場合は必ず診断書などの証明書を添付し保証人連署のうえ、教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出しなければなりません。

3ヵ月以上の欠席をする場合は休学願を提出し休学することができます。

6. 7 忌引届

忌引をするときは、忌引届に保証人連署のうえ教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出しなければなりません。

6. 8 感染症罹患届

学校保健安全法で定められたインフルエンザ等感染症に罹患した場合には、感染拡大を防止するため、治癒するまで決められた期間は出席停止となります。

医療機関で感染症と診断されたら速やかに教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に報告してください。授業だけではなく、部活動やサークル活動も禁止となります。

出席停止期間終了後は「**感染症罹患届**」を教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に提出してください。提出の際には罹患したことを証明できる書類を添付する必要があります。

6. 9 特別欠席願

学生会活動や、クラブ活動の対外試合など課外活動で授業を欠席するときは、特別欠席願を提出することによって出席について考慮されることがあります。願い出は、団体毎に一括して教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)で承認を受けて、担

当教員へ提出してください。

6. 10 変更届

次の項目について変更があったときは、すみやかに教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)へ変更届を提出しなければなりません。この提出がないために連絡ができないばかりか不利益を被ることがあります。

- ・本人氏名 ・現住所 ・本籍
- ・連絡先(携帯電話番号、メールアドレス)
- ・保証人氏名 ・保証人住所

6. 11 学生残留・出校届

卒業研究、製図、実験、課外活動などで放課後も学内に残留するときや、休業日に出校するときは学生残留・出校届を提出しなければなりません。届出用紙は各学科・コースの事務室や教育・学生支援部(教務・学生支援チーム)に置いてありますので、必要事項を記入の上、担当教職員の承認を受け、総務部(総務・学事チーム)へ提出してください。

- ①授業のある日で19時以降学内に残留するときは、当日の16時50分までに提出してください。但し、学生会館に限り20時までの使用は提出の必要はありません。
- ②休業日に出校するときは、前日の16時50分までに提出してください。

届出は、いずれの場合も休業日を除く平日に提出してください。詳しくは残留・出校者心得(7. 14)ならびに学生会館使用規程(7. 12)をよく読んで、事故のないように注意してください。

6. 12 コース変更願

工学科に所属し、コース変更を希望する学生は、8月末あるいは2月末にコース変更願を提出してください。詳しくはコース選択・変更・決定(2. 13)を参照してください。

願い出・証明書等の手続き

種 別	取扱窓口	備 考
休学願 再休学願 復学願 復学届 退学願 転学願 転学科願	教育・学生支援部 (教務・学生支援チーム)	事由が発生した時(病気による場合は診断書を添付) 休学期間を延長する時 休学期間途中で復学する時 休学期間が満了した時 事由が発生した時(学生証を返却) 事由が発生した時 1年次または2年次の所定の期間
履修届 他学部・他学科科目(講義科目)履修願		学年始め 学期始め
欠席届 忌引届 感染症罹患届 特別欠席願		事由が発生した時 事由が発生した時 事由が発生した時 事由が発生した時
在学証明書 成績証明書 卒業証明書 卒業見込証明書 単位修得証明書 修得学科目証明書 教員免許状取得見込証明書 健康診断証明書 学生証再交付願 学生旅客運賃学割証(学割) 通学証明書		手数料 200円 即日交付 手数料 200円 即日交付 手数料 200円 申請日より3日後 手数料 200円 即日交付 手数料 200円 申請日より3日後 手数料 200円 申請日より3日後 手数料 200円 申請日より3日後 手数料 200円 即日交付 手数料 200円 即日交付 手数料 2000円 申請日より2日後 無料 即日交付 無料 申請日より2日後
駐車場使用許可願		事由が発生した時 駐車場 新規・車両変更 200円 年度更新 無料
宿所変更届 氏名変更届 本籍変更届 保証人変更届 保証人氏名変更届 保証人住所変更届		事由が発生した時 事由が発生した時(戸籍抄本を添付) 事由が発生した時(戸籍抄本を添付) 事由が発生した時 事由が発生した時 事由が発生した時
学費延納願	総務部 (財務会計チーム)	学費納入期限日までに
大学指定履歴書 就職活動用封筒	教育・学生支援部 (キャリア支援チーム)	80円 即日交付 90円 即日交付
学生残留・出校届	総務部 (総務・学事チーム)	

学生会・課外活動関係

種 別	取扱窓口	備 考
団体結成願 団体継続届 団体解散届 学外団体加盟願 学外課外活動参加願 学外課外活動参加結果報告書 学外者の学内活動参加願 学生残留・出校届 部室借用願(新規・継続) 部室返納届	教育・学生支援部 (教務・学生支援チーム)	「学生の諸活動に関する規程参照のこと」
集会許可願 学内掲示等許可願 印刷物発行・配布・回覧願 印施設・設備・備品等使用願 放送願		

第7章

諸規程

7. 1	八戸工業大学学則(抄).....	114
	別表第1 学部の授業科目及び単位数.....	122
	別表第2 教職課程の授業科目及び単位数.....	126
	別表第3 学費、入学検定料.....	128
7. 2	八戸工業大学学位規程.....	129
7. 3	八戸工業大学学費納入規程.....	133
7. 4	八戸工業大学学生心得.....	134
7. 5	八戸工業大学履修規程.....	136
7. 6	八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程...	156
7. 7	編入学者および転入学者の履修等に関する規程...	165
7. 8	八戸工業大学GPA取り扱い要項.....	166
7. 9	八戸工業大学図書館利用規程.....	168
7. 10	八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程...	170
7. 11	学生の諸活動に関する規程.....	171
7. 12	学友会館使用規程.....	174
7. 13	施設・設備・備品等管理規程.....	175
7. 14	残留・出校者心得.....	176
7. 15	八戸工業大学車両通学に関する規程.....	177
7. 16	学校法人八戸工業大学 証明書発行取扱要領...	178
7. 17	学友会会則.....	179
7. 18	学友会の選挙に関する規程.....	182
7. 19	学友会会費規程.....	183

7.1 八戸工業大学学則(抄)

制 定 昭和47年 4月 1日

改 正 令和 6年 4月 1日

第1章 目的及び自己点検・評価

第1条 本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」を教育理念とし、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造並びに地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2 前項の目的を達成するため、教育研究等の目標を次のように定める。

- 一 学生の教育を最優先し、学生の満足度を高め、総合的な成長を確実に達成する大学となること
- 二 教育と研究の成果をもって、北東北を主とした地域社会の発展に寄与し、地域とともにある地域のための大学となること

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項で定める点検及び評価についての必要な事項は、別に定める。

第2章 学部構成及び教育研究上の目的

第3条 本学に、次の学部及び学科を置く。

工学部

工学科

感性デザイン学部

感性デザイン学科

2 工学部及び感性デザイン学部の教育研究上の目的は、次の通りとする。

一 工学部

豊かな人間性と総合的な判断力をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、工学の基礎原理を踏まえ高度な応用展開能力をもった人材、及び地域社会への関心とともにグローバルな視野をもった人材を育成するとともに、機械・電気・電子・通信、建築・土木、情報、生命・環境、原子力、ロボット及び海洋などの工学・科学に関する教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

二 感性デザイン学部

豊かな人間性と総合的な判断力をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、デザイン学の諸原理を踏まえ高度な応用展開力をもった人材、現代社会が抱える問題を発見し、その解決に貢献できる人材、及び地域社会への関心を有するとともに、多文化・異文化を理解し、幸福な社会づくりに貢献できる人材を育成するとともに、デザイン学及びその関連分野に関する教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

3 各学科における教育研究上の目的は、次の通りとする。

一 工学科

多様化した社会ニーズに対応するため、広い視野と教養、倫理観、総合的な判断力及びコミュニケーション能力を持ち、情報リテラシーも含めた科学と工学の基礎知識、さらに社会の変化に柔軟に対処できる問題解決・応用展開能力を備えた技術者を育成するとともに、機械、電気電子通信、システム情報、生命環境、建築・土木のいずれかの専門分野、及び原子力、ロボット、海洋などの発展分野の教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

二 感性デザイン学科

社会構造の変化、価値観の多様化などの地政学的・文化的・史的背景を理解し、対象の価値を再構成したり転換したりできる力、複眼的な視点で価値を具体的な形に表現する力、地域の多様なあるべき姿を構想する力を有し、社会の発展と文化の振興、地域社会における資源と資産の価値化と共有の実現に携わることができる人材を養成するとともに、デザイン学及びその関連分野に関わる教育研究活動の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

第3章 修業年限及び収容定員

第4条 本学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

第5条 本学の入学定員及び収容定員は、次の通りとする。

	入学定員	収容定員
一 工学部 工学科	250人	1,000人
二 感性デザイン学部 感性デザイン学科	50人	200人

第4章 開学記念日、学年、学期及び休業日

第6条 開学記念日は、1月29日とする。

2 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第7条 学年を分けて、次の2学期とする。

一 前期(4月 1日より 9月15日まで)

二 後期(9月16日より 翌年 3月31日まで)

第8条 学年中の休業日は、次の通りとする。

一 土曜日及び日曜日

二 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

三 春季休業

四 夏季休業

五 冬季休業

2 前項の第3号から第5号の休業日については、毎年度定める。

3 必要がある場合、第1項の休業日を臨時に変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

4 必要がある場合、第1項の休業日に授業等を行うことがある。

第5章 入学、再入学、転入学、編入学、復籍、転学部、転学科及び保証人

第9条 入学、転入学及び編入学の時期は、学年の初めから30日以内とする。

2 再入学の時期は、学期の初めとする。

第10条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

一 高等学校を卒業した者

二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)

三 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五 専修学校の高等課程で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

六 文部科学大臣の指定した者

七 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

- 八 相当の年令に達し、本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- 第11条 入学を志願する者に対しては、入学試験の上、入学を許可する。
- 第12条 本学を退学した者又は第22条第五号の規定により除籍となった者が、再入学を志願するときは、選考の上、許可することがある。
- 2 第22条第二号、第三号及び第四号の規定により除籍された者の復籍については、認めない。
- 3 第22条第五号の規定により除籍された者の復籍については、別に定める。
- 第13条 次の各号の一に該当する者は、人員に余裕のある場合に限り、選考の上、転入学又は編入学を許可することがある。
- 一 他の大学に在学する者で、その学長又は学部長の許可を得て転入学を志願する者
- 二 大学、短期大学、高等専門学校を卒業した者並びに文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者（学校教育法第90条に規定する者に限る。）で、本学に編入学を志願する者
- 第14条 転学部・転学科を志願する者があるときは、選考の上、許可することがある。
- 第15条 再入学、転入学、編入学又は転学部または転学科を許可された者の、すでに修得した授業科目とその単位数及び修業年数は、審査の上、その一部又は全部を認めることがある。
- 第16条 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）及び大学等が編成する特別の課程における学修で、大学教育に相当する水準を有すると認めたものについて、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。なお、この認定に関連して修得した単位数その他の事項を勘案して認定された期間を修業年限に通算することができる。
- 2 前項による単位の認定は、合計30単位を超えない範囲で行うものとする。
- 第17条 入学、再入学、転入学又は編入学を許可された者は、保証人連署の誓約書を指定期日までに提出し、その他本学所定の入学手続きを完了しなければならない。
- 2 正当の理由なく前項の手続きをしないときは、入学、再入学、転入学又は編入学の許可はその効力を失う。
- 第18条 保証人は父母又は独立生計を営む成年の者とする。
- 2 保証人は、入学、再入学、転入学又は編入学を許可された者の誓約に関し、連帯責任を負うものとする。
- 3 保証人の変更、転居、改印、改氏名等は、そのつど届け出なければならない。

第6章 休学、転学、退学及び除籍

- 第19条 病気その他の事由により、引続き3年以上修学することができない場合は、願い出て許可を受けて休学することができる。
- 2 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により期間の延長を許可することがある。
- 3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- 4 休学期間中に事由がなくなったときは、許可を受けて復学することができる。
- 5 休学期間は、修業期間に算入しない。
- 第20条 他の大学に転学を志願する者は、事由を具して、その許可を願い出なければならない。
- 第21条 退学しようとする者は、事由を具して、その許可を願い出なければならない。
- 第22条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。
- 一 死亡の届け出のあった者
- 二 病気その他やむを得ない事情により修学の見込みのない者
- 三 第4条の在学年数を経て、なお所定の課程を修了できない者
- 四 第19条第3項の休学期間に達しても、なお修学できない者

五 授業料の滞納期間が2月を超える者

第7章 教育課程及び履修の方法

第23条 本学の開設する授業科目及び単位数は、別表第1及び第2による。

- 2 学生が所属する学部学科以外の学科の授業科目を履修することを認めることがある。
- 3 工学科に履修上の区分として次のコースを設ける。学生はいずれかのコースを修了し卒業するものとする。
 - 一 機械工学コース
 - 二 電気電子通信工学コース
 - 三 システム情報工学コース
 - 四 生命環境科学コース
 - 五 建築・土木工学コース
- 4 学部又は学科に、必要に応じて分野横断型のプログラムを設けることができる。
- 5 第3項のコース及び第4項のプログラムの履修方法は履修規程に定める。

第24条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。
 - 一 講義及び演習については、毎週1時間15週又は毎週2時間15週の授業をもって1単位とする
 - 二 実験、実習及び実技については、実験室又は実習場等で行われるものであることを考慮し、毎週2時間15週又は毎週3時間15週の実験、実習又は実技をもって1単位とする
 - 三 一つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前各号に規定する基準をもって1単位とする

第25条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第26条 学生は、毎年度の初めに、当該年度に履修しようとする授業科目を、所定の手続きにより届け出なければならない。

- 2 学生は、届け出た科目に限り、単位修得の認定を受けることができる。
- 3 卒業要件として修得すべき単位について、1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を履修規程で定める。

第27条 授業科目の単位修得の認定は、試験による。ただし、平常の成績を加味することがある。

- 2 実験、実習、演習及び実技は、平常の成績をもって試験にかえることがある。

第28条 試験は原則として、学期末に行う。

- 2 各授業科目の成績評価は、S、A、B、C、及びDによるものとし、S、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。
- 3 病気その他やむを得ない事故で定期の試験に欠席した者に対しては、追試験を行うことがある。
- 4 その他試験の施行に関しては、別に定める。

第29条 各学年において、修得単位数が、別に定める基準に満たない場合には、その学年に留年とする。

第30条 卒業に必要な修得単位数は、別表第1及び履修規程に定める単位を含め、124単位以上とする。

- 2 前項の規定により卒業の要件として修得すべき124単位のうち、第24条第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

第31条 卒業研究あるいは卒業制作・論文の題目及び研究計画は、卒業しようとする年度の初めに、所定の手続きにより、届け出なければならない。

第32条 学長は、学生が他の大学の授業科目を履修すること又は、これに相当する教育機関等において修学することが教育上有益であると認めるときは、教授会の議を経て当該大学等と協議のうえ、履修すること又は修学することを認めることができる。

- 2 学長は、学生が外国の大学又はこれに相当する教育機関等において修学することが教育上有益であると認めるときは、教授会の議を経て当該大学等と協議のうえ、留学することを認めることができる。
- 3 留学の期間は、修業期間に算入する。
- 4 学長は、第1項の規定により修得した成果及び、第2項の規定により留学して得た修学の成果について、教授会の議を経て本学において修得したものとして認定するものとする。
- 5 前項の規定により修得したものとみなす単位数は、第16条の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第8章 卒業及び学位授与

第33条 本学において4年以上修業し、所定の授業科目を履修し所定の単位を修得した者は卒業とし、工学部にあっては学士(工学)、感性デザイン学部にあつては学士(感性デザイン)の学位を授与する。

- 2 前項の規定にかかわらず文部科学大臣の定めるところにより、本学に3年以上在学した者で、卒業の要件として本学が定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合は、卒業を認めるものとする。
- 3 学位の授与についての必要な事項は、八戸工業大学学位規程に定める。

第9章 教育職員免許状

第34条 教育職員免許状を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。この修得すべき授業科目及び単位数は別表第2に掲げる。

- 2 前項の所要条件を満たした者に対しては、次に掲げる教育職員免許状取得の資格を与える。

免許状の種類	免許教科の種類	学 科
中学校教諭 一種免許状	美 術	感性デザイン学部 感性デザイン学科
高等学校教諭 一種免許状	工 業	工学部 工学科
	情 報	工学部 工学科(システム情報工学コース)
	美 術	感性デザイン学部
	工 芸	感性デザイン学科

第10章 学費及び入学検定料

第35条 本学に納付すべき学費及び入学検定料は、別表第3の通りとする。

第36条 納入方法その他の取扱いについては、別に定める。ただし、休学期間中の授業料等は、原則としてこれを免除する。

第11章 科目等履修生及び聴講生

第37条 本学の授業科目のうち、一又は複数の科目を選んで履修しようとする者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

- 2 本学の授業を聴講しようとする者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

- 第38条 科目等履修生及び聴講生の入学の時期は、原則として学年又は学期の初めとする。
- 第39条 科目等履修生はその履修科目を学修するのに十分な学力がなければならない。
- 第40条 科目等履修生及び聴講生の在学期間は1年以内とする。ただし、願い出によって期間を延長することがある。
- 第41条 科目等履修生は、その履修科目の試験を受けることができる。
- 2 試験に合格した者には、大学の定めるところにより、単位修得の認定をする。
- 第42条 科目等履修生及び聴講生の学費及び入学検定料は、別表第3の通りとする。
- 第43条 科目等履修生及び聴講生には、本章の規定のほか、第10条(入学資格)、第4章(学年、学期及び休業日)、第17条(入学手続)、第18条(保証人)、第6章(休学、転学、退学及び除籍)、第7章(教育課程及び履修の方法)、第9章(教育職員免許状)及び第15章(賞罰)の規定を準用する。

第12章 特別聴講学生

- 第44条 本学と他の大学又は、これに相当する教育機関等との協議に基づき、本学の学生が当該他大学等で開設する授業科目の履修及び単位の修得を希望するとき、若しくは当該他大学等の学生が本学で開設する授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、特別聴講学生として扱い、その履修及び単位の修得を認めることができる。
- 2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。
- 第45条 受入れ特別聴講学生には、本章の規定のほか、第4章(学年、学期及び休業日)、第7章(教育課程及び履修の方法)及び第15章(賞罰)の規定を準用する。

第13章 研究生

- 第46条 本学において特定の事項について研究することを願い出た者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。
- 第47条 研究生の入学の時期は、学年又は学期の初めとする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。
- 第48条 研究生を志願できるものは、次の各号の一に該当する者とする。
- 一 大学を卒業した者
 - 二 短期大学、高等専門学校又はこれと同等以上の学校を卒業した者で、関係学科を履修した者
 - 三 本学において前二号と同等以上の学力があると認めた者
- 第49条 研究生の在学期間は、1年以内とする。ただし引き続き在学を願い出たときは、在学期間の延長を許可することがある。
- 第50条 研究生が研究事項について証明を願い出たときは、研究証明書を交付することがある。
- 第51条 研究生がその研究に関係のある授業科目の履修を願い出たときは、許可することがある。
- 第52条 研究生の学費及び入学検定料は、別表第3の通りとする。
- 第53条 研究生には、本章の規定のほか、第4章(学年、学期及び休業日)、第17条(入学手続)、第18条(保証人)、第6章(休学、転学、退学及び除籍)、第7章(教育課程及び履修の方法)及び第15章(賞罰)の規定を準用する。
- 2 研究生が授業科目を履修する場合は、その履修科目について、第11章(科目等履修生)の規定を準用する。

第14章 外国人特別留学生

- 第54条 外国人で特別留学生として入学を希望する者があるときは、第10条の規定によらず、特別に選抜の上入学を許可することがある。
- 第55条 外国人特別留学生の取り扱いについては、別に定める規定による外はすべて本学学生に関する規定を準用する。

第15章 賞罰

- 第56条 顕著な善行があった者は表彰することができる。
- 2 卒業に際して、人物、学業ともに優秀で他の学生の模範とするに足る者は表彰することができる。
- 第57条 本学の規則、命令に違反し、又は学生の本分に反する行為のあった者は、懲戒する。
- 2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。
- 3 停学3月以上にわたるときは、その期間は修業期間に算入しない。
- 4 懲戒処分の基準及びその手続きについては、別に定める。
- 第58条 前条の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
 - 二 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者
 - 三 正当の理由がなく出席常でない者
 - 四 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

第16章 職員組織及び教授会

- 第59条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及び技術職員を置く。
- 2 本学に前項のほか、副学長その他必要な職員を置くことができる。
- 第60条 職員の職務は、次の通りとする。
- 一 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する
 - 二 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる
 - 三 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する
 - 四 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する
 - 五 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する
 - 六 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する
 - 七 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する
 - 八 事務職員は、事務に従事する
 - 九 技術職員は、技術に関する職務に従事する
- 第61条 本学に、教授会を置く。
- 2 教授会は、学長、副学長、教授、准教授、講師及び助教をもって組織する。
- 3 教授会の構成及び運営に関する事項は、別に定める。
- 第62条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- 一 学生の入学、卒業
 - 二 学位の授与
 - 三 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第17章 基礎教育研究センター、図書館、工作技術センター及び研究所

- 第63条 本学に基礎教育研究センター、図書館、工作技術センター及び研究所を置く。
- 2 基礎教育研究センター、図書館、工作技術センター及び研究所の運営等に関する事項は、別に定める。

第18章 大学院

第64条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する事項は、別に定める。

第19章 公開講座

第65条 本学に公開講座を開設することができる。

2 公開講座の運営等に関する事項は、別に定める。

第20章 学則の改廃

第66条 この学則の改廃は、教授会の議を経て、理事会が行う。

附 則（令和6年3月8日 八工大総第92号）

1. この学則は、令和 6年 4月 1日から施行する。

別表第1

工学部 工学科 授業科目及び単位数

令和5年度入学生より適用

※()内の数字は単位数を表す

キャリア教育科目			
キャリアデザインⅠ(1)	キャリアデザインⅡ(1)	キャリアデザインⅢ(1)	職業倫理(2)
総合教養科目			
人間科学分野			
心理学(2)	哲学(2)	文学(2)	日本国憲法(2)
歴史(2)	経済学(2)	知的財産論(2)	
国際コミュニケーション分野			
日本語表現法(2)	実践日本語表現(2)	異文化コミュニケーション(2)	総合英語(2)
実践英語(2)	教養英語(2)	英語会話(2)	英語表現(2)
Global English(2)	English Communication(2)	English Reading(2)	Technical English(2)
中国語Ⅰ(2)	中国語Ⅱ(2)	中国語Ⅲ(2)	
体育科学分野			
体育学(1)	生涯スポーツ演習(1)	スポーツ健康学(1)	
総合学際分野			
主題別ゼミナールⅠ(1)	主題別ゼミナールⅡ(1)	海外研修(1)	
AI・データサイエンス科目			
AI・データサイエンス入門(2)	データアナリティクスⅠ(2)	データアナリティクスⅡ(2)	
共創教育科目			
工学概論(2)	デザインと技術(2)	北東北八戸の地域学(2)	共創デザイン演習(2)
カーボンニュートラル入門(2)	カーボンニュートラル概論Ⅰ(1)	カーボンニュートラル概論Ⅱ(1)	
工学基礎科目			
微分積分(2)	線形代数(2)	確率・統計(2)	基礎物理学Ⅰ(2)
基礎物理学Ⅱ(2)	応用物理学概論(2)	物理学実験(2)	基礎化学Ⅰ(2)
基礎化学Ⅱ(2)	化学実験(2)	生命科学(2)	
専門科目			
機械工学専門科目			
基礎情報科学M(2)	材料力学Ⅰ(2)	材料力学Ⅱ(2)	機械力学Ⅰ(2)
機械力学Ⅱ(2)	熱力学Ⅰ(2)	熱力学Ⅱ(2)	流れ学Ⅰ(2)
流れ学Ⅱ(2)	伝熱工学(2)	基礎機械情報工学(2)	応用機械情報工学(2)
メカトロニクス基礎(2)	機械材料工学(2)	機械加工工学(2)	機械工作実習Ⅰ(1)
基礎設計工学(2)	応用設計工学(2)	基礎設計製図(2)	CAD設計製図(2)
機械設計技法(2)	機械工学実験Ⅰ(1)	機械工学実験Ⅱ(1)	機械工学演習Ⅰ(2)
機械工学演習Ⅱ(2)	技術マネジメント概論(2)	プロジェクトⅠ(2)	プロジェクトⅡ(2)
プロジェクトⅢ(2)	機械工学統合演習(2)	プロジェクト実習Ⅰ(1)	学外研修M(1)
卒業研究M(6)	基礎自動車工学(1)	潤滑工学(1)	自動車エンジン(1)
自動車測定検査概論(1)	自動車構造Ⅰ(1)	自動車構造Ⅱ(1)	自動車法規(1)
自動車工学(2)	電気電子工学概論(1)	電子回路工学(1)	カーエレクトロニクス(1)
自動車検査(1)	自動車整備実習(6)		
電気電子通信工学専門科目			
基礎情報科学E(2)	電気電子通信工学入門(2)	電気回路入門(2)	電気電子数学Ⅰ(2)
電気電子数学Ⅱ(2)	電磁気学Ⅰ(2)	電磁気学Ⅱ(2)	電磁気学演習Ⅰ(1)
電磁気学演習Ⅱ(1)	電気回路Ⅰ(2)	電気回路Ⅱ(2)	電気回路演習Ⅰ(1)
電気回路演習Ⅱ(1)	電力発生工学(2)	電力輸送工学(2)	電気機器工学(2)
電気利用工学(2)	高電界工学(2)	パワーエレクトロニクス(2)	電気法規と電気施設管理(2)
電子回路Ⅰ(2)	電子回路Ⅱ(2)	センサー応用工学(2)	電気電子材料工学(2)
半導体工学(2)	現代制御工学(2)	コンピュータプログラミング(2)	情報メディア工学(2)
情報通信工学Ⅰ(2)	情報通信工学Ⅱ(2)	通信ネットワーク工学(2)	電磁波工学(2)
情報通信法規(2)	リモートセンシング概論(1)	創造工学実験(2)	電気電子通信基礎実験(2)
電気エネルギーシステム実験(2)	電子情報通信システム実験(2)	電気電子設計製図(2)	インターンシップE(1)
学外研修E(1)	先端技術工学Ⅰ(1)	卒業研究E(6)	

システム情報工学専門科目			
情報科学アカカルト(2)	情報工学概論(2)	基礎情報科学I(2)	離散数学(2)
オペレーションズリサーチ(2)	オペレーティングシステム(2)	データベース(2)	プログラミング入門(2)
プログラミング言語(2)	データ構造とアルゴリズム(2)	プログラム設計(2)	コンピュータシステム(2)
産業情報論(2)	経営情報論(2)	コンテンツ制作入門(2)	コンピュータグラフィックス(2)
ビジュアル情報処理(2)	マルチメディア工学(2)	デジタル信号処理(2)	ウェブデザイン(2)
情報通信工学(2)	情報ネットワーク入門(2)	情報セキュリティ入門(2)	情報ネットワーク構築(2)
情報セキュリティ(2)	情報文化論(2)	電気工学(2)	電子工学(2)
知識工学(2)	ロボット工学(2)	シミュレーション工学(2)	数値解析I(2)
集積回路(2)	情報工学基礎実験Ⅰ(1)	情報工学基礎実験Ⅱ(1)	情報工学応用実験Ⅰ(1)
情報工学応用実験Ⅱ(1)	情報専門ゼミナール(2)	情報工学特別講義(2)	設計・製図(2)
学外研修I(1)	卒業研究I(6)		
生命環境科学専門科目			
基礎情報科学L(2)	生命環境科学概論(2)	生命環境科学導入デザイン(2)	バイオテクノロジー(2)
無機化学(2)	生化学(2)	物理化学(2)	分析化学(2)
有機化学(2)	環境化学量論(2)	化学工学(2)	微生物学(2)
微生物工学(2)	分子遺伝学(2)	遺伝子工学(2)	環境生物学(2)
酵素工学(2)	生理学(2)	生物有機化学(2)	食品分析学(2)
食品製造学(2)	食品工学(2)	食品化学(2)	食品衛生学(2)
公衆衛生学(2)	品質管理(2)	計測制御工学(2)	リサイクル工学(2)
グリーンケミストリー(2)	環境影響評価論(2)	機器分析(2)	環境汚染物質分析学(2)
生命環境科学基礎演習Ⅰ(2)	生命環境科学基礎演習Ⅱ(2)	生命環境科学演習Ⅰ(2)	生命環境科学演習Ⅱ(2)
生命環境科学基礎実験(1)	生命環境科学実験Ⅰ(1)	生命環境科学実験Ⅱ(1)	生命環境プロセス実習Ⅰ(1)
生命環境プロセス実習Ⅱ(1)	インターンシップL(1)	生命環境科学セミナー(1)	卒業研究L(6)
建築・土木工学専門科目			
基礎情報科学D(2)	土木工学概論(2)	建築概論(2)	基礎製図(2)
CAD基礎演習(2)	地球環境論(2)	測量学(2)	測量実習(1)
都市計画(2)	構造力学Ⅰ(2)	構造力学Ⅱ(2)	地盤工学Ⅰ(2)
建設応用数学(2)	デッサン(2)	色彩学(2)	建築設計Ⅰ(3)
建築設計Ⅱ(3)	建築設計Ⅲ(3)	建築設計Ⅳ(3)	建築構造設計(2)
住居計画(2)	建築計画(2)	地域施設計画(2)	建築史(2)
近代建築史(2)	建築環境工学Ⅰ(2)	建築環境工学Ⅱ(2)	建築設備(2)
鉄筋コンクリート構造(2)	基礎工学(2)	鋼構造(2)	木質構造(2)
建築材料科学(2)	建築施工(2)	建築生産(2)	建築材料実験(2)
建築法規(2)	雪国建築(2)	インテリアデザイン(2)	ユニバーサルデザイン(2)
材料の力学(2)	上下水道工学(2)	水処理工学(2)	水理学Ⅰ(2)
水理学Ⅱ(2)	河川工学(2)	海岸・港湾工学(2)	道路・交通工学(2)
地盤工学Ⅱ(2)	コンクリート工学(2)	コンクリート構造学(2)	土木工学実験Ⅰ(2)
土木工学実験Ⅱ(2)	水工学設計・演習(2)	地盤工学設計演習(2)	橋工学設計・演習(2)
応用測量学及び実習(2)	火薬学(2)	維持管理工学(2)	施工技術(2)
インターンシップD(1)	学外研修D(1)	総合デザインⅠ(2)	総合デザインⅡ(2)
数値解析D(2)	卒業研究D(6)		
工学発展科目			
原子力エネルギー(2)	放射線の利用(2)	原子力体感研修(2)	原子燃料サイクル・安全工学(2)
海洋学の基礎と未来(2)	海洋生物学(2)	臨海実習(2)	海洋生態学(2)
海洋土木Ⅰ(2)	海洋土木Ⅱ(2)	ロボット工学概論(2)	ロボット工学実習(2)
計測工学(2)	論理回路(2)	制御工学(2)	
特別専攻科目			
解析Ⅰ(2)	解析Ⅱ(2)	特別専攻プロジェクトⅠ(2)	特別専攻プロジェクトⅡ(2)
特別専攻ゼミナールⅠ(2)	特別専攻ゼミナールⅡ(2)		

感性デザイン学部 感性デザイン学科 授業科目及び単位数

令和5年度入学生より適用

※()内の数字は単位数を表す

キャリア教育科目			
キャリアデザインⅠ(1)	キャリアデザインⅡ(1)	キャリアデザインⅢ(1)	職業倫理(2)
総合教養科目			
人間科学分野			
心理学(2)	哲学(2)	文学(2)	日本国憲法(2)
歴史(2)	経済学(2)	知的財産論(2)	
国際コミュニケーション分野			
日本語表現法(2)	実践日本語表現(2)	異文化コミュニケーション(2)	総合英語(2)
実践英語(2)	教養英語(2)	英語会話(2)	英語表現(2)
Global English(2)	English Communication(2)	English Reading(2)	Technical English(2)
中国語Ⅰ(2)	中国語Ⅱ(2)	中国語Ⅲ(2)	
体育科学分野			
体育学(1)	生涯スポーツ演習(1)	スポーツ健康学(1)	
総合学際分野			
主題別ゼミナールⅠ(1)	主題別ゼミナールⅡ(1)	海外研修(1)	
AI・データサイエンス科目			
AI・データサイエンス入門(2)	データアナリティクスⅠ(2)	データアナリティクスⅡ(2)	
共創教育科目			
デザインと技術(2)	北東北八戸の地域学(2)	共創デザイン演習(2)	カーボンニュートラル入門(2)
カーボンニュートラル概論Ⅰ(1)	カーボンニュートラル概論Ⅱ(1)		
専門科目			
感性デザイン基礎			
デザイン基礎分野			
感性デザイン学概論(1)	デザイン思考(1)	図学(2)	美術史(2)
デザイン史(2)	ユニバーサルデザイン(2)	フィールドワーク基礎(1)	製図(2)
デッサン(2)	色彩学(2)	表現技法(2)	写真技術実習(1)
映像制作実習(1)	工芸実習(2)	製造工作実習(1)	
情報技術分野			
コンピュータ基礎演習(2)	アカデミックライティング(2)	プレゼンテーション(2)	CAD演習Ⅰ(2)
CAD演習Ⅱ(2)	情報メディア論(2)		
感性デザイン応用			
デザイン応用分野			
ビジュアルデザイン論(2)	タイポグラフィ(2)	イラストレーションⅠ(2)	イラストレーションⅡ(2)
Webデザイン(2)	広告デザイン(2)	絵画Ⅰ(2)	絵画Ⅱ(2)
彫刻(2)	工芸学(2)	プロトタイピング(2)	プロダクトデザイン(2)
インテリアデザイン(2)	音と光デザイン(2)	住環境デザイン(2)	地域文化論(2)
地域コミュニティ論(2)	ビジュアルデザイン演習(2)	共生社会デザイン(2)	メディア表現論(2)
芸術批評(2)			
デザイン実践分野			
企画構想実習(2)	アートプロジェクト(2)	インターメディア造形演習Ⅰ(2)	インターメディア造形演習Ⅱ(2)
フィールドワーク演習(1)	地域デザインプロジェクト(1)		
総合演習分野			
感性デザイン総合演習Ⅰ(2)	感性デザイン総合演習Ⅱ(2)	感性デザイン総合演習Ⅲ(2)	感性デザイン応用演習(2)
感性デザイン特別演習(1)	インターンシップ(1)	卒業研究(6)	
特別専攻科目			
特別専攻プロジェクトⅠ(2)	特別専攻プロジェクトⅡ(2)	特別専攻ゼミナールⅠ(2)	特別専攻ゼミナールⅡ(2)

別表第1 卒業に必要な修得単位数

工学部 工学科

科目区分・分野	修得単位数
キャリア教育科目	5単位
総合教養科目	下記2分野の単位数を含み 18単位以上
人間科学分野	6単位以上
国際コミュニケーション分野	8単位以上
AI・データサイエンス科目	2単位以上
共創教育科目	4単位以上
工学基礎科目	14単位以上
専門科目	70単位以上
総 計	124単位以上

感性デザイン学部 感性デザイン学科

科目区分・分野	修得単位数
キャリア教育科目	5単位
総合教養科目	下記分野の単位数を含み 22単位以上
国際コミュニケーション分野	8単位以上
AI・データサイエンス科目	2単位以上
共創教育科目	2単位以上
専門科目	
デザイン基礎分野	
情報技術分野	24単位以上
デザイン応用分野	24単位以上
デザイン実践分野	4単位以上
総合演習分野	12単位以上
総 計	124単位以上

教職課程の授業科目及び単位数

令和5年度入学生より適用

※()内の数字は単位数を表す

共通：高一種(工業)、高一種(情報)、中一種(美術)、高一種(美術)、高一種(工芸)

必修科目			
教職総論(2)	教育基礎論(2)	教育の制度(2)	認知と人格の発達(2)
特別支援教育総論(1)	教育課程論(2)	総合的な学習の時間の指導法(2)	特別活動(2)
教育工学(2)	生徒指導・進路指導(2)	教育相談(2)	教職実践演習(中・高)(2)
事前・事後指導(1)	教育実習 I (2)	ICT活用と指導法(1)	

高一種(工業)

必修科目			
AI・データサイエンス入門(2)	工学概論(2)	工業科指導法(4)	職業指導(4)
日本国憲法(2)	体育学(1)	スポーツ健康学(1)	
選択必修科目			
総合英語(2)	実践英語(2)	教養英語(2)	※左記より1科目選択必修
英語会話(2)	英語表現(2)		
基礎情報科学M(2)	基礎情報科学E(2)	基礎情報科学I(2)	※左記より1科目選択必修
基礎情報科学L(2)	基礎情報科学D(2)		
機械工学実験 I (1)	機械工学実験 II (1)	機械工学演習 I (2)	① ※左記より1科目以上選択必修
機械工学演習 II (2)	プロジェクト実習(1)	創造工学実験(2)	
電気電子通信基礎実験(2)	電気エネルギーシステム実験(2)	電子情報通信システム実験(2)	
情報工学基礎実験 I (1)	生命環境科学基礎実験(1)	生命環境科学実験 I (1)	
生命環境プロセス実習 II (1)	測量実習(1)	建築材料実験(2)	
土木工学実験 I (2)	土木工学実験 II (2)		② ※左記より1科目以上選択必修
基礎設計製図(2)	CAD設計製図(2)	機械設計技法(2)	
電気電子設計製図(2)	設計・製図(2)	基礎製図(2)	※左記より1科目以上選択必修
CAD基礎演習(2)	建築設計 I (3)	建築設計 II (3)	
材料力学 I (2)	機械力学 I (2)	熱力学 I (2)	※左記より、上記①・②の2区分から選択必修により取得した単位を加えて28単位以上選択必修
流れ学 I (2)	伝熱工学(2)	基礎機械情報工学(2)	
機械材料工学(2)	機械加工工学(2)	機械工作実習(1)	
基礎設計工学(2)	電気電子通信工学入門(2)	電気回路入門(2)	
電気電子数学 I (2)	電磁気学 I (2)	電磁気学 II (2)	
電磁気学演習 I (1)	電磁気学演習 II (1)	電気回路 I (2)	
電気回路 II (2)	電気回路演習 I (1)	電気回路演習 II (1)	
電気機器工学(2)	電子回路 I (2)	電気電子材料工学(2)	
半導体工学(2)	コンピュータプログラミング(2)	情報通信工学 I (2)	
情報工学概論(2)	プログラミング入門(2)	ビジュアル情報処理(2)	
デジタル信号処理(2)	電気工学(2)	電子工学(2)	
ロボット工学(2)	シミュレーション工学(2)	数値解析I(2)	
集積回路(2)	生命環境科学概論(2)	バイオテクノロジー(2)	
無機化学(2)	物理化学(2)	分析化学(2)	
有機化学(2)	環境化学量論(2)	化学工学(2)	
食品工学(2)	食品化学(2)	品質管理(2)	
計測制御工学(2)	リサイクル工学(2)	グリーンケミストリー(2)	
土木工学概論(2)	建築概論(2)	地球環境論(2)	
測量学(2)	都市計画(2)	構造力学 I (2)	
構造力学 II (2)	地盤工学 I (2)	住居計画(2)	
建築計画(2)	建築設備(2)	鉄筋コンクリート構造(2)	
基礎工学(2)	建築材料学(2)	建築施工(2)	
建築法規(2)	材料の力学(2)	上下水道工学(2)	
水処理工学(2)	水理学 I (2)	水理学 II (2)	
地盤工学 II (2)	コンクリート工学(2)	コンクリート構造工学(2)	
水工学設計・演習(2)	地盤工学設計演習(2)	計測工学(2)	
論理回路(2)	制御工学(2)		

高一種(情報)

必修科目			
離散数学(2)	オペレーションズリサーチ(2)	オペレーティングシステム(2)	データベース(2)
プログラミング言語(2)	データ構造とアルゴリズム(2)	プログラム設計(2)	コンピュータシステム(2)
産業情報論(2)	コンテンツ制作入門(2)	コンピュータグラフィックス(2)	ウェブデザイン(2)
情報通信工学(2)	情報ネットワーク入門(2)	情報セキュリティ入門(2)	情報文化論(2)
情報工学基礎実験Ⅱ(1)	情報工学応用実験Ⅰ(1)	情報工学応用実験Ⅱ(1)	情報科指導法(4)
日本国憲法(2)	体育学(1)	スポーツ健康学(1)	
選択必修科目			
総合英語(2)	実践英語(2)	教養英語(2)	※左記より1科目選択必修
英語会話(2)	英語表現(2)		
基礎情報科学M(2)	基礎情報科学E(2)	基礎情報科学I(2)	※左記より1科目選択必修
基礎情報科学L(2)	基礎情報科学D(2)		

中一種(美術)

必修科目			
道徳教育(2)	教育実践論(2)	教育実習Ⅱ(2)	美術史(2)
デザイン史(2)	デッサン(2)	色彩学(2)	表現技法(2)
工芸実習(1)	CAD演習Ⅰ(2)	ビジュアルデザイン論(2)	イラストレーションⅠ(2)
Webデザイン(2)	絵画Ⅰ(2)	絵画Ⅱ(2)	彫刻(2)
芸術批評(2)	ビジュアルデザイン演習(2)	美術科指導法Ⅰ(4)	美術科指導法Ⅱ(2)
美術科指導法Ⅲ(2)	日本国憲法(2)	体育学(1)	スポーツ健康学(1)
コンピュータ基礎演習(2)			
選択必修科目			
感性デザイン総合演習Ⅰ(2)	感性デザイン総合演習Ⅱ(2)	感性デザイン総合演習Ⅲ(2)	※左記より1科目選択必修
総合英語(2)	実践英語(2)	教養英語(2)	
英語会話(2)	英語表現(2)		※左記より1科目選択必修
選択科目			
CAD演習Ⅱ(2)	タイポグラフィー(2)	イラストレーションⅡ(2)	

高一種(美術)

必修科目			
美術史(2)	デザイン史(2)	デッサン(2)	色彩学(2)
表現技法(2)	CAD演習Ⅰ(2)	CAD演習Ⅱ(2)	ビジュアルデザイン論(2)
タイポグラフィー(2)	イラストレーションⅠ(2)	イラストレーションⅡ(2)	Webデザイン(2)
絵画Ⅰ(2)	絵画Ⅱ(2)	彫刻(2)	芸術批評(2)
ビジュアルデザイン演習(2)	美術科指導法Ⅰ(4)	日本国憲法(2)	体育学(1)
スポーツ健康学(1)	コンピュータ基礎演習(2)		
選択必修科目			
感性デザイン総合演習Ⅰ(2)	感性デザイン総合演習Ⅱ(2)	感性デザイン総合演習Ⅲ(2)	※左記より1科目選択必修
総合英語(2)	実践英語(2)	教養英語(2)	
英語会話(2)	英語表現(2)		※左記より1科目選択必修
選択科目			
美術科指導法Ⅱ(2)	美術科指導法Ⅲ(2)		

高一種(工芸)

必修科目			
図学(2)	美術史(2)	デザイン史(2)	デッサン(2)
色彩学(2)	表現技法(2)	工芸実習(2)	CAD演習Ⅰ(2)
CAD演習Ⅱ(2)	ビジュアルデザイン論(2)	タイポグラフィー(2)	イラストレーションⅠ(2)
イラストレーションⅡ(2)	Webデザイン(2)	工芸学(2)	芸術批評(2)
ビジュアルデザイン演習(2)	工芸科指導法(4)	日本国憲法(2)	体育学(1)
スポーツ健康学(1)	コンピュータ基礎演習(2)		
選択必修科目			
感性デザイン総合演習Ⅰ(2)	感性デザイン総合演習Ⅱ(2)	感性デザイン総合演習Ⅲ(2)	※左記より1科目選択必修
総合英語(2)	実践英語(2)	教養英語(2)	※左記より1科目選択必修
英語会話(2)	英語表現(2)		

別表第3 学費、入学検定料

工学部学費

学 費 種 別	学 部 学 生	科 目 等 履 修 生	聴 講 生	研 究 生
入 学 金 (入 学 時)	250,000 円	27,500 円	27,500 円	66,000 円
授 業 料	年額 942,000 円	1 単位につき 講義科目 22,000 円 実験実習科目 41,000 円	1 単位につき 講義科目 18,000 円 実験実習科目 33,000 円 (一部を受講する場合は按分)	月額 24,000 円
施設設備費 (年 額)	300,000 円			
実験実習費 (年 額)	1 年次 30,000 円 2 年次以降 65,000 円	実 費 徴 収	実 費 徴 収	実 費 徴 収

感性デザイン学部学費

学 費 種 別	学 部 学 生	科 目 等 履 修 生	聴 講 生	研 究 生
入 学 金 (入 学 時)	250,000 円	27,500 円	27,500 円	66,000 円
授 業 料	年額 650,000 円	1 単位につき 講義科目 22,000 円 演習実習科目 41,000 円	1 単位につき 講義科目 18,000 円 実験実習科目 33,000 円 (一部を受講する場合は按分)	月額 24,000 円
施設設備費 (年 額)	170,000 円			
演習実習費 (年 額)	1 年次 30,000 円 2 年次以降 65,000 円	実 費 徴 収	実 費 徴 収	実 費 徴 収

入学検定料は、工学部、感性デザイン学部ともに次の通りとする。

学部学生 30,000 円

(ただし、「大学入学共通テスト利用選抜試験」で志願する者は、15,000 円 とする。)

科目等履修生 20,000 円

聴講生 20,000 円

研究生 20,000 円

7.2 八戸工業大学学位規程

制定 平成7年1月13日 理事会

改正 平成25年9月19日 工学研究科委員会

平成25年9月19日 教授会

(趣旨)

第1条 本学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条の規定により、八戸工業大学(以下「本学」という。)が授与する学位については、八戸工業大学学則及び八戸工業大学大学院学則に定めるほか、この規程に定めるところによる。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士(工学)、学士(感性デザイン)、修士(工学)及び博士(工学)とする。

(学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位は、本学大学院の博士前期課程を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第5条 博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

- 2 前項に定める者のほか、博士の学位は、本学大学院学則第34条第2項の定めるところにより、博士論文の審査に合格し、かつ、博士後期課程の修了者と同等以上の学力を有すると確認された者に授与する。

(研究成果等の審査)

第6条 第4条の規定により学位の申請をする者については、工学研究科委員会(以下「委員会」という)が課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査または博士論文研究基礎力審査をもって論文の審査に代えることができる。

(論文の提出)

第7条 修士及び博士の学位の授与を受けようとする者は、定められた期日までに修士論文又は博士論文、論文の要旨を指導教員を通じて、学長に提出するものとする。

- 2 第5条第2項の規定により博士の学位の授与を申請する者は、学位申請書に博士論文、論文の要旨及び別表に定める論文審査手数料を添え、学長に提出しなければならない。
- 3 提出した学位論文及び納付した論文審査手数料は、いかなる事由があっても返付しない。

(論文審査等の付託)

第8条 学長は、学位論文を受理したときは、その審査及び最終試験又は審査及び学力確認を委員会に付託するものとする。

(審査委員会)

第9条 委員会は、前条の規定による審査の付託があったときは、本学大学院担当の複数の教員で組織する審査委員会を設ける。

- 2 主査には指導教員があたる。
- 3 審査委員会は、審査にあたって必要があるときは、委員会の議を経て、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

(最終試験)

第10条 最終試験は、学位論文を中心とした専攻分野に関する研究能力及び学識について、口答又は筆答により行うものとする。

(学力確認の方法)

第11条 第5条第2項の規定による学力の確認は、博士論文に関連ある専攻分野の科目及び外国語について、口答又は筆答により行うものとする。

(審査後の省略)

第12条 審査委員会は学位論文の審査の結果、不合格と判定したときは、最終試験及び学力確認を行わないものとする。

(審査期間)

第13条 学位論文の審査及び最終試験は、在学期間中に終了するものとする。

- 2 第5条第2項の規定により博士論文が提出されたときは、その提出日から1年以内に博士論文の審査及び学力の確認を終了するものとする。ただし、特別の事由があるときは委員会の議を経て、その期間を延長することができる。

(審査結果の報告)

第14条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験又は学位論文の審査及び学力確認が終了したときは、その結果を文書により委員会に報告するものとする。

(学位授与の審議)

第15条 委員会は、修得単位並びに前条の報告に基づいて審議し、学位授与の可否について議決する。

(学位の授与)

第16条 学長は、委員会の議を経て、学位を授与できると認める者に所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知するものとする。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。
この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 博士の学位を授与された者が行う第1項および第2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。
- 4 第1項の規定により公表する場合は「八戸工業大学審査学位論文(博士)」、第2項の規定により公表する場合は「八戸工業大学審査学位論文(博士)の要旨」と明記しなければならない。

(審査要旨等の公表)

第18条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位授与の報告)

第19条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(学位の名称)

第20条 学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、八戸工業大学の文字を付記するものとする。

(学位の取消)

第21条 学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は、委員会の議に基づいて、その授与された学位を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- 一 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき
- 二 名誉を汚す行為があったとき

(学位記の様式)

第22条 学位記の様式は、別記のとおりとする。

(学位記の再交付)

第23条 学位記の再交付を受けようとする者は、その理由を記載した申請書に所定の手数料を添えて、学長に願ひ出るものとする。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成25年 4月 1日から施行する。

別 表 論文審査手数料

規程第7条第2項による博士論文
130,000

・本学大学院の博士後期課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けて退学後3年以内の者の論文審査手数料は免除する。

別 記 学位記の様式

1. 学 士

第3条の規定により授与する学位記の様式

第 号	年 月 日	大学印	学位記
八戸工業大学長	氏名	氏名	氏名
氏名	印	年 月 日生	印
本学工学部 学科所定の課程を修めて本学を卒業したことを認め学士(工学)の学位を授与する			

第3条の規定により授与する学位記の様式

第 号	年 月 日	大学印	学位記
八戸工業大学長	氏名	氏名	氏名
氏名	印	年 月 日生	印
本学感性デザイン学部 学科所定の課程を修めて本学を卒業したことを認め学士(感性デザイン)の学位を授与する			

2. 修士
第4条の規定により授与する学位記の様式

修 第 号	年 月 日	八戸工業大学長	氏 名	印	学位記	大学印	氏名	年	月	日生
						本学大学院工学研究科 専攻の博士前期課程 において所定の単位を修得し学位論文の審査および最終 試験に合格したので修士(工学)の学位を授与する				

3. 博士
第5条第1項の規定により授与する学位記の様式

博 第 号	年 月 日	八戸工業大学長	氏 名	印	学位記	大学印	氏名	年	月	日生
						本学大学院工学研究科 専攻の博士後期課程 において学位論文の審査および最終試験に合格したので 博士(工学)の学位を授与する				

第5条第2項の規定により授与する学位記の様式

第 号	年 月 日	八戸工業大学長	氏 名	印	学位記	大学印	氏名	年	月	日生
						本学に博士論文を提出し所定の審査および試験に合格 したので博士(工学)の学位を授与する				

7.3 八戸工業大学学費納入規程

制定 平成5年1月21日 理事会

改正 令和7年1月31日 理事会

(目 的)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則第36条及び八戸工業大学大学院学則第49条の規定に基づき、学費の納入方法その他の取扱いについて定める。

(学 費)

第2条 この規程における学費とは、学則第35条で定める別表第3の学費種別のうち、入学金及び授業料等(学費種別の授業料、施設設備費、実験実習費、演習実習費をいう。)をいう。

2 授業料等はこれを二分割し、半額をⅠ期授業料等、他の半額をⅡ期授業料等という。

(納入期限)

第3条 Ⅰ期授業料等は5月10日までに、Ⅱ期授業料等は10月10日までに納入しなければならない。

(入学時の納入期限)

第4条 前条の規定にかかわらず、入学の許可を得ようとする者の学費は、所定の入学手続締切日までに納入しなければならない。

(納入方法)

第5条 学費の納入方法は、原則として銀行振込みとする。

2 Ⅰ期・Ⅱ期授業料等は、原則として各々一括して納入しなければならない。延納を許可されたときにおいても同様とする。

(延納許可)

第6条 授業料等の延納を希望する者があるときは、次の各号の一に該当する者に限り許可することがある。

- 一 授業料等支弁者が、死亡または不慮の災害等により支払いが困難であると認められる者
- 二 その他やむを得ない事由があると認められる者

(延納の手続)

第7条 授業料等の延納を希望するときは、原則として第3条に定める納入期限までに、所定の「授業料等延納願い」により願い出なければならない。

2 前項により願い出るとき、延納の事由を明らかにする証明書等の提出を求めることがある。

(延納納入期限)

第8条 授業料等の延納納入日は、原則として、Ⅰ期授業料等においては7月20日、Ⅱ期授業料等においては翌年1月10日を超えることができない。

(延納許可の取消)

第9条 授業料等の延納を許可された者の願い出が虚偽であることが明らかになったときは、延納の許可を取り消す。

(滞納の起算日)

第10条 学則第22条第五号に定める授業料等滞納期間の起算日は、Ⅰ期・Ⅱ期授業料等の各納入期限の翌日、延納が許可されたときは第8条に定める各延納納入期限の翌日、休学者が復学するときは復学する日を起算日とする。

第11条 削除

(復 籍)

第12条 学則第22条第五号に基づき除籍された者が復籍を願い出たときは、学長がこれを許可することができる。

- 2 復籍願い出の期限は、原則として除籍後15日以内とする。
- 3 復籍を願い出るときは、所定の「復籍願い」を提出し、滞納分の授業料等を納入しなければならない。

(休学者の学費)

第13条 休学を願い出るときは、所定の授業料等を納入しなければならない。

- 2 休学を許可された者の授業料等は、学年の始めから終りまでの期間に対する休学期間の割合に応じて按分し、休学期間に相当する授業料等は、これを免除する。
- 3 休学者が復学するとき、所定の授業料等を納入しなければならない。
- 4 第2項の規定にかかわらず、入学手続時に納入した学費については、これを免除しない。

(年度途中卒業等)

第14条 年度途中で卒業、退学または転学する者は、Ⅰ期授業料等またはⅡ期授業料等を完納していなければならない。

- 2 退学または転学を願い出るときは、所定の授業料等を納入しなければならない。

(既納の学費)

第15条 既に納入した学費は、別に定めるときを除いて、事情の如何にかかわらず返戻しない。

(所定の修業年限を超える学生の授業料等)

第16条 所定の修業年限の授業料等を納入した学部学生が3学年以上に在学している場合、授業料等の5割を納入することで在学できる。ただし、在学年数は8年を超えることはできない。

- 2 所定の標準修業年限の授業料を納入した博士前期課程学生が特別研究活動を継続している場合、授業料の3割を納入することで在学できる。ただし、在学年数は4年を超えることはできない。
- 3 所定の標準修業年限の授業料を納入した博士後期課程学生が特別研究活動を継続している場合、授業料の1割を納入することで在学できる。ただし、在学年数は6年を超えることはできない。

(事務の取扱い)

第17条 この規程に定めのない事項及びこの規程の運用にあたって特別な事項は、理事長が定める。

(改 廃)

第18条 この規程の改廃は、理事会の議を経て行う。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、令和 6年 4月 1日から施行する。

7. 4 八戸工業大学学生心得

改正 令和7年1月16日 学生委員会

(目 的)

第1条 この学生心得は、本学学生の遵守すべき事項を定めることを目的とする。

(規則の遵守)

第2条 学生は、学則はもとより、その他の本学で定める規則等を遵守し、学生の本分を守るよう努めなければならない。

(学 生 証)

第3条 学生は入学の際、学生証の交付を受けて常時これを携帯しなければならない。

- 2 学生証の有効期間は発行日から原則4年間とする。
- 3 学生証を持たないで、教室、研究室および図書館等に入ることができない。携帯しないときは退場を命ずることがある。
- 4 学生証は、本学教員その他しかるべき者の要請があったときは、いつでもこれを提示しなければならない。

第4条 学生証を汚損または紛失したときは、ただちに本学所定の様式により教育・学生支援部教務・学生支援チームに届け出て、再交付を受けなければならない。この場合の有効期間は再発行の日から通常の修業年限終了までとする。

第5条 学生証は、卒業、転学、転学科、退学、除籍により学籍を離れたとき、または有効期間を経過したときは、ただちに教育・学生支援部教務・学生支援チームに返却しなければならない。なお、有効期間を超えて在籍するときは、更新の手続きを行わなければならない。

(欠席・忌引および遅刻早退の届出)

第6条 3日以上欠席するときは本学所定の様式により、必ずその理由を明記し保証人と連署して教育・学生支援部教務・学生支援チームに届け出なければならない。

ただし、7日以上欠席するときは必ず証明書を添付することを要する。

2 学友会活動、課外活動等による特別欠席の場合は、所定用紙に記入し、代表学生および顧問の署名押印のうえ、その活動の3日前までに教育・学生支援部教務・学生支援チームに提出し、教育・学生支援部長の許可を受けなければならない。

3 忌引の場合は前項に準じて本学所定の忌引届を教育・学生支援部教務・学生支援チームに提出しなければならない。

4 遅刻・早退は必ず教科担任へ口頭もしくは書面で届け出るものとする。

(諸変更届)

第7条 氏名、本籍および宿所(住所)を変更したときは、そのつど本学所定の様式により遅滞なく教育・学生支援部教務・学生支援チームに届け出なければならない。

第8条 保証人の変更および保証人が氏名または住所を変更した場合は、そのつど速やかに本学所定の様式により教育・学生支援部教務・学生支援チームに届け出なければならない。

(諸 願)

第9条 休学、再休学、復学、退学、転学、または転学科を希望する場合は、本学所定の様式により保証人連署のうえ願い出て学長の許可を受けなければならない。

(受 講)

第10条 学生は教場においては静粛を旨とし雑談、その他粗暴の挙動があつてはならない。

2 授業中に退席することはできない。

やむを得ない事由があつて退席するときは、教員の許可を受けなければならない。

(服装、校舎への出入、喫煙等)

第11条 服装は良識により、清潔端正で品位を保ち異様なものはまわらないこと。

2 校舎への出入りは所定の出入口を利用すること。

3 構地内および学内の危険立入禁止場所には立ち入らないこと。

4 指定の場所以外で喫煙しないこと。

5 満20才未満の者の飲酒、喫煙は法により禁じられている。

(定期健康診断)

第12条 学生は学校保健安全法(昭和33年法律第56号)により、毎年本学で行う健康診断を必ず受けなければならない。

2 疾病その他正当の理由により前項の健康診断を受けることができないときは、その事由を付して教育・学生支援部教務・学生支援チームに届け出なければならない。

(学園の秩序維持)

第13条 学生は学園にふさわしい環境を整えることに協力し、学園の秩序を乱すような行動をしてはならない。

(事故発生時)

第14条 火災、盗難には特に注意し、事故発生の際は総務部総務・学事チームに急報するとともに消火、防止に努めること。

附則の一部を省略している。

附 則 この心得は、令和 6年 4月 1日より施行する。

7.5 八戸工業大学履修規程

制定 平成14年2月21日 教授会

改正 令和8年1月29日 教授会

(趣旨)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則に規定するものの他、授業科目の履修について必要な事項を定める。

(学科、コース及びプログラムの履修等)

第2条 授業科目(以下「科目」という。)及び単位数は、学則別表第1に定めるとりとする。

2 学則第23条第3項に規定する工学科の各コースの修了要件として、履修プログラムを次のとおり定める。

学部	学科	コース	履修プログラム
工学部	工学科	機械工学	機械工学 機械工学総合 自動車工学
		電気電子通信工学	電気電子通信工学
		システム情報工学	システム情報工学
		生命環境科学	生命環境科学
		建築・土木工学	建築学 土木工学

- 一 コースは入学時に選択し、2年進級時に決定とする。なお、コースの状況により受入人数を調整することがある。
 - 二 教育上必要と認められる場合は、3年進級時のコース変更を許可することがある。
 - 三 学生は、いずれかのコースを修了するために、別表1に定める要件を満足するよう履修しなければならない。
- 3 学生は、感性デザイン学科を卒業するために、別表2に定める要件を満足するよう履修しなければならない。
- 4 学則第23条第4項に規定する分野横断型のプログラムとして、発展プログラム、数理・データサイエンス・AI教育プログラム、カーボンニュートラル教育プログラム及び特別養成プログラムを次のとおり定める。各プログラムの履修科目等は別表3に定めるとりとする。

学部	学科	コース	発展プログラム	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	カーボンニュートラル教育プログラム	特別養成プログラム
工学部	工学科	機 械 工 学	原子力工学 ロボット工学	リテラシーレベル	リテラシーレベル	スーパーエンジニア養成
		電気電子通信工学				
		システム情報工学	海洋学(海洋生態)	応用基礎レベル	応用基礎レベル	
		生命・環境科学	海洋学(海洋土木)			
感性デザイン学部	感性デザイン学科	—	—			地域活性化リーダー養成

(履修登録と履修)

第3条 科目の履修にあたっては、当該年度に履修しようとする全科目について履修登録を行わなければならない。

- 2 履修登録の時期は、学年の初めとし、所定の期間をすぎでの履修登録は原則として認めない。
- 3 履修登録しない科目は、受講しても単位は与えない。
- 4 上位学年次に配置される科目は、履修登録することはできない。ただし、科目担当教員の判断により、留年した学生に限り履修登録を認める場合がある。
- 5 第8条第4項の受講免除科目を除き、同一時間に行われる科目を2科目以上重複して履修登録することはできない。
- 6 履修登録の有効期限は、当該年度限りとする。
- 7 欠席した授業については、学生自身が自学自習によって補うことを原則とする。ただし、科目担当教員の判断により、課題・補習等を課す場合がある。

(履修登録の修正)

第4条 履修登録科目の修正は、各学期の所定の期間において行うことができる。

(履修登録単位数の上限)

第5条 当該年度において履修登録することができる単位数の上限は、前期開講科目24単位以内、後期開講科目24単位以内、かつ年間合計44単位までとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者は履修登録単位数の上限を超えて登録することができる。
 - 一 前学年の年度GPAが2.8以上の学生は、前期開講科目28単位以内、後期開講科目28単位以内、かつ年間合計48単位まで履修登録できる。
 - 二 学科長が特に必要と認める学生にあっては、履修登録単位数の上限を超えて登録することができる。
- 3 通年開講科目の履修登録単位数は、その2分の1をそれぞれ各学期の履修単位に算入するものとする。
- 4 次の各号の授業科目の単位は、履修登録することができる単位数の上限には含まれない。
 - 一 キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ
 - 二 集中講義科目
 - 三 進級要件・卒業要件に算入されない科目(教職関連科目、リメディアル科目等)
 - 四 学則別表第1に定める特別専攻科目
 - 五 受講免除科目
 - 六 認定科目
 - 七 長期休業期間に開講される科目

(履修の制限)

第6条 授業内容、施設等の状況、習熟度によって、履修を制限することがある。

- 2 第2条第4項に定める分野横断型のプログラムによっては、対象学科又はコース以外の学生の履修を制限することがある。

(成績の評価と単位の修得)

第7条 成績の評価は科目担当教員が行い、評価は次のとおりとする。

評価	評価の点数	可否
S	90点以上～100点	合格
A	80点以上～90点未満	
B	70点以上～80点未満	
C	60点以上～70点未満	
D	60点未満	不合格

- 2 単位の修得は、上表の合格の場合に認定される。ただし、学費等の未納期間の単位は認定されない。

(再履修登録)

第8条 単位が認定されなかった科目(以下「再履修科目」という。)は次の年度以降に履修することができる。

- 2 必修科目を指定の年次に修得できなかったときは、その科目を他に優先して履修しなければならない。
- 3 単位が認定された科目は、再び履修登録することができない。
- 4 再履修科目の履修登録にあたり、科目担当教員が認めた場合は、受講を免除することができる。

(他学部・他学科科目の履修)

第9条 所属学科以外の科目(講義科目)を履修したいときは、所定の手続きを経て10単位を限度として進級要件、卒業要件の選択科目の単位として修得することができる。

(単位互換科目の履修)

第10条 単位互換協定を締結した他大学において開講される科目を履修したいときは、所定の手続きを経て30単位を限度として進級要件、卒業要件の選択科目の単位として修得することができる。ただし、1学年の履修は認めない。

(成績の通知)

第11条 成績は、所定の学業成績通知書をもって本人および保護者に通知する。

- 2 学業成績通知書には、評価をS、A、B、C、Dで記載し、あわせてGPA(Grade Point Average)を記載する。
- 3 GPAの取り扱いについては別に定める。

(定期試験)

第12条 定期試験は年2回各学期末の一定期間に行う。

- 2 試験の時間割は試験実施の2週間前に公表する。
- 3 試験は原則として筆答によるが、平常の成績のほか、レポート、口答および実技をもって試験に代えることができる。

(追試験)

第13条 学生に病気、その他やむを得ぬ事情が生じて、定期試験を受けられないときは追試験の機会を与える。

- 2 追試験受験の可否の判定は学生の願い出(医師の診断書、保証人の証明書など添付)にもとづき科目担当教員が行う。
- 3 追試験を受けようとする者は、追試験時までに追試験受験手続きを行わなければならない。追試験料は別表4のとおりとする。

(再試験)

第14条 定期試験、追試験に合格できなかった者に対して、再試験の機会を与えることがある。

- 2 再試験の受験資格は、科目担当教員の認定による。
- 3 再試験を受けようとする者は、再試験時までに再試験受験手続きを行わなければならない。再試験料は別表4のとおりとする。
- 4 再試験の成績は、定期試験と同等またはそれ以上の基準で評価する。

(受験資格)

第15条 定期試験の受験資格は次の要件を満たした者に与える。

- 一 当該科目の履修登録をしていること。
- 二 原則として、出席時数が授業時数の3分の2以上であること。ただし、実験、実習、演習および実技科目については、これ以上の出席時数を必要とする場合がある。
- 三 教授会において特に失格条件がないことを認められていること。ただし、二の号に関して考慮すべき事情のある学生は科目担当教員に届け出て、科目担当教員が受験資格の有無を判定する。

(進級要件)

第16条 各学年において上位の学年に進級するためには、別表5の要件を満たしていなければならない。

(受験の心得)

第17条 学生は学生証を持参し、指示する座席につき厳正に受験しなければならない。なお、学生証を携帯していない場合は、受験票(学生証不携帯)の交付を受けて受験しなければならない。受験票(学生証不携帯)の交付手数料は別表4のとおりとする。

2 原則として、試験開始20分後の入場を認めない。また、試験開始後30分以上経過するまで退場を認めない。

3 試験は監督教員の指示で行われる。試験に際し、不正行為を行った学生には学則第57条により懲戒を行う。かつ、その学期に受験した科目はすべて零点とする。

4 実験、実習、製図および実技科目については、開講学年において単位を修得することを原則とし、修得できない場合は以後の履修科目を制限することがある。

(規程の改廃)

第18条 本規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

1. この規程は、令和 8年 4月 1日から施行する。

2. 令和4年度以前に入学した学生については従前の規定を適用する。

3. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)は、令和8年度入学生より適用する。

別表1

工学部 工学科 機械工学コース(機械工学プログラム、機械工学総合プログラム、自動車工学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	機械工学コース				修了に必要な 修得単位数	年次および通時間数								
				機械工学 プログラム	機械工学総 合プログラム	自動車工学 プログラム	左記の科目 から5単位		1年		2年		3年		4年		
				前期	後期	前期			後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	○	○	左記の科目から5単位		1	1							
		キャリアデザインⅡ	1	○	○	○					1	1					
		キャリアデザインⅢ	1	○	○	○							1	1			
		職業倫理	2	○	○	○							2				
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2				左記の科目 から6単位以 上	左記の科目 から18単位 以上			2						
		哲学	2									2					
		文学	2										2				
		日本国憲法	2												2		
		歴史	2														
		経済学	2														
		知的財産論	2								2				2		
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2	○			左記の科目 から8単位以 上		英語科目か ら4単位以上	2							
		実践日本語表現	2	○								2					
		異文化コミュニケーション	2														2
		総合英語	2									2					
		実践英語	2									2					
		教養英語	2									2					
		英語会話	2									2					
		英語表現	2									2					
		Global English	2											2			
		English Communication	2											2			
		English Reading	2											2			
		Technical English	2											2			
	中国語Ⅰ	2										2					
		中国語Ⅱ	2										2				
		中国語Ⅲ	2											2			
	体育科学	体育学	1							2							
		生進スポーツ演習	1									2					
	総合学際	スポーツ健康学	1									2					
		主観別ゼミナールⅠ	1									2		2			
		主観別ゼミナールⅡ	1									2					
	AI・データサイエンス科目		AI・データサイエンス入門	2	○	○	○		左記の科目から2単位以上		2						
データアナリティクスⅠ			2								2						
データアナリティクスⅡ			2											2			
			2														
共創教育科目	工学概論	デザインと技術	2	○	○	○	左記の科目から4単位以上		2								
		北東北八戸の地域学	2	○	○	○			2								
		共創デザイン演習	2												2		
			2														
		カーボンニュートラル入門	2								2						
		カーボンニュートラル概論Ⅰ	1									2					
工学基礎科目		カーボンニュートラル概論Ⅱ	1										2				
		微分積分	2	○	○	○	左記の科目から14単位以上		2								
		線形代数	2	○	○	○				2							
		確率・統計	2	○							2						
		基礎物理学Ⅰ	2	○													
		基礎物理学Ⅱ	2	○							2						
		応用物理学概論	2										2				
		物理学実験	2	○							4						
		基礎化学Ⅰ	2								2						
		基礎化学Ⅱ	2									2					
		化学実験	2								4						
生命科学		2															
小 計			95						39	23	21	13	9	3	2	0	

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 機械工学コース(機械工学プログラム、機械工学総合プログラム、自動車工学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	機械工学コース				修了に必要な 修得単位数	年次および週時間数									
				機械工学 プログラム	機械工学総 合プログラム	自動車工学 プログラム	1年		2年		3年		4年					
							前期		後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
機械 工学 専門 科目	機械基礎工学	基礎情報科学M	2	○	○	○		2										
		材料力学Ⅰ	2	○	○	○				2								
		材料力学Ⅱ	2	○								2						
		機械力学Ⅰ	2	○	○	○							2					
		機械力学Ⅱ	2	○										2				
		熱力学Ⅰ	2	○	○	○				2								
		熱力学Ⅱ	2	○								2						
		流れ学Ⅰ	2	○	○	○						2						
		流れ学Ⅱ	2	○										2				
		伝熱工学	2	○	○	○							2					
		基礎機械情報工学	2	○	○	○				2								
		応用機械情報工学	2	○							2							
		メカトロニクス基礎	2	○									2					
		機械材料工学	2	○	○	○							2					
		機械加工工学	2							2								
		機械工作実習	1	○	○	○								3				
		基礎設計工学	2	○	○	○				2								
		応用設計工学	2	○								2						
		基礎設計製図	2	○	○	○				6								
		CAD設計製図	2	○	○	○					6							
		機械設計技法	2	○	○	○									6			
	機械応用工学	機械工学実験Ⅰ	1	○	○	○		左記の科目から70 単位以上					3					
		機械工学実験Ⅱ	1	○	○	○								3				
		機械工学演習Ⅰ	2	○	○	○					2							
		機械工学演習Ⅱ	2	○	○	○								2				
		技術マネジメント概論	2	○												2		
		プロジェクトⅠ	2	○	○	○					2							
		プロジェクトⅡ	2	○	○	○							2					
		プロジェクトⅢ	2	○	○	○								2				
		機械工学統合演習	2	○										2				
		プロジェクト実習	1	○	○	○								3				
		学外研修M	1										1					
		卒業研究M	6	○	○	○									9	9		
		自動車工学	基礎自動車工学	1	—	—	○							2				
			潤滑工学	1	—	—	○											
			自動車エンジン	1	—	—	○								2			
自動車測定検査概論	1		—	—	○								2					
自動車構造Ⅰ	1		—	—	○									2				
自動車構造Ⅱ	1		—	—	○									2				
自動車法規	1		—	—	○									2				
自動車工学	2				○									2				
電気電子工学概論	1		—	—	○					2					2			
電子回路工学	1		—	—	○										2			
カーエレクトロニクス	1		—	—	○						2				2			
自動車検査	1		—	—	○									2				
自動車整備実習	6		—	—	○ ※									9	9			
工学 発展 科目	原子力工学		原子力エネルギー	2							2							
			放射線の利用	2									2					
		原子力体感研修	2											2				
		原子燃料サイクル・安全工学	2													2		
	ロボット工学	ロボット工学概論	2								2							
		ロボット工学実習	2									2						
		計測工学	2	○	○	○							2					
		論理回路 制御工学	2	○										2				
小 計			102							2	4	22	26	21	22	32	28	
総 計			197							41	27	43	39	30	25	34	28	

[○]印は履修プログラムの必修科目

[—]印は原則として履修プログラムによって修得できない科目

[※]印は進級要件・卒業要件の単位数には含まれない科目

別表1

工学部 工学科 電気電子通信工学コース(電気電子通信工学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	電気電子通信工学コース		年次および週時間数								
				電気電子通信 工学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	左記の科目から5単位	1	1							
		キャリアデザインⅡ	1	○				1	1					
		キャリアデザインⅢ	1	○						1	1			
		職業倫理	2	○						2				
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2		左記の科目 から6単位以 上	左記の科目 から18単位 以上			2					
		哲学	2						2					
		文学	2						2					
		日本国憲法	2									2		
		歴史	2											
		経済学	2				2	2						
		知的財産論	2								2			
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2		左記の科目 から8単位以 上 英語科目か ら4単位以上		2							
		実践日本語表現	2						2					
		異文化コミュニケーション	2										2	
		総合英語	2				2							
		実践英語	2				2							
		教養英語	2				2							
		英語会話	2				2							
		英語表現	2				2							
		Global English	2						2					
		English Communication	2						2					
		English Reading	2						2					
		Technical English	2						2					
	中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	2				2							
		中国語Ⅱ	2					2						
		中国語Ⅲ	2						2					
	体育科学	体育学	1				2							
		生涯スポーツ演習	1					2						
		スポーツ健康学	1						2					
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1					2		2				
		主題別ゼミナールⅡ	1											
		海外研修	1				2							
AI・データサイエンス科目		AI・データサイエンス入門	2	○	左記の科目から2単位以上		2							
		データアナリティクスⅠ	2						2					
		データアナリティクスⅡ	2							2				
共創教育科目		工学概論	2	○	左記の科目から4単位以上	2								
		デザインと技術	2	○		2								
		北東北八戸の地域学	2				2							
		共創デザイン演習	2							2				
		カーボンニュートラル入門	2				2							
		カーボンニュートラル概論Ⅰ	1					2						
		カーボンニュートラル概論Ⅱ	1					2						
工学基礎科目		微分積分	2	○	左記の科目から14単位以 上 物理学実験、化学実験の いずれかを修得	2								
		線形代数	2	○			2							
		確率・統計	2					2						
		基礎物理学Ⅰ	2	○		2								
		基礎物理学Ⅱ	2	○			2							
		応用物理学概論	2						2					
		物理学実験	2			4								
		基礎化学Ⅰ	2			2								
		基礎化学Ⅱ	2				2							
		化学実験	2			4								
		生命科学	2			2								
小 計			95				39	23	21	13	9	3	2	0

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 電気電子通信工学コース(電気電子通信工学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	電気電子通信工学コース		年次および週時間数							
				電気電子通信工学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
電気 電子 通信 工学 専門 科目	専門基礎	基礎情報科学E	2	○	左記の科目から70単位以上	2							
		電気電子通信工学入門	2	○		2							
		電気回路入門	2	○			2						
		電気電子数学Ⅰ	2	○				2					
		電気電子数学Ⅱ	2						2				
		電磁気学Ⅰ	2	○				2					
		電磁気学Ⅱ	2	○					2				
		電磁気学演習Ⅰ	1	○				1					
		電磁気学演習Ⅱ	1	○					1				
		電気回路Ⅰ	2	○				2					
		電気回路Ⅱ	2	○					2				
		電気回路演習Ⅰ	1	○				1					
		電気回路演習Ⅱ	1	○					1				
	電気エネルギーシステム	電力発生工学	2		左記の科目から70単位以上				2				
		電力輸送工学	2							2			
		電気機器工学	2								2		
		電気利用工学	2									2	
		高電界工学	2								2		
		パワーエレクトロニクス	2									2	
	電気法規と電気施設管理	2									2		
	電子デバイス・システム制御	電子回路Ⅰ	2	○	左記の科目から70単位以上				2				
		電子回路Ⅱ	2						2				
		センサー応用工学	2							2			
		電気電子材料工学	2							2			
		半導体工学	2								2		
		現代制御工学	2								2		
	情報・通信・メディア	コンピュータプログラミング	2		左記の科目から70単位以上				2				
		情報メディア工学	2							2			
		情報通信工学Ⅰ	2							2			
		情報通信工学Ⅱ	2								2		
		通信ネットワーク工学	2								2		
		電磁波工学	2									2	
情報通信法規		2										2	
リモートセンシング概論		1							1				
実験・製図・研究等	創造工学実験	2	○	電気エネルギーシステム実験、電子情報通信システム実験のいずれかを修得 インターンシップE、学外研修Eのいずれかを修得			6						
	電気電子通信基礎実験	2	○					6					
	電気エネルギーシステム実験	2							6				
	電子情報通信システム実験	2								6			
	電気電子設計製図	2									4		
	インターンシップE	1								2			
	学外研修E	1								2			
	先端技術工学	1	○							1			
卒業研究E	6	○							9	9			
工学 発展 科目	ロボット工学	ロボット工学概論	2	○		2							
		ロボット工学実習	2				2						
		計測工学	2					2					
		論理回路	2					2					
		制御工学	2						2				
	原子力工学	原子力エネルギー	2		電気エネルギーシステム実験、電子情報通信システム実験のいずれかを修得 インターンシップE、学外研修Eのいずれかを修得		2						
		放射線の利用	2					2					
		原子力体感研修	2							2			
		原子燃料サイクル・安全工学	2									2	
小 計			100			4	6	18	24	19	29	19	13
総 計			195			43	29	39	37	28	32	21	13

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 システム情報工学コース(システム情報工学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	システム情報工学コース		年次および週時間数							
				システム情報 工学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	左記の科目から5単位	1	1						
		キャリアデザインⅡ	1	○				1	1				
		キャリアデザインⅢ	1	○						1	1		
		職業倫理	2	○						2			
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2		左記の科目 から6単位以 上			2					
		哲学	2						2				
		文学	2						2				
		日本国憲法	2								2		
		歴史	2										
		経済学	2			2	2						
		知的財産論	2							2			
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2		左記の科目 から8単位以 上 英語科目か ら4単位以上	2							
		実践日本語表現	2					2					2
		異文化コミュニケーション	2										
		総合英語	2			2							
		実践英語	2			2							
		教養英語	2			2							
		英語会話	2			2							
		英語表現	2			2							
		Global English	2					2					
		English Communication	2					2					
		English Reading	2					2					
		Technical English	2					2					
	中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	2		英語科目か ら4単位以上	2							
		中国語Ⅱ	2				2						
		中国語Ⅲ	2					2					
	体育科学	体育学	1			2							
		生涯スポーツ演習	1				2						
		スポーツ健康学	1					2					
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1				2			2			
		主題別ゼミナールⅡ	1										
		海外研修	1				2						
AI・データサイエンス科目		AI・データサイエンス入門	2	○	左記の科目から2単位以上		2						
		データアナリティクスⅠ	2						2				
		データアナリティクスⅡ	2							2			
共創教育科目		工学概論	2	○	左記の科目から4単位以上	2							
		デザインと技術	2	○		2							
		北東北八戸の地域学	2				2						
		共創デザイン演習	2							2			
		カーボンニュートラル入門	2				2						
		カーボンニュートラル概論Ⅰ	1					2					
		カーボンニュートラル概論Ⅱ	1						2				
工学基礎科目		微分積分	2	○	左記の科目から14単位以 上	2							
		線形代数	2	○			2						
		確率・統計	2					2					
		基礎物理学Ⅰ	2			2							
		基礎物理学Ⅱ	2				2						
		応用物理学概論	2						2				
		物理学実験	2			4							
		基礎化学Ⅰ	2			2							
		基礎化学Ⅱ	2				2						
		化学実験	2			4							
		生命科学	2			2							
小 計			95			39	23	21	13	9	3	2	0

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 システム情報工学コース(システム情報工学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	システム情報工学コース		年次および週時間数										
				システム情報 工学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
システム 情報 工学 専門 科目	専門基礎	情報科学アラカルト	2	○	左記の科目から70 単位以上	2										
		情報工学概論	2	○			2									
		基礎情報科学I	2	○		2										
		離散数学	2	○				2								
		オペレーションズリサーチ	2	○					2							
		オペレーティングシステム	2	○					2							
		データベース	2	○					2							
		プログラミング入門	2	○		2										
		プログラミング言語	2	○			2									
		データ構造とアルゴリズム	2	○				2								
		プログラム設計	2	○					2							
		コンピュータシステム	2	○					2							
		産業情報論	2						2							
		経営情報論	2						2							
	メディア情報	コンテンツ制作入門	2				2									
		コンピュータグラフィックス	2					2								
		ビジュアル情報処理	2						2							
		マルチメディア工学	2							2						
		デジタル信号処理	2								2					
	ネットワーク・ セキュリティ	ウェブデザイン	2									2				
		情報通信工学	2	○		左記の科目から70 単位以上			2							
		情報ネットワーク入門	2							2						
		情報セキュリティ入門	2							2						
		情報ネットワーク構築	2								2					
	情報セキュリティ	2										2				
	専門応用	情報文化論	2									2				
		電気工学	2									2				
		電子工学	2											2		
		知識工学	2											2		
		ロボット工学	2											2		
シミュレーション工学		2										2				
数値解析I		2										2				
集積回路		2										2				
実験・研修・ 研究等		情報工学基礎実験Ⅰ	1	○	左記の科目から70 単位以上					4						
	情報工学基礎実験Ⅱ	1	○						4							
	情報工学応用実験Ⅰ	1	○							4						
	情報工学応用実験Ⅱ	1	○								4					
	情報専門ゼミナール	2										2				
	情報工学特別講義	2										2				
	設計・製図	2										4				
	学外研修I	1										2				
	卒業研究I	6	○										9	9		
工学 発展 科目	ロボット工学	ロボット工学概論	2	左記の科目から70 単位以上				2								
		ロボット工学実習	2						2							
		計測工学	2							2						
		論理回路	2							2						
		制御工学	2								2					
		原子力工学	原子力エネルギー				2			2						
	放射線の利用		2								2					
	原子力体感研修		2										2			
	原子燃料サイクル・安全工学		2												2	
	小計					101			6	10	22	22	22	26	9	11
総計			196					45	33	43	35	31	29	11	11	

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 生命環境科学コース(生命環境科学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	生命環境科学コース		年次および週時間数							
				生命環境科学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	左記の科目から5単位	1	1						
		キャリアデザインⅡ	1	○				1	1				
		キャリアデザインⅢ	1	○						1	1		
		職業倫理	2	○						2			
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2		左記の科目 から6単位以 上			2					
		哲学	2						2				
		文学	2						2				
		日本国憲法	2								2		
		歴史	2										
		経済学	2										
		知的財産論	2			2	2						
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2		左記の科目 から8単位以 上 英語科目か ら4単位以上	2							
		実践日本語表現	2					2				2	
		異文化コミュニケーション	2										2
		総合英語	2			2							
		実践英語	2			2							
		教養英語	2			2							
		英語会話	2			2							
		英語表現	2			2							
		Global English	2					2					
		English Communication	2					2					
		English Reading	2					2					
		Technical English	2					2					
		中国語Ⅰ	2			2							
		中国語Ⅱ	2				2						
		中国語Ⅲ	2					2					
	体育科学	体育学	1			2							
		生涯スポーツ演習	1				2						
		スポーツ健康学	1					2					
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1				2		2				
		主題別ゼミナールⅡ	1										
		海外研修	1				2						
AI・データサイエンス科目		AI・データサイエンス入門	2	○	左記の科目から2単位以上		2						
		データアナリティクスⅠ	2						2				
		データアナリティクスⅡ	2							2			
共創教育科目		工学概論	2	○	左記の科目から4単位以上	2							
		デザインと技術	2	○		2							
		北東北八戸の地域学	2				2						
		共創デザイン演習	2							2			
		カーボンニュートラル入門	2				2						
		カーボンニュートラル概論Ⅰ	1					2					
		カーボンニュートラル概論Ⅱ	1						2				
工学基礎科目		微分積分	2	○	左記の科目から14単位以 上	2							
		線形代数	2				2						
		確率・統計	2					2					
		基礎物理学Ⅰ	2			2							
		基礎物理学Ⅱ	2				2						
		応用物理学概論	2						2				
		物理学実験	2			4							
		基礎化学Ⅰ	2	○		2							
		基礎化学Ⅱ	2	○			2						
		化学実験	2	○		4							
小計		生命科学	2	○		2							
			95			39	23	21	13	9	3	2	0

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 生命環境科学コース(生命環境科学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	生命環境科学コース		年次および週時間数									
				生命環境科学 プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
生命 環境 科学 専門 科目	専門基礎	基礎情報科学L	2	○	左記の科目から70 単位以上	2									
		生命環境科学概論	2	○		2									
		生命環境科学導入デザイン	2	○			2								
		バイオテクノロジー	2	○			2								
		無機化学	2					2							
		生化学	2	○					2						
		物理化学	2	○					2						
		分析化学	2	○					2						
		有機化学	2						2						
		環境化学量論	2	○					2						
		化学工学	2	○					2						
	生命科学	微生物学	2	○				2							
		微生物工学	2						2						
		分子遺伝学	2	○						2					
		遺伝子工学	2								2				
		環境生物学	2								2				
		酵素工学	2									2			
		生理学	2									2			
	食品科学	生物有機化学	2							2					
		食品分析学	2									2			
		食品製造学	2									2			
		食品工学	2										2		
		食品化学	2										2		
		食品衛生学	2											2	
		公衆衛生学	2												2
	環境工学	品質管理	2								2				
		計測制御工学	2									2			
		リサイクル工学	2									2			
		グリーンケミストリー	2	○			2								
		環境影響評価論	2								2				
		機器分析	2							2					
	実験・実習・ 研究等	環境汚染物質分析学	2								2				
生命環境科学基礎演習Ⅰ		2	○				2								
生命環境科学基礎演習Ⅱ		2	○					2							
生命環境科学演習Ⅰ		2	○						2						
生命環境科学演習Ⅱ		2	○							2					
生命環境科学基礎実験		1	○				3								
生命環境科学実験Ⅰ		1	○					3							
生命環境科学実験Ⅱ		1	○						3						
生命環境プロセス実習Ⅰ		1	○			2									
生命環境プロセス実習Ⅱ		1	○							2					
インターンシップL		1								2					
生命環境科学セミナー		1	○								2				
卒業研究L		6	○								9		9		
工学 発展 科目		海洋学 (海洋生態)	海洋学の基礎と未来	2				2							
	海洋生物学		2					2							
	臨海実習		2						2						
	海洋生態学		2							2					
小計			93			6	8	19	16	23	21	13	9		
総計			188			45	31	40	29	32	24	15	9		

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 建築・土木工学コース(建築学プログラム、土木工学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分		分野	授業科目	単位数	建築・土木工学コース			年次および週時間数											
					建築学 プログラム	土木工学 プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	○	左記の科目から5単位	1	1											
		キャリアデザインⅡ	1	○	○				1	1									
		キャリアデザインⅢ	1	○	○							1	1						
		職業倫理	2	○	○							1	2						
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2			左記の科目 から6単位以上	左記の科目 から18単位 以上	英語科目か ら4単位以上			2								
		哲学	2									2							
		文学	2									2							
		日本国憲法	2												2				
		歴史	2																
		経済学	2																
		知的財産論	2											2					
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2			左記の科目 から8単位以上			2		2								
		実践日本語表現	2																
		異文化コミュニケーション	2													2			
		総合英語	2						2										
		実践英語	2						2										
		教養英語	2						2										
		英語会話	2						2										
		英語表現	2						2										
		Global English	2									2							
		English Communication	2									2							
	体育科学	体育学	1			左記の科目 から4単位以上													
		生涯スポーツ演習	1																
		スポーツ健康学	1																
		総合学際	主観別ゼミナールⅠ	1								2							
			主観別ゼミナールⅡ	1										2					
			海外研修	1									2						
		AI・データサイエンス科目	AI・データサイエンス入門	2					○	○	左記の科目から2単位以上		2						
	データアナリティクスⅠ		2											2					
	データアナリティクスⅡ		2												2				
	共創教育科目	工学概論	2	○	○	左記の科目から4単位以上			2	2									
		デザインと技術	2	○	○														
北東北八戸の地域学		2						2											
共創デザイン演習		2										2							
カーボンニュートラル入門		2							2										
カーボンニュートラル概論Ⅰ		1								2									
工学基礎科目	カーボンニュートラル概論Ⅱ	1								2									
	微分積分	2		○	○	左記の科目から14単位以上	2												
	線形代数	2		○	○			2											
	確率・統計	2							2										
	基礎物理学Ⅰ	2					2												
	基礎物理学Ⅱ	2						2											
	応用物理学概論	2								2									
	物理学実験	2																	
	基礎化学Ⅰ	2																	
	基礎化学Ⅱ	2								2									
	化学実験	2																	
	生命科学	2																	
小 計				95					39	23	21	13	9	3	2				

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 建築・土木工学コース(建築学プログラム、土木工学プログラム) 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	建築・土木工学コース			年次および過時間数							
				建築学 プログラム	土木工学 プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
建築・ 土木 工学 専門 科目	専門基礎	基礎情報科学D	2	○	○		2							
		土木工学概論	2	○	○		2							
		建築概論	2	○	○			2						
		基礎製図	2	○	○			4						
		CAD基礎演習	2	○	○				4					
		地球環境論	2	○	○			2						
		測量学	2	○	○				2					
		測量実習	1	○	○				3					
		都市計画	2	○	○					2				
		構造力学Ⅰ	2	○	○				2					
		構造力学Ⅱ	2	○	○					2				
		地盤工学Ⅰ	2	○	○					2				
		建設応用数学	2							2				
		デザイン	2					2						
		色彩学	2				2							
	建築学	建築設計Ⅰ	3	○						6				
		建築設計Ⅱ	3	○							6			
		建築設計Ⅲ	3	○								6		
		建築設計Ⅳ	3										6	
		建築構造設計	2										2	
		住居計画	2	○	左記の科目 から40単位 以上			2						
		建築計画	2	○					2			2		
		地域施設計画	2	○										
		建築史	2	○				2						
		近代建築史	2	○	ただし、左記 科目のうち、 建築設計Ⅰ Ⅳ、建築構 造設計、建 築生産から1 科目以上			2				2		
		建築環境工学Ⅰ	2	○							2			
		建築環境工学Ⅱ	2	○								2		
		建築設備	2	○								2		
		鉄筋コンクリート構造	2	○								2		
		基礎工学	2	○	○					2			2	
		鋼構造	2		○								2	
		木質構造	2		○									
		建築材料科学	2	○	鋼構造、木 質構造から2 科目以上			2				2		
		建築施工	2	○								2		
		建築生産	2										2	
		建築材料実験	2	○							4			
		建築法規	2	○						2				
		雪国建築	2	○						2				
		インテリアデザイン	2					2						
		ユニバーサルデザイン	2									2		
	土木工学	材料の力学	2		○				2					
		上下水道工学	2		○						2			
		水処理工学	2		○							2		
		水理学Ⅰ	2		○			2						
		水理学Ⅱ	2		○				2					
		河川工学	2									2		
		海岸・港湾工学	2								2			
		道路・交通工学	2								2			
		地盤工学Ⅱ	2								2			
		コンクリート工学	2		○	左記の科目 から34単位 以上				2				
		コンクリート構造学	2		○						2			
		土木工学実験Ⅰ	2	—	○				6					
		土木工学実験Ⅱ	2	—	○						6			
		水工学設計・演習	2	—	○						4			
		地盤工学設計演習	2	—	○							4		
		構工学設計・演習	2	—	○							4		
		応用測量学及び実習	2		○							3		
		火災学	2									2		
		維持管理工学	2									2		
		施工技術	2									2		
	専門応用	インターンシップD	1								2			
		学外研修D	1							2				
		総合デザインⅠ	2	○	○						4			
		総合デザインⅡ	2	○	○							4		
		数値解析D	2	○	○							2		
		卒業研究D	6	○	○								9	9
工学 発展 科目	海洋学 (海洋土木)	海洋学の基礎と未来	2					2						
		海洋土木Ⅰ	2	—					2					
		海洋土木Ⅱ	2	—						2				
	小計		143				6	16	25	32	46	43	19	9
総計			238				45	39	46	45	55	46	21	9

[○]印は履修プログラムの必修科目

[—]印は原則として履修プログラムによって修得できない科目

別表2

感性デザイン学部 感性デザイン学科 履修表

令和5年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	卒業に必要な 修得単位数		年次および週時間数							
						1年		2年		3年		4年	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	左記の科目から5単位	1	1						
		キャリアデザインⅡ	1	○				1	1				
		キャリアデザインⅢ	1	○						1	1		
		職業倫理	2	○						2			
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2					2					
		哲学	2						2				
		文学	2						2				
		日本国憲法	2								2		
		歴史	2										
		経済学	2			2	2						
		知的財産論	2							2			
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2		左記の科目 から8単位以 上 英語科目か ら4単位以上	2							
		実践日本語表現	2					2					
		異文化コミュニケーション	2									2	
		総合英語	2			2							
		実践英語	2			2							
		教養英語	2			2							
		英語会話	2			2							
		英語表現	2			2							
		Global English	2					2					
		English Communication	2					2					
		English Reading	2					2					
		Technical English	2					2					
	中国語	中国語Ⅰ	2			2							
		中国語Ⅱ	2				2		2				
		中国語Ⅲ	2										
	体育科学	体育学	1			2							
		生涯スポーツ演習	1				2						
	総合学際	スポーツ健康学	1					2					
		主題別ゼミナールⅠ	1				2		2				
		主題別ゼミナールⅡ	1										
		海外研修	1				2						
AI・データサイエンス科目		AI・データサイエンス入門	2	○	左記の科目から2単位以上		2						
		データアナリティクスⅠ	2						2				
		データアナリティクスⅡ	2							2			
共創教育科目		デザインと技術	2	○	左記の科目から2単位以上	2							
		北東北八戸の地域学	2				2						
		共創デザイン演習	2							2			
		カーボンニュートラル入門	2				2						
		カーボンニュートラル概論Ⅰ	1					2					
		カーボンニュートラル概論Ⅱ	1						2				
小計			71			21	17	19	11	9	3	2	0

〔○〕印は感性デザイン学科の必修科目

別表2

感性デザイン学部 感性デザイン学科 履修表

令和5年度入学生より適用

区分		分野	授業科目	単位数		卒業に必要な 修得単位数	年次および週時間数								
							1年		2年		3年		4年		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
感性 デザ イン 専門 科目	感性 デザ イン 基礎	デザイン基礎	感性デザイン学概論	1	○	左記の科目から24単位以上	2								
		デザイン思考	1	○	2										
		図学	2	○	2										
		美術史	2	○	2										
		デザイン史	2	○	2										
		ユニバーサルデザイン	2	○				2							
		フィールドワーク基礎	1												
		製図	2												
		デッサン	2												
		色彩学	2				2								
		表現技法	2				2								
		写真技術実習	1						2						
		映像制作実習	1								2				
		工芸実習	2								4				
		製造工作実習	1				2								
	情報技術	コンピュータ基礎演習	2	○	2										
		アカデミックライティング	2	○						2					
		プレゼンテーション	2	○			2								
		CAD演習Ⅰ	2						4						
		CAD演習Ⅱ	2							4					
		情報メディア論	2			2									
感性 デザ イン 応用	デザイン応用	ビジュアルデザイン論	2		左記の科目から24単位以上			2							
		タイポグラフィ	2					2							
		イラストレーションⅠ	2								4				
		イラストレーションⅡ	2									4			
		Webデザイン	2								4				
		広告デザイン	2									2			
		絵画Ⅰ	2					4							
		絵画Ⅱ	2							4					
		彫刻	2							4					
		工芸学	2					4							
		プロトタイプング	2							2					
		プロダクトデザイン	2								2				
		インテリアデザイン	2									2			
		音と光デザイン	2								2				
		住環境デザイン	2									2			
		地域文化論	2							2					
		地域コミュニティ論	2								2				
		ビジュアルデザイン演習	2							2					
	デザイン実践	共生社会デザイン	2										2		
		メディア表現論	2									2			
		芸術批評	2									2			
		企画構想演習	2								2				
		アートプロジェクト	2									2			
		インターメディア造形演習Ⅰ	2										4		
	総合演習	感性デザイン総合演習Ⅰ	2		左記の科目から12単位以上										
		感性デザイン総合演習Ⅱ	2												
		感性デザイン総合演習Ⅲ	2							2					
		感性デザイン応用演習	2								2				
		感性デザイン特別演習	1												
		インターンシップ	1					2			2				
	卒業研究				6	○							9	9	
小計				104				18	20	26	24	24	18	13	9
総計				175				39	37	45	35	33	21	15	9

[○]印は感性デザイン学科の必修科目

別表3

原子力工学プログラム 履修表

令和4年度入学生より適用

授業科目	単位数	工学科			摘要
		機械工学コース	電気電子通信工学コース	システム情報工学コース	
原子力エネルギー	2	○	○	○	左記の科目から8単位を修得すること
放射線の利用	2	○	○	○	
原子力体感研修	2	○	○	○	
原子燃料サイクル・安全工学	2	○	○	○	

[○]印は原子力工学プログラムの必修科目

注1: 原子力工学プログラムの修了要件は各所属コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

注2: 上表に定めるコース以外に所属する学生が要件を満たした場合でもプログラム修了は認めない。

別表3

ロボット工学プログラム 履修表

令和4年度入学生より適用

授業科目	開講コース	単位数	工学科			摘要
			機械工学コース	電気電子通信工学コース	システム情報工学コース	
ロボット工学概論	共通	2	○	○	○	左記の科目から必修科目を含めて7単位以上を修得すること
ロボット工学実習		2	○	○	○	
計測工学		2	△	△	△	
論理回路		2	△	△	△	
制御工学		2	△	△	△	
メカロニクス基礎	機械工学コース	2		△	△	
基礎設計工学		2		△	△	
応用設計工学		2		△	△	
センサー応用工学	電気電子通信工学コース	2	△		△	
情報メディア工学		2	△		△	
知識工学	システム情報工学コース	2	△	△		
ロボット工学		2	△	△		
デジタル信号処理		2	△	△		
プログラム設計		2	△	△		

[○]印はロボット工学プログラムの必修科目

[△]印はロボット工学プログラムの選択科目

注1: ロボット工学プログラムの修了要件は各所属コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

注2: 上表に定めるコース以外に所属する学生が要件を満たした場合でもプログラム修了は認めない。

別表3

海洋学プログラム 履修表

令和4年度入学生より適用

授業科目	単位数	工学科		摘要
		海洋学(海洋生態)	海洋学(海洋土木)	
		生命環境科学コース	建築・土木工学コース (土木工学プログラム)	
海洋学の基礎と未来	2	○	○	左記の科目から 海洋学(海洋生態)は8単位以上、 海洋学(海洋土木)は7単位以上 を修得すること
リモートセンシング概論	1	△	△	
海洋生物学	2	○		
臨海実習	2	○		
海洋生態学	2	○		
海洋土木Ⅰ	2		○	
海洋土木Ⅱ	2		○	
インターンシップD	1		△	

[○]印は海洋学プログラムの必修科目

[△]印は海洋学プログラムの選択科目

注1: 海洋学プログラムの修了要件は各所属コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

注2: 上表に定めるコース以外に所属する学生が要件を満たした場合でもプログラム修了は認めない。

別表3

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル) 履修表

令和4年度入学生より適用

授業科目	単位数	基礎科目群	展開科目群	摘要
微分積分	2	△		左記科目から2単位以上を修得すること
AI・データサイエンス入門	2	○		
線形代数	2	△		
確率・統計	2	△		
データアナリティクスⅠ	2		△	
データアナリティクスⅡ	2		△	

[○]印は数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の必修科目

[△]印は数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の選択科目

注1: 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の修了要件は各所属学科・コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

別表3

数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル) 履修表

令和8年度入学生より適用

授業科目	単位数	基礎科目群	展開科目群	摘要
微分積分	2	○		左記科目から12単位を修得すること
AI・データサイエンス入門	2	○		
線形代数	2	○		
確率・統計	2	○		
データアナリティクスⅠ	2		○	
データアナリティクスⅡ	2		○	

[○]印は数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)の必修科目

注1: 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)の修了要件は各所属学科・コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

別表3

カーボンニュートラル教育プログラム(リテラシーレベル) 履修表

令和5年度入学生より適用

授業科目	開講コース	単位数	基礎科目群	展開科目群	応用基礎科目群	摘要
カーボンニュートラル入門 カーボンニュートラル概論Ⅰ カーボンニュートラル概論Ⅱ	共通	2 1 1	◎	○ ○		左記科目から2単位以上を修得すること

カーボンニュートラル教育プログラム(応用基礎レベル) 履修表

令和5年度入学生より適用

授業科目	開講コース	単位数	基礎科目群	展開科目群	応用基礎科目群	摘要
カーボンニュートラル入門 カーボンニュートラル概論Ⅰ カーボンニュートラル概論Ⅱ	共通	2 1 1	◎	◎ ◎		左記科目から8単位以上を修得すること
伝熱工学	機械工学コース	2			○	
電力発生工学	電気電子通信	2			○	
電気利用工学	工学コース	2			○	
グリーンケミストリー	生命環境科学コース	2			○	
地球環境論	建築・土木工学コース	2			○	

〔◎〕印はカーボンニュートラル教育プログラムの必修科目

〔○〕印はカーボンニュートラル教育プログラムの選択科目

注1:カーボンニュートラル教育プログラムの修了要件は各所属学科・コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

別表3

特別養成プログラム 履修表

工学部 工学科:スーパーエンジニア養成プログラム

感性デザイン学部 感性デザイン学科:地域活性化リーダー養成プログラム

令和4年度入学生より適用

授業科目	単位数	工学科					感性デザイン学科	開講年次	週時間数
		機械工学コース	電気電子通信工学コース	システム情報工学コース	生命環境科学コース	建築・土木工学コース			
解析Ⅰ	2	○	○	○	○	○		2年・前期	2
解析Ⅱ	2	○	○	○	○	○		2年・後期	2
特別専攻プロジェクトⅠ	2	○	○	○	○	○	○	2年・通年	1
特別専攻プロジェクトⅡ	2	○	○	○	○	○	○	3年・通年	1
特別専攻ゼミナールⅠ	2	○	○	○	○	○	○	3年・後期	2
特別専攻ゼミナールⅡ	2	○	○	○	○	○	○	3年・通年	1
地域デザインプロジェクト	1						○	4年・前期	2
共生社会デザイン	2						○	4年・前期	2

〔○〕印は特別養成プログラムの必修科目

注1:特別養成プログラムは学士・修士・一貫教育として実施される。学士課程においては各所属学科・コースの卒業要件に加えて本履修表を満たすこと。

別表4

追 試 験	1科目につき	500円
再 試 験	1科目につき	1,500円
受験票（学生証不携帯）	当日限り	300円

別表5 進級要件

学部学科	コース	学年	修得単位数	必修単位数	その他の要件
工学部 工学科	機械工学コース	1学年	25	—	
		2学年	60	—	
		3学年	100	—	
	電気電子通信工学コース	1学年	25	—	
		2学年	60	26	
		3学年	100	44	・「電気電子通信工学入門」を修得のこと ・「物理学実験」と「化学実験」のいずれかを修得のこと ・「創造工学実験」と「電気電子通信基礎実験」を修得のこと
	システム情報工学コース	1学年	25	—	
		2学年	60	—	
		3学年	100	—	
	生命環境科学コース	1学年	25	—	
		2学年	60	—	
		3学年	100	—	・「生命環境科学基礎実験」、「生命環境科学実験Ⅰ・Ⅱ」を修得のこと
	建築・土木工学コース	1学年	25	—	
		2学年	60	20	
		3学年	100	30	
感性デザイン学部 感性デザイン学科	—	1学年	18	8	
		2学年	48	10	
		3学年	90	18	

7.6 八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程

制定 平成13年3月15日（教授会）

改正 令和5年2月24日（教授会）

（目的）

第1条 この規程は、八戸工業大学学則第34条の規定に基づき、教職課程の履修等について定める。

（免許状の取得要件）

第2条 教育職員免許状を取得するためには次の要件をすべて満たしていなければならない。

- 一 学則並びに履修規程に定める卒業要件を満足すること
- 二 第4条第1項に規定する教職課程を履修し、所定の単位を修得していること
- 三 中学校教諭一種免許状（美術）取得のためには、第5条に規定する介護等体験を終了していること

（免許状の種類）

第3条 前条の取得要件を満たした者には、次の教育職員免許状の取得資格が与えられる。

免許状の種類	免許教科の種類	学部・学科
中学校教諭 一種免許状	美術	感性デザイン学部 感性デザイン学科
高等学校教諭 一種免許状	工業	工学部 工学科
	情報	工学部 工学科 システム情報工学コース
	美術	感性デザイン学部
	工芸	感性デザイン学科

（教職課程の履修）

第4条 前条の取得資格を得るためには、別表1の所要資格を満たすように、免許状と免許教科の種類に応じて別表2、別表3及び別表4に定める教職課程表の授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

- 2 第2学年の後期以降、継続して教職課程を履修しようとする者は、別表5に定める納入期限までに教職課程履修登録料を納付しなければならない。
- 3 第2学年の後期以降に教職課程の履修を取りやめる場合、既納の教職課程履修登録料は原則として返還しない。

（介護等体験）

第5条 中学校教諭一種免許状（美術）を取得するためには、所定の手続きを経て社会福祉施設及び特別支援学校における7日間の介護等体験を終了しなければならない。なお、介護等体験の実施時期は原則3学年とする。

- 2 介護等体験を受講するためには所定の健康診断を受診するとともに、麻疹の抗体を有することについて医師の証明を必要とする。

（教育実習）

第6条 教育実習を受講するためには、次に掲げる要件をすべて満たしていなければならない。ただし、特別の事情があり、かつ、教育実習を受講するのに支障がない場合は、この限りではない。

- 一 当該年度に卒業の見込みがあること
- 二 3学年までに開講されている当該免許に関わる教職科目をすべて修得していること
- 三 3学年までにキャリア教育科目をすべて修得していること
- 四 「日本国憲法」2単位を修得していること

- 五 3学年までに開講されている必修の実験・実習・製図の全科目、別表2に定める体育区分の2単位、及び情報機器の操作区分の2単位を修得していること
- 六 中学校教諭一種免許状を取得する者は介護等体験を終了していること
- 七 前条第2項に定める健康診断受診と麻疹抗体検査に係る要件を満たしていること
- 2 前項に規定する教育実習の受講は、教職課程の学修過程などをもとに、受講するのに相応しくないと判断されたときは、制限することがある。
- 3 教育実習期間中は実習に専念することとし、原則として課外活動、就職活動等への参加は認めない。

(教職履修カルテ)

- 第7条 教職課程を履修する学生は、取得希望する教育職員免許状の種類に応じ、別表2、別表3及び別表4に規定する授業科目に関する教職履修カルテを作成しなければならない。
- 2 教職履修カルテの作成方法等については別に指示する。
 - 3 教職履修カルテを作成していない学生は教職実践演習(中・高)の受講を認めない。

附 則

- 1. この規程は、令和 5年 4月 1日から施行する。
- 2. 令和4年3月31日に在学する者に係る教職課程は、入学時の教職課程表による。

別表1 教育職員免許法に定められている所要資格及び最低修得単位数（抜粋）

免許状の種類	所要資格	基礎資格	最低修得単位数			
			教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目
中学校教諭 1種免許状	学士の学位を有すること	28	10	10	7	4
高等学校教諭 1種免許状	学士の学位を有すること	24	10	8	5	12

※「大学が独自に設定する科目」の単位数には、「大学が独自に設定する科目」に設定している科目の単位数に加え「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の法定単位を超えて修得した単位数を含めることが出来る。

別表2 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	法定単位数	本学の開設授業科目		備考	
		授業科目	単位数		
日本国憲法	2	日本国憲法	2	工学科 感性デザイン学科	左記の学科に必修
体育	2	体育学 スポーツ健康学	1 1		
外国語コミュニケーション	2	総合英語	2	工学科 感性デザイン学科	左記の学科にいずれか1科目必修
		実践英語	2		
		教養英語	2		
		英語会話	2		
		英語表現	2		
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	基礎情報科学 M	2	工学科	左記の学科にいずれか1科目必修
		基礎情報科学 E			
		基礎情報科学 I			
		基礎情報科学 L			
		基礎情報科学 D			
		コンピュータ基礎演習	2	感性デザイン学科	左記の学科に必修

別表3 「教育の基礎的理解に関する科目」・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」・「教育実践に関する科目」

令和4年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学の開設授業科目					高一種免 修得科目	中一種免 修得科目	備考
		授業科目	単位数		年次	週時間数			
			必修	選択					
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育基礎論	2		1 前	2	○	○	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職総論	2		1 前	2	○	○	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育の制度	2		2 後	2	○	○	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	認知と人格の発達	2		2 後	2	○	○	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育総論	1		2 後	2	○	○	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2		2 前	2	○	○	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育	2		1 後	2		○	中1 種免のみ必修
	総合的な探究の時間の指導法 ※1	総合的な学習の時間の指導法	2		1 後	2	○	○	
	特別活動の指導法	特別活動	2		1 後	2	○	○	
	教育の方法及び技術	教育実践論	2		3 前	2		○	中1 種免のみ必修
		教育工学	2		3 後	2	○	○	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	ICT活用と指導法	1		3 後	2	○	○	
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2		3 前	2	○	○	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法								
科目 教育実践に関する	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2		3 前	2	○	○	
	教育実習	事前・事後指導	1		4 前	2	○	○	中1 種免のみ必修
		教育実習Ⅰ	2		4 前	4	○	○	
		教育実習Ⅱ	2		4 前	2		○	
	学校体験活動	—	—	—	—	—	—	—	
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2		4 後	2	○	○	

※1 中学校普通免許の場合「総合的な学習の時間の指導法」

別表 4 教科及び教科の指導法に関する科目・大学が独自に設定する科目

工学科 高一種（工業）

令和4年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
教科に関する専門的事項	AI・データサイエンス入門	2		
	工学概論	2		
	機械工学実験Ⅰ		1	① 左記17科目より1科目以上選択必修
	機械工学実験Ⅱ		1	
	機械工学演習Ⅰ		2	
	機械工学演習Ⅱ		2	
	プロジェクト実習		1	
	創造工学実験		2	
	電気電子通信基礎実験		2	
	電気エネルギーシステム実験		2	
	電子情報通信システム実験		2	
	情報工学基礎実験Ⅰ		1	
	生命環境科学基礎実験		1	
	生命環境科学実験Ⅰ		1	
	生命環境プロセス実習Ⅱ		1	
	測量実習		1	
	建築材料実験		2	
	土木工学実験Ⅰ		2	
	土木工学実験Ⅱ		2	
	基礎設計製図		2	② 左記9科目より1科目以上選択必修
	CAD 設計製図		2	
	機械設計技法		2	
	電気電子設計製図		2	
	設計・製図		2	
	基礎製図		2	
	CAD 基礎演習		2	
	建築設計Ⅰ		3	
	建築設計Ⅱ		3	
工業の関係科目	材料力学Ⅰ		2	①、②を含み、左記より28単位以上選択必修
	機械力学Ⅰ		2	
	熱力学Ⅰ		2	
	流れ学Ⅰ		2	
	伝熱工学		2	
	基礎機械情報工学		2	
	機械材料工学		2	
	機械加工工学		2	
	機械工作実習		1	
	基礎設計工学		2	
	電気電子通信工学入門		2	
	電気回路入門		2	
	電気電子数学Ⅰ		2	
	電磁気学Ⅰ		2	
	電磁気学Ⅱ		2	
	電磁気学演習Ⅰ		1	
	電磁気学演習Ⅱ		1	
	電気回路Ⅰ		2	
	電気回路Ⅱ		2	
	電気回路演習Ⅰ		1	
	電気回路演習Ⅱ		1	
	電気機器工学		2	
	電子回路Ⅰ		2	
	電気電子材料工学		2	
	半導体工学		2	
	コンピュータプログラミング		2	
	情報通信工学Ⅰ		2	
	情報工学概論		2	
	プログラミング入門		2	
	ビジュアル情報処理		2	
	デジタル信号処理		2	
	電気工学		2	
	電子工学		2	

	ロボット工学	2		
	シミュレーション工学	2		
	数値解析I	2		
	集積回路	2		
	生命環境科学概論	2		
	バイオテクノロジー	2		
	無機化学	2		
	物理化学	2		
	分析化学	2		
	有機化学	2		
	環境化学量論	2		
	化学工学	2		
	食品工学	2		
	食品化学	2		
	品質管理	2		
	計測制御工学	2		
	リサイクル工学	2		
	グリーンケミストリー	2		
	土木工学概論	2		
	建築概論	2		
	地球環境論	2		
	測量学	2		
	都市計画	2		
	構造力学Ⅰ	2		
	構造力学Ⅱ	2		
	地盤工学Ⅰ	2		
	住居計画	2		
	建築計画	2		
	建築設備	2		
	鉄筋コンクリート構造	2		
	基礎工学	2		
	建築材料学	2		
	建築施工	2		
	建築法規	2		
	材料の力学	2		
	上下水道工学	2		
	水処理工学	2		
	水理学Ⅰ	2		
	水理学Ⅱ	2		
	地盤工学Ⅱ	2		
	コンクリート工学	2		
	コンクリート構造学	2		
	水工学設計・演習	2		
	地盤工学設計演習	2		
	計測工学	2		
	論理回路	2		
	制御工学	2		
	職業指導	4		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の 事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	工業科指導法	4		
計		40	183	

工学科 システム情報工学コース 高一種（情報）

令和4年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	情報文化論	2		
		情報セキュリティ入門	2		
		産業情報論	2		
	コンピュータ・情報処理	離散数学	2		
		オペレーティングシステム	2		
		プログラミング言語	2		
		データ構造とアルゴリズム	2		
		コンピュータシステム	2		
		情報工学基礎実験Ⅱ	1		
	情報システム	オペレーションズリサーチ	2		
		データベース	2		
		プログラム設計	2		
		情報工学応用実験Ⅱ	1		
	情報通信ネットワーク	情報通信工学	2		
		情報ネットワーク入門	2		
		情報工学応用実験Ⅰ	1		
マルチメディア表現・マルチメディア技術	コンテンツ制作入門	2			
	ウェブデザイン	2			
	コンピュータグラフィックス	2			
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
各教科の指導法（情報通信技術活用を含む。）		情報科指導法	4		
計			39	0	

感性デザイン学科 中一種（美術）

令和4年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	絵画Ⅰ	2		いずれか1科目選択必修	
		絵画Ⅱ	2			
		デッサン	2			
	彫刻	彫刻	2			
		デザイン（映像メディア表現を含む。）	ビジュアルデザイン演習	2		
			感性デザイン総合演習Ⅰ			2
	感性デザイン総合演習Ⅱ			2		
	感性デザイン総合演習Ⅲ			2		
	イラストレーションⅠ		2			
	イラストレーションⅡ			2		
	Webデザイン		2			
	CAD演習Ⅰ		2			
	CAD演習Ⅱ			2		
	工芸		工芸実習	2		
	美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術史	2			
		デザイン史	2			
		芸術批評	2			
		表現技法	2			
		色彩学	2			
		タイポグラフィ		2		
		ビジュアルデザイン論	2			
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		—	—	—		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	美術科指導法Ⅰ	4				
	美術科指導法Ⅱ	2				
	美術科指導法Ⅲ	2				
計		40	10			

※必修単位数は、選択必修科目の単位数を含む。

感性デザイン学科 高一種（美術）

令和4年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考	
			必修	選択		
教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	絵画Ⅰ	2		いずれか1科目選択必修	
		絵画Ⅱ	2			
		デッサン	2			
	彫刻	彫刻	2			
		デザイン（映像メディア表現を含む。）		2		
		ビジュアルデザイン演習		2		
		感性デザイン総合演習Ⅰ				2
		感性デザイン総合演習Ⅱ				2
		感性デザイン総合演習Ⅲ				2
		イラストレーションⅠ		2		
		イラストレーションⅡ		2		
		Web デザイン		2		
		CAD 演習Ⅰ		2		
		CAD 演習Ⅱ		2		
	美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術史		2		
		デザイン史		2		
		芸術批評		2		
		表現技法		2		
		色彩学		2		
		タイポグラフィ		2		
		ビジュアルデザイン論		2		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		—	—	—		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		美術科指導法Ⅰ 美術科指導法Ⅱ 美術科指導法Ⅲ	4 2 2			
計			40 8			

※必修単位数は、選択必修科目の単位数を含む。

感性デザイン学科 高一種（工芸）

令和4年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	図法及び製図	図学	2		いずれか1科目選択必修
		デッサン	2		
	デザイン	ビジュアルデザイン演習	2		
		感性デザイン総合演習Ⅰ		2	
		感性デザイン総合演習Ⅱ		2	
		感性デザイン総合演習Ⅲ		2	
		イラストレーションⅠ	2		
		イラストレーションⅡ	2		
		Webデザイン	2		
		CAD演習Ⅰ	2		
		CAD演習Ⅱ	2		
	工芸制作（プロダクト制作を含む。）	工芸実習	2		
	工芸理論、デザイン理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。）	工芸学	2		
		美術史	2		
		デザイン史	2		
	芸術批評	2			
	表現技法	2			
	色彩学	2			
	タイポグラフィ	2			
	ビジュアルデザイン論	2			
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		—	—	—	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		工芸科指導法	4		
計			40	4	

※必修単位数は、選択必修科目の単位数を含む。

別表 5

教職課程履修登録料及び納入期限

学部・学科	学則第 23 条第 3 項に規定するコース	免許種	履修登録料(円)	備考	納入期限
工学部・工学科	全コース	高一種(工業)	25,000		第2学年 の9月末 日まで
	システム情報工学コース	高一種(情報)	25,000	高一種(工業)も併せて取得する場合は30,000円	
感性デザイン学部 感性デザイン学科		中一種(美術)	35,000	中一種(美術)に加えて高一種免を取得する場合は40,000円	
		高一種(美術)	25,000	高一種免(美術)と(工芸)を取得する場合は30,000円	
		高一種(工芸)	25,000		

※ 1 教職課程履修登録料には、介護等体験、教育実習にかかる費用並びに諸経費を含む。ただし、介護等体験、教育実習にかかる経費が教職課程履修登録料を超える場合は、その差額を徴収することがある。

※ 2 免許状申請手続きにかかる諸経費は含まない。

7. 7 編入学者および転入学者の履修等に関する規程

制定 昭和63年2月18日 教授会

改正 平成 6年4月25日 教授会

- 第1条 本学学則第13条により編入学または転入学を許可された者の履修等については、許可された入学年次に適用される学則および履修規程によるほか、本規程によるものとする。
- 第2条 編入学者および転入学者の既修得単位の認定は、出身学校の成績証明書および講義要目その他の資料を参考にして、当該学科等と協議の上行うものとする。
- 2 前項により認定された既修得単位の成績評価は、「N」（認定）として取り扱う。
- 第3条 編入学者および転入学者の進級については、編入年次または転入年次に進級するための要件は充足しているものとし、編入年次または転入年次後に修得した単位数を既修得単位として認定した単位数に加算した単位数をもって進級を判定することを原則とする。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、令和 6年 4月 1日から施行する。

7.8 八戸工業大学GPA取り扱い要項

制定 平成23年1月6日（教務委員会）

改正 平成26年2月25日（教務委員会）

改正 令和4年3月9日（教務委員会）

（目的）

第1条 この要項は、八戸工業大学（以下「本学」という。）履修規程第11条および同大学院履修規程第7条（以下「履修規程」という。）に規定するGPA(Grade Point Average)の取り扱いについて必要な事項を定める。

（定義）

第2条 GPAとは、履修した科目の成績をGP(Grade Point)により点数化し、1単位あたりの平均値を求めたものをいう。

2 GPA算出の対象とする科目は、次の各号を除く科目とする。

- 一 教職関連科目等で、卒業または修了要件に算入しない科目
- 二 編入学・転入学等により入学した学生の既修得科目について単位認定した科目
- 三 卒業または修了要件に算入される科目のうち別表1に定める科目

（GP）

第3条 履修規程第7条に規定する成績評価とGPとの対応は次のとおりとする。

評価(Grade)	GP
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

（GPAの種類および計算方法）

第4条 GPAは、当該期間に履修した第2条2項に定めるGPA対象科目について、「学期GPA」、「年度GPA」、「累積GPA」に区分し、各区分の定める方法により計算するものとし、計算値は小数点第3位以下を切り捨てて表記する。

GPAの計算式

$$\begin{aligned} \text{学期GPA} &= \frac{\text{当該学期における(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{当該学期における評価を受けた科目の単位数の計}} \\ \text{年度GPA} &= \frac{\text{当該年度における(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{当該年度における評価を受けた科目の単位数の計}} \\ \text{累積GPA} &= \frac{\text{入学以降に(修得した科目の単位数} \times \text{GP)の計}}{\text{入学以降に評価を受けた科目の単位数の計}} \end{aligned}$$

(GPA計算期日)

第5条 GPAの計算は、学期ごとに所定の期日までに確定した成績に基づいて行う。

- 2 GPA計算の期日は、原則として前期9月25日、後期3月25日とする。ただし、必要に応じて期日前にGPAを仮算出する場合がある。

(GPAの通知)

第6条 前条で計算したGPAは学業成績通知書に記載し、その計算方法、意義および推奨値とともに学生と保護者に通知する。

(成績証明書への記載)

第7条 成績証明書にはGPAの記載は行わない。

- 2 前項にかかわらず、申請者からGPAを記載した成績証明書の発行請求があった場合には「累積GPA」を成績証明書に記載する。なお、この場合においてはGPA算出の根拠となる不合格科目も併せて記載する。

(GPAの利用)

第8条 GPAは次の各号に示す事項の指標・基準等に使用することがある。

- 一 クラス分け、研究室配属など授業運営に係る指標
- 二 学業成績優秀者への顕彰などの選考基準
- 三 特待生・奨学生などの選考基準
- 四 履修指導・学修指導の指標
- 五 進級・卒業に係わる指標
- 六 就職試験等の推薦者選考基準
- 七 各種統計・調査
- 八 その他、本学の教育研究および活動に必要な事項

(その他)

第9条 この要項に定めのない、GPA制度運用に必要な事項については別に定める。

(改廃)

第10条 この要項の改廃については、教務委員会および学務委員会が行う。

附 則 この要項は、平成23年度入学生から適用する。

別表1 卒業または修了要件に算入される科目のうち、GPA算出の対象としない科目

平成23年度入学生～	八戸学院大学(旧八戸大学)との単位互換科目
------------	-----------------------

7.9 八戸工業大学図書館利用規程

制定 平成7年2月28日(図書委員会)
改正 令和4年5月20日(情報メディア委員会)

(趣旨)

第1条 この規程は、八戸工業大学図書館規程第7条に基づき、八戸工業大学図書館(以下「図書館」という。)の利用について、必要な事項を定める。

(資料)

第2条 図書館の管理する資料(以下「図書類」という。)を次のとおりとする。

- (1) 図書
- (2) 逐次刊行物
- (3) 地図
- (4) 視聴覚資料
- (5) その他の資料

(利用者)

第3条 図書館を利用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学教職員、名誉学長、名誉教授、非常勤講師および研究員(以下「第1種利用者」という。)
- (2) 本学学部学生、大学院学生、研究生、および科目等履修生(以下「第2種利用者」という。)
- (3) その他一般利用者(以下「第3種利用者」という。)

(休館日)

第4条 図書館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日、国民の祝日
 - (2) 春季、夏季、冬季の各休業日の土曜日
 - (3) 12月28日から1月4日まで
- 2 前項によらず、図書館長(以下「館長」という。)が必要と認めたときは、臨時に休館、開館することがある。

(開館時間)

第5条 開館時間は、次のとおりとする。

- 月曜日から金曜日は、午前8時40分から午後8時まで
ただし、春季、夏季、冬季の各休業日の一部期間の開館時間は午後5時まで
開館日の土曜日は、午前10時から午後5時まで
- 2 前項に定めるほか、館長が必要と認めたときは、臨時に開館時間を変更することがある。

(貸出手続き)

第6条 資料の貸出を受けようとする場合は、八戸工業大学図書館利用券(以下「利用券」という。)を必要とする。

- 2 館長は希望者の求めに応じて利用券を交付する。
- 3 第1種、第2種利用者については、学生証、身分証明書またはこれに代わるものをもって利用券とすることができる。
- 4 第3種利用者は、所定の様式に必要事項を記入の上、身分証明書またはこれに代わるものを提示して、交付申請を行う。
- 5 利用券の交付を受けた者は、利用券を他人に譲渡または転貸してはならない。また、それによって生じた事故の責めは、本人が負わなければならない。
- 6 利用券を紛失した者は、速やかにその旨を館長に届け出なければならない。
- 7 前項の届出のあった者に対しては、願い出により、利用券の再発行を行うことができる。
- 8 利用資格を失った者は、速やかに利用券を返却しなければならない。

(身分証明書等の提示)

第7条 図書館・情報事務室の職員(以下「職員」という。)などから利用券の提示を求められた場合は、これに応じなければならない。

(遵守事項)

第8条 図書館内においては次の事項を守らなければならない。

- (1) 静粛を保つこと
- (2) 喫煙、飲食および談話などをしないこと。ただし、指定された場所での飲料物の摂取は可とする
- (3) 図書類、備品および施設を丁寧に扱うこと
- (4) 他人の迷惑となる行為をしないこと

(閲覧)

第9条 館内の図書類は、閉架図書類を除き自由閲覧とする。ただし、閲覧が終了したときは、所定の位置に返却するものとする。

(閉架図書の館内閲覧)

第10条 利用者は、あらかじめ所定の手続きを行って閉架図書、および視聴覚資料の館内閲覧ができる。ただし、一度に閲覧できるのは各々3冊(本)以内とし、閲覧した図書は閉館時までには所定の位置へ、視聴覚資料は閲覧カウンターへ返却しなければならない。

(館外貸出)

第11条 貸出できる図書、視聴覚資料の冊数および期間は次のとおりとする。

1. 図書

- (1) 第1種利用者は20冊まで、30日以内
- (2) 第2種利用者のうち、大学院学生および研究生は10冊まで、30日以内。学部4学年生は5冊まで、30日以内。それ以外の学部学生は5冊まで、14日以内。また、休業期間にわたる貸出は、休業期間終了まで延長できる
- (3) 第3種利用者は3冊まで、7日以内

2. 視聴覚資料

- (1) 貸出対象者は、本学教職員、研究員、本学学部学生、大学院学生、研究生とこれに準ずる者とする
- (2) 貸出本数は3本まで、7日以内

(貸出期間の更新)

第12条 第11条で規定する貸出期間を超えて引き続き貸出を希望する者は、所定の手続きにより1回に限り、貸出期間を更新することができる。

(貸出予約)

第13条 貸出希望図書、視聴覚資料が貸出中のときは、予約することができる。

(転貸の禁止)

第14条 館外貸出図書、視聴覚資料は、一切他に転貸してはならない。

(特別帯出許可の必要図書類)

第15条 次の図書類を帯出するときは、館長の許可を得なければならない。

- (1) 貴重図書
- (2) 参考図書(事典、辞典、便覧および地図等)
- (3) 視聴覚資料
- (4) 新聞
- (5) 逐次刊行物
- (6) その他、館長の定めたもの

(貸出図書の返却)

第16条 貸出図書、視聴覚資料は、期間が終了したときは、直ちに返却しなければならない。

- 2 前項に定めるほか、教職員は、留学、休職、退職等の際、学生にあっては、卒業、修了、休学、退学、転学等の際に、それぞれ直ちに返却しなければならない。
- 第17条 館長は必要に応じ、貸出期間中であっても臨時に返却させることができる。
(貸出の停止)
- 第18条 貸出図書、視聴覚資料を特別な理由がなく貸出期間内に返却しなかった者については、返却するまで貸出を停止する。
(紛失・破損・汚損)
- 第19条 図書類を紛失、または著しく破損、汚損した者は、直ちに届け出なければならない。また、館長は、同一の図書または相当の代金をもって弁償させることがある。
(複写)
- 第20条 本館所蔵の図書類を複写しようとするときは、著作権法に従い、複写することができる。
2 前項に違反した場合は、利用者が一切の責任を負うものとする。
(相互協力)
- 第21条 第1種、第2種利用者が教育、研究または学習のために必要とするときは、所定の手続きにより、他の機関の利用または資料の複写、借り受け等の斡旋を図書館に依頼することができる。
2 館長は、他の機関から、図書館の利用、または資料の複写ならびに借り受け等の申込があった場合、支障のない範囲で、これに応ずることができる。
3 前2項にて発生した経費については、依頼者が負担するものとする。
(分置)
- 第22条 研究図書類(第1種利用者が本学研究費で購入した図書類)は、所定の手続きにより、学内に分置することができる。
- 第23条 研究図書類以外の図書類は、館長が必要と認めるものに限り、相応の場所に分置することができる。
- 第24条 分置された図書類には保管責任者を置き、図書類の管理について一切の責任を負うものとする。
- 第25条 職員は分置された図書類の点検を行うことができる。
- 第26条 退職などにより分置を変更する場合は、図書館に届け出なければならない。
(多目的ホールの利用)
- 第27条 多目的ホールの利用については別に定める。
(罰則)
- 第28条 本規程に違反する者に対しては、館長は利用の制限、退館、または一定期間入館を禁止することができる。
(その他)
- 第29条 この規程に定めるもののほか、図書館の利用について必要な事項については、館長がこれを定める。
(改廃)
- 第30条 この規程の改廃は、情報メディア委員会の議を経て行うものとする。
附則の一部を省略している。
- 附 則 この規程は、令和 4年 4月 1日から施行する。

7.10 八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程

制定 平成15年3月13日 (教授会)

改正 平成28年10月20日 (教授会)

(目的)

- 第1条 この規程は、八戸工業大学図書館規程第7条に基づき、情報ネットワーク施設の利用について定める。

(定義)

第2条 情報ネットワーク施設とは、本学LAN、本学の計算機施設および本学LANを経由して接続する学外のネットワークをいう。

(利用資格)

第3条 情報ネットワーク施設を利用できるものは、次のとおりとする。

- (1) 本学の教職員および学生
- (2) 情報メディア委員長が認めた者

(利用手続き)

第4条 情報ネットワーク施設への接続を希望する者は、ネットワーク接続申請書を図書館・情報事務室に提出し、インターネットアドレス(IPアドレス)を取得するものとする。

- 2 情報ネットワーク施設を利用する場合は、所定の手続きを行うものとする。

(利用の制限)

第5条 情報ネットワーク施設の利用者は、本規程および学術情報ネットワーク等の学外のネットワークの運用上の規程を遵守しなければならない。

- 2 ネットワークを利用する情報に関しては、営利行為や公序良俗に反する行為および著しく情報倫理を欠いた場合は、利用の制限を行うことがある。
- 3 ネットワークを利用する情報の内容に関しては、発信者が責任を負うものとする。

(雑則)

第6条 本規程に定めるもののほか、情報ネットワーク施設に関する必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第7条 本規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成29年 4月 1日から施行する。

7.11 学生の諸活動に関する規程

制定 昭和47年4月1日

改正 令和7年1月16日

学生の諸活動に関する規程を次のとおり定める。

第1章 総 則

第1条 学生の諸活動は、正課の学習以外において各人の才能と趣味に応じた自主的活動により、人格の陶冶、情操豊かな人間性の涵養、自律心の鍛錬等専ら社会人として必要な基本を錬成することにある。

第2条 学生は個人・団体を問わず、学内外の秩序を乱しまたは良識に反する行為をすることなく、正しく健全な諸活動を行うよう努めなければならない。

- 2 前項に違反する行為が行われ、または行われようとしている場合は、学生は本学および学生の名誉を守るため、その行為を制止する等最善の措置を講じなければならない。

第2章 団体の結成

第3条 本学学生を会員とする団体(研究会、愛好会等を含む。以下同じ)を結成しようとするときは、責任者は遅滞なく本学所定の団体結成願に、団体の名称、結成年月日、目的、顧問(教職員)、役員および会員の氏名を記入して、責任代表者が3名以上署名押印し、明文の規約(会則)を添えて、教育・学生支援部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

- 2 前項の団体規約(会則)またはその他届出事項を変更するときも前項に準ずる。

- 3 前学生団体は毎年年度始め4月20日までに団体構成員名簿および構成員名簿を添え、本学所定の団体継続届を前項に準じて教育・学生支援部長を経て学長に届け出なければならない。届け出ない団体は、解散したものとみなす。
 - 4 前項の団体の構成員は本学の学生または本学関係者でなければならない。
- 第4条 学生団体が学外団体に加盟しようとするときは、本学所定の学外団体加盟願に学外団体の規約を添え、教育・学生支援部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。
- 2 学生が団体的に学外団体に加盟しようとするときも、前項に準じて許可を受けなければならない。
 - 3 学生団体が学外団体の行事・集会等に参加しようとするときは、本学所定の学外団体参加願に参加者名簿を添え、教育・学生支援部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。
 - 4 学生が団体的に学外団体の行事・集会等に参加しようとするときも、前項に準じて許可を受けなければならない。
- 第5条 前条の学外団体への加盟または参加が本学の目的にそわないと認めた場合は、学長は許可を取り消すことがある。
- 第6条 学生団体の予算および決算に関する一切の収支は、会計年度ごとに教育・学生支援部長を経て学長に報告しなければならない。
- 第7条 第3条により許可された学生団体において、その行為が国法や本学の規則等に違反したり、その他本学の機能を害しまたは秩序を乱しまたはそのおそれがあると認められるときは、その活動を禁止し、またはその団体の解散を命ずることがある。

第3章 集会

- 第8条 学生または団体が学内外において、集会、対外試合、合宿練習、遊説、集団行進、示威運動、署名運動、世論調査、投票、宣伝等を行うようとするときは、責任者はその期日3日前までに本学所定のそれぞれの許可願に必要事項を記入して責任代表者が3名以上署名押印し、教育・学生支援部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。
- 2 前項の集会において、本学施設、設備等(建物、体育施設、通路、広場等)を使用するときは、同時にその借用を所管の部局長に願い出て許可を受けなければならない。
ただし、学生団体が事業のため平常借用している場所で、借用の目的の範囲内で集会しようとするときは、この限りではない。
- 第9条 同窓会、学会、講演会等で特定の人を対象とする場合、または映画会、音楽会、演劇等で単に映写、演出のみを行う場合を除き、学外者の参加を許さない。
ただし、特別な場合で学長が必要と認めるときは審議の結果許可することがある。
- 第10条 学生または団体が学外者を対象として金銭の収支を伴う行為をするときは、教育・学生支援部長を経て学長の許可を受けなければならない。
- 第11条 集会が本学の本来の目的にそわないと認めた場合、また学内の秩序を乱すおそれがあると認められるときは、禁止または解散を命ずることがある。

第4章 掲示

- 第12条 学生または団体が学内外に掲示しようとするときは、責任者は掲示物を教育・学生支援部教務・学生支援チームへ持参し、教育・学生支援部長の許可を受けなければならない。許可された掲示物には大学の認印を押す。
- 2 掲示物には必ず団体名、責任者を明記しなければならない。
 - 3 掲示用紙は、日本規格A1判以内を原則とする。
 - 4 掲示期間は、最長1ヶ月とする。
 - 5 学内における掲示は本学が指定した学生掲示板において行わなければならない。
- 第13条 講演会、集会等の通知のため学内に立て看板による掲示をしようとするときは、前条に準じて許可を受けなければならない。ただし、立て看板は、管理部局備え付けのものに限り、かつ掲示期間は3日以内とする。

第14条 掲示の内容が政治的目的を有するもの、虚偽の記述または名誉の毀損にわたるもの、もしくは学内の秩序を乱すものは許可しない。

第15条 団体または団体が前3条に反して掲示を行ったときは、その責任者または団体が共同して責を負うものとする。

第16条 掲示期間を経過したものは、責任者においてただちに撤去しなければならない。

第17条 第12条、第13条、第14条および第16条に違反する掲示物は、管理者においてただちに撤去させ、または撤去する。

第5章 印刷物の発行・配布・回覧等

第18条 学内外を問わず、印刷物(雑誌、小冊子、新聞、チラシ、その他これに類する一切のもの)を発行し、または配布、回覧しようとするときは、事前にその印刷物の原稿またはこれに替わるものを教育・学生支援部教務・学生支援チームへ持参し、教育・学生支援部長の許可を受けなければならない。

2 その他物品等を配布しようとするときは、その物品等を添え前項に準じて許可を受けなければならない。

第19条 学生または団体が寄付を募集しようとするときは、教育・学生支援部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 寄付募集を行ったときは、教育・学生支援部長を経て学長に収支決算を報告しなければならない。

第20条 前2条の行為が、本来の目的にそわないと認めた場合は、教育・学生支援部長は許可を取り消すことがある。

第6章 放送

第21条 学内において放送しようとするときは、放送要旨を教育・学生支援部教務・学生支援チームへ持参し、教育・学生支援部長の許可を受けなければならない。

第22条 放送は特別の場合を除き授業時間中に行うことができない。

2 授業時間外に行う場合であっても、学内における他の業務の支障を来さないように充分注意を払わなければならない。

3 前条および前2項に反する行為があった場合はただちに中止させるものとする。

第7章 政治活動・布教活動の禁止

第23条 学生または学生団体は、学内において政治活動および布教活動を行ってはならない。

第8章 暴力行為等の禁止

第24条 学生または学生団体は、次の各号の行為をしてはならない。

- (1) 学内に火薬、爆薬、劇薬、その他類似の危険物を持ち込み、所持、携行する行為
- (2) 学内において、棍棒、石塊等暴力行使を意図する一切の物件を所持し携行する行為
- (3) 暴行し、またはこれによって人に傷害を与えるような行為
- (4) 暴力を用いて他の学生の就学を妨害する行為
- (5) 団体もしくは多数が共同して暴行、脅迫にわたる行為
- (6) 暴力を用いての学内の施設、設備、備品などを破壊する行為
- (7) 暴力行使の協議、または各種危険物、その他暴力行使に用いる物件の集積等一切の準備行為
- (8) その他暴力に関する一切の不法行為

第9章 その他

第25条 学生または学生団体は学内において次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 学生は氏名を偽り、または覆面等の行為をしてその身分をかくさないこと
- (2) みだりに放歌、高吟その他喧騒にわたる行為を慎むこと
- (3) 学生または学生団体相互間には礼儀正しく、いやしくも暴力・傷害・物品毀棄等の行為をしないこと

- (4) 許可なく大学の備品等を持ち出さないこと
- (5) 許可なく学内に宿泊しないこと
- (6) 指定された場所以外で火気を使用しないこと
- (7) 許可なく学外者を学内に入れないこと

第26条 本規程によりがたい特別の諸活動をしようとするときは、教育・学生支援部長を経て学長に願ひ出て指導および許可を受けなければならない。

第27条 本規程に反する行為をした者(同末遂行為を含む)または規程に反した行為に対する教職員の制止に応じない者は学則第57条を適用する。
附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、令和 6年 4月 1日から施行する。

7. 12 学友会館使用規程

制定 平成12年 2月 5日(学生委員会)

改正 令和 7年 1月16日(学生委員会)

学友会館(以下「会館」という。)は、学生の課外活動を盛んにし、その運営を円滑にするための施設である。会館は、学友会室、体育会室、文化会室、部室および会議室からなっており、その使用にあたっては、それぞれの会に所属する団体(以下「団体」という。)が課外活動の場として常に秩序と規律を保つとともに共同の責任において特に整備、保全および火災予防に努めなければならない。

会館の使用については、この規程に従わなければならない。

なお、会館以外を部室として使用する団体にあっても、部室の使用にあたっては、この規程を適用する。

第1条 会館の使用時間は、平日の午前8時30分から午後8時までとする。

2 時間外に会館を使用する場合は、学生残留・出校届を教育・学生支援部教務・学生支援チームに提出し許可を受けなければならない。この場合における終了時刻は午後10時30分とする。提出は、午後4時50分までとする。

3 前項の規定にかかわらず、学園祭等の行事があるときは、特別に取り扱うことがある。

第2条 部室は、部活動を行う目的で大学から許可された団体に対し、指導育成上必要とみとめられた場合に限り、その使用を許可するものとする。

第3条 部室の使用は、部本来の活動のためにのみ限るものとする。

第4条 部室の使用を希望する団体は、所定の部室借用願を教育・学生支援部教務・学生支援チームに提出しなければならない。

第5条 部室の使用許可期間はその年度限りとし、継続使用を希望する場合は、前条に準じて部室借用願を毎年3月31日までに教育・学生支援部教務・学生支援チームに提出しなければならない。

第6条 期日までに部室借用願を提出しない団体は、部室不用とみなす。

第7条 部の解散その他により部室の使用目的が消滅したときは、速やかに教育・学生支援部教務・学生支援チームに届け出て部室を原状に復し空け渡さなければならない。

2 解散によるときは、大学等からの補助により購入した備品を返却しなければならない。

第8条 会議室の使用は、学友会および教育・学生支援部教務・学生支援チームの許可を受けなければならない。

第9条 その他会館の使用にあたっては大学の指示に従うこと。

第10条 会館の使用を許可された団体は、次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 会館内の清掃は各団体が協力して行い、常に清潔を保つとともに整理・整頓に努めること
- (2) 火災の防止に万全を期すること
- (3) 会館内での暖房器具および火気は許可を受けた団体以外は使用しないこと

- (4) 会館内において飲酒しないこと
 - (5) 会館内に学外団体の支部または事務所を設けないこと
 - (6) 会館内への泊り込みは認めない
 - (7) 部室の使用にあたっては、部員以外の部室使用は認めない
 - (8) 各部は部責任者を定めて教育・学生支援部教務・学生支援チームに届け出ること
 - (9) 各部室入口に部および部責任者を表示すること
 - (10) 他の団体の迷惑にならぬよう騒音等には十分気をつけること
 - (11) 室内の施設、設備等を無断で移動、改廃、新設しないこと
 - (12) 室内への掲示その他これに類するものは、部に直接関係のあるもののみとし、みだりに行わないこと
 - (13) 一室を部室として共用する場合は、お互いに協力して使用すること
 - (14) シャワーの使用にあたっては、注意事項を確認し節水にも努めること
- 第11条 会館を使用するときは、そのつど受付から鍵を借用し、使用後はただちに受付に返却すること。
- 第12条 大学の管理上の必要から行う係員の室内立入りまたは指示を拒否してはならない。
- 第13条 会館内の施設、設備等を汚損したり滅失または破損したときは、教育・学生支援部教務・学生支援チームに文書をもって届け出て、その損害を弁償しなければならない。
- 第14条 事故、盗難等の防止には各自が心掛け、事故等があったときは速やかに教育・学生支援部教務・学生支援チームに届け出ること。
- 第15条 この規程に違反した場合は、その部室の使用許可を取り消すことがある。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、令和 6年 4月 1日より施行する。

7.13 施設・設備・備品等管理規程

制定 昭和47年4月1日

改正 令和7年1月16日

施設・設備・備品等の使用に関する規程を次のとおり定める。

- 第1条 学生は本学の施設・設備・備品等を使用するときは、常に良好な状態を維持するように留意し、かつ本来の用法に従って使用しなければならない。
- 第2条 学生が故意または過失によって施設・設備・備品等を破損、汚損または滅失し、本学に損害を与えたときは、その損害を弁償しなければならない。
- 2 数人(学生団体を含む)が共同して施設・設備・備品等を破損、汚損または滅失し、本学に損害を与えたときは、連帯してその損害を弁償しなければならない。
- なお共同行為を行った者の一部より判明しない場合は、その判明者が全損害の弁償義務を負うものとする。
- 第3条 授業外において本学の施設・設備・備品等を使用しようとするときは、本学所定の施設・設備・備品等使用願を学長に願い出て許可を受けなければならない。
- 第4条 施設・設備・備品等の使用後は原形に復し、または元の設置場所に返還しなければならない。
- 第5条 本規程に反する行為をした者は学則第57条を適用する。
- 第6条 この規程に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成3年4月4日より施行する。

附 則 この規程は、平成21年4月1日より施行する。

附 則 この規程は、令和6年4月1日より施行する。

7. 14 残留・出校者心得

改正 令和 7年 1月16日(学生委員会)

学生残留・出校届の提出は、防火・防犯その他の事故防止、緊急時の連絡等を目的とする。

学生は、正規の授業終了時刻以降学内に残留するとき、又は休業日(土曜日、日曜日、祝日、夏季休業期間等)に出校するときは、次の事項を遵守し、別に定める場合を除いて学生残留・出校届を総務部総務・学事チームに提出しなければならない。

- 1 授業のある日で19時以降学内に残留するときは、当日の16時50分までに学生残留・出校届を提出すること。休業日に出校するときは、前日の16時50分までに学生残留・出校届を提出すること。提出はいずれの場合も、平日とすること。但し、学生会館に限り20時までの使用は学生残留・出校届の提出は必要ない。
- 2 残留・出校は22時30分までとするが、これ以降は担当教職員の同時残留を原則とする。
- 3 残留・出校者の人数に変更なく、残留および出校日数が10日以内で継続する場合の学生残留・出校届は、日付順に一枚にまとめて提出すること。なお、10日目以降については、改めて提出すること。
- 4 2名以上の残留・出校の場合は、代表者および全員の氏名等を明記すること。
- 5 学生の残留・出校は、担当教職員の承認を必要とする。
- 6 借用した鍵の管理、戸締り・貴重品等の管理に注意すること。
- 7 受付にて使用施設の鍵の貸出しを受け、連続して残留するときは、受付にある「鍵貸出簿」に日毎更新手続きをすること。
- 8 学外者の立入りは、特に許可を得た場合を除いてこれを認めない。
- 9 飲酒は禁止する。
- 10 本学設置電話による私用の通話は禁止する。
- 11 暖房用電気・ガスストーブの使用は禁止する。
- 12 車両通学に関する規程による駐車場以外の駐車は禁止する。
- 13 各出入口については、施錠後の解錠を禁止する。施錠後は1号館受付前の出入口を利用すること。なお、22時30分以降翌朝6時30分までの外出は禁止する。
- 14 下校時は警備員(受付)にその旨を連絡して帰ること。ただし、22時30分以降翌朝6時30分の間に帰る場合(教職員と同時残留の場合)は、受付前に備付けの「帰宅時間記入簿」に必要事項を記入して帰ること。
- 15 石油ストーブ等の火気に注意し、事故のないように物品の管理、整頓と光熱水の節約を心掛けること。下校時は、火気のあと始末、鍵の確認をすること。
- 16 その他の事項については、学生要覧に記載の諸規程を準用する。

附 則 この規程は、令和 7年 4月 1日より施行する。

7.15 戸工業大学車両通学に関する規程

制定 平成14年 2月14日(学生委員会)

平成14年 2月13日(学務委員会)

改正 令和 7年 1月16日(学生委員会)

令和 7年 1月 7日(学務委員会)

(目的)

第1条 この規程は、本学の学部生、大学院生および研究生(以下「学生」という。)の車両通学に関し、必要な事項を定めることにより、交通事故の防止と学内交通道德の涵養を目的とする。

(定義)

第2条 前条の車両通学とは、四輪車、自動二輪車、原動機付自転車および自転車をを用いて通学することという。

(車両通学許可)

第3条 車両による通学を希望する学生は、「車両通学許可願」を本学に提出し許可を受けなければならない。

(許可手続)

第4条 車両通学許可を願ひ出る場合は、次の各号に定める書類を提示又は提出しなければならない。

一 車両通学許可願

二 車検証(写し)

三 その他本学が必要とする書類

2 車両通学許可手続に際しては、手続に係る費用を手数料として徴収する。

3 車両通学許可に関する事務は、教育・学生支援部教務・学生支援チームが行う。

(許可)

第5条 本学は、願書と諸書類により審査し、適当と認められた場合に車両通学を許可する。

2 許可車両に対しては、ステッカーを交付する。

3 許可車両を変更した場合は、改めて車両通学許可の手続きを行わなければならない。

4 ステッカーは、他の者に譲渡又は貸与してはならない。

(許可制限)

第6条 第4条第1項による書類が不備な場合、又は駐車場に空きがない場合は、車両による通学を許可しないことがある。

(講習会)

第7条 車両通学を許可された学生および許可を受けようとする学生は、本学が指定する交通安全に関する講習会を受講しなければならない。

(許可期間)

第8条 車両通学許可は、許可した年度に限り有効とする。したがって、翌年度以降も車両通学を希望する場合は、毎年度初めに改めて車両通学許可の手続きを行わなければならない。

(駐車場の使用)

第9条 車両通学を許可された学生が学内に駐車する場合は、本学が所有する駐車場を使用しなければならない。

2 学内の駐車場に駐車する場合は、四輪車にあつては、リアウインドー助手席側の表から、(四輪車以外の車両にあつては、)ステッカーを(後輪カバーの)確認し易い位置に貼付しなければならない。

3 駐車場は、本学の都合により臨時にその使用を制限する場合がある。

(遵守事項)

第10条 車両通学生は、常に法令による安全上の諸規則および学内交通道德を守り安全運転に心がけ、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- 一 学内・学外を問わず走行中は道路標識に従って走行し、特に、大学構内においては常に徐行に徹すること
- 二 積雪時においては、冬用タイヤ又はチェーンを装着すること
- 三 大学構内において学生車両の立ち入りが禁止されている場所には、絶対に車両を乗り入れないこと
- 四 車両は指定された駐車・駐輪場に止め、通路には絶対に止めないこと
- 五 走行時、駐車時地域住民に迷惑を掛けないこと
- 六 路上走行中および駐車・駐輪場において、みだりに警笛を鳴らしたり、空ふかしや急ブレーキおよびタイヤ摩擦音等の騒音を発する運転はしないこと
- 七 自動二輪車、原動機付自転車、自転車による通学生は、ヘルメットを着用し、昼夜を問わず前照灯を点灯するとともに、身体の露出が少なくなるような服装をし、下駄やサンダルによる運転をしてはならない

(責任)

第11条 交通事故に関しては、学内・学外を問わず本学は一切の責任を負わない。又車両の破損、盗難等についても同様とする。

(駐車料金)

第12条 駐車場を使用する場合、本学は駐車場の維持管理費の一部として、駐車料金を徴収することがある。

(罰則)

第13条 本規程および交通法令に違反した場合は、学部学生にあつては八戸工業大学学則、大学院学生にあつては八戸工業大学大学院学則に基づき懲戒処分するとともに、車両通学許可を取り消すことがある。

附 則

1. この規程は、平成14年4月1日より施行する。
2. この規程施行の日から、従前の「駐車場使用規程」、「車両通学生心得」、「八戸工業大学大学院駐車場使用規程」および「八戸工業大学大学院車両通学生心得」は廃止する。

附 則 この規程は、令和 6年 4月 1日から施行する。

7. 16 学校法人八戸工業大学 証明書発行取扱要領

(目的)

第1条 この要領は、学校法人八戸工業大学が設置する学校(以下「学校」という。)における証明書発行について必要な事項を定める。

(手続き)

- 第2条 証明書の発行を依頼された場合は、申請者に申請書を提出させ、別表1、別表2に定める発行手数料を徴収する。
- 2 申請者本人を証明できる身分証明書の提示、又はその写しを提出させるものとする。
 - 3 代理人が申請又は受領する場合は、委任状を提出させ、代理人の身分証明書を提示させるものとする。
 - 4 提出された書類については、原則返却しない。
 - 5 証明書発行機による交付は、申請書の提出及び身分証明書の提示を省略できる。
 - 6 前各項に定めるもののほか、証明書発行に関する事務手続き等必要な事項は、各学校が別に定めるものとする。

(発行不能証明書)

第3条 学校教育法施行規則第28条に基づき、保存期間を経過した表簿に係る証明書については、発行不能証明書を発行できるものとする。

(その他)

第4条 各学校において、第2条に定める手続きによらない証明書の発行及び交付が必要と判断した場合は、理事長の承認を得て行うものとする。

附 則 この要領は、令和2年4月1日より施行する。

別表1 八戸工業大学 各種証明書発行手数料表

証明書種類	発行手数料	
	在学生	卒業生
在学証明書	200円	
卒業見込証明書		
修了見込証明書		
卒業証明書		300円
修了証明書		
成績証明書		
単位修得証明書		
各種英文証明書	1,000円	1,000円
その他の証明書	200円	300円
健康診断証明書	200円	
学生証再交付	2,000円	
学校学生生徒旅客運賃割引証	無料	
通学証明書	無料	

別表2 八戸工業大学第一高等学校、八戸工業大学第二高等学校、八戸工業大学第二高等学校附属中学校、さくら幼稚園 各種証明書発行手数料表
(省略)

7.17 学友会会則

制定 昭和47年4月1日

改正 令和7年1月16日

第1章 総 則

第1条 本会は、八戸工業大学学友会(以下「本会」という。)と称する。

第2条 本会の本部は、八戸市大字妙字大開88番地1 八戸工業大学内におく。

第3条 本会は、会員の自主的精神に基づき、課外活動を通じて会員相互の親睦と人間性の陶冶を図るとともに、健全な学風の培養と高揚に努め以て学園の発展を図ることを目的とする。

第4条 本会は、八戸工業大学の学生(以下「正会員」という。)並びに教職員(以下「特別会員」という。)をもって組織する。

第5条 本会は、第3条の目的を達成するための次の事業を行う。

- (1) 会員の文化活動に関すること
- (2) 会員の体育活動に関すること
- (3) 会員の親睦をはかること
- (4) その他必要と認めること

第2章 役員および正会員

第6条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副 会 長 1 名
- (3) 顧 問 若干名

- (4) 委員長 1 名
 - (5) 副委員長 2 名
 - (6) 委員 (書記係、会計係、各 2 名を含む)
 - 正 会 員 工学部並びに感性デザイン学部各学年各学科・コース1名、各部1名
 - 特別会員 工学部並びに感性デザイン学部各学科・コース1名、事務局2名
 - (7) 会計監査委員 正会員4名、特別会員1名
 - (8) 選挙管理委員 工学部並びに感性デザイン学部各学年各学科・コース1名
- 第 7 条 会長は、本学の学長がこれにあたる。
- 2 会長は、本学を代表し、且つ本会を総理する。
- 第 8 条 会長の職務権限は次のとおりである。
- (1) 総会を招集する
 - (2) 第10条、第11条、第12条の告示を承認する
 - (3) 委員長、副委員長、委員、会計監査委員および選挙管理委員を承認する
 - (4) 委員会および選挙管理委員会の招集を承認する
 - (5) 部の降格および廃止、或いは愛好会等の昇格に関して委員会を諮問することができる
 - (6) 部および愛好会等の顧問を委嘱する
 - (7) 本会副会長および本会の顧問を委嘱する
 - (8) その他、会長が必要と認める事項を措置し、又は措置を命ずる
 - (9) 会則の改正を承認する
 - (10) 総会における決議事項を承認する
- 第 9 条 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその任務を代行する。
- 2 顧問は会長に意見を具申する等、会長の相談役に勤める。
- 第10条 委員は正会員にあっては、工学部並びに感性デザイン学部各学年各学科・コース1名(以下「学生委員」という)を投票により選出すると共に各部から責任者1名(以下「部委員」という)を出す。又特別委員にあっては、工学部並びに感性デザイン学部各学科・コース1名、事務局2名をそれぞれ選出する。
- 2 委員は、委員長、副委員長と共に委員会を構成し、本会事業運営に参画する。
- 第11条 委員長および副委員長は正会員の投票によって選出される。
- 2 委員長は委員会の議事の進行および審議事項の決議を掌る他、報告連絡、答申等の責任を負う。
- 3 副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはこれを代行する。
- 第12条 会計監査委員は、正会員の投票により正会員の中から4名選出し、特別会員にあっては、1名互選する。
- 2 会計監査委員は、会計監査委員を構成し、会計監査を行う。第13条 第10条、第11条、第12条の選挙については別に定める。
- 第14条 書記係並びに会計係は委員相互の互選により各2名を選出する。
- 2 書記係は総会および委員会において書記の任にあたる。
- 3 会計係は本会の会計事務を行う。
- 第15条 選挙管理委員は、工学部並びに感性デザイン学部各学年各学科・コース1名を選出し、選挙管理委員会を構成して、選挙に関する事務を行う。
- 第16条 委員長、副委員長、委員(書記係、会計係を含む)会計監査委員および選挙管理委員の任期は4月1日から翌年3月31日までの1か年とする。ただし、再選は妨げない。
- 2 委員長、副委員長、委員、会計監査委員および選挙管理委員に欠員が生じた場合は直ちに選出する。ただし、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- 3 新年度1年生の学生委員、選挙管理委員は、会長が指名する。

第3章 機 関

第17条 本会に次の機関をおく。

- (1) 総会
- (2) 委員会
- (3) 会計監査委員会
- (4) 選挙管理委員会

第18条 総会は正会員をもって構成し、毎年1回開催する。

第19条 総会は本会の最高決議機関であり、次の事項を決議する。

- (1) 本会の運営方針
- (2) 本会の予算および決算
- (3) 会則の改正
- (4) その他の重要事項

第20条 総会は委員会の決定に基づき、あるいは会員の3分の1以上の要請があったとき、会長がこれを招集する。

- 2 総会の招集および議題は、少なくとも7日前まで公示することを原則とする。
- 3 総会は正会員の30分の1以上の出席を以て成立し、議事は出席者の過半数を以て決定する。但し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 4 総会には、委任状の提出は認めない。

第21条 総会における議長および副議長は出席者の中から選出する。

第22条 委員会は委員長、副委員長および委員によって構成する。

第23条 委員会は、本会運営に必要な次の事項を処理する。

- (1) 本会の運営方針案の審議作成と総会への提案
- (2) 予算の編成と予算案の総会への提案
- (3) 決算報告書の会計監査委員会への提出と総会への決算報告
- (4) 部の昇格および廃止、或いは愛好会等の昇格に関して会長への答申
- (5) 委員会および総会の決議事項並びに会長の決定事項の執行あるいはこれに基づく会務の処理
- (6) 本学大学祭(体育祭、学園祭、彩才祭)の執行と管理
- (7) その他、本会運営に必要な事項の処理

第24条 委員会は委員長が会長の承認を得て招集する。

- 2 委員会は全委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決定する。

第25条 委員会の議長には委員長があたる。

第26条 会計監査委員会は、会計監査委員で構成し、本会の会計監査委員機関である。

第27条 会計監査委員会は、第17条の各機関および各部の会計監査を行い、これを定期総会に報告する。

第28条 選挙を公明且つ円滑に行うため本会に選挙管理委員会をおく。

- 2 選挙管理委員会は選挙管理委員より構成され、委員長、副委員長、学生委員、学生の会計監査委員の選挙に関する事務を行う。

第29条 選挙管理委員会に、委員の互選による正副委員長を各1名をおく。

第4章 会 計

第30条 本会の会計は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。

第31条 本会の収支保管の事務は、会長の委嘱を受けた本学の事務職員がこれにあたる。

第32条 本会の会員は一定の会費を定められた期日までに納入しなければならない。既納の会費は返却しない。

- 2 会員の会費は別に定める。

第33条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5章 体育会・文化会

第34条 学友会委員会の下部機構として体育会、文化会を置く。

第35条 体育会、文化会にはそれぞれ委員会をもうける。

第36条 体育会、文化会の委員会は、それぞれの役員および各部の代表をもってあてる。

第37条 体育会、文化会の役員選出はそれぞれの委員会で行う。

第38条 体育会、文化会の委員会は、それぞれ内規を定めることができる。

第6章 部

第39条 第5条の事業を行い第3条の目的を達成するために部を設置することができる。

第40条 各部にはそれぞれ部顧問をおくものとする。各部顧問は特別会員の中から部員の依頼により会長がこれを委嘱する。

第41条 部はその部顧問の指導助言の下に一致協力して本会の目的達成に努めるものとする。

第42条 部の設立は、愛好会等の結成後6ヵ月を経ることを要し、その部員数および活動状況等を記し、設立責任者3名の連署をもって委員会に願出、会長の承認を受けるものとする。

2 部には正副責任者各1名、会計責任者1名をおき、会計監査委員会の監査を受けなければならない。

3 部は毎年3月31日までにその年度の決算を委員会に提出し、会長の承認を受けなければならない。

第43条 愛好会等は予算請求ができない。

第44条 部への入退部は正会員の自由とする。

第45条 部の活動が第3条の目的に反すると認められたときは、会長がその活動を一時停止させ、その処理を決定することができる。又部員のいないときの廃止もこれに準ずる。この際、会長は委員会に諮問することができる。

第46条 部には必要と認められた場合に限り部室の使用を許可する。

2 部室使用に際しての規程は別に定める。

附 則 この会則は、昭和47年 4月 1日より施行する。

附 則 この会則は、昭和60年 4月 1日より施行する。

附 則 この会則は、平成8年 5月 1日より施行する。

附 則 この会則は、平成21年 4月 1日より施行する。

附 則 この会則は、令和6年 4月 1日より施行する。

7. 18 学友会の選挙に関する規程

会則第13条により、選挙に関する規程を次のとおり定める。

第1条 選挙管理委員会は、委員長、副委員長、学生委員および学生の会計監査委員の選挙を行わなければならない。

2 選挙の告示は選挙管理委員長が会長の承認を得て行うものとする。

3 選挙は告示後15日以内に行うものとする。

第2条 委員長1名、副委員長2名および学生の会計監査委員4名は、正会員の自由立候補あるいは推薦立候補者について正会員の投票により選出する。

2 各部で互選された部委員を除く学生委員は、工学部並びに感性デザイン学部 of 各学年各学科・コース1名を前項に準じて選出する。

第3条 立候補者は告示後定められた期日までに氏名および責任者の氏名を選挙管理委員会に届け出なければならない。

第4条 次の各号に掲げる者は立候補することはできない。

1 学則第57条により懲戒を受けた者

2 休学中の者

- 第5条 選挙管理委員会は立候補者の意見を会員に周知させるため、投票の前日まで立会演説会を開催することができる。
- 第6条 投票は無記名とし、委員長については単記、副委員長、会計監査委員および学生委員については2名連記とする。
- 第7条 開票は投票終了後、各立候補者の責任者立会のもとに選挙管理委員会が行うものとする。
- 2 選挙は正会員の30分の1以上の投票によって成立する。
- 3 選挙管理委員長は開票結果を発表し、投票数の上位から定員数までの者に当選の通知をしなければならない。
- 4 対立立候補者がいないときは信任投票を行うものとし、正会員の30分の1以上の投票によって過半数の信任票を得た者を信任とする。
- 第8条 選挙管理委員会が不正を発見した場合は、当核選挙について立候補を取消し、または当選を無効とすることができる。
- 第9条 当選した者が、選挙の期日後において、第4条の事由が発生したときは、当選を失う。
- 2 前項の場合および欠員が生じた場合、選挙管理委員会は直ちに補欠選挙を行わなければならない。
- 第10条 選挙管理委員会は有権者の3分の1以上のリコールの署名があれば信任投票を行わなければならない。
- 第11条 選挙管理委員は立候補すること、責任者および推薦者となることはできない。
- 第12条 その他、選挙に必要な細則は、その都度選挙管理委員会で定めることができる。
附則の一部を省略している。
- 附 則 この規定は、平成8年 5月 1日より施行する。
この規定は、平成21年 4月 1日より施行する。

7. 19 学友会会費規程

学友会会則第32条2項により学友会費につき次のとおり定める。

- 第1条 学友会の会員は毎年次の会費を本学会計に納入しなければならない。
- | | |
|-----------|------------------|
| (1) 正 会 員 | 8,000円 |
| (2) 特別会員 | 教員および課長以上 8,000円 |
| | その他の職員 4,000円 |
- 第2条 正会員の会費は毎年1期学費納入期日までに学費とともに納入しなければならない。
- 附 則 この規程は、昭和47年4月1日より施行する。
この規程は、昭和56年4月1日より施行する。

■索引

あ	アルバイト	82	就職	88	
か	ガイダンス	14	授業時間	39	
	課外活動	83	出席	39	
	学生心得	134	奨学制度	82	
	学生残留・出校届	111、176	証明書	112、178	
	学生支援センター	16	進学	88	
	学生証	16	進級	41、138	
	学生保険	80	す	スポーツ施設	107
	学生ラウンジ(学修支援室)	81	せ	成績発表	40
	学生旅客運賃割引証	81	そ	総務部	15
	学生要覧	14		組織	14
	学籍番号	17		卒業	42
	学則	114	た	退学	18、110
	学費	17、133		大学施設	17、105
	学友会	83		他学部・他学科履修講義科目	39、138
	学友会館使用規程	174		多目的ホール	106
	感染症罹患届	111		単位互換科目	39、138
き	忌引届	111		単位・単位数	38
	キャンパス案内図	20	ち	駐車場	176
	休学	18、110	つ	追試験	40、138
	教育・学生支援部	15		通学	17、81、177
	教育目標・教育課程	45、73	て	手続き	16、39、109
	教科書・教材	18		転学	110
け	掲示	15		転学科・転コース	110、111
	下宿	83		転入学	165
	欠席・欠席届	39、111		電話	16
	健康管理	80	と	同窓会	104
こ	校舎	18		特別欠席	111
	交通事故	17		図書館	106、168
さ	再試験	40、138	に	入試部	15
	再履修	39	ふ	復学	110
し	GPA	43、166	へ	変更届	111
	資格	88		編入学	165
	試験	40、138	め	メディアセンター	107
	施設・設備・備品等管理規程	175	も	目標単位数	40
	社会連携・研究推進部	15	ゆ	郵便	16
	修学支援担任	16	り	履修	39、136

令和8年度 学 生 要 覧

◆ 発 行 日 令和8年4月1日

◆ 編集・発行 **八戸工業大学 教育・学生支援部**

〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開 88 番地 1

TEL. 0178 (25) 3111

インターネット・ホームページ

<https://www.hi-tech.ac.jp>



学籍 番号		氏名	
----------	--	----	--